

平成17年度  
シニアネット構築研究会  
「シニアネット・フォーラム21」  
【報告書】

平成18年3月

財団法人 ニューメディア開発協会

## はじめに

旧通商産業省（現経済産業省）は、急激に進展する高齢化に対応するため、実り豊かで活力ある高齢社会の創出を目的とし、情報システム等を活用して高齢者の社会参加を積極的に促す「メロウ・ソサエティ構想」を提唱し、当協会は、この構想実現のために様々な活動を展開して参りました。

わが国は、少子化と相まって高齢化は益々進み、昨年には既に5人に1人が65歳以上となり、総人口も減少に転じました。早晚、3人に1人が65歳以上という世界でも例をみない高齢社会を迎えることが予測されております。

こうした背景から「活老なくして繁栄なし」と言われております通り、高齢者の社会における重要性はますます高まり、高齢者のもつ豊富な経験や知識、ノウハウ等が社会に還元され地域や産業の発展のために生かされることが極めて重要になって参ります。

そこで、当協会と致しましては、全国諸地域で活躍されているシニアネットこそが「高齢者参加型情報化社会」構築を目指す「メロウ・ソサエティ構想」推進の原動力になるとの認識から「強力なパートナー」として密接な連携をとって事業を展開しております。

シニアネットは、ご案内の通り、シニア同士が集い、シニアのIT化促進やITを駆使した地域貢献活動などITを基軸に据えて様々な活動を展開されている団体であり、全国各地にあって、それぞれ地域に根差した活躍をされております。こうしたシニアネットが全国津々浦々に存在し、意欲的な活動を地域地域で展開されている姿を実現することが活力ある社会の創出に重要と考えるものです。

そうした中、当協会は昨年度に引き続き、経済産業省及び日本自転車振興会のご指導、ご支援のもとにシニアネットの普及・拡大を図るべく、「シニアネット構築研究会」（「シニアネット・フォーラム21」）を開催致しました。今年度はシニアネットの普及を加速するため、計2回開催することと致しました。一回は、現段階で今なお黎明期にある四国地域での普及を図るため「シニアネット・フォーラム21 in 四国」を、そしてもう一回は、全国規模でのシニアネットの普及はもちろん、更なる活動の向上を図るため「シニアネット・フォーラム21 in 東京」を開催致しました。

それぞれ目的を明確にする中、基調講演、特別講演、パネルディスカッション、ワークショップそしてシニアネット同士の「交流の広場」の五本柱で行いましたが、いずれも定員を上回る多くの関係者の方々のご参加を得、熱い議論と深い交流がなされるなど、皆様のお陰をもちまして大変有意義なものとする事ができたものと思っております。

なお、「シニアネット・フォーラム21 in 四国」の開催に当たりましては当協会の進める「シニア情報生活アドバイザー制度」を採用し「地域ITリーダー養成支援事業」を展開され密接な関係を有する愛媛県、そして地元松山市より格段のご支援を頂きました。この場をお借りして篤くお礼申し上げます。

今後、この事業の成果が広く活用され、シニアネットが各地に新しく生まれるなど、より一層の普及・拡大と活動の更なる向上に貢献できれば幸いです。

平成18年3月

財団法人ニューメディア開発協会

## 目次

1. 開催の目的	3
2. 「シニアネット・フォーラム21」の実施要綱	5
(1) 目的	
(2) 開催時期及び場所	
(3) 対象者・参加人員	
(4) 実施形態	
(5) プログラムの構成	
3. 本年度の実施計画と実施概要	7
(1) 実施計画	
(2) 実施概要	
I 「シニアネット・フォーラム21 in 四国」の実施状況	8
① 開催の主旨	
② 開催要項	
③ 実施プログラム	
④ 参加状況	
⑤ 成果	
II 「シニアネット・フォーラム21 in 東京」の実施状況	13
① 開催の主旨	
② 開催要項	
③ 実施プログラム	
④ 参加状況	
⑤ 成果	
4. 総括	20
詳細報告篇	21

# 1. 開催の目的

旧通商産業省が、急激に進展する高齢化に対応するため、実り豊かで活力ある高齢社会の創出を目的とし、情報システム等を活用して高齢者の社会参加を積極的に促す「メロウ・ソサエティ構想」の推進を提唱して以来、当協会も、この構想実現のために様々な活動を展開してきた。

わが国は、少子化と相まって高齢化は益々進み、既に5人に1人が65歳以上となっており、更には2005年に総人口が減少に転ずるなか、2030年頃には3人に1人が65歳以上という世界でも例をみない高齢社会を迎えることが予測されている。

こうした背景から「活老なくして繁栄なし」と言われている通り、高齢者の社会での重要性はますます高まり、高齢者のもつ豊富な経験や知識、ノウハウ等が社会に還元され社会や産業の発展のために生かされることが極めて重要なことと思われる。

そこで、当協会としては、図1に示すように、全国諸地域で活躍されているシニアネットこそが「高齢者参加型情報化社会」構築を目指す「メロウ・ソサエティ構想」推進の原動力になるとの認識から「強力なパートナー」と位置づけ、密接な連携をとって事業を展開してきている。

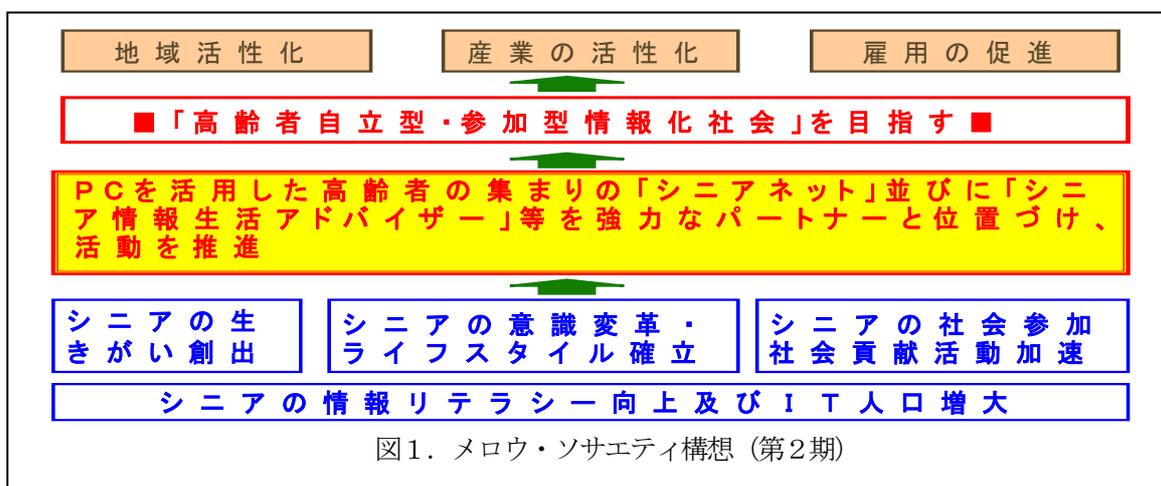


図1. メロウ・ソサエティ構想 (第2期)

シニアネットはご案内の通り、シニア同士が集い、シニアのIT化促進やITを駆使した地域貢献活動など得意のITを基軸に据えて様々な活動を展開されている団体である。当協会が数年前に全国のシニアネットにアンケート調査を行った結果を図2に示すが、その設立理由として、①仲間づくり、②IT学習・普及、③生きがいづくり、④社会への貢献等々が上位を占めている。自らのシニアライフを充実したものにしたい、そして何らかの形で社会に貢献したいとするシニアの方々の集まりとすることができる。

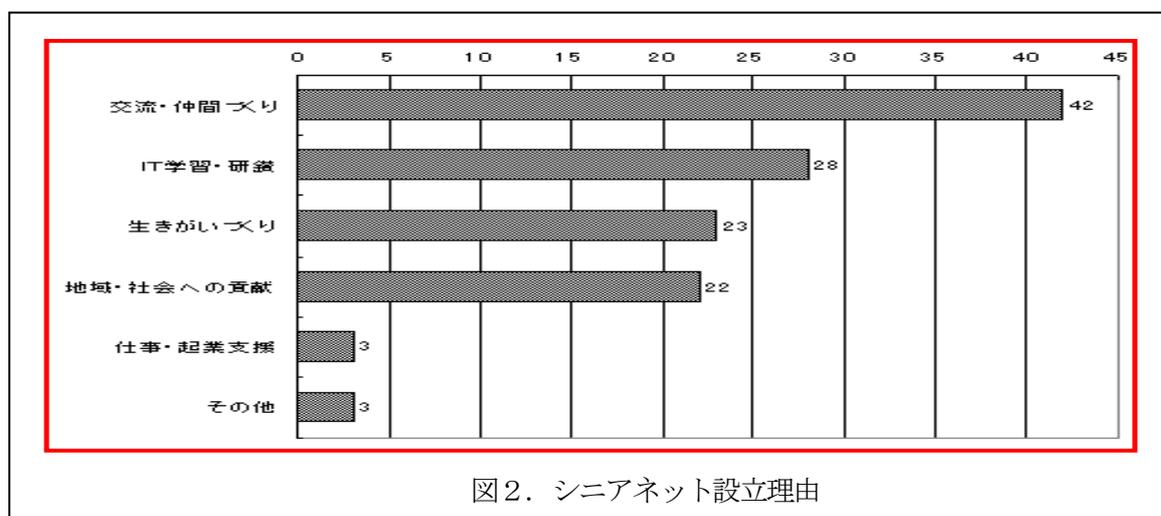
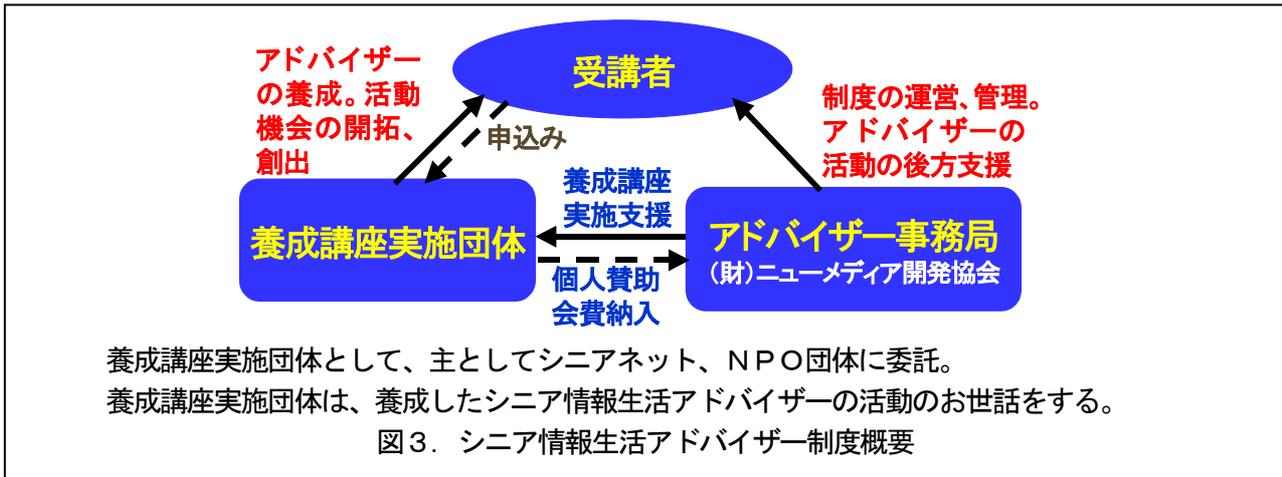


図2. シニアネット設立理由

シニアネットの多くは、全国各地にあって、それぞれの地域に根差した草の根的な活動を展開されている。こうしたシニアネットが全国津々浦々に存在し、意欲的な活動を地域地域で展開されていることが活力ある社会創出に重要と考えるものである。

また、実り豊かなシニアライフを送るために「シニアこそITを身につけるべき」と言われている中、一方で、電子自治体やe-Japan計画など我が国は高度情報化社会に入っているが、人口面でメジャーとなるシニアのIT普及が大きなポイントになるのではないかと考えている。シニアにとってITは生活必需品になっていくものと思う。65歳以上のシニアのIT人口は2割程度と言われているので、まだ2千万人ほどがITとは無縁ということになるだろうが、こうした人たちへのIT支援はシニアネットの草の根的な活動が最も効果的と考えている。当協会では、当協会の推進する「シニア情報生活アドバイザー」の主養成団体と認識し、全国のシニアネット諸団体と連携を深め進めている。図3にかかるとの制度の概要を示す。



こうした背景を鑑み、当協会ではシニアネットの普及が急務と考えている。そこで、当協会では、経済産業省及び日本自転車振興会の支援を得て、シニアネット構築研究会(「シニアネット・フォーラム21」開催)を推進し、こうしたシニアネットの更なる普及・拡大を目指すことにしている。

なお、現在、この活動の一環として、当協会は「日本のシニアネット」(図4参照)と題するホームページを設け、全国のシニアネットの協力を得て、その活動状況を発信するなどシニアネットの相互交流を促すと共にその普及拡大につなげたいと考えている。全国のシニアネットに登録を呼びかけているが、是非、シニアネット及びそれに類する団体、グループは登録をお願いしたい。

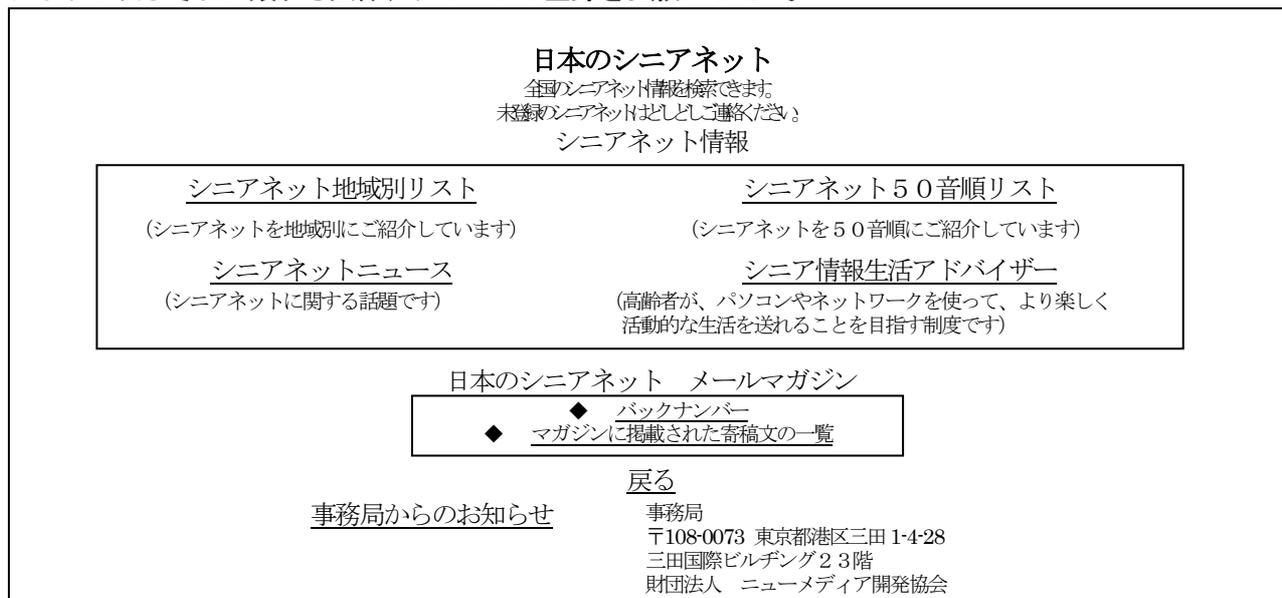


図4. 「日本のシニアネット」のホームページ  
 (URL : <http://www.nmda.or.jp/mellow/>)

## 2. 「シニアネット・フォーラム21」の実施要綱

### (1) 目的

「シニアネット・フォーラム21」の開催の目的は、もとよりシニアネットの普及・拡大とその活動のより一層の活性化・高度化を図り、シニアの生きがい創出、社会参加を促し、地域の振興につなげることにある。

そのため「シニアネット」の意義深いことを社会に訴え、その重要性を広く知らしめ、自治体や企業を巻き込んだ地域ぐるみの活動に昇華させるとともに未だシニアネットに参画していない多くのシニアの意識変革を促し、自らシニアネットに参画したくなるよう働きかけていくことが重要と考えており、本フォーラムは、こうした趣旨や目的に沿って開催する。

### (2) 開催時期及び場所

シニアの意識変革を迫ることが重要なことから啓蒙的な色彩を強めるとともに、継続的な開催が必要と考えている。基本的には、年1～2回ほど開催することとし、1回は地方で、もう1回は東京で開催することとしている。地方での開催は、シニアネットの空白地域の、未だ黎明期にある地域が多いことから、主としてシニアネットの普及に的を絞り啓蒙的な内容で行うこととし、東京で開催する場合は既存のシニアネットの更なる飛躍を期して、シニアネットの普及を目指すと共にシニアネットの活動の更なる練り上げを図ることとする。地方での開催は北海道、東北といった概ね行政区分での開催を基本とする。

なお、これまでの開催の経緯を表1に示す。

回	開催年月	開催場所
—	平成12年11月	福岡県久留米市
—	平成13年8月	北海道札幌市
第1回	平成14年1月	東京都港区
第2回	平成15年9月	広島県広島市
第3回	平成16年2月	東京都港区
第4回	平成17年2月	東京都港区

表1. 「シニアネット・フォーラム21」開催経緯

(平成12年、13年は前身である「シニアネット会議」として開催)

### (3) 対象者・参加人員

既存のシニアネットの会員や現在シニアネットに参加していないが、これからシニアネットを設立したい、参加したい、また詳しく知りたいといったシニアネットに関心をもつシニア、定年後の活動の場として関心をもつ現役世代、そして自治体・企業の関係部門等を主な対象としている。シニアネットと自治体・企業との協働は益々重要となると考え、積極的な参加を呼びかけることにしている。

また、参加人員の規模は実効ある議論が出来ることを考慮し、約200名とする。

### (4) 実施形態

シニアネット・フォーラム21の開催に当たっては、出来る限りシニアネットの「自主的な運営」をめざし、開催する地域で活躍しているシニアネットの協力を得て行うこととした。また、地域振興につながる社会的な事業であることを鑑み、経済産業省はじめ、極力地域自治体、団体、企業等の後援、協賛を得て行うこととした。

## (5) プログラムの構成

毎回、狙いを明確にし、それを表すキャッチフレーズを決め、それに即したプログラムを設定を行う。プログラムの構成は、概ね「基調講演」「パネルディスカッション」「ワークショップ」を基本とするが、参加者の交流促進と互いの切磋琢磨を狙った「シニアネット交流広場」や日進月歩のITの身近なテーマに関する「特別セミナー」等のオプションも付け加えるなど内容の充実を図っている。

また、日程も2日間を標準とし、1日目は「基調講演」と「パネルディスカッション」といった全体的な議論を、翌2日目は「ワークショップ」にて個別的な議論を分科会形式で行うことにしている。「パネルディスカッション」や「ワークショップ」は参加者から「もっと時間をとって欲しい」との強い要望を頂き、限られた時間内で出来る限り長くとするなどの十分な議論を行って頂ける工夫も行っている。

標準プログラムを図5に示す。

第1日目	
10:00-10:30	開会・オープニング
10:30-12:00	基調講演Ⅰ
13:00-14:00	基調講演Ⅱ・特別講演
14:00-17:00	パネルディスカッション (懇親会)
第2日目	
09:30-12:00	ワークショップ
13:00-14:00	
14:00-15:00	シニアネット交流広場
15:00-16:00	ワークショップ発表
16:00-16:30	クロージング・閉会

図5. 標準プログラム

次にプログラムの趣旨・狙いについて述べる。

### ①基調講演

基本的には概ね2題で構成することにした。

まず主題として、シニアネットやNPO等シニアの市民活動等に造詣の深い学識経験者や有識者等により、こうしたシニアネットの活動がシニアにとって、社会にとっていかに意義深くかつ必要なものであるか等を説くものとする。

その他は、行政の首長等により、自治体がこれからの街づくり・地域振興にシニアネット等いかに期待しているか、必要としているかを訴えるものとしたり、IT関連の専門家等によるITの進歩がいかにシニアライフに、シニアネットの活動に影響を与えるかを技術動向をふまえ具体的にわかりやすく解説するものとしたり、また少子高齢社会におけるシニアの生き方等について語るなど、今後の活動、生き方に参考となるものを提供することとする。

### ②パネルディスカッション

基本的には基調講演での問題提起を受けて、より深い具体的な議論を展開致します。基調講演者をコーディネーターとし、全国のシニアネットの代表者数名と自治体、企業の関係者各1名の計4、5名のパネリストで構成することを標準としております。

シニアネットの活動は、優れて社会参加、社会貢献活動であり、自治体等との協働は極めて重要となっております。実際に活動している現場の立場から、またそうしたシニアネットと協働し支援する立場から、実績に裏打ちされた有意義な議論がなされております。

### ③ワークショップ

シニアネットはその設立の理念や目的等に即して特徴ある様々な活動を展開し、自らのシニアライフを楽しく豊かなものとするとともに社会参加を果たし地域の発展に貢献している。その中で、自治体等との協働を積極的に展開している団体が増えてきている。その活動を分類すると概ね次のように分けることが出来る。

- イ. シニア向け等 I T 講習等 I T 普及活動
- ロ. コミュニティ・ビジネス活動
- ハ. 地域とのコミュニティ活動
- ニ. 郷土の歴史資産・文化資産のデジタルアーカイブ等による継承・紹介
- ホ. 国内外シニアネットとの交流活動 等々

こうした活動の更なる飛躍を図るため、概ね5つ程度の分科会に分けてワークショップを行い、活動形態を同じくするシニアネットまたはそこを志すシニア等が集まってお互い刺激し合う中で持ち寄った課題等について議論を深め、解決の糸口を探って行くとともに今後の活動の更なる発展につなげていくこととしている。なお、1分科会あたり2名(全国のシニアネット等から)の課題提供者を設け、これを軸に議論を進めることにしている。できる限り時間を取って参加者全員が発言するなど十分な議論ができるよう配慮することとしている。

また、ワークショップ終了後、発表会を設け、各分科会の代表が討議内容を報告し、皆で全テーマの情報を共有し、今後に生かせるようにした。

また、ワークショップでは出来る限り希望するテーマに参加することで参加者全員がそれぞれ問題意識を持ち寄り、熱の籠もった議論ができるようにした。

### ④シニアネット交流広場

本フォーラムは、全国のシニアネットが一堂に会する場である。そこで「シニアネット交流広場」を設け、シニアネットの日ごろの活動状況を展示と言う形で披露し合うことで、相互理解、相互交流を深めるとともに、シニアネットの活動を世に知らしめることとした。

## 3. 本年度の実施計画と実施概要

### (1) 実施計画

平成17年度は、シニアネット構築研究会(シニアネット・フォーラム21)として、年2回実施することとした。

シニアネットの全国的な普及・拡大を目的とすることから、一つは現時点においてシニアネットがあまり存在していないと思われる、いわゆる未開拓地域で開催し、啓蒙活動を展開することが重要である。そこで今年度は、そうした状況にある四国地域での立ち上げを狙って愛媛県松山市で「シニアネット・フォーラム21 in 四国」を行うこととした。現在、当協会では愛媛県の「地域ITリーダー育成支援事業」で協働する中、県やその事業に参加している県内のNPO法人と密接な関係を有していることから、本フォーラムを開催するに愛媛県、それも松山市で行うのが最適と考え、決定した。時期はかかる関係者の都合も考慮し11月下旬から12月初めにかけて設定することとした。地域での開催としては、中国地方(広島市で開催)につぐものとなる。

もう一つは、恒例となった全国大会として「シニアネット・フォーラム21 in 東京」を東京で開催し、全国で活躍しているシニアネットを一堂に集め、かかる活動の一層の飛躍を図ることとし、併せて普及拡大を促進することとした。時期は、例年通り2月下旬に行うこととした。

## (2) 実施概要

### I. 「シニアネット・フォーラム21 in 四国」の実施状況

#### ①開催の主旨

前述の通り、未だシニアネット活動の黎明期にある四国地方における普及・拡大を図ることとし、「シニアネット・フォーラム21 in 四国」を開催、「広げよう！ シニアに生きがい、社会に活力 シニアネット」をスローガンにシニアネットの社会的意義や具体的な活動内容等を紹介するシニアネット普及に向けての啓発的なものとし、四国地域のシニア層や団塊の世代、自治体・企業等関係者にシニアネットの新規誕生を促すこととした。

#### ②開催要項

本フォーラムの開催要項を次図に示す。愛媛県の格段の協力を頂き、愛媛県の共催で開催することとなった。更に松山市の後援も頂くなど地元もシニアの活動に大きな期待を寄せていることが感じられた。更に運営に当たっては、県の事業で連携している「NPO法人アクティブ・ボランティア21」はじめ8団体の協力を得て実施した。

日 時	平成17年12月1日(木) 10時～18時 2日(金) 9時半～17時
会 場	松山市男女共同参画推進センター(COMS): 愛媛県松山市
主 催	財団法人ニューメディア開発協会
共 催	愛媛県
後 援	経済産業省、松山市
協 賛	NPO法人アクティブ・ボランティア21
協 力	NPO法人e-えひめ(新居浜市) NPO法人NPOパソコン支援びんぐ NPO法人水煙ネット NPO法人ブーシステム NPO法人今治NPOセンター NPO法人トータル・サポート21 NPO法人凧ネット 他 企業・団体多数

#### ③実施プログラム

プログラムは特に四国地区におけるシニアネットの普及・拡大といった目的を達成するべく、シニアネットを分かりやすく紹介する啓蒙的なものとした。シニアネットの意義や地域社会での活動について深い理解が得られるよう、実証的・実践的な内容に留意する中、プログラムを「基調講演」「パネルディスカッション」「特別講演」「ワークショップ」「シニアネット交流広場」の五本柱で構成し、やや盛りだくさんなものとした。特に、「特別講演」を設け、行政側からシニアネットへの期待と協働を語って頂くこととした。

かかるプログラムを通して、シニアネット設立を考えている方には先行事例を、シニアネット未参加者にはシニアネット参加への動機付けを行うことに努めた。

実施したプログラムを次に示す。

1日目：12月1日（木）

9:30~10:00	受付	
10:00~10:30	オープニング セッション	<input type="checkbox"/> 主催者挨拶 財団法人ニューメディア開発協会 理事長 岡部 武尚 <input type="checkbox"/> 来賓挨拶 四国経済産業局長 塚本 芳昭氏 愛媛県企画情報部 部長 夏井 幹夫氏 松山市長 中村 時広氏
10:30~12:00	基調講演 1	<input type="checkbox"/> 「シニアネットの役割 ～シニアライフの楽しみと社会参加～」 徳島大学 大学開放実践センター 教授 NPO法人いきいきネットとくしま 理事長 吉田 敦也氏
12:00~13:00	休憩(昼食)	
13:00~14:00	基調講演 2	<input type="checkbox"/> 「ITの未来がシニアの未来を切り開く～パソコンとはシニアのもの～」 株式会社ジャストシステム 松山研究所 所長 栗田 和夫氏
14:00~15:50	特別講演	<input type="checkbox"/> 「街づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」 講演 1 愛媛県企画情報部管理局情報政策課課長 俊野 健治氏 講演 2 松山市産業経済部地域経済課課長 竹村 奉文氏
15:50~17:45	パネル ディスカッション	<input type="checkbox"/> 「充実したシニアライフと社会参加 ～シニアネットって何？～」 コーディネーター 吉田 敦也氏（徳島大学 大学開放実践センター教授 NPO法人いきいきネットとくしま 理事長）  パネリスト 塩見 信雄氏（NPO法人シニアネットひろしま 理事長） 砂川 正男氏（NPO法人沖縄ハイサイネット 会長） 中川 幹朗氏（NPO法人おおさかシニアネット チーフディレクター） 堀池 喜一郎氏（NPO法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 顧問）  (以上五十音順)
	休憩・移動	
18:30~20:00	懇親会	リジェール松山7階ゴールドホールにて

2日目：12月2日（金）

9：30～12：00	ワークショップ	<p>1 「コミュニティビジネスを創出する」 NPO法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 顧問 堀池 喜一郎氏</p> <p>2 「自治体との協働で地域の情報化促進」 NPO法人シニアネットひろしま 理事長 塩見 信雄氏</p> <p>3 「交流活動を通じて社会貢献」 NPO法人沖縄ハイサイネット 会長 砂川 正男氏</p>
12：00～13：00	休憩(昼食)	
13：00～14：40	ワークショップ	<p>4 「企業との協働で社会参加」 いちえ会 大谷 明弘氏</p> <p>5 「地域の魅力を高めて地域に貢献」 NPO法人知的協調参画型地域振興協会（ICP）専務理事 野明 宏亘氏</p>
14：40～15：00	休憩	
15：00～16：30	ケーススタディ	<p>「シニアネットの活動に学ぶ」</p> <p>1 シルバー高知の活動に学ぶ シルバー高知 代表 門田 喜作氏</p> <p>2 特定非営利活動法人NPOパソコン活用支援ぴんぐの活動に学ぶ 特定非営利活動法人NPOパソコン活用支援ぴんぐ 理事 山本 侃男氏</p>
16：30～17：00	クロージング セッション	特定非営利活動法人アクティブボランティア21 理事長 楠野 義計氏

以下に、プログラムのポイントを記す。また、各プログラムの詳細については、巻末の「シニアネット・フォーラム21in四国 報告書」にまとめた。

#### イ. 基調講演

基調講演として2テーマを用意することとした。一つは、シニアネットの重要性を説いて普及を促すものとし、もう一つは、シニアネットにとって重要なITの進歩が自らの生活や活動にどのような影響をもたらすことになるのか、展望を示すものとした。

一つは、「シニアネットの役割」と題し、少子高齢社会を元気づける牽引役として期待しているシニアネットの普及拡大を、とりわけ四国のシニア及び行政等関係者に呼びかけることとした。「シニアネット」はシニアの持つ豊富な知識・技術・経験等を社会に活かし、シニア自らの生きがいづくりや社会の振興に重要な役割を果たしてきており、極めて意義深いものである。そこで、この分野に造詣の深い学識経験者を講師に招き、シニアネットがシニアにとって、そして社会にとっていかに重要なものであるか、を説き新規設立を促すなど普及拡大を働きかけることとした。

もう一つは、「ITの未来がシニアの未来を切り開く」と題し、日進月歩の進歩を遂げるITが、シニアの生活に、特にシニアネットの活動にどのような影響をもたらすことになるのか、如何なる夢をもたらしてくれるのかについて、ITの専門家を招き、技術動向をもとに具体的な事例を織り込みながらその展望を示すこととした。今やITはシニアの生活の中に深く関わってきており、とりわけシニアネットにとっては生活必需品化してきている。シニアの高い関心に応えるものとした。

#### ロ. パネルディスカッション

「充実したシニアライフと社会参加」と題し、基調講演での問題提起を受けて、より深い具体的な議論を展開する中、四国での新規立ち上げを含む普及拡大に焦点を当てて行うこととした。全国の著名なシニアネットの代表者等をパネリストに招き、シニアネットを立ち上げた動機やその根底に流れる思い、そして設立に至る経緯や実際の活動を経てメリットや課題等事例を交えて熱く語る中、シニアにとって、社会にとってシニアネットがいかに重要で意義深いものであるかを明らかにして頂き、今後のシニアネット新規立ち上げ等の指針を提供することとした。

#### ハ. ワークショップ

シニアネットはその設立の理念や目的等に即して特徴ある様々な活動を展開し、自らのシニアライフを楽しく豊かなものとするとともに社会参加を果たし地域の発展に貢献している。

今回は、四国での普及を目指し、シニアネットのこうした様々な活動を全国の代表的なシニアネットの活動事例を通して分かり易く紹介し、今後の活動の参考に供することとした。

更に、ワークショップの特番として「ケーススタディ」を設け、四国内のシニアネットの活動を紹介し、今後の四国に於ける普及に弾みをつけることとした。

#### ニ. 特別講演

豊富な知識や経験等を社会のお役に立てたいとするシニアネットの活動は優れて社会的な活動であり自治体との協働（コラボレーション）は極めて重要である。

そこで、「街づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」と題し、県や市が地域振興や街づくりにいかにシニアネットやNPO法人などの市民活動に期待しているか、行政の担当責任者を招き、施策や今後の展望を語って頂き、普及に向けての起爆剤とすることとした。

#### ホ. シニアネット交流広場

全国のシニアネットが日ごろの活動成果を展示しあう交流広場を設け、それぞれの活動を知らしめる中で、参加者との意見交換や相互交流を実現し、お互いの活動の向上に役立てることとした。更には、シニアネットは日ごろ、どういう活動をしているのか、シニアネットというものに関心を抱く多くの参加者に今後の参考のために具体的事例を提供することとした。多くの関係者が参加するこの場を効果的に活用することとした。

#### ④参加状況

二日間で延べ370名を超す参加があり、当初目標を上回る結果となり、大盛況の裡に終えることが出来た。参加者の熱心かつ活発な意見交換や質疑応答がなされるなど、大変有意義なものとする事ができた。

また、特別講演で愛媛県と松山市の関係者からシニアやシニアネット・NPO法人への期待等を語って頂いたが、大変好評で、参加者の自治体との協働への関心の高さが伺えた。

#### ⑤成果

イ. 当初計画を上回る多くの参加者を得、大変盛況裡のうちに終えることが出来た。四国において、こうしたシニアネットのフォーラムが開かれたのは初めてとのこともあってか、緊張した雰囲気の中かで熱の籠もった議論や質疑応答が展開された。「シニアネットの重要性を認識できた」「今後、シニアとして行動して行く中で大いに参考になった」「シニアネットについて初めて知ったことも多く大いに理解が深まった」等々の意見を多く聞くことが出来、参加者にとって有意義なものとする事が出来た。

ロ. アンケート結果から見られるように、「シニアネットを設立してみたい」「シニアネットに参加してみたい」と答えられた方が41%いた。参加する動機として聞いたときは多くは「シニアネットに興味があり詳しく知りたい」という方が約40%、「シニアネットを設立したい」「シニアネットに参加したい」は10%であったことを考えると、このフォーラムで大きく意識が変わられたと見る事が出来る。大きな成果を得ることができ、所期の目標を達成することが出来たものと思う。こうした成果が今後活かされ、シニアネットの普及・拡大に必ずやつながるものと確信している。大いに楽しみである。

ハ. 特別講演において、愛媛県の「地域ITリーダー育成支援事業」など自治体の取り組み姿勢に他の先駆けになっていて大変素晴らしい等、賞賛の声が多々聞かれた。シニアネットと自治体との協働(コラボレーション)について、参加者の関心の高さが伺えた。今後の活動において、ますます大きなポイントになると思う。今回は、自治体関係者の参加が比較的少なかったのは残念であったが、今後、こうした声を自治体に届けていきたいと思う。

## Ⅱ. 「シニアネット・フォーラム21 in 東京」の概要

### ①開催主旨

今年度の第2弾として「楽しむなかで社会の支えに～団塊の世代も～」と題し、「シニアネット・フォーラム21 in 東京」を開催し、シニアネットのより一層の普及と活性化を促すこととした。さらに近いうちに団塊の世代が定年を迎え、多くの団塊の世代が地域に戻ってくることになるが、それに先立ち、こうしたシニアネットへの参画を促すことも視野に入れて行うこととした。

また、シニアネットが全国各地で活動してきた成果を集大成し、それを基に深い議論を展開し、その経験、ノウハウや課題等を共有することで今後の発展につなげることとした。シニアネットの活動は、その設立の趣旨等により多岐にわたり、様々な成果を生み出してきた。中でもシニアネットの主な活動である「学び」「交流」「コミュニティビジネス」「地域文化資産の保存や継承」「自治体との協働による街おこし」等5つのテーマについて、シニアネットの具体的な活動事例を基に今後のあり方を徹底討論し、更なる向上を図った。

### ②開催要項

日 時	平成18年2月27日(月) 10時～18時 28日(火) 9時半～17時
会 場	全共連ビル：東京都千代田区
主 催	財団法人ニューメディア開発協会
後 援	経済産業省
協 力	メロウ倶楽部 株式会社ジャストシステム トレンドマイクロ株式会社 ニフティ株式会社

開催要項を上にも示すが、運営に当たっては全国規模で活動を展開しているシニアネット「メロウ倶楽部」の協力を得た。

### ③実施プログラム

開催の趣旨に即し「楽しむなかで社会の支えに～団塊の世代も～」というキャッチフレーズのもとに、シニアネットの活動の更なる向上を図ることに重点を置くとともに、団塊の世代への参加呼びかけを行う中、より一層の普及・拡大を図ることとした。

そのため、プログラムを「基調講演」「パネルディスカッション」「特別講演」「ワークショップ」「シニアネット交流広場」の五本柱で構成し、皆が議論や交流に直接加わることができる「参加型」を目指すこととした。

特に「ワークショップ」では5分科会を設定し、シニアネットの5つの活動分野について思いを同じくする人たちがそれぞれ課題を持ち寄って参加し、深い議論が十分出来るよう配慮した。

以下に、実施したプログラムを示す。

1日目：2月27日（月）

10:00~10:30	受付	
10:30~10:45	オープニング セッション	<input type="checkbox"/> 主催者挨拶 <input type="checkbox"/> 財団法人ニューメディア開発協会 理事長 岡部 武尚 来賓挨拶 経済産業省商務情報政策局 情報プロジェクト室長 市原 健介氏
10:45~12:15	基調講演	<input type="checkbox"/> 「少子高齢社会こそシニアが主役」 財団法人 さわやか福祉財団 理事長 堀田 力氏
12:15~13:30	休憩(昼食)	
13:30~16:30	パネル ディスカッション	<input type="checkbox"/> 「新時代に向けてシニアネットの役割とその方向性を探る」 ～楽しむなかで社会の支えに～ コーディネーター 田中 尚輝氏(社団法人 長寿社会文化協会 常務理事) パネリスト 古賀 直樹氏(シニアネット ジャパン 代表) 奈良原 真吉氏(NPO法人自立化支援ネットワーク 理事長) 栢山 日出男氏(東京都福祉保険局 高齢社会対策部 計画課長) 松宮 光予子氏(日本アイ・ビー・エム株式会社 社会貢献部長) 柳原 正年氏(富山社会人大楽塾 代表) (以上五十音順)
16:30~16:45	休憩	
16:45~17:45	特別セミナー	<input type="checkbox"/> 「インターネットを安心して使うためのセキュリティ講座」 (協力：トレンドマイクロ株式会社)
17:45~18:00		
18:00~19:30	懇親会	マツヤサロンにて

2日目：12月2日（金）

9:00~9:30	受付	
9:30~12:30	ワークショップ	<p>「更なる活動を目指して」</p> <p>1 ワークショップ1「地域住民への教育活動で社会参加」 塩見 信雄氏(NPO法人シニアネットひろしま 理事長) 曾根 清次氏(NPO法人コムワーク 事業推進部長)</p> <p>2 ワークショップ2「交流活動で楽しく、そして地域に活力」 砂川 正男氏(NPO法人沖縄ハイサイネット 会長) 福岡 壽夫氏(熊本シニアネット 代表)</p> <p>3 ワークショップ3「行政との協働で社会参加」 井上 文雄氏(仙台シニアネットクラブ 代表) 高橋 克司氏(NPO法人とかちシニアネット 理事長)</p> <p>4 ワークショップ4「資産の継承で地域振興」 高木 正幹氏(NET・陽だまり 前会長) 若宮 正子氏(メロウ倶楽部 幹事)</p> <p>5 ワークショップ5「コミュニティビジネスで生涯現役」 久保 律子氏(NPO法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 代表理事) 能田 幸生氏(NPO 法人トータルサポート21 理事長)</p>
12:30~13:30	休憩（昼食）	
13:30~14:30	シニアネット 交流広場	<input type="checkbox"/> シニアネットの成果展示を核とした皆様の相互交流の場。
14:30~15:30	特別講演	<input type="checkbox"/> 「シニアの発信こそ楽しさと豊かさ」 安田 浩氏(東京大学 国際・産学共同研究センター 教授)
15:30~17:00	ワークショップ発表 クロージング セッション	<input type="checkbox"/> 各ワークショップ代表者 「総括」 小澤 恭一氏(メロウ倶楽部 代表)

以下に、プログラムのポイントを記す。また、各プログラムの詳細については、巻末の「シニアネット・フォーラム21 in 東京 報告書」にまとめた。

#### イ. 基調講演・特別講演

下記の通り、基調講演・特別講演として1テーマずつ用意することとした。

基調講演には、シニア及びシニアネットの活動が少子高齢社会においていかに重要であるかを説いて、その生き方を問うとともにシニアネットの普及を促すものとし、特別講演には、シニアネットにとって重要なITの進歩がシニア自らの生活や活動にどのような影響をもたらすことになるのか、今後を展望するものとした。

基調講演では、著名な有識者を招き、「少子高齢社会こそシニアが主役」と題し、2007年には団塊の世代が定年になり地域に戻ってくるといった新しい局面を迎えることを見越し、今後のシニアの生き様について、そしてシニアネットやNPO活動などシニアの社会参加の重要性等について、そのあり方を提示することとした。

特別講演では、「未来のITはシニアに優しくなり、社会参加を支援するものになる。シニアこそデジタルライフを楽しむべきである」との持論を有する情報工学の専門家を招き、「楽しもう！ デジタルシニアライフ」と題し、ユビキタス時代を生きるシニアの新しい生き方、デジタルライフについて研究開発状況や技術動向をもとに具体的な事例を織り込みながら展望することとした。

#### ロ. パネルディスカッション

「新時代に向けてシニアネットの役割とその方向性を探る～楽しむなかで社会の支えに～」と題し、近いうちに大量の団塊の世代が定年になって地域に戻ってくるといった新しい局面を迎えるにあたり、大きな飛躍が期待されるシニアネットの、今後のあり方を探ることとした。大量に誕生する団塊世代をシニアネットの活動に巻き込むことでシニアネットの大きな拡大と飛躍が、そしてそれがもたらす地域振興が大きく期待される。また、人生80年、シニアライフを楽しく豊かに過ごすためにもシニアネットの存在意義は非常に高いものがある。一つの転機が訪れようとしているなか、今後のシニアネットのあり方、方向性を皆で議論し、共有することは極めて重要と考え、各地で活躍されているシニアネットの代表者やシニアネット、NPO等と協働する自治体や企業の関係者を招き、そして団塊の世代の人たちの参加を得て、今後のシニアネットのあり方を探ることとした。

#### ハ. ワークショップ

シニアネットはその設立の理念や目的により、それぞれ創意工夫を凝らした特徴ある素晴らしい活動を展開し、地域の発展に寄与している。かかる背景にあって、シニアネットの活動の更なる向上を図ることは極めて重要なことである。その活動形態はいくつかのジャンルに分けることができるかと思うが、今回、特に重要と思われる5つの活動形態についてそれぞれワークショップを設け、活動形態を同じくする方や関心ある方同士が一堂に集い、日ごろの問題意識や考えを持ち寄るなか、現状の課題や今後の展開について議論を深め、今後の活動のより一層の飛躍を図ることとした。

課題提供者として各テーマ2名ずつ、先進的な活動をされている全国のシニアネットの代表の方を招き、実証的かつ実践的そして効果的な深い議論が出来るよう図った。

##### a. ワークショップ1「地域住民への教育活動で社会参加」

多くのシニアネットは、地域住民、とりわけシニア向けのIT講習はじめ様々な教育活動を展開している。シニアの持つ豊富な知識、経験、ノウハウなどを地域に還元することは単に学び合うだけでなく、世代を超えた人たちとの交流の促進や地域コミュニティづくり強化など地域に元気をもたらしている。そこで、こうした「学びの場」を通して社会に参加することの重要さや「学び」等の活動のあり方等について議論を深め、今後の活動について具体的な方策を導き出すこととした。

b. ワークショップ2「交流活動で楽しく、そして地域に活力」

社会との関わりがややもすれば疎遠になりがちなシニアにとって、シニアネットは地域との交流の機会をもたらし、シニアライフを充実したものにしている。また、シニアネット同士の交流は、お互いの活動に大きな励みとなるばかりでなく地域にも新しい刺激をもたらしている。地域に根差した活動を展開しているシニアネットだからこそ出来る地域コミュニティ活動は地域に活力をもたらすものとして重要なものとなっている。そこで、その取り組み方や課題等について、ケーススタディを行う中で、今後の活動について具体的な方策を見いだすこととした。

c. ワークショップ3「行政との協働で社会参加」

地域おこし、仕事おこしといった地域活性化の活動はシニアネットにとって極めて重要なものである。そのために自治体との協働（コラボレーション）は極めて重要である。自治体としても、高齢化の進む中、シニアの力に期待する動きが出てきている。

今後、両者の協働をいかに深め、広げ、相互信頼のもと共に手を携えて地域の振興に邁進していくべきか、その具体的な方策を探ることとした。

d. ワークショップ4「資産の継承で地域振興（歴史・文化などの保全と伝承）」

今、昭和の時代が人気を呼び、地球規模では世界遺産の動きが注目を浴びている。様々な貴重な遺産を次代に残すことの重要さに皆が気がついた。シニアには郷土の歴史や文化、自然等に通じている人が多く、そうした財産を守り、次代に引き継ぎ地域の振興につなげることは明るい未来の礎をつくることはシニアの重要な役割でありシニアネットの大事な活動の一つである。

そこで先進団体の活動事例を通じて、皆でその意義について認識を深め、具体的な方策等について議論を展開し、今後の活動指針を探っていく。

e. ワークショップ5「コミュニティビジネスで生涯現役」

生涯現役でいたいと願うシニアは多く、そうした中、コミュニティビジネスを主な活動とする「事業型」のシニアネットが増えつつある。人材の宝庫であるシニアネットならではの活動は、シニアの自己実現の場として、そして新たな雇用促進や地域おこしにつながるものとして極めて重要である。

そこで、コミュニティビジネスの新規設立や更なる活動の練り上げ等、具体的な事例研究を通して議論を深める中、今後の活動の方法論やあり方等を探る。新しく取り組もうとされる方々を含め多くの方へ今後の活動のガイドを提供したい。

f. 発表会

5つのワークショップの代表が議論の骨子を発表する場を設け、参加者全員が情報を共有できるようにし、今後の活動の参考に供することとした。

## 二. シニアネット交流広場

全国のシニアネットが日ごろの活動成果を展示しあう交流広場を設け、それぞれの活動を知らしめる中で、参加者との意見交換や相互交流を実現し、お互いの活動の向上に役立てることとした。多くの関係者が参加するこの場を効果的に活用することとした。

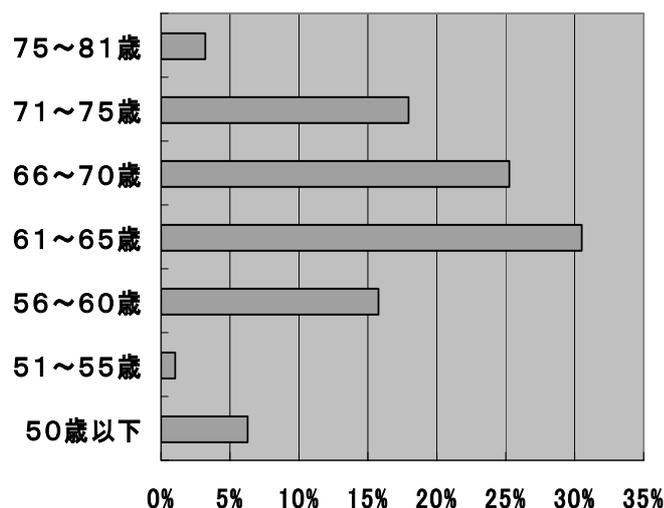
## ホ. 特別セミナー「インターネットを安心して使うためのセキュリティ講座」

昨年度初めて実施し好評を博した講座の第2弾として、昨年度よりさらに深い内容をわかりやすく解説する講座を開催することとした。シニアのみならず多くの人がウイルスやインターネットでのトラブルに悩まされている現実を踏まえ、ウイルスばかりではなく、スパイウェア、ネット詐欺等様々な脅威から自ら身を守る方法について専門家による解説を行う。

#### ④参加状況

二日間で延べ420名を超す参加があり、定員を大きく上回る結果となり、大盛況の裡に終わることが出来た。特に一日目は用意した席が不足し、途中から椅子を追加するほどの盛況であった。参加者の熱心かつ活発な意見交換や質疑応答がなされるなど、大変有意義なものとする事ができた。

また、近いうちに団塊の世代が定年を迎え、大量のシニアが地域に戻ってくることから、団塊の世代にもこのシニアネットの活動を認識していただくべく、今回は特に本フォーラムへの参加を呼びかけたが、60歳以下の方が20%強を占めるなど、かなり興味を持っていただいたようである。



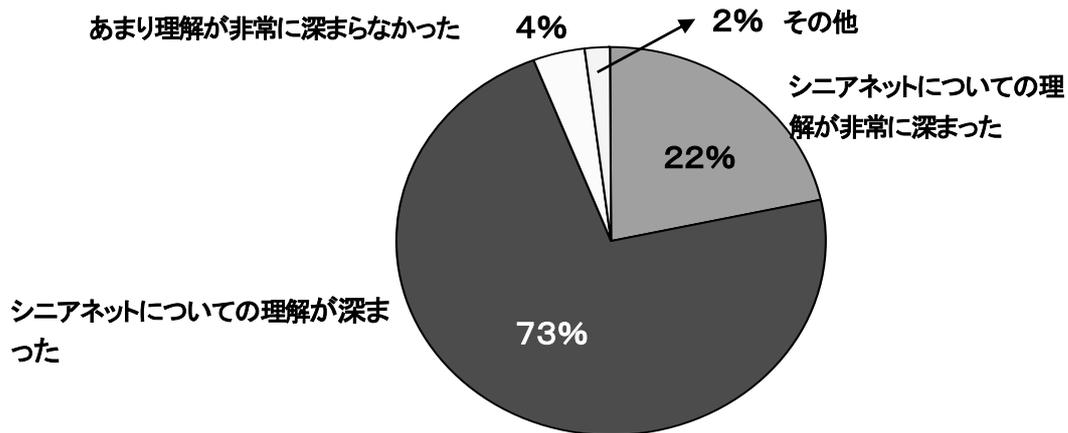
#### ⑤成果

イ. 当初計画を上回る多くの参加者を得、大変盛況裡のうちに終わることが出来た。特に60歳以下の現役世代が20%強参加され、そのうち団塊の世代を含む年齢層が約16%であったことは、当初から団塊の世代に参加を呼びかけてきたことに対しその目的を達成できたのではないかと考えている。今後の展開に大いに期待が持てるものと思う。

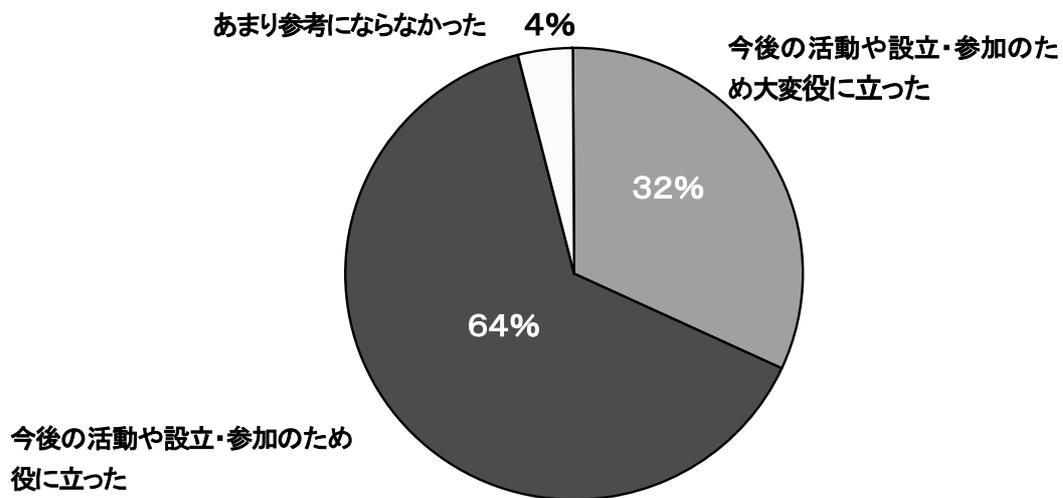
ロ. アンケート結果から見られるように、参加された動機として「シニアネットを設立してみたい」「シニアネットに参加してみたい」と答えられた方が6%であったが、参加後はこれが15%に上昇した。「シニアネットに関心があり勉強するため」に参加された方が自らシニアネットの活動に参画しようとアクティブに転じたことが主因である。このフォーラムで大きく意識が変わられた方が増えたもので、大きな成果を得ることができ、所期の目標を達成することが出来たものと思う。こうした成果が今後活かされ、シニアネットの普及・拡大に必ずやつながるものと確信している。

	参加前	参加後
(イ) 自身のシニアネットでの活躍に役立てたい	52%	51%
(ロ) シニアネットを自ら設立したい	4%	6%
(ハ) シニアネットに参加したい	2%	9%
(ニ) シニアネットに興味・関心があり、詳しく知りたい	36%	29%
(ホ) その他	6%	5%

ハ、この「シニアネット・フォーラム21」について、「シニアネットの重要性が認識できた」とか「今後の活動に大いに役に立った」「シニアネットの活動の理解が深まった」という意見を多く頂き、更に「今後とも継続して欲しい」とのご希望も多々頂いた。参加者にとって有意義なものであったとの評価を頂いたと思うが、この成果が今後の活動に活かされ、シニアネットの活動の更なる飛躍や普及・拡大につながるものと確信している。また、多くの貴重なご意見を頂いたが、是非今後の企画・運営に生かしていきたい。



シニアネットの組織や活動に関する理解度



「シニアネット・フォーラム21in 東京」の有効性

#### 4. 総括

- (1) 「シニアネット・フォーラム21」も6回目を数え、お陰様でシニアネットに焦点を当てた国内唯一のイベントとして定着してきた。シニアネットも増加し、シニア自ら生き甲斐を求めて主体的に社会参加、社会貢献に取り組もうとする動きが促進されてきていると思う。

少子高齢社会にあって、ますますその活動が重要となるシニアネットの、研鑽を積む場所として、また広く交流する場所として、そしてかかるシニアネットの活動の素晴らしさを世の中に発信し続ける場所として、今後とも内容をますます充実させ、その普及・拡大と更なる活動の飛躍を図るなか、なによりもシニアの生きがい創出を基盤に、シニアの活性化、社会参加を通して地域振興・産業興しにつなげていきたい。

- (2) 2007年から数年に亘り団塊の世代が定年を迎えることになり、多くのシニアが地域に戻ってくる。こうした大量のシニアが地元でシニアネットに、NPO活動に参加することで、シニアが、そして地域が大いに元気になると期待されている。この「シニアネット・フォーラム21」が団塊の世代とシニアネットを結ぶ架け橋となることを肝要と思っている。団塊の世代の積極的な参加を期待したい。

- (3) 今後、シニアネットの普及や活動の向上を図るに、シニアネット同士が全国的に連携する動きが必要と思われる。相互の交流を深め、活動の更なる飛躍を図るとともに、これからシニアネットを立ち上げようとする人たちの相談のり、ガイドできるような場が必要になってきているように思われる。

当協会では「日本のシニアネット」と称するホームページを設けて全国にその存在を知らしめる努力をしてきている。どのようなシニアネットがどこに存在しているのか、そしてどのような活動を展開しているのか、より多くの情報を発信していきたいと考えている。

- (4) 電子自治体、e-JAPAN計画等高度高齢化社会の進展には、シニアのIT人口増大は極めて重要なポイントであるが、シニアへのIT普及はまだまだ少ないと言わざるを得ない状況にある。シニアのIT普及や情報リテラシー向上に、全国のシニアネットは大きく寄与していると思っているが、シニア同士が教え教え合う、きめ細かなシニアネットのIT講習は楽しい雰囲気の中行われ、極めて効果的である。当協会は、シニアや家庭の主婦層、障害を持たれた方等デジタルデバイドに陥りがちな人たちに、生活の中でのITの楽しさ、便利さを教える「シニア譲歩生活アドバイザー」の養成を進めているが、そのアドバイザーとシニアネットの協働が大きな決め手と考えている。今後とも、シニアネットの普及及びシニア情報生活アドバイザーの普及に邁進していくことが肝要である。



熱心に聴き入る参加者



パネルディスカッション風景

## 詳細報告篇

- 「シニアネット・フォーラム in 四国」
- 「シニアネット・フォーラム in 東京」

平成 17 年度

シニアネット構築研究会

## シニアネットフォーラム 21 in 四国

広げよう！シニアに生きがい、社会に活力 シニアネット

【報告書】

## はじめに

旧通商産業省（現経済産業省）は、急激に進展する高齢化に対応するため、実り豊かで活力ある高齢社会の創出を目的とし、情報システム等を活用して高齢者の社会参加を積極的に促す「メロウ・ソサエティ構想」を提唱し、当協会は、この構想実現のために様々な活動を展開して参りました。

わが国は、少子化と相まって高齢化は益々進み、昨年には既に5人に1人が65歳以上となり、総人口も減少に転じました。早晩、3人に1人が65歳以上という世界でも例をみない高齢社会を迎えることが予測されております。

こうした背景から「活老なくして繁栄なし」と言われております通り、高齢者の社会における重要性はますます高まり、高齢者のもつ豊富な経験や知識、ノウハウ等が社会に還元され地域や産業の発展のために生かされることが極めて重要になって参ります。

そこで、当協会と致しましては、全国諸地域で活躍されているシニアネットこそが「高齢者参加型情報化社会」構築を目指す「メロウ・ソサエティ構想」推進の原動力になるとの認識から「強力なパートナー」として密接な連携をとって事業を展開しております。

シニアネットは、ご案内の通り、シニア同士が集い、シニアのIT化促進やITを駆使した地域貢献活動などITを基軸に据えて様々な活動を展開されている団体であり、全国各地にあって、それぞれ地域に根差した活躍をされております。こうしたシニアネットが全国津々浦々に存在し、意欲的な活動を地域地域で展開されている姿を実現することが活力ある社会の創出に重要と考えるものです。

そうした中、今回は、特に四国地域での普及を願って、「シニアネット・フォーラム21 in 四国」(シニアネット構築研究会)を開催致しました。開催に当たっては、経済産業省及び日本自転車振興会はもとより、「シニア情報生活アドバイザー制度」を採用し「地域ITリーダー養成支援事業」を展開され密接な関係を有する愛媛県、そして地元松山市等より格段のご支援を頂きました。

基調講演、特別講演、パネルディスカッション、ワークショップそしてシニアネット同士の「交流の広場」の五本柱で行うことと致しましたが、定員を上回る多くの関係者の方々のご参加を得、熱い議論と深い交流がなされるなど、皆様のお陰をもちまして大変有意義なものとする事ができたものと思っております。

今後、この事業の成果が広く活用され、シニアネットが各地に新しく生まれるなど、より一層の普及・拡大と活動の更なる向上に貢献できれば幸いです。

平成18年1月

財団法人ニューメディア開発協会

## 目次

1．開催の主旨	3
2．実施要項	4
3．プログラム構成のポイント	6
4．実施状況	
(1)参加者	10
(2)実施内容	
主催者挨拶	11
来賓挨拶	12
基調講演	
「シニアネットの役割」	15
「ITの未来がシニアの未来を切り開く」	29
特別講演	
「街づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」	
講演	34
講演	38
パネルディスカッション	
「充実したシニアライフと社会参加」	41
ワークショップ	
1．コミュニティビジネスを創出する	52
2．自治体との協働で地域の情報化促進	55
3．交流活動を通じて社会貢献	58
4．企業との協働で社会参加	61
5．地域の魅力を高めて地域に貢献	64
ケーススタディ「シニアネットの活動に学ぶ」	
1．シルバー高知の場合	66
2．NPOパソコン活用支援びんぐの場合	68
シニアネット交流広場	70
閉会挨拶	72
(3)まとめ	73
資料	74

## 1. 開催の主旨

わが国は世界でも例を見ないほどの勢いで少子高齢化が進んでいる。「活老なくして繁栄なし」と言われている通り、今後、シニアの社会での活躍がより一層重要となる。シニアが人口の面でもメジャーとなる時代、社会はこれまでと大きく変わらざるを得ない。まさにシニアのパワーが社会を変える原動力となることが期待されている。

そうした中であって、多くのシニアが全国諸地域で「シニアネット」を組織し、自らが持つ豊富な知識や経験、優れた技術・ノウハウを地域に還元し、社会にお役に立ちたいと様々な活動を展開している。かかる活動を通して「メロウ・ソサエティ構想」推進の中核となり、地域に活力を与える重要な役割を果たしている。こうしたシニアネットが全国津々浦々にあって活動を展開することが地域にとって極めて重要なことと考えている。そうした中であって、この度は未だシニアネット活動の黎明期にある四国地区において普及・拡大を図ることとし、「シニアネット・フォーラム21 in 四国」を開催、「広げよう！ シニアに生きがい、社会に活力 シニアネット」をスローガンにシニアネットの社会的意義や具体的な活動内容等を紹介するシニアネット普及に向けての啓発的なものとし、四国地域のシニア層や団塊の世代、自治体・企業等関係者にシニアネットの新規誕生を促した。



会場玄関前の看板



講演風景

## 2. 実施要項

### (1) 日時

第1日目 平成17年12月1日(木) 10:00~17:45

第2日目 12月2日(金) 9:30~17:00

### (2) 会場

松山市男女共同参画推進センター (COMS)

### (3) 主催

財団法人 ニューメディア開発協会

### (4) 共催

愛媛県

### (5) 協賛

特定非営利活動法人アクティブボランティア21

### (6) 後援

経済産業省

松山市

### (7) 協力

NPO法人 e えひめ

特定非営利活動法人水煙ネット

特定非営利活動法人トータルサポート21

特定非営利活動法人ぶうしすてむ

株式会社ジャストシステム

ニフティ株式会社

特定非営利活動法人NPO今治センター

特定非営利活動法人凧ネット

特定非営利活動法人NPOパソコン活用支援ぴんぐ

トレンドマイクロ株式会社

(五十音順)



パネルディスカッション



シニアネット交流広場

## 特別賛助

有限会社アイネット  
アカマツ株式会社  
有限会社アトムGPSサービス  
アトムタクシー有限会社  
アトム緑化開発株式会社  
天山病院  
いきいきプチファーム  
和泉保育園  
イヨリネンサプライ株式会社  
有限会社エイエフエフ  
株式会社NTTドコモ四国愛媛支店  
愛媛中小企業指導センター  
有限会社オー・エス・ジー  
花王販売株式会社 中四国支社  
アトム商事株式会社  
知的障害者更生施設 希望ヶ丘  
株式会社ケアメイツネットワーク  
株式会社御料理仕出しさち  
四国リコー株式会社  
有限会社城南インテリア  
株式会社石材振興会  
大王製紙株式会社  
株式会社トーカイ松山営業所  
日本光電中四国株式会社四国支社社  
介護老人福祉施設 白寿荘  
有限会社ピーネット  
富士火災海上保険株式会社  
芙蓉メンテナンス株式会社  
株式会社ホクト  
星岡保育園  
社団法人松山市シルバー人材センター  
株式会社三好食産  
UFJニコス株式会社松山支店  
介護老人保健施設 れんげ荘  
藍プリント  
株式会社アグサス  
アトム総業株式会社  
有限会社アトム宅建商事  
株式会社アビ・グローバル四国営業所  
株式会社アール・シー・エス  
デイサービスセンター和泉  
乾佛具店  
株式会社ウインクラブ  
エージユニフォーム株式会社  
株式会社NTTマーケティングアクト四国  
愛媛トヨペット株式会社  
オフィス小松  
カミ商事株式会社  
在宅介護複合施設 康復センター  
株式会社栗田工務店  
株式会社笹錦食産  
四国ゼロックス株式会社  
Jelly Belly ABE BRIDAL  
介護老人保健施設 西安  
株式会社損害保険ジャパン  
介護老人保健施設 長安  
有限会社中武商事  
ネットヨタ瀬戸内株式会社  
BS21プライダルサービス  
株式会社フォーデック四国支社  
株式会社船倉  
有限会社豊稔商事  
株式会社ほけんネット21  
株式会社松山公益社  
松山幼稚園  
八倉医院  
横田弘之事務所  
株式会社ワイズマン松山支店

(五十音順)

### 3. プログラム構成のポイント

開催の趣旨に即し「広げよう！ シニアに生きがい、社会に活力 シニアネット」というキャッチフレーズのもとに、特に、未だシニアネットの少ない四国地方におけるシニアネットの新規設立を促しその普及・拡大を図るべくシニアネットを分かりやすく紹介する啓蒙的なものとした。

そのため、プログラムを「基調講演」「パネルディスカッション」「特別講演」「ワークショップ」「シニアネット交流広場」の五本柱で構成し、やや盛りだくさんなものとした。特に、「特別講演」を設け、行政側からシニアネットへの期待と協働を語って頂くこととした。

#### (1) 基調講演

下記の通り、基調講演として2件用意することとした。一つは、シニアネットの重要性を説いて普及を促すものとし、もう一つは、シニアネットにとって重要なITの進歩が自らの生活や活動にどのような影響をもたらすことになるのか、展望を示すものとする。

「シニアネットの役割」と題し、少子高齢社会を元気づける牽引役として期待しているシニアネットの普及拡大を、とりわけ四国のシニア及び行政等関係者に呼びかけることとした。「シニアネット」はシニアの持つ豊富な知識・技術・経験等を社会に活かし、シニア自らの生きがいづくりや社会の振興に重要な役割を果たしてきており、極めて意義深いものである。そこで、この分野に造詣の深い学識経験者を講師に招き、シニアネットがシニアにとって、そして社会にとっていかに重要なものであるか、を説き新規設立を促すなど普及拡大を働きかけることとした。

今や、シニアの生活の中にITは深く関わっている。とりわけシニアネットにとっては生活必需品化してきている。そこで「ITの未来がシニアの未来を切り開く」と題し、日進月歩のITの進歩が、シニアの生活に、特にシニアネットの活動等にどう影響するのか、そして如何なる夢をもたらしてくれるのか、ITの専門家を招き、技術動向をもとに具体的な事例を織り込みながら分かり易く解説することとした。

#### (2) パネルディスカッション

「充実したシニアライフと社会参加」と題し、基調講演での問題提起を受けて、より深い具体的な議論を展開することとしているが、今回は四国での新規立ち上げを含む普及拡大に焦点を当てて行うこととした。全国の著名なシニアネットの代表者等をパネリストに招き、シニアネットを立ち上げた動機やその根底に流れる思い、そして設立に至る経緯や実際の活動を経てメリットや課題等実例を交えて熱く語る中、シニアにとって、社会にとってシニアネットがいかに重要で意義深いものであるかを明らかにして頂き、今後のシニアネット普及への指針を提供することとした。

#### (3) ワークショップ

シニアネットはその設立の理念や目的等に即して特徴ある様々な活動を展開し、自らのシニアライフを楽しく豊かなものとするとともに社会参加を果たし地域の発展に貢献している。その中で、自治体等との協働を積極的に展開している団体も増えてきている。今回は、四国での普及を目指し、シニアネットのこうした様々な活動を全国の代表的なシニアネットの活動事例を通して分かり易く紹介し、今後の活動の参考に供することとした。

更に、ワークショップの特番として「ケーススタディ」を設け、四国内のシニアネットの活動を紹介し、今後の四国に於ける普及に弾みをつけることとした。

#### (4) 特別講演

豊富な知識や経験等を社会のお役に立てたいとするシニアネットの活動は優れて社会的な活動であり自治体との協働(コラボレーション)は極めて重要である。

そこで、「街づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」と題し、県や市が地域振興や街づくりにいかにシニアネットやNPO法人などの市民活動に期待しているかを語って頂き、今後の普及につなげることとした。

#### (5) シニアネット交流広場

全国のシニアネットが日ごろの活動成果を展示することで、自らの活動をPRするなかで参加者との相互交流を深め、お互いの活動の向上に役立てて頂くこととした。更には、シニアネットは日ごろ、どういう活動をしているのか、シニアネットというものに関心を抱く多くの参加者に今後の参考のために具体的事例を提供することとした。

多くの関係する方々が参加するこの場を効果的に活用することとしたものである。



賑わいをみせるシニアネット交流広場

## プログラム

1日目:12月1日(木)

9:30～10:00	受付	
10:00～10:30	オープニング セッション	主催者挨拶 財団法人ニューメディア開発協会 理事長 岡部 武尚 来賓挨拶 四国経済産業局長 塚本 芳昭氏 愛媛県企画情報部 部長 夏井 幹夫氏 松山市長 中村 時広氏
10:30～12:00	基調講演1	「シニアネットの役割 ～シニアライフの楽しみと社会参加～」 徳島大学 大学開放実践センター 教授 NPO法人いきいきネットとくしま 理事長 吉田 敦也氏
12:00～13:00	休憩(昼食)	
13:00～14:00	基調講演2	「ITの未来がシニアの未来を切り開く～パソコンとはシニアのもの～」 株式会社ジャストシステム 松山研究所 所長 栗田 和夫氏
14:00～15:50	特別講演	「街づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」 講演1 愛媛県企画情報部管理局情報政策課課長 俊野 健治氏 講演2 松山市産業経済部地域経済課課長 竹村 奉文氏
15:50～17:45	パネル ディスカッション	「充実したシニアライフと社会参加 ～シニアネットって何?～」 コーディネーター 吉田 敦也氏 (徳島大学 大学開放実践センター教授 NPO法人いきいきネットとくしま 理事長) パネリスト 塩見 信雄氏 (NPO法人シニアネットひろしま 理事長) 砂川 正男氏 (NPO法人沖縄ハイサイネット 会長) 中川 幹朗氏 (NPO法人おおさかシニアネット チーフディレクター) 堀池 喜一郎氏 (NPO法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 顧問) (以上五十音順)
	休憩・移動	
18:30～20:00	懇親会	リジェール松山7階ゴールドホールにて

2日目:12月2日(金)

9:30～12:00	ワークショップ	<p>1 「コミュニティビジネスを創出する」 NPO法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 顧問 堀池 喜一郎氏</p> <p>2 「自治体との協働で地域の情報化促進」 NPO法人シニアネットひろしま 理事長 塩見 信雄氏</p> <p>3 「交流活動を通じて社会貢献」 NPO法人沖縄ハイサイネット 会長 砂川 正男氏</p>
12:00～13:00	休憩(昼食)	
13:00～14:40	ワークショップ	<p>4 「企業との協働で社会参加」 いちえ会 大谷 明弘氏</p> <p>5 「地域の魅力を高めて地域に貢献」 NPO法人知的協調参画型地域振興協会(ICP) 専務理事 野明 宏亘氏</p>
14:40～15:00	休憩	
15:00～16:30	ケーススタディ	<p>「シニアネットの活動に学ぶ」</p> <p>1 シルバー高知の活動に学ぶ シルバー高知 代表 門田 喜作氏</p> <p>2 特定非営利活動法人NPOパソコン活用支援ぴんぐの活動に学ぶ 特定非営利活動法人NPOパソコン活用支援ぴんぐ 理事 山本 侃男氏</p>
16:30～17:00	クロージング セッション	<p>特定非営利活動法人アクティブボランティア21 理事長 楠野 義計氏</p>

## 4. 実施状況

### (1) 参加者

二日間で延べ370名を超す参加があり、当初目標を上回る結果となり、大盛況の裡に終わることが出来た。参加者の熱心かつ活発な意見交換や質疑応答がなされるなど、大変有意義なものとする事ができた。

また、特別講演で愛媛県と松山市の関係者からシニアやシニアネット・NPO法人への期待等を語って頂いたが、大変好評で、参加者の自治体との協働への関心の高さが伺えた。

### (2) プログラムの実施概要

今回は、基調講演、特別講演、パネルディスカッション、ワークショップ(含むケーススタディ)、シニアネット交流広場と、シニアネットを理解して頂くための啓蒙的な盛りだくさんの内容としたが、そのためいずれも参加者全員が一堂に会して議論出来るよう、全員参加型で実施した。

各プログラムの内容については、その骨子を以下に記すこととする。



会場エントランス

## オープニング・セッション

### 主催者あいさつ(要旨)

岡部 武尚 氏

財団法人ニューメディア開発協会  
理事長



皆さんおはようございます。朝早くからこのようにたくさんの方にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまご紹介をいただきましたニューメディア開発協会理事長の岡部でございます。

私どもの協会では15年位前から、シニアの方々が生きがいをもって豊かな生活ができる社会を目指すメロウソサイエティ構想を、経済産業省様のご指導で進めております。本日開催にいたりました『広げよう！シニアに生きがい、社会に活力 シニアネット シニアネットフォーラム21 in 四国』は、そういった活動の一環でございます。

おかげさまでシニアネットも構想から4年目に入り、全国で86・四国では9・愛媛県では8の団体がございます。またそのシニアネットの中でご活躍中のシニア情報生活アドバイザーですが、全国で2152・四国地方では143・愛媛県で141名の方が認定をとられてご活躍されております。それに加えまして、愛媛県様で「地域ITリーダー養成支援事業」を平成16年度から立ち上げていただいております。このシニアネットで資格を取られた方々を中心に、さらに一段レベルをあげたアドバイザーとして大いに地域の活性化に貢献していただくという制度が出来たわけでございます。これは全国に先駆けて大変にすばらしい制度であると、私どもも感銘を受けているところでございます。愛媛県松山市は、全国のIT先進地域としての歩みを、NPO法人・シニアネット・シニアのボランティアの方々を中心にすすめているという、まことにすばらしい形をとっているわけでございます。急速に進展する情報社会で発生する情報デバイドを回避し、生きがいを持って豊かな生活を送るためには、IT技術の活用において指導的な役割が必要となります。皆様方の役割は、今後ますます大きくなるものと考えているところでございます。

この2日間、皆様方にはいろいろな交流をしていただき、シニアネットの普及、また情報化の普及にご活躍をお願いしたいと思うところでございます。

最後になりましたが、フォーラム開催にあたり、共催として愛媛県様、後援として四国経済産業局様・松山市様、協賛としてNPO法人アクティブボランティア21様、さらに協力として県下8つのNPO法人の方々、ジャストシステム、トレンドマイクロ社、それからニフティ社はじめ68の地域の団体・企業の方々、に多大なご協力をいただいていることは、大変ありがたいと思っております。これからますますシニアネットの活動に際しまして、皆様方の協力とご鞭撻をお願いしてシニアネットフォーラム21 in 四国の開催のご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

## オープニング・セッション

### 来賓あいさつ(要旨)

塚本 芳明 氏

四国経済産業局長

メッセージ代読 玉井 進二 氏

四国経済産業局 地域経済部 次長



ただいまご紹介いただきました四国経済産業局地域経済部の玉井と申します。本来でしたら、局長が参りまして直接ご挨拶を申し上げるところでございますが、本日所用の為出席できませんので挨拶文を預かってまいりました。ご披露させていただきます。

『シニアネットフォーラム21 in 四国』の盛会を心よりお喜び申し上げます。また皆様方には常日頃から経済産業行政にご支援ご協力を賜り、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて我が国では少子高齢化が社会的な課題になっておりますが、四国では各県とも高齢化率が20%以上となり、全国より一足早く超高齢化社会に突入しております。さらにきたる2007年にはこれまで我が国経済の発展を支えてきました団塊の世代が大挙して定年を迎えることにより、社会経済に対する負のインパクトとなることが懸念されております。しかしながら団塊の世代を初めとするシニアは、これまでの社会生活の中で豊かな知見・ノウハウ・広い人脈を培ってこられました。このため、定年後のセカンドライフにおいても引き続きビジネスに関わっていきたいという考えの方も多く、シニアが貴重な人材資源として経済の活性化に、大きく貢献するものと期待されております。

経済産業省では、強い製造業の復活と雇用を生み出すさまざまなサービス業の創出によるダイナミックな産業構造転換を図ることを目的に昨年策定しました新産業創造戦略に続きまして、本年6月にはその政策面を進化させた新産業創造戦略2005を策定しておりますが、戦略の中では高齢者人材の活用が、重要な課題の一つとして位置づけられているところでございます。

全国各地域においては、元気な高齢者がNPO等の担い手としてサービス分野で元気で生きがいを持って働いている事例も見られるような状況となってきております。さらに行政や企業においては、今後地域に根ざした事業展開を図る上で、シニアの方々とのコラボレーションも非常に重要になってくるものと考えております。

四国でも、愛媛県をはじめ各地でシニアの地域貢献活動が推進されており、シニアSOHO、コミュニティビジネスの立ち上げや参加などにより、シニアのネットワークが広がりとつあります。本日のフォーラムを通じまして、ご出席の皆様方が、シニアネットとして地域に根ざした活発な活動を展開されていかれますことを、心から願う次第でございます。

最後になりましたが、本日ここにご出席の皆様方のご活躍ご健勝を祈念いたしますとともに、本フォーラムの関係者の方々に御礼を申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

平成17年12月1日四国経済産業局長 塚本芳昭 代読。

どうもありがとうございました。

## オープニング・セッション

### 来賓あいさつ(要旨)

夏井 幹夫 氏  
愛媛県企画情報部 部長



皆さんおはようございます。ただいまご紹介いただきました、愛媛県企画情報部の夏井でございます。本日は『シニアネットフォーラム21 in 四国』が、この愛媛県で盛大に開催されますことを心からお喜びを申し上げますとともに、皆様方には愛媛県の高度情報化をはじめ、県政各般にわたりまして大変なご協力ご理解をいただいておりますこと、厚く御礼を申し上げます。

さて今年9月、総人口に占めます65歳以上の高齢者人口の割合が20%に達したということです。人口予測等によりますと、10年後の平成27年には4人に1人が高齢者という、超高齢化社会を迎えようとしています。一方、インターネットの人口普及率を見ますと、昨年には62.3%に達したということで、本格的な高度情報化社会に突入しているといえるのではないかと思います。

こうした流れを受けまして私ども愛媛県におきまして、行政サービスに新しい提供手法といたしまして、高度情報化を積極的に進めておりますが、高齢者の皆様をはじめ誰もがいつでもどこでも必要な情報が入手出来て、そしてその情報を日常生活の中でうまく活用していくといったことが、これからの豊かな生活を送る上で大切な要素であろうかと思っております。

そのような中、『財団法人ニューメディア開発協会』様におかれましてはITを通じた高齢者の社会参加と地域の活性化を目的として、平成12年度からシニアネットフォーラムを開催されるなど、高齢化社会を見据えた展開について、まことに心強く感じております。

とかく高齢者の方々は高度情報化社会から取り残されがちと思われておりますが、豊かな経験と高い見識、これらを活かしていくことが地域の活性化につながる近道と確信をしております。先ほど岡部理事長様からありがたいお話がございましたが、愛媛県でこのフォーラムを開催していただいたというのは、本県が推進をしております「えひめ地域ITリーダー養成事業」を高く評価をしていただいていることではないかと、非常に光栄に存じております。

この事業は、ニューメディア開発協会のシニア情報生活アドバイザー制度を活用させていただき、県内のNPO法人の皆様方との協働でITリーダーを養成するといったものであり、関係の皆様方の意欲的な取り組みにより目標以上の養成が進んでおります。高齢者がパソコン・インターネットを活用した豊かな生活が送れるような支援が出来つつあるのではないかと期待をしているところであります。

今後ともニューメディア開発協会、NPO・シニアネットの皆様方をはじめ関係機関との連携をとりながら、幅広い世代の方々がITを活用して、豊かな生活を送れますよう努めてまいりますので、今後ともさらなるお力添えをお願いしたいと存じます。

シニアネットのますますのご発展と、本日ご出席の皆様方のご活躍に期待しますとともに、ご健勝ご多幸を心から祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

本日はご盛会まことにおめでとうございます。

## オープニング・セッション

### 来賓あいさつ(要旨)

中村 時広 氏

松山市長

メッセージ代読 白石 義秀 氏

松山市産業経済部 部長



本日ここに、『シニアネットフォーラム21 in 四国』が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

さて、わが国の人口はすでに減少に転じておりますが、本市も例外ではなく、本年1月に合併いたしました中島地区における高齢化率は、すでに45%を超えております。全国平均の20%や本市の18.7%と比べましても、著しく高い状況となっております。このような超高齢化社会が迫っている中、今後ますます一人ひとりが長生きして良かったと、誇りを持って実感できる豊かで活力のある社会を確立していくことが求められております。高齢者の方々がこれまで培ってこられました知識や経験などは、地域にとりましても大きな財産であります。

高齢者の社会参加による地域づくりが大変重要であることから、本市におきましては、総合計画の中に高齢者障害者の自立と社会参加の支援を大きな柱の一つに位置づけ、生きがい作りの支援や高齢者の雇用促進など社会参加の機会の拡大に努めてまいりました。一方、今日の高度情報化が進展する中、本市では平成14年度に独自の産業振興ビジョンとして「eまちづくり戦略」を策定し、民間通信事業者との連携の下、市内に総距離3千キロを超える光ファイバー網を整備すると共に、本年度末までに島嶼部に光ファイバーを敷設することで、地域内の情報格差の是正に取り組んでいるところであります。さらに来年度からは、地域イントラネット基盤を活用しました遠隔による生涯学習や健康相談等の行政サービスを開始するなど、ITを活用したさらなる市民サービスの向上に努めているところであります。

このように高齢化や高度情報化が進む中、ITを活用して社会で活躍したいという高齢者の方々が集まるシニアネットの存在は、豊かで活力ある地域社会を形成していく上で、非常に重要であると考えております。本市としましても、高齢者のための情報学習の支援に取り組むと共に、高齢者に配慮した情報通信機器の活用にも努めることで、ITを活用しやすい環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、四国における高齢者の方々がITを活用し、ますます社会でご活躍されますことを期待いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

平成17年12月1日 松山市長中村時広 代読。

基調講演 (要旨)

## シニアネットの役割 ～シニアライフの楽しみと社会参加～

吉田 敦也 氏

徳島大学 大学開放実践センター 教授  
NPO法人いきいきネットとくしま 理事長



### 1.はじめに

『NPO法人いきいきネットとくしま』の理事長として、シニアの活躍を支えてゆくという仕事をしておりますが、今日の講演では実演をしながら、皆が出来ることを一緒にやってみて行く、というような形で進めて行きたいと思っております。

最近、iPodが、若い人たちの間ではやっています。これはいわゆるウォークマンで、この中にコンパクトフラッシュというデジカメなどと同じメモリーが入っていて、さらにこの中にプレイヤーというソフトが入っており、2Gのサイズで約1000曲くらいの音楽を入れることが出来ます。この特徴は、カーステレオに早変わりするということで、車のFMラジオで、特定の周波数で聞くことが出来ることです。このように、今やコンピュータはこういう小さいものに、かつ色々な生活の中に組み込まれる形になってきています。

もうひとつの事例を挙げたいと思っております。徳島大学では、ユビキタス遍路というものを行っております。これは四国88ヶ所をお遍路するときに携帯電話を持ち、ブログで今どこにいるかとか、お参りしてどうだったかとか、他に歩数などをインターネットに送信しながらお遍路する、というものです。これによって、留守を守る家族に情報が届き、家族はそれを見て安心し、自分は帰ってそのこと振りかえる。さらに新聞社の人はそれを見ながら記事を書く。こういうことが出来る時代になってきました。この先にユビキタス社会がやってくる、と思っております。

このような例を見ても分かる通り、シニアネットという中で先進技術を使ってゆくことで、非常に私達の暮らしを豊かにし、自分の気持ちを穏やかにし、また人との繋がりを強固なものにする、という働きがあるということです。

今日の私の講演は、「シニアネットという枠組みの中で、あるいは集まりの中で、先進技術を使いながら、暮らしを作ってゆく、そういうことに参加をしよう」というのが本題であり、結論でもあります。この写真は、先ほど岡部理事長のご挨拶の少し前に撮ったものですが、そのまま今の表題に使わせていただきました。最もふさわしい写真かな、と思っております。

## 2. シニアネットとは何か？

さらに今日は、基本に立ち返ってシニアネットというものを考えてみたいと思います。そもそもシニアネットとは何でしょうか。昨晚のホテルの前に見える風光明媚な松山城を見ながら思い起こしたのは、サンフランシスコのベイエリアでの市民活動です。

シニアネットという言葉は、もともとアメリカの商標登録であり、スペルはseniornetです。シニアネットは1986年にアメリカ西海岸のサンフランシスコで誕生しました。URLはsenior

net.orgです。シニアネットに関するバイブルとも言うべき本が何冊もあり、中でも私が愛する本が2冊あります。その内の1冊は、前回のシニアネットフォーラムの基調講演者である、岡部一明氏の著書で「インターネット市民革命」、もう一冊も同じ岡部氏の著書で「サンフランシスコ発社会変革NPO」です。

この著書の言うところは、「インターネットというものを活用して、あるいはインターネットの登場により、市民が社会を作ってゆく一歩が切り開かれ、その一歩がまさにサンフランシスコから踏み出された。」というものです。

行政はNPOに施策の提案を求め、それを実現する組織として行政があります。サンフランシスコの図書館で最も権限のあるものは官庁ではなく、利用者が作るNPOです。そのNPOの決定は官庁も覆せない、というような形で、社会がどんどん市民・県民等を含め、地域住民によって自立的に作られてゆく、ということが書かれています。その中の第1章に書かれているのが、シニアネットなのです。

記念すべきは、シニアネットは1986年に出来たので、来年はシニアネット20周年にあたるということです。この記念すべき年を迎えるにあたり、日本のシニアネットの十何年かの歴史の中で、その立ち上げと成長のためになされたこと、支援の手などを、目に見える形にして残し、次の第2ステップに向けた礎にしたいと思っています。

ここに示したのは、seniornet.orgのホームページです。これがオンラインコミュニティといわれるものを作っていますが、私が調査した2000年には4万人の会員を抱えておりました。正確には分かりませんが、現在は5万あるいは10万、いえもっといるかもしれません。

そこには、次のように、シニアネットの使命が書かれています。

「50歳以上のシニアが、生活をより豊かにし、長い人生の中で築き上げた知や知識を広く社会の中で共有するために、情報化技術を使って実現する。そのためのコンピュータ活用技術教育を提供する。機関である」というふうに定義づけています。

即ち、シニアの暮らしを豊かにし、同時にシニアの持つ知恵を皆で共有する。それを情報技術を持って実現し、そのための教育を行う。その環境整備を行うことこそが、シニアネットの最大のミッションであると、冒頭に謳っています。

# SeniorNet

<http://www.seniornet.org/>



### 3. 米のシニアネットは何をしているか？

アメリカのシニアネットでは、その掲げたミッションから、先ず学習センターの整備を行っています。全米及び世界各地に教室240箇所を持っていますが、数席を備えただけの小さなものから、教室ひとつを借り切った30～40席もの大きなものまであります。ひとつのネットで240箇所もの教室を運営するのは並大抵のことではありません。ここにシニアネットの強い意思がメッセージとして見えます。

学習センターというものは維持運営に金がかかり、そのためシニアネットでも受講料を設定しているのですが、その上で非常に上手な運営の仕組みを導入しています。

学習センターで教えるのは、日本のシニアネットと同様ボランティア中心ですが、マネージメント関連、特に教材の選定や会場の運営などはヘッドコーターが行い、それに携わるスタッフには通常の会社と同じ給与が支払われます。その代わり有給スタッフは、目標額の寄付を集め、その財務管理・税務処理などを行い、全国240箇所の学習センターへ配分します。これは、非常に賢い仕組みです。

加えて、会員外も対象にWebサイトの運営を行い、そこでオンラインコミュニティ(バーチャルコミュニティとも呼んでいますが)それを使い、色々な相談や悩みの交換、コミュニケーション、そして勿論技術的な相談も行っています。さらにオンラインの活動に加え、ニュースレターなども発行しています。

学習センターというパソコン・インターネットを「勉強する場」を作る。そのインターネットを使って「コミュニケーションする場」を作る。それによってコミュニティを作る。友達の輪を形成する。オンライン活動にプラスし、ニュースレターという従来の紙媒体による広報誌も発行する。これによって、新しく参加してくる人達、あるいはインターネットを使いづらいと思っている人とも情報交流をし、また社会に対して、メディアに対しても情報共有を行う。これらのことが、シニアネットの基本だと思えます。

ここで米のシニアネットのコンテンツはどういうものかを、ご紹介しましょう。ウェブサイトを提供されている一番の話題は、当然技術の話題です。コンピュータをどうする、こうするという内容です。

その他、読書会、文化交流会、フィットネス、ヘルスプロモーション、財務などがあります。例えば定年後の年金での暮らし方やリクリエーションに関することもあります。アメリカでは必ず話題となるボランティア活動さらにシニアネットショップなどをも行っています。会費は5000円位です。魅力的なのは、まとめて3年分を払うと安くなるという仕組みを作っていることです。組織を維持する意識を示した人、あるいは、明確なdonation(寄付)の意識を示した人には、メリットがあるようにしていると解釈しています。

メンターという言葉がありますが、この言葉は、コンピュータを伝道してゆく、また相手の立場にたって教えてゆく、そういう事をリーダーシップの意識をもってやってゆける人たちのことをさしています。

#### 4. 世界のシニアネットはどうか？

実際に訪問して調査をしたものではなく、WEBサイト調査によるものです。

- ・ニュージーランド：1992年にできており、シニアネットの立ち上げに同期した形で来ています。100の学習センターがありますこれはうらやましい環境です。ニュージーランドテレコムが支援しています。
- ・オーストラリア・スウェーデン・ドイツなどにもシニアネットがあります

今後は是非訪問調査し現地の状況を見て、アメリカのサンフランシスコで誕生したシニアネットがどのように、世界的に影響を与えているかなどを調べたいと思っています。このように、シニアネットはワールドワイドのサービスであるということです。

一方、どこにないのかも、調査したい課題です。というのは、イギリスには、Learn Direct など就労のためのe-ラーニングが国家戦略として盛んなのですが、シニアネットはないようです。検索エンジンには、ひっかからないと言う意味ですが、もし、本当にないとすれば、何かシニアネットに代わるものがあるのではないかと、そしてそこから何かヒントを得られるのではと考えています。

スウェーデンのシニアネット  
<http://www.senioraust.com.au/>  
1997年設立



オーストラリアのシニアネット  
<http://www.senioraust.com.au/>  
1992年、ニュージーランドテレコムがウエリントンに設立。1993年、ネルソンに第2番目の学習センターを設置。以後全土に広がり、今日までに100の学習センターを開設。



#### 5. 誰がシニアネットを作ったのか？

岡部一明氏の著書にも書いてありますが、シニアネットはサンフランシスコ大学の教育学部の教授で教育学、つまり教授法とかメディア教育などを専門にする Mary Furlong 氏が立ち上げました。1983年に高齢者向けコンピュータ講座を開設、1986年にシニアネット創設に至っています。

Mary Furlong 氏は、「コンピュータは心の自転車である。移動能力が少なかったり、介護の必要な高齢者が、技術によって他の人達と繋がるのが大切である」、と述べています。アメリカ社会の中には市民社会を支える色々な仕組み・考え方がありますが、その一つが情報共有であり、その最大のあらわれがインターネットでしょう。

もう一つは、情報の均等な配分。誰もが情報に均等にアクセスできる環境を作れ、というアクセサビリティの考え方です。「ハンディキャップのある人も、目の不自由な人も、耳の聞こえにくい人も、歩きにくい人も、若い人も、皆均等に情報を受け取ることが出来る、そんな教育環境・学習環境を構築する」ということがこういう活動の基本です。

サンフランシスコ大学教育学部のCIT（教授法と技術を扱う専門機関）の、「私達は何をするか」という題目の中に、CITプログラムは、シニアネットを支えるということをお話しています。

つまり、サンフランシスコ大学は、シニアネットというNPOを支えるということ、ウェブサイトで宣言しています。こういう大学と地域の関わりがあって初めて、（創始者がここから出たからそれを尊重し、意志を継いでゆくということもあるでしょうが）広く社会の眼から見た時、地域の大学、公共的な大学が、シニアネットを支えるということが、位置づけられます。シニアネットの権威付けと、皆の信頼を得る材料になっていることも明確です。

ここに、Mary Furlong 氏へのインタビューをした記事があります。シリコンバレーラジオがインタビューしているものですが、そこでの解説に、「シニアネットは、テクノロジーに少し気が引けている、腰が引けている人たち、使いづらいと感じているシニアの人たちに対して、入り口となるような役割を果たす」という表現をしています。

こういう形で大学を中心に、シニアネットが作られてきたという経緯は、国立大学法人の末席に席を連ねる私としては心の支えとなっており、自分のやってきたことが、間違いでない、皆さんのお役に必ず立っているんだ、という言葉貰ったような、気持ちにさせてくれます。

## 6 . シニアネット創設の背景

では、どういう経緯で、Mary Furlong 氏が、シニアネットを作ることになったか、ということですが、時代の変化への対応ということに結論づけられます。

人口構成が変り、それに対する政策的な対応ということが大きく影響しています。少子高齢化社会の到来ということへの対応です。

少子化とは、子供の数が少ないという状況ですが、日本での少子化は、1992年に国民生活白書で使われたのがきっかけです。

WHO基準によると、特殊出生率が2.08以下が少子化ということになります。一人の女性が一生の間に生む子供の数が2.08以下になったということですが、今はそれどころではありません。1.57ショックが1989年に記録されて以来、1人は生むが2人は子供を生まない時代が日本にはおとずれています。一方で同時に高齢化社会が来ています。高齢化には基本として3段階あります。

高齢化率が、現人口に対して

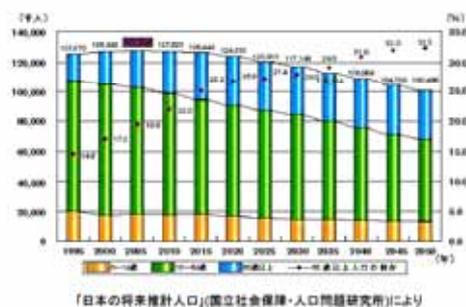
- 7 ~ 14 % を、高齢化社会
- 14 ~ 21 % を、高齢社会
- 21 % 以上 を、超高齢社会

と、こういうような位置づけになっており、日本は超高齢化社会に向けて突っ走っています。では、高齢者というのは何歳からか。これは非常に議論のあるところですが、WHOでは65歳以上としています。

この点、シニアという言葉は非常に上手に作っており、厚生労働的な意味と定年退職、またその準備期間を含めて、50才頃からをシニアと呼ぶのは、適当な言葉になっていると思います。

## 少子高齢化社会の到来

子供の数が高齢者人口よりも少なくなった社会



〔日本の将来推計人口〕(国立社会保障・人口問題研究所)により

もう一つの背景はベビーブーム。アメリカでは、ベビーブーム対策がシニアネット立上げに大きな力となったといわれています。日本では、概ね1947年頃から50年頃までの期間を第1次ベビーブームと呼び、年間出生者270万人というような状況が起きました。第2次ベビーブームは1971年頃から74年頃といわれています。

## 7. 地域社会とシニアネット

では、シニアネットが自分達の地域にあったらどういうことが起こってくるのか、またどういうメリットがあるのか、についてお話をしたいと思います。

「高齢化対策」といってしまうと、一言ですんでしまいますが、私はこれを、二つのレベルに分けました。

### 1) 何故シニアネットなのか？(レベル1) 情報通信技術へのアクセス

社会的な機能として、基本的で穏やかな次元として、情報通信技術へのアクセスがあります。情報通信技術の恩恵、利活用の意味について、なかなか実感をもてない人が多数いるのが実態です。政府のIT講習が強力に押進められ、基本のマウスの使い方、ワープロ入力などに関する基礎講座が多くの市町村で実施され、目標人数が達成されつつありますが、実際に暮らしの中でパソコンとインターネットを使うにはまだまだ隔たりがあります。従来は、IT(情報技術)と呼んでいましたが、それがICT(情報通信技術)というものになってきたことに表されているように、パソコン・インターネットを使ってコミュニケーションをすることがもたらす効果や成果というものに意識を置きなおす必要があります。

#### 情報共有

その一つが情報共有です。

情報とは何か、ということですが、情報は基本的には送る人と送られる人の間に何か動けばそれが情報ですが、やはり暮らしに役立つ情報、暮らしの中で築かれた知恵や知識が動くということが情報といえるでしょう。

それでは、情報共有とはどういうことか。これまで暮らし情報は、向こう3軒両隣的に交わっていました。それが、いろんな地域、例えば行ったことがない、あるいは人生の中で行くこともない地域から、情報が集り、自分の暮らしの中に取り入れるというようなことが起こってくる。それも情報共有です。

#### 社会参加

もうひとつは社会参加ということです。

政府はe-Japan政策を推し進めており、既にu-Japan政策に移りつつあります。e-Japan政策の中で起こってくるのが、行政の電子自治体化です。これにより公共サービスのコストを下げるという意味もありますが、先ほどお話したとおり歩きづらい人・移動し難い人・遠くにいる人に対して、よりきめ細かい行政サービスを行うというような、電子自治体化が実現しようとしています。

それがユニバーサル、即ち誰にでも使えるようになるのが、u-Japan構想の要素で、そういうものに対してスムーズに参加してゆけるようにする準備が、シニアネットに課せられた社会機能として挙げられます。

今、シニアネットのIT講習会では、ワードやエクセルの講習をしていますが、そのうちに住民票の電子申請の方法や、インターネットでの納税の仕方などもテーマになってゆく可能性があります。国税庁への確定申告がインターネットで行えるようになっていきますし、沖縄では入札が電子媒体化されています。

シニア情報生活アドバイザー養成講座なども、そういう面を付加してゆくことになるでしょう。その先に見えてくるのは意思決定への参加ということです。地域で行われていることに旅行などで参加できなかつたり、自治体の会議などでも毎回は参加できないということがあります。そんな時に、ネットを使って意思決定に参加することができます。

こうなった時には、IT講習はさらに変わってきます。自治体へのインターネットを使った提案の仕方、知事へのメールの書き方などが、シニアネットIT講習のテーマになるかもしれません。

結果として、他に今までの届かなかった声を届けるということが可能になりますし、地域の行政や街づくりなどに参加できるようになります。逆に、それが出来なかった場合、デジタルデバインドになります。出来ない人が意思決定からはみ出してしまい、遅れてしまうということです。そうならない様にするための役割をシニアネットが果たしてゆくことが考えられます。

このための講習を行政がやることになった時には、その先に見えてくるものは大体想像がつかます。それよりもむしろ、シニアネットが分かり易く地域の目で行い、手助けをする、そういう役割が重要になってくるでしょう。

### **コミュニケーション**

3番目がコミュニケーション作りです。

楽しい日常や生きがいの発見に繋がるコミュニケーションというものを基本にしてゆくということです。

これは既に、ここに参加しておられる皆さんや実際にシニアネットに参加して活動しておられる皆さんは、実感としてあるのではないのでしょうか。

### **2) 何故シニアネットなのか? (レベル2) ネットの積極活用**

さて、そういうシニアネットの社会機能を、もう一步踏み出す時期に来ている、というのが私の一つの主張です。

- ・もっとネットを積極的に利用して頂きたい。
- ・もっと有効な活用の余地があるのではないのでしょうか。

というのがシニアネットの社会機能の第2水準です。

### **情報化の促進**

情報化というのは色々なもの、例えばここに水のボトルがあり、デジカメがあります。これも一つの情報ですが、情報化とは、これをネットから、見えるようにするという事です。今この愛媛県の松山の会場で、演壇にたっている人の前に、水があるというのがネットの中から見出せるというのが情報です。次に、その水がエビアンであり、シリアルナンバーが何番で、どこのロットから出てきたか、ということが標準化された形で分類されてゆくときに、更に情報化が進んでいきます。

地域にある知識とか、技能を皆に見えるようにすることをより積極的に行う。これは伝承に繋がっていきます。

徳島県吉野川に、カンドリ(梶取り)舟という伝統的な川船が残っています。全長約6メートル、幅約1.4メートル、スギやヒノキ、ツガなどを材料にしてつくるそうですが、その船作りの技術が廃れようとしています。その理由は、その船は特別な船釘を使っており、一隻に350本も使うということですが、その釘の作り手がいなくなっているのです。このことをネットで知らせ、皆で知恵を出し合い、統合すれば、その船を作る技術を伝承することが出来るのではないのでしょうか。こういうことも情報化のひとつなのです。

「なんだ、こんなことだったのか」という発見「すごいな、こういう形でものが並んで

いるのだな」というように、パソコンのデスクトップが地域の博物館であり、またデータベースであつたりもします。

こういう形で、生き生き・どきどき・ノウハウ・人材を共有する社会運営をこれからのシニアネットはやって行かなければならないと思います。

サンフランシスコ発のシニアネットモデルが、世界に学習センターを揃えただけに終わってしまつては、意志をついでやってきたものにとっては、少しもの足りない結果になるのではないかと思います。

### **ビジネス参加・起業**

もう一つは、おそらく次のパネルディスカッションで、詳しい話が出るとは思いますがビジネスへの参加、あるいはコミュニティビジネスということがあります。地域の中で特色のあるビジネスを興す、ということが世界標準・全国標準となつてきています。そういうビジネスの開発、あるいは起業する、その出発点であつたり、基盤であつたり、土台であつたりするのがシニアネットではないかと思います。

社会通念を覆すような生産、労働の創生、他ではちょっと出来ない事が、シニアネットの土俵では出来る事が沢山あります。それらを行つていくと、そこにインパクトのあるリーダーシップ、あるいは人材というものが見えてきます。そういう形で流通が再編されたり、他業種・異業種が融合再編されたりするのはないでしょうか。そういう道をもっと研ぎ澄まし、徹底的に最後まですすめて行く必要があります。

### **ネットワーキングへの接近**

次がネットワーキングへの接近ということです。

慶応大学の金子教授が述べていることですが、ネットワーキングとは、「違いを認め合った一人一人の集まり」といっています。これは言葉にすると簡単なフレーズですが、このことはインターネットワールド、インターネットジェネレーションからすると、輝かしい一言です。違いを認めあうということは、互いの意見を尊重するということであり、互いの意見に耳を傾けるという、理念であり、このことが出来ればインターネットはすばらしい能力を発揮することになります。

まさにインターネットのコンセプトで、それがネットワーキングです。対面を超えるオンラインのコミュニケーションを活用してゆくことが大切ということですが、こうなるとオフラインコミュニケーション、つまり、シニアネットの中での楽しい集まりをどうとらえるかということも問題になってきますが、もちろんそれは、悪いことではなく、そのことが出来るのがシニアネットの一つの役割でもあるでしょう。

しかし、折角インターネットを使うという賢者の知恵を持った集団なので、是非ともネットワーキングへの接近ということを試みて貰いたいと思っています。そこには、きっと特化した技術活用の集団でなくて、世代交流・地域活性化、あるいは、よりスローライフ・ゆっくりするための情報技術活用集団のあり方が見えてくるということを申し上げておきたいと思います。

## **8. パソコン・インターネット生活の効用とまとめ**

以上の話をまとめ、併せて、パソコン・インターネット生活の効用について話を進めていきたいと思っています。

横浜国大の川浦先生が、パソコン通信といわれていた時代に書かれた本で『電子コミュニティの生活学』という書物があります。これは、パソコンやインターネットを使った生活の基本の基を紹介したもので、とても分かりやすい本です。社会心理学から見た電脳生

活の意味についても触れています。

川浦氏は、「産直コミュニケーションという言い方をすればいいのではないか」と言っています。つまり旬の情報やメディアを介さない情報が得られるということです。

今流行のブログもその一つで、新聞や雑誌を介して編集され意味が咀嚼されて届けられていた情報から、直接生産者、或いは地域から、その人達の言葉で届けられる時代になってきています。このことがやはり基本になっているのではないかと、ということです。

もうひとつはアメールコミュニケーションという言葉を使っています。電話でもその他のものも、1対1、1対多、双方向などが一般的になりつつあります。テレビのデジタル化もそのひとつですが、それでもインターネットほどの特定・不特定限らず爆発的な情報の広がりにはありません。掲示板に「これこれ、お願いします」と書いておけば、世界中を廻り一つの形になって答えが返ってくる。その走りまわった結果が仲間をつくり、一つのネットワークとして成長してしまう、そんなコミュニケーションスタイルはインターネットの他にはありません。川浦氏はこれをアメールコミュニケーションと呼んでいます。

しかしこういう、産直コミュニケーション、アメールコミュニケーションは、シニアにとっては苦手なことかもしれません。とりわけアメールコミュニケーションは、誰が誰だかわからないところから来ます。受け取った人から「先生どうしましょうか？」という相談が多くあります。

こんなお話をご紹介します。徳島に眉山という山があります。私が講師する「ユビキタス遍路」講座のある女性が「遠くから見える大きな建物を目印に眉山に登り降りするのだが、何回やっても道に迷う」とブログに書き込みました。その後 San (サン) というハンドルネームの人からコメントが届きました。そのコメントには「それは、点と線との問題です。道は一本道の場合のみ線となります。たぶんどこかに気づかぬ分かれ道があったのでしょうか」とありました。コメントをもらったその女性は「賢い人だなあ」と思いながらも、65人の講座仲間には San というハンドルネームの人がいないため、不安に思って「返事どうしましょうか？」と相談に來られました。私は「ほっとけばいいじゃないですか？」と言いましたが、その人にしてみれば気になってしかたありません。数日してその人の名古屋に住む息子から「お母さんのブログ記事にコメント書いたよ」と電話があり、結局 San はその人の息子であることが分かりました。息子さんは、「息子 son」とわからないよう、しかし、ひょっとしたら推測がつくかもしれないと、ハンドルネームをわざともしって「San」とし、コメントを書き込みましたのです。笑い話でもありますが、これはひとつのアメールコミュニケーションです。

息子にブログを書いていることは知らせていませんでしたが、息子がなんらかの形で検索して、母親のブログを発見し、コメントを書いていたのです。見知らぬ人からのコメントは若い人の目からすると、友だちの輪が出来たことになりませんが、シニアがこれを友達輪として取り込むには色んな勇気や判断力が備わっていなければなりません。

情報リテラシーという言葉にも置き換えられますが、こういうものを進めてゆく為には、それなりの学習や皆での話し合いが必要です。そういう面では、シニアネットは非常によく機能しております。例えば私が主宰する『いきいきネットとくしま』が姉妹提携している奈良シニアネットではメーリングリストを使って活動していますが、とても活発にメールの交換が行われています。

こうした事例からひとつ提案したいこととして、まずは色んな電子媒体・コミュニケーションチャンネルをシニアネットの中で、試してみてください。

インターネットの第1世代から言うと、チャットや掲示板は特に新しいことではなく、定番のものになりました。今はそれがブログなどによって変わってきています。電子メール、メーリングリスト、フォーラム、ホームページ、掲示板、チャット、ブログというような種々な形のオンライン活動を積極的に取り入れ、みんなで学び、使い方を練習し、そこでの問題点を話し合ってみることが必要ではないかと思います。その上で、並行してワードやエクセルなどの使い方なども学んでいくことが大切でしょう。

さらに、よく言われるように、教え教えられる環境をベースとした相互学習を実践する事も大切でしょう。教えるということは、良く学ぶに通じます。これは、冒頭に紹介した、サンフランシスコのシニアネットから出てきた考え方でもあり、アメリカでも非常に評価されています。先生として教えるのではなく、コミュニケーションとして教えることが大切です。

リチャード・ワーマンという有名なコンセプトデザイナーは、「インストラクションはコミュニケーション」と言っています。教えるとはコミュニケーションなり。

同世代の目線で教えあっていきましょう。必ずしも同世代で集まる方がいいとは限りません。しかし、何よりも先ず安心するというのが一番です。そのために同世代学習の効果は大きいものと思います。緒についたら、後はゆったり感覚でやって行き、時には異世代もまじえて、必ず爆発(的発展)まで行って欲しいと思います。

## 9. 日本のシニアネット

以上「シニアネットとは何か」ということについてお話ししてきました。

私からのメッセージとしては、こういう基本というものを考えた運営や、参加を是非お願いしたいと思います。或いは、そういうモデルとなるようなシニアネットを、地域の中にきちんと育て、その上で、色々なバリエーションがあってよいのではないかと思います。

情報リテラシーということを言いましたが、昨今ではウィルスとか、インターネットからの不正なアクセス、攻撃が絶えません。皆さんのご家庭にもコンピュータウィルスは飛んで来ますし、メールだけでなく接続するだけで、つまりLANのケーブルを繋いだけでウィルスに感染したり、パソコンが攻撃を受けたりすることがあります。そういう時代の中では、やはり基本を正しく備えることが重要です。その為にはインターネットセキュリティの基本を学ぶというよりは、「ネットワークとはなにか」という、大きな枠組みを認識することが、実は基本になるのです。

その基本とは何か。インターネットの世界は限りなく論理の世界であり、論理的な思考が「基本」となります。操作はその次にやってきます。このようなことを考えながら、地域の中において基本を押さえたシニアネットを構築してゆくということが重要であると思います。

日本で以上のようなことを踏まえて、苦勞をされておられるのがNMDAです。メロウ・ソサエティ構想は1990年ごろ、「成熟・円熟した社会を作ろう」というところから始まっています。

日本のシニアネット草分けのひとつは『メロウ倶楽部』です。そのホームページを例に上げさせてもらっています。メロウ倶楽部のお陰で色々なシニアネットが育ちました。シニアネットの数は、NMDAに申請登録されたもので、全国で90~100位ありますが、実際にはもっと多く、おそらくこの2倍も3倍もある筈です。

ただ中四国で登録件数が2件しかないのは寂しい限りです。その2件は『シルバー高知』と『いきいきネットとくしま』ですが、それ以外にもっとたくさんあるはずで、「是非、

登録して、皆でもっと手をつないでやりましょう」とというのが私のメッセージです。ネットワークは、人口密度の高い首都圏に多いのは当然ですが、情報交流が活性化の命綱となる地域こそネットワークが必要だと思えます。是非そういう形になるよう願っています。

日本のシニアネット  
<http://www.ichiekai.net/jpnet/>

北海道	3
東北	6
関東	36
中部	8
関西	14
中国	3
四国	2
九州・沖縄	9
全国	14
合計	95箇所

日本のシニアネットの草分け  
<http://www.mellow-club.org/>



## 9. 日本のシニアネットのスタイル

100くらいあるシニアネットを3つの次元で分類しました。

- 1) コミュニケーションレベル
- 2) サービスレベル
- 3) 技術・企画・戦略レベル

### 1) コミュニケーションレベル

コミュニケーションの次元で言うと、先ずサロン型シニアネットがあります。私も、徳島に来る前は京都工業繊維大学にいて、そこで初めて、旧通産省プロジェクトのお力添えを得て『金曜サロン』というシニアネットワークを作りました。それが今では日本のシニアネットのさきがけのひとつに数えられるまでに成長しており、喜ばしい成果が得られています。

そこでの基本は、穏やかに集まり、穏やかにコミュニケーションをし、楽しくやりましょう、というものでした。同時にインターネットパソコンの学習を行うというものです。これは参加していて楽しく、参加し易いものであったと思います。この形が多分、日本人にはわかりやすく、やりやすいモデルケースではないかと考えています。新たにシニアネットを作りこれから運営を開始する際には頭に入れておくとよいと思います。

ただ先達のアメリカ等の例を見た時、シニアネットは情報基地となることが重要ではないでしょうか。今までの話からも、積極的な活動をしてゆくための礎となるようなコミュニケーションが出来るネットになって欲しいものです

SOHOスタイルのシニアネットはこれに相当するのではないかと考えています。そこでのサロンの交流が、そのままビジネスのアイデア、ヒントというものに繋がっていきます。あるいはビジネスのためのヒューマンネットワークをシニアネットの集まりから芽づる式に貰うことが出来る。これが情報基地型ではないかと思っています。

もう一つは、会議室・オンラインコミュニティ型で、井戸端会議型ではなく、まっとうな議論がなされ、ディベートが出来る場所としての役割です。

### 2) サービスレベル

サービスレベルの第1は、講習会運営型です。原義からいってシニアネットの基本となるもので、きちっとした受講者の満足の行く講習会が出来る。そのための講師が確保できるということが基本になります。

それに加えて、WEBによる公開情報発信型、メーリングリストによる非公開情報の発信などが、シニアネットモデルにおける軸の一つとなります。

### 3) 技術・企画・戦略レベル

最後に技術企画戦略レベルという軸を作りました。これは、私が情報技術の分野にいて、ベンチャービジネスのスタートアップ等にも関わりがあることが関係しているかも知れませんが、「モノを作ってゆく力をどれだけ発揮できるか」ということもシニアネットに問われている課題です。実は既に実現できているシニアネットがいくつもあります。

モノというのは、ビジネスモデルであっても、地域振興の策であってもITへの入り口づくりのための刺激的な講習会であってもいいのです。さらに、海外からのインターネット中継作業をするというようなイベントなど、従来の枠組みには位置づけられないようなことであってもよいと思います。

まずは連携共同し、コラボレーションレベルから、技術企画力に富んだモノづくり型、新規事業開拓へ、さらにそれを実際に行政とかに組み入れて運営してゆく事への方向付けが大切です。

このフォーラムが松山で開催されたのは、ここ松山はレベルの3番目のことが出来ていることの証であり、最高レベルの状況が実現できているといえるでしょう。

結論的には、これをさらにシニアネットの活動として表現していく為の、働きかけ、お膳立て、協力が必要とはなっていてゆくでしょう。

## 10. シニア情報生活アドバイザー

このように、随分私達の周りの環境整備が進んできました。これらをシニアネットの活動ということで、位置づけてゆく事が大切でしょう。さらに政策や行政の活動に対して、シニアネットが協力・参加していくことが大切でしょう。そのことによって、サンフランシスコのNPOのように、街づくりを実際に手がけてゆく立場にイニシアティブをとってゆくことがあってもいいでしょう。

この実現に向かって機能しているのが、冒頭にも紹介のあった2100人以上のシニア情報生活アドバイザーです。シニア情報生活アドバイザー制度を簡単に紹介しておきますと、養成すること自体がまず目的に含まれています。さらに養成されたアドバイザーは地域に入り、MOUS検定などと違う形で生き生きとした生活づくりに関与し、そして豊かな高齢化社会実現に貢献していきます。

ですから単に、パソコンやインターネットの使い方を覚えることではなく、技術力・支援能力・活用能力というトータルな能力が講座の中で養われていきます。それに伴い、免許が取れなくても講習を受けることで、一つのステップアップを図ることが出来ます。

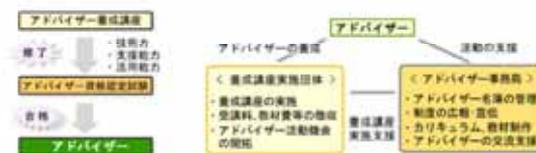
### シニア情報生活アドバイザー制度の 資格認定と活動支援の仕組み

養成講座を養成講座実施団体(協力団体)が実施

※協力団体はニューメディア開発協会が認定

※受講資格:・概ね50歳以上

・パソコンを利用して電子メールの送受信を日常的に行っている人が対象



さらにアドバイザーが誕生したときに、何をするかという質問が多いのですが、アドバイザーの仕事を作ることが、養成講座を担当した団体の最大の仕事であり、またこの制度の最大のポイントです。且つ、面白いところです。

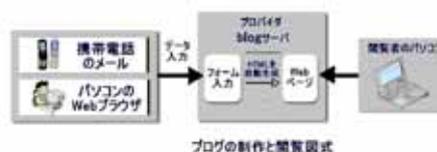
出来たら何をするかでなく、地域の皆で新しい仕事を作る。それがIT講習会であったり、ITのイベントであったりするわけですが、これを、シニア情報生活アドバイザーが中心になって進めて行きます。

「何をするか」でなく「何を作る」かが大切であり、そのために行政と一緒にやってゆく事がポイントです。シニア情報生活アドバイザーの資格認定は、何かを生み出す力を地域が持つということに他なりません。

今は、ブログの時代です。ブログで、今までのホームページとは違った情報発信が出来る時代になってきました。総務省の調査では、ブログ人口は現在335万人。2007年には782万人以上になる見込みです。シニアネットも少しあわてないといけなんでしょう。こういう状況の中で、シニアネットも新しいことを取り入れて行く必要があります。

私もやっと、シニア情報生活アドバイザーの免許を取得しました。私の目標はサーバーを地域に提供し、(実は、『いきいきネットとくしま』のサーバーは自分の家にあり、これを東京にいる教え子と二人で管理しています)これをボランティアとして維持・管理してゆくことです。ライフワークと考えています。

## ブログ時代の情報メディア活用



### 11. 終わりに

#### 1) ユビキタス時代に対応したシニアネットへ

さて、そろそろ時間です。今後、以下のようなことを進めてゆきたいと思います。

- ・皆に、本当に優しいパソコン・インターネット環境を皆の力で作る。
- ・ネット間の連携を更に強化する。
- ・皆が活躍できる舞台をみんなで作って行く。
- ・もっと技術力・応用力に富んだシニアネットを一つでも多く育てる。
- ・もっと劇的に、スピーディに瞬発力・決断力・実行力のあるシニアネットにする。
- ・一方で、もっとゆっくりとしたシニアネットもつくり、堂々自分のペースでやってゆける、優しいシニアライフ支援を行う。

#### 2) シニアネットの体制整備への提案

先ほどお話した、セキュリティ、リテラシイという問題にも出てきましたが、いくつかの提案をしたいと思います。今から作ろうとする人はこれまでのところをベースにして頂くとして、既にこれまでやってこられた方々は、1)に述べたような使命を担い、目標を立て、進めていただきたいと思います。

##### シニアネットの教科書づくり

目標を実現する対策として、シニアネットの教科書を作りたいと考えています。この会に参加するときにはあらかじめ読んでおくと、基調講演などももっとよく分かるでしょう。各老舗のシニアネットの思い入れなどを入れて、シニアネット関連の出版をしたいと思

ます。さらに、年2回フォーラムがあると、年2冊出版ができ、シニアネット全集などができ上がります。

### シニアネットの情報化推進

もう一つはシニアネットの情報化をより進めたいと思っています。

そのために、先ずシニアネットの登録を積極的に行って頂きご近所のシニアネットを紹介し、そして日本中のシニアネットを総ざらいしようではありませんか。

その為には皆様の力が必要です。成長と活動の様子をクローズアップし、いいものは利用し、苦勞しているところは励ますような仕組みを作り上げたいと思います。

### シニアネットの組織化

最後の提案として、シニアネット党（仮）を作りたいと思っています。シニアネット協議会やシニアネット連合会の様なものです。それぞれの思いや、いきさつはあるでしょうし、またネットワークは緩やかに繋がってればいいということもありますが、催しなどを積み重ねて成果を挙げてゆくには、連絡協議会的なもの、シニアネットセンターなどが必要ではないかと思えます。

その前段階に有志の集まりとして、シニアネット党（仮名）をつくりたいと思っています。より良いシニアネットに向けて知を集結し、より強固なシニアネット基盤を築きましょう。さらに社会に認知されて信頼度の高いシニアネット体制を整備していきましょう。

分かり易い形でシニアネットを繋ぎ、紡いでいきましょう。紡ぐというのは一つの糸にし、方向性を持ってゆくということです。時代を担い、政策を揺さぶるパワフルなシニアネットに仕上げていきましょう。

まもなくシニアネット20周年というこの時に、この松山の地で今回のフォーラムが開催されたことは大変記念すべきことであると思ひ、このフォーラムで、次の段階に繋がるような形に持ってゆくということをご提案させて頂きました。

どうもありがとうございました。



基調講演 (要旨)

## ITの未来がシニアの未来を切り開く

～ パソコンとはシニアのもの～

栗田 和夫 氏

株式会社ジャストシステム  
松山研究所 所長



### 1. はじめに

講演のタイトル「ITの未来がシニアの未来を切り開く～パソコンとはシニアのもの～」ということで、お話しをしていきますが、その前に私の製品開発のこだわりについてお話しさせていただきます。

私の父が7年前にパソコンを買ったものの、どうしても使うことができない、ということがありました。この時、「こういう製品を作ってはいけない」「苦勞をせずにパソコンを使えるようにしなくてはいけない」という思いから、ソフトウェアの使いやすさにこだわった製品開発に取組み、現在株式会社ジャストシステム松山研究所で使いやすさを重視したソフトを開発しています。

今日は、シニア・ソフトウェア・使いやすさという視点でお話しさせていただきます。

### 2. ITとシニアの生活

まず、パソコンを取り巻く環境の変化として3点を上げておきます

#### いつでもどこでもパーソナル

- ・無線LAN 現在の無線LANより数十倍の高機能の無線LANの登場
- ・USBメモリー 安価になりつつあり、大容量。さらに将来ハードディスクと取って代わる可能性もあります。

昔のパソコンは、空っぽのパソコンでフロッピーディスク(OSなどが入っていました)を差し込んで起動していました。しかし、現在のパソコンは、ハードディスクの中にOSなどが入っています。今後はUSBメモリーにアプリケーションやOSなどが入っていくでしょう。さらにそのパソコンが、飛行機・電車・ホテルなどに空の状態で供えてあり、USBメモリを差し込めば自分のオリジナルでのパソコン環境がどこでもすぐ再現出来るようになる事でしょう。

#### メディアとしての位置づけが加速する

- ・テレビ付きパソコン・電話・音楽・ビデオ・ニュースなどを配信。
- ・様々な配信のメディアとしての位置づけが加速していく。

#### ソフトウェアの変化

現在：パソコン単体で、文書製作・データ入力・印刷などを行う。

将来：ソフトウェアがインターネットの先にあるデータベースと繋がり、地図サービス・ブログ・ショッピングなどに利用され、ソフトウェアの変化が見られるでしょう。

### 3. ソフトウェアの変化

キーワードは「つながる・楽しむ」具体的に楽しく見ていきましょう。

～ デモでの説明も交えながらご紹介していきます ～

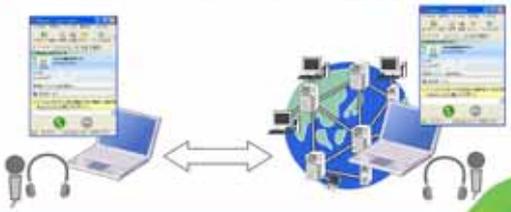
「つながる」  
～人と、地域と、世界と～

- Google Earth, Google Maps
  - ・グーグルアース：世界中の衛星写真
  - ・グーグルマップ：地域のお店情報など
- Skype (スカイプ)
  - ・無料で電話：クリアな音声
- Blog (ブログ)、RSS
  - ・個人が情報発信、新着情報+要約



Skype (スカイプ) で電話

- ソフトウェア (無料)
- ヘッドセット (マイクとイヤホン)



RSSリーダーで要約情報を表示



**つながる** 人とつながる・地域とつながる・世界とつながる

#### ・グーグルアース(グーグル社が提供)

・無料ダウンロード、世界中の詳細な衛星写真を見ることが出来ます。

・操作は簡単で、全世界をこれで見ることが出来ます。

・インドの大統領が不快感を表しました。理由は、軍事施設が丸見えだからです。

・無料で利用できるなので、お勧めです。

#### ・グーグルマップス

地域に根ざした情報を提供するサイトです。

#### ・スカイプ

・世界中と無料で電話できるソフトです。

・世界中の6000万人の人が利用しています。(日本でも200万人が利用)

・パソコンとヘッドセットがあれば、世界中の誰とでも話せます。

・音質がとても綺麗で、その人らしい声が出ます。

・クリアな音質で楽しめます。さらに一般電話との接続も可能です。

(有料)

#### ・ブログ

・数多くの無料サービスがあります。

・日記風のホームページ、htmlの知識は必要ありません。

・気軽にまず始めてみる。嫌になったらやめればいい。

・個人レベルで毎日続けると誰かが見してくれます。

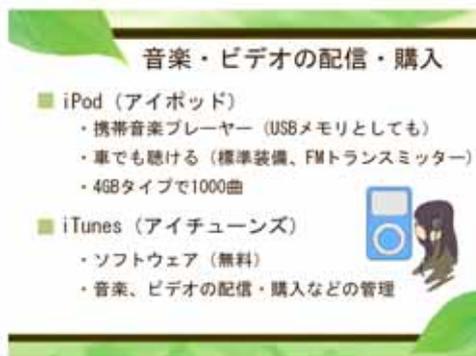
・個人レベルから始めて、やがてコミュニティが出来ます。

## ・楽しむ 音声で文字入力、デジカメなど



- ・ **ボイスエイトック** (自社製品エイトックの中に入っているソフト) 音声で文字の入力ができます。
- ・ パソコンが声というインターフェイスを手にいれた時に人との間にどういふ変化があるかが楽しみです。
- ・ パソコンが指示を得て動く道具から、アシスタントへ変化していくでしょう。
- ・ パソコンの前にいる人が誰かわかる (話者認識)、さりげない情報を伝えることができます。

## ・音楽、ビデオの配信、管理、購入



- ・今年のボーナスで1番買いたいデジタル機器は携帯音楽プレーヤーだそうです。
- ・かなりの人が携帯音楽プレーヤーを欲しいと言われています。
- ・その中でにぎわしているのは、i p o dです。
- ・USBメモリとしても使えます。また車で聞け、非常に可能性を持った製品です。
- ・携帯音楽プレーヤーもすぐれているが、なぜこのように注目されている理由は
- ・iTunes という無料ソフトウェアとの連携が非常にうまくいっています。
- ・iTunes とは  
iTunes MUSIC STORE にて1曲から音楽やビデオを購入して管理し手持ちの音楽CDをハードディスクに取り込めるものです。  
パソコンに取り込んだお気に入りの曲を集めてオリジナルCDを作れます。  
USBを経由してi p o dに転送して聞くことができます。

## ・ライフウィズフォトシネマ (有料ソフト)

- ・デジカメで写真を撮り、音楽をつけて写真を加工できます。
- ・非常に簡単で、映画のように写真を見ることが出来ます。

## 1. ソフトウェアの使いやすさとは

例をあげてみましょう。

例1: 金づち

- ・釘を打つ時にこれは道具を使っているとは意識せず、手の一部になっています。
- ・道具と意識した時には、釘でなくて手を打ってしまうのです。

- ・使いやすさのイメージ：道具だが、道具と意識させないようなものが良い道具です。

#### 例2：カメラのシャッター

- ・カメラを握ると、シャッターがどこにあるか聞かなくても分かります。
- ・なぜかという、握った人差し指の先、下にシャッターがあるからです。
- ・使いやすさのイメージとは、機能がどこにあるのかを、探さなくてもいいものです。

### ソフトウェアの使いやすさの大きな3つの要素

#### ・手順がわかる

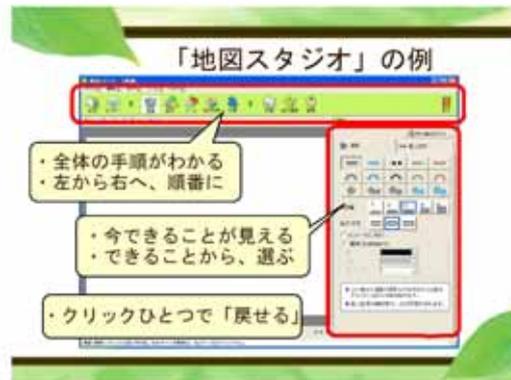
- ・作業の全体がどういう手順でできればいいか、今どの手順にいるかわかる。
- ・手順は示すけど順番は自由に出来る。

#### ・今出来ることがわかる

- ・自動で必要なものを表示し、その中から選ぶだけです。
- ・手順の中で今必要な機能が限定されているはず。
- ・それを表示することが大事です。

#### ・すぐに反映できる、やり直し出来る

- ・やってみてダメなら、ボタンを押せば元に戻せるという安心感が必要です。これがあるとどんどんやっていけるでしょう。



### 今後のソフトウェアのあり方

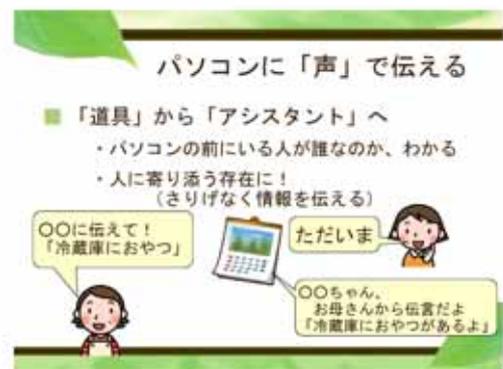
例えば、私どもジャストシステムで開発している「地図スタジオ（地図を作るソフト）」では、全体の手順があり、左から右にボタンを押していけば地図が出来ます。さらに、右側に今の手順と機能を表示しています。また、クリック一つで元に戻すことができるよう設計しています。

今のワープロや表計算では、アイコンがたくさん並んでいて、どれをいつ使えばいいのかわかりにくいものが多いようです。これは「これだけの機能があるぞ」という作る側の論理で設計されているからです。これからは、必要な機能が必要な時に提示されるというように、使う側に都合の良い設計へと変化していくと考えられます。

#### 5. まとめ

使う人の立場で使いやすさは進化していくものです。

使えないのは勉強不足のせいと思いがちですが、実はソフトウェアの進歩がたりないということです。そのソフトウェアを進歩させていくのは使う人の意見に他なりません。「こういう使いにくさがある」「こうするともっと使いやすい」という意見や要望をソフトウェアを作っているところにどんどん伝えていくことがたいせつです。このことがソフトウェアの進化に繋がります。



シニアに使いやすくなればあらゆる人に使いやすくなるのですから、シニアの意見や要望はもっと声を大にして届けて頂きたいと思っています。これはソフトウェアに限らず、PCや携帯などにもいえることです。携帯についていえば、機能がたくさんあり小さなボタンがたくさん並んでいるものが出ていますが、「もっと使いやすいものを」という声を汲み取って、今の使いやすい携帯が出てきた経緯があります。

ただし、どんどん変えて欲しいものや技術の進歩とは別に、変わってはいけないものがあります。

それは人と人との暖かなつながりや、ふれあいです。豊かなシニアライフを送る為には、パソコンを道具として使いこなし、さらに人と人とのつながりを大切にする、そういうバランス感覚は不可欠なものです。このように開発した製品が生活の道具として位置付けられ、生活に役立つことは開発者としても嬉しいことです。

最後に、私の好きな言葉を紹介합니다。パーソナルコンピュータという言葉は初めて使ったアラン・ケイというコンピュータ科学者の言葉です。

「未来を予言する最良の方法は未来を作り出すことだ」これを、私なりに解釈をすると、「未来を予言することは出来る。予言した未来を自分で作ってしまえばいいんだ。」ということ。

シニアの皆様が生きがいややりがいを感じて地域社会に参加し、そして社会が活性化される、そういう豊かな社会がやってくると予言してください。

そして、シニアネットの活動を通じて、その予言を現実のものにして頂きたいと思ひます。皆様の声や行動が未来を作り出していくのですから。



特別講演(要旨)

## 「街づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」

### 講演1

俊野 健治 氏

愛媛県企画情報部管理局情報政策課 課長



#### はじめに

今日の話は「地域振興におけるシニアネットへの期待」というタイトルです。サブタイトルは「地域ITリーダー養成事業を実施して」です。今日、ニューメディア開発協会様が松山市でこのようなフォーラムを開催するのは、私たちが県の事業としてITリーダー養成事業というものをやらせて頂いたことが一つのきっかけではないかと考え感謝しています。

#### ITリーダー養成事業をやることになった背景

まず一つ目は、平成12年から平成14年にかけて、国の政策として国費を導入し、無料でIT講習を受講するというIT講習事業が行われたことです。愛媛県でも国の政策に従い、3年間このような講習事業を行いました。その結果、8万人の県民の方が受講されました。

二つ目は、NPOとの関係です。従来NPO法で認められていなかった情報化の分野について法律の改正があり、高度情報化を主目的としたNPO法人も認められるようになりました。NPOをいかに支援していくか、NPOといかに県や行政がタイアップしているような事業を進めていくかという中で、協働指針を策定しました。

三つ目は、県の高度情報化を進めるにあたり、やみくもにやっていたはいけないということで、高度情報化計画を策定したことです。15年度は第二次高度情報化計画策定の段階にありました。その計画の中に、いかに人材育成、リテラシーの問題を取り込むかが大切なポイントになりました。

#### IT講習について

3年間でIT講習の講座を実施しました。県が直接行った部分と市町村に委託して行った事業があります。講習では、約8万人の定員を確保致しました。県の実施については、ほとんど民間会社への委託で行いましたが、一部分はNPO法人に委託しました。

#### IT講習受講生の状況

講習を始めた平成12年にサンプル調査を行いました。IT講習を受講された方は30代40代の方が圧倒的多数でした。ちょうどITということが進みだした頃で、仕事にも使わないといけないという切羽詰った状況もあったのでしょうか。

また高齢者の参加意欲は大変高いものでした。男女比では、男性1に対し女性2の割合です。また昼間の講習が多く、主婦のニーズは非常に高いものでした。中には高齢者で、1・2回ではなく、2・3回と、再々講習を希望する方がいらっしゃいました。一週間で3・4回の講習を受けても、自宅に帰ると少しボタンの位置が違うだけで動かし方が分か

らなくなり、操作がストップする方が多くいらっしゃったようでした。受講した方をどうフォローしていくのかということが今後の課題となりました。

さらに、インターネットをどのくらい利用しているかを、総務省の資料を抽出したもので見てみると、平成13年末、この年はIT講習を始めて一年目でしたが、この年に中年までのレベルが上がってきたものの、50代60代の方は利用していらっしゃらないようでした。それが、平成16年末になると急激に50代60代の利用が増えてきました。それでも、まだまだ60歳以上の方の多くは利用していないという状況でした。

### **高度情報化計画とITリーダー養成の必要性**

第2次高度情報化計画は、平成15年に作った3年間の計画です。情報リテラシー関係では、情報通信技術を活かせる人づくりの推進を掲げております。さらに、地域ぐるみでの情報化を推進し、その中で地域ITリーダーを養成していくことが急がれています。その為、これまでのIT講習の結果をふまえ、このようなリーダーの養成の必要性を重視しています。

### **NPOとの協働指針とNPOによる提案**

指針は15年2月に出されましたが、9月に、指針を活用してNPOと協働し、県とNPOが役割分担しながらやれることはないかと考え、NPOから企画提案を頂きました。提案を頂いた主な目的は、いかに地域の住民の情報リテラシーを向上させるかというものでした。それには、愛媛県としてITリーダーの資格を創設したらどうかと考えました。もう一つは、今日のニューメディア開発協会さんが行っていらっしゃるような、シニア生活情報アドバイザー制度を活用し、リーダーを養成することを計画しました。さらに、これらの提案をいかに具体化していくか検討していききました。

県独自の資格をつくろうという話について検討しましたが、資格を認定するためのテキストや講習内容を県独自で定めるのは非常に難しいものでした。県で行うと、条例や要綱など規則を定めて認定制度を作る必要があります。これらを短期間で作りあげ、すぐ実現できるようなものができるか、社会的な認知度がどうなのか、と考えると愛媛県だけの資格というのはあまり意味を成さないと考えました。

シニア情報生活アドバイザーは、ニューメディア開発協会が全国レベルで運営しているものです。財団法人としての公的な性格の団体ですから、社会的な信用度も見込まれます。全国的な取り組みもあり、人と人とのつながりが地域だけでなく全国レベルで持てます。資格をとるための経費負担もかなり安価ですのでリーダーの負担になりません。それらを考え、シニア情報生活アドバイザーを活用することと致しました。

### **ITリーダー養成講座事業の概要**

県としては、今後県民の情報リテラシーをいかに向上させていくかが政策の課題です。また、NPOといかに協働し、そして高齢者対策をいかに進めていくかもこれからの課題です。

行政の課題はいくつかありますが、解決する上で予算がたくさんあれば、他の考え方もありますが、財政状況が非常に厳しいのが現状です。普通の予算はマイナス20%のシーリング(限度)で予算を組みなさいという状況であり、新規の事業はなかなか出しにくいものでした。

その中で、知事が愛媛スタンダード枠というものをトータル10億円の予算の中で認めようと、特別枠を作りました。このような制度に従い予算化を要求し、一応その要求は認められましたが、スタンダード枠ということで、平成16年度から平成18年度までの3年間限定での予算でした。その3年間の中でどのような枠組みをつくるかが重要でしたので、

養成人数は毎年60人、3年間で180人を想定しました。

6つぐらいのNPO法人が各10名を養成し、年間60人を3年間養成することとしました。団体は養成機関として登録されたNPO法人です。これには資格があるようですが、そう難しくはありません。内容は養成講座を受講し、資格を取得してもらうことが基本原則です。NPOに対する補助金は、養成したITリーダー1人につき3万円、60人で180万円を計上しました。さらに3年間で580万円となりますが、厳しい財政状況の中で認められました

このようにスタンダード枠で認められましたが、3年間は何でも無条件で認めるというわけではありません。最初に事業を行うときに、数値目標を決める必要があります。効果を判断しながら行い、効果が達成できないようならすぐ予算は終了させる、という厳しい事業でした。

今回の事業の数値目標をどう設定するかを検討し、ITリーダー・シニア情報生活アドバイザーの養成数は毎年60人を予算で要求しましたが、養成数が政策の目標ではありません。いかに養成した方が県民に対し情報リテラシーの教育をしてもらえるかということが本来の事業化の目的ですので、何回講習して何人の人にノウハウや、リテラシーの向上を図れたかを政策の目標にしました。そういった状況で4320人を養成するという目標を立て、予算として認められました。

### **活動地域**

活動地域を愛媛県の地図に起こしました。市町村単位ではかなりの広がりです。しかし、NPO法人がないとか、活動の場がないとかいうところも地域エリアではまだまだあります。また、同じ一つの市の中でもやれていない地域もたくさんありますが、とりあえずの面での広がりはある程度確保できてきたと思っています。

### **成果**

講習を受けてそのまま使える人はいいのですが、講習後にトラブルが起きたときにどうフォローアップしていくかは重要な問題です。さらに、受講者の中から、逆に新たなリーダーを養成していくことも大切だと考えました。その中でリーダーの輪がどんどん増えていき、地域の中で活動できる輪が広がっていくことを想定してきました。

これまでの成果としては、平成16年度に69人、平成17年度には60人を養成しています。初年度は、講習としてはリーダー養成だけを考えていますが、すでに平成16年度から養成したリーダーにIT講習を始めて頂いています。平成17年度も同じぐらいの計画で、当初予定していた数よりもはるかに多いものとなりました。このように、それぞれのNPO法人が非常に頑張っているという理解し、また感謝しています。

次に、協働という面での成果について考えていきたいと思います。単にIT講習だけでなく、それぞれのNPO法人が自分の法人の目的を持って行い、様々な活動の場でITを使っていらっしゃるようです。インターネットによる俳句という観点から普及していらっしゃる場所、また商店街の活性化という面で商店街と連携し空き店舗で行っているところもあります。他に、農家のリテラシーを向上するため、主婦を対象に行っているところ、さらに学校で行っているところなど、様々な場でそれぞれのやり方で行っているようです。NPOとの協働ということでは、NPOの自主性、独自性を重視しています。今までのように県が行っているのは、できないような広がりを地域の中で見せているのではないかと期待しております。

## 今後の展望、課題

今まで養成したリーダーや養成元のNPOとの連携を深め、さらにエリアを広げていくことが大切だと考えております。

県の予算は3年間ですが、いかに継続して行くかも重要な問題です。それぞれのNPOに目標がありますので、県からの補助金がなくなっても引き続き、地域に根付いたリテラシーの向上を目指して頂きたいと考えております。再講習や新しいリーダーの講習に、継続して結び付けて頂きたいと思っております。そのためには、リーダーを活用する場を、ある程度行政側が提供していくことが必要であるとも考えております。

## まとめ

今年で第二次の高度情報計画が終わりますので、現在、『高度情報化計画2010』という2010年を目標とした計画を策定中です。先日も策定委員会を開きました。その中でも、引き続きリテラシーの問題やアクセシビリティの問題などが検討されました。これらを『高度情報化計画2010』にどう取り込むかが、これからの策定の課題です。近々、委員の意見を集約してパブリックコメント等を実施する予定でおります。

またホームページの充実に積極的に取り組んだり、申請や予約などの住民サービスをインターネットを通じてできるような仕組みづくりも併せて行っています。しかし、肝心の住民の方々が、それを使えるようなスキルを持たなければ、宝の持ち腐れになりますし、情報サービスをインターネットを通じて行うことが、大きなこれからの流れだと思います。それを補うために住民の情報リテラシーを上げることが大きな課題であり、さらに情報のモラルという面や情報セキュリティの面も大切な問題です。これらの問題に対し、養成したリーダーが、住民が安心してネットワークを使えるようにおたすけマン的な役割を担ってほしいと考えております。

また、愛媛県全体で見ると、インターネット・ブロードバンド環境でない市町村が多く残っています。このような問題をどう解消していくかもまた大きな課題です。

今後、これらの問題を含めた新しい計画を策定したいと考えておりますが、県だけで行うのではなく、住民の協力を得ながら計画を作り、それに基づいて進んでまいりますので、皆様からのたくさんのご意見を頂きたいと思っております。



特別講演(要旨)

## 「街づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」

### 講演2

竹村 奉文 氏

松山市産業経済部地域経済課 課長



#### はじめに

松山市長は『ITを活用した産業興し』を大きなテーマにしています。それに伴い、我々がこれからシニアのみなさんと共に今後どう進めたいかをお話したいと思います。

#### 団塊の世代のシニア世代入りと社会の変化

最近テレビや新聞報道で言われる2007年問題。この2007年問題で大きいのは、団塊の世代の人たちが定年しシニアの仲間入りをすることです。団塊の世代の方がシニアの仲間入りをすることで世の中が相当変わるのではないかと、経済的にもいろいろな意味で変わるのではないかと、と言われています。この世代の方々は、高度成長期を引っ張ってこられ、技術力を担った、ひょっとしたら最後の世代になるやもしれません。この方たちがリタイアしてしまうと、日本経済は大変な状態になります。

日本の今の経済力を維持するために労働力を確保しようとすると、10年後には300万人もの労働力が不足するだろうと言われています。この300万人をどう補充するかということに対し、3分の1をシニアの方にもう一度社会で働いて頂き、3分の1を家庭婦人の力を借り、残りの3分の1を若い人が定職につくことにより確保するという流れがあります。そういう意味で、シニアの労働力を大事にする必要があると思っています。力と言っても、筋力は衰えているので、シニアの知恵を十分活かそうという動きになっています。この世代は非常に勤勉世代です。その為様々な分野で今後シニア世代の労働力に対する評価が高まってくると予想されます。

#### 地方分権

国も地方も財布の中身は空の状態です。まず、国の財布が空になりました。毎年50兆円の赤字が積み重なり、減らない状態です。これを、どうするかという流れの中で地方分権が登場してきました。イメージとして分かりやすいのは江戸時代の自治制度です。様々な藩があり、殿様がいて、藩の中である程度制度をつくり自由にやるという社会です。その時代とよく似た制度に戻ろうとしています。現実的でないと思われるでしょうが、みなさんの気づかないうちに進んでいるのです。10年前に地方分権推進法ができました。その5年後に市町村合併のためのガイドラインができ、その5年後、今年の平成の大合併に至りました。この流れは後戻りできません。

## シニアの知恵とITの活用

地方分権でいい面は、愛媛らしいまちづくりができるという点です。その中で一番意識すべきは、みなさんの声をしっかり反映することです。市役所もお金がないため、人の力を借りる必要があります。人の力とは市民の皆さんの力です。市長はそれを市民力と表現しており、市民力を借りてのみなさんが求めるまちづくりを行っております。その中で、シニアの方に知恵を出して頂きまた、関わって頂きたいと考えております。なぜなら、戦後の苦しい時代を担ったノウハウはこれから日本がしっかりととらえておくべきノウハウであるからです。

知恵を残す方法について。実際の例があります

松山市内の元校長がホームページを作っています。名前を『知恵の輪』といいます。これは、シニアの方の知恵をとにかく集めようという試みで作ったものです。載せるものは旅行に行ったときの写真など、とにかく何でもよいのです。ひとりの情報でなく、何万人の情報になると百科事典のようなものになります。これを、学校の先生たちが自由に子どもたちの教材に使えるようにしています。自分たちの生きた証やノウハウを後輩のためにこういう形で残しているのです。パソコンは道具であり、これにかき回されず有効に使っているという、とても良い例です。

もう一つの例をご紹介します。社会福祉法人プロンプステーションという団体があり、その代表に竹中ナミさんというパワフルな女性代表がおられます。ご自身も重度の障害者を持っているお母さんです。彼女は障害者を納税者にしようとさまざまな取組をされておられます。最初はひとりから活動をスタートしましたが、今では厚生労働省・国土交通省など国を動かすまでになっています。そして、フェリシモという通信販売企業があります。竹中ナミさんは障害者が創る商品をカタログ販売してくれとこのフェリシモに直談判するのです。そして、同社の矢崎社長がこれを受け入れビジネスモデルに仕立て上げるわけです。そして、松山青年会議所福祉委員会が竹中ナミさんと出会うわけです。彼女は松山の障害者にもチャンスくれたのです。そこが竹中さんのすごいところです。現在、紹介いただいたフェリシモ社と愛媛でも同様のことができないか話が進んでいます。しかし、その道のりは決して楽なものではなく、商品を創り上げるということは幼稚なものではだめです。売れるものにするため、人々のノウハウを借りて、実績を積む必要があります。

こういう仕組みを愛媛につくるためには、まず商品を開発すべきだと考えます。そこで『匠の会』を作ろうと思います。先生はシニアの方。シニアのもつノウハウは商品を作るための大きな力になります。例えば手芸や盆栽などがあげられます。そのやり取りをITのネットワーク使って情報交換しながら、自分の予定と合わせていつ教えられるか調節できます。

そして、売り方を考える必要がありますので、シニアの方が企業で培ったノウハウを借りたいと思います。また、施設に来られなくても、みなさんが情報を共有できるメーリングリストなどがあれば手軽に交流できます。

## シニアの第二の人生

名古屋にマンションを建てるビジネスモデルを確立した人の例をご紹介します。

60歳で創業。15、6年で名古屋一のマンション世帯数を持つ会社にしました。この社長はまた違う事業を始めています。それはマンションと福祉施設をセットにしたものです。自分と同じ世代の人へのサービスですから、自分の嗜好を優先的にサービスとして置

き換えて展開をしていらっしゃいます。

このようにシニアの方が第二の人生で仕事につくときには、やりがいや生きがいを持ちながら自身を再構築し、地域のためになる、ということを考えて頂きたいと思います。そして、今持っているノウハウを次の世代に継承して、その中でITのネットワークを十分に使いながら、地域のために役立てて頂きたいと思います。

私は松山市役所の8階の地域経済課にいますので電話でもメールでも、もちろん直接来頂いてもいいので、こんなことがやりたいということがあれば是非ご相談ください。それが地域のためになり、地域経済の活性化にも繋がります。是非、頑張ってくださいと思います。

## 質 問

Q . 東京の三鷹からきた堀池です。

私の会でも自腹で185人のシニア情報生活アドバイザーを作りました。松山『匠の会』すごいと思います。しかし、実際に『匠の会』で盆栽が好きな人集まっても経済活動にならないのではないのでしょうか。実際に、教室を運営する方法、また生徒の集め方を、どういう教え方をしたら生徒が喜ぶかなどの、ビジネスモデルを作れないでいます。大企業にいたシニアは、技術屋でありながら経営者ではありません。ひとりでビジネスができないという欠陥を持っています。今日の話の中の事例と現実のギャップがあるのではないのでしょうか。そのギャップに近づくための途中をやるのが竹村さんだと思います。

ビジネスモデルをつくる『匠の会』の中で、その人をつくるためのヒントやアイディアなど考えていることがあれば教えていただきたいと思います。

## 竹村氏

趣味でやっている盆栽など、シニアの方は自分の作ったものが日本一だと思いがちです。しかし認められなければ誰も買いません。シニアの方の唯一の欠点は頑固さだと思います。ニーズをはきちがえないようにしながら、気持ちのゆとりを持ち、みんなに売れるか聞く必要があります。

売れるためにはデザイナーなどプロをひとりに入れる必要があるでしょう。まず、価値の高いものをつくるためには、ひとりではなく、たくさんの方が寄って経営戦略会議を開く必要があります。会議の中で必要な能力を持った人が必ずいますので、その人たちを集めることが大切です。そろばんのできる人。話しのうまい人。自分は仕事をせず、えらそうに物を言ういわゆるリーダーなどです。他に、仕事はしないがいつもここにこ笑っている人。様々なこの人たちを上手に繋ぎ合わせる。なぜこれがビジネスモデルにならないかと考えるとき、ここに行政が必要だと思われれます。

行政ができることは接着剤になること、さらにきっかけをつくることだと思います。そういう意味では、行政を大いにご活用ください。

パネルディスカッション(要旨)

## 充実したシニアライフと社会参加 ～シニアネットって何？～

コーディネーター  
吉田 敦也 氏  
徳島大学 大学開放実践センター教授  
NPOいきいきネットとくしま 理事長

パネリスト(50音順)

塩見 信雄 氏	NPO法人シニアネットひろしま 理事長
砂川 政男 氏	NPO法人沖縄ハイサイネット 会長
中川 幹朗 氏	NPO法人おおさかシニアネット チーフディレクター
堀池 喜一郎 氏	NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 顧問



### 1.はじめに

(コーディネーター・吉田氏)

四国には、これから多くのシニアネットの誕生が考えられ、もうすでに大活躍されている方もおられます。その活動において、さまざまな疑問やこんな事例を知りたい、ということがあると思います。今日のパネリストの方々は、日本のシニアネットにおける代表的な方々ですので、そういった疑問・質問などお答えいただけるでしょうし、また他にもたくさんのお話聞けるとおもいます。進行は、パネリスト自身のシニアネットの自己紹介、シニアネットの楽しさ、そして質疑応答を交ながら今後の課題などを語っていただくことにします。

### 2.シニアネットの設立のきっかけ・特色など

(コーディネーター・吉田氏)

まずはパネリストの方々に、自身のシニアネットの自己紹介をして頂きます。組織の立ち上げから現在の活動や特色などをそれぞれの立場でお伺いします。また、どんな活動に一番力を入れているか、一言でお答え頂けますか。

#### 沖縄ハイサイネットの場合(パネリスト・砂川氏)

『沖縄ハイサイネット』は2000年7月に結成し、今年で6年目に入りました。道具の一つに過ぎないパソコンを、さまざまな楽しいことをするための手段として使い充実した人生を送る、というのが我々の狙いです。

「ハイサイ」というのは沖縄の方言で、親しい人・目上の人に挨拶をする言葉です。『沖縄ハイサイネット』の合言葉は、「常に楽しく」で、難しいことや面倒なことは考えず、常に笑顔で活動しています。会員同士のコミュニケーションも重視し、会員は多くなりすぎないようにしています。

さらに『沖縄ハイサイネット』の特徴は、まずは講習事業です。パソコン講習会は現在

16クラスあり、年間1000人程度受講されています。もう一つは交流事業です。人間が最高の情報源であるという考えのもと、パソコン上でのメールやインターネットでの情報交換だけでなく、実際にそこに会いに行き交流を深めています。実際の交流では、沖縄ならではの歌や踊りも披露し、楽しく交流しています

ひと言で言うと、活動の主体は交流会です。

### **シニアネットひろしまの場合（パネリスト・塩見氏）**

シニアネット結成のきっかけは、9年前に参加した広島県主催のパソコンボランティア講座です。その頃は障害者支援がメインであり、高齢者のことは話題も少なかったのです。今後は高齢化に向かって行くから高齢者へのパソコン指導が必要ではないかと県へ質問された女性がおられました。その方はYMCAの訪問看護ステーション事務局長の女性でした。会合のあと、その方と意見交換し意見一致して意気投合し、お互いの友人数名と共に任意団体を立ち上げようとなったのです。その団体にシニアの方々や現役の方々が加わり20人近くになり、シニアネットの形が出来上がりました。

団体名は、有名な「USAシニアネット」から「シニアネット」をいただき、それに平仮名で「ひろしま」と付け合わせて『シニアネットひろしま』としました。それから2年後にNPO法が成立し、きちんとした法人になって責任と誇りを持って活動しようとの考えから、2000年3月にNPO認証を受け現在の形となりました。現在、会員227人・うちアドバイザー117人であり、昨年の2005年4月に満5周年を迎え、シニアの健康をテーマにセミナーを開催しました。

『シニアネットひろしま』では、まず、高齢者対策基本法が提唱する高齢者の尊厳を基本理念として持ち、人生の知恵者・経験者である我々は社会の役に立つために何を成すべきかについて、目的・目標・実行計画を確定しました。使命感・義務感を持って社会の役に立とう。高齢者の三大不安である健康・生活設計・生きがいに対して、これらに関する不安要素の解消に努めること。IT社会の現実の中で、この列車に乗り遅れないようにパソコンスキルを習得しよう。生活に必要な情報を収集して明るく元気に暮らそうと、3つの目標を掲げて活動しています。

ひと言で言うと、シニアパソコン教室と各種セミナーの開催です。

### **おおさかシニアネットの場合（パネリスト・中川氏）**

きっかけは、オリンピック応援団としての仕事の関係と介護保険の勉強のためにアメリカに派遣された議員団が、現地で見たまざまな形態のシニアネットの資料を持ち帰り、私にシニアネットを勉強するように依頼したことです。数ヶ月の勉強の後、アメリカの団体に、何らかの形で加盟しようという話が持ち上がりました。

「大阪」と名前のつくシニアネットが、私が申請した段階で既に2つあり、それらと名前が重複しないように、『おおさかシニアネット』という名前をつけました。大阪という都市が大きいだけにNPOも多いため、行政の支援を受けにくい状態でしたが、議員の方々に協力していただきました。ただ、NPOは政治色をあまり強く出せないという関係上、議員は後方支援のみで、理事長は元女子バレー監督の小島孝治氏にお願いしました。

後はこれからのシニアネットに必要な人材を各専門分野から集め、様々な方の支援を受け

てスタートしました。最初は大阪という風土の為、名前は貸すがお金は出さないという事で話がまとまりませんでした。議員の退職を機に平成15年4月NPO法人としての登記を行いました。

『おおさかシニアネット』では、3年間で3000人もの会員が集まっています。これは予想より早いスピードですが、構想としては5000人に達した時点でメンバーを固定する予定です。お金に関しては、入会金1000円年会費2000円となっています。

お金を預かる以上、様々なサービスを提供しようと考えましたが、設立当初はノウハウが少なく、とりあえずパソコン教室を開催しました。パソコン教室では約2000人が受講され、長い方では3ヶ月程度習いにいられています。講習を受講された方には、メールアドレスを記載した会員カードを渡し、そのメールアドレスを利用したメーリングリストを使用することで、情報を全ての会員に送るシステム作りをしました。また、市販のテキストではシニアにとって難しいので、今年からは教材も作成しています。このように、3年目にしてやっと動き出した感があります。

ひと言で言うと、生きがい情報ネットワークを配信することです。

### シニアSOHO普及サロンの場合(パネリスト・堀池氏)

私の団体は設立6年目で、略して『シニアSOHO』と言われています。1999年6月に70人で始めました。当時は、まだ「NPO」や「コミュニティビジネス」という言葉は普及していませんでした。

設立当初より、みなさんが好きなことをすると世の中が元気になるのではないかと、そのための情報交換の横丁を作ったというのが始まりです。ですから、ITをする会という意味の言葉も入っていません。このところ、人件費収入はコンスタントに5000万程度、有償で100人程度の方が一緒に仕事をしています。顧客は、三鷹市、杉並区、経済産業省などの行政関係が3分の1くらい。次に三鷹市が株の98%を持ち、社長は市の助役がしている株式会社「街づくり三鷹」という所の仕事が3分の2くらい。残りは市民の方やIBM、中央労働金庫などの企業との仕事をしています。多くて5人から60人が関わる大きな仕事がこの6年間で42件、総額人件収入が2億4500万円程度になりました。会員の構成は三鷹市民が約40%程度、それ以外は他の市町村からの参加者です。女性比率は当初の10%程度から、30%まで増えました。

『シニアSOHO普及サロン』では、LINUXコミュニティを参考に「ワーキンググループ」を会員が作って、メーリングリストを用いて活動しています。そこでは、会員個人が担当している仕事の情報・金銭の状況・議事録などを全て公開しています。現在そのワーキンググループは30程度あり、シニアの個性に合わせた様々なグループがあり、それぞれが非常に面白いものになっています。

メーリングリストをきっちり構築することで、情報を共有できるというメリットがあります。また、メーリングリストが活発になればなるほど会って話がしたくなり、実際に会う機会も増えています。その交流会ではシニアの方が生きがいや自己実現について、熱く議論を交わしています。

一言で言うと、IT講習会と訪問サポートの仕事を中心に、様々なところからお金を頂き、お仕事をしている会です。

### 3. シニアネットの面白さや副産物

(コーディネーター・吉田氏)

それぞれの方がそれぞれの立場で活動されていますが、その活動の中で出てくる面白さや副産物、具体的な事例などがあれば教えてください。

#### 沖縄ハイサイネットの場合(パネリスト・砂川氏)

私の団体では、最近デジカメが大変人気です。今日も会場の後方にいる、私共の団体の事務局長はデジカメ教室担当で、デジカメで撮影し加工さらに出来上がったものを人に送るという作業をしています。その画像を送った人から、感謝の気持ちを表した手紙・メール・電話などがどんどん届き、このことに大変喜びを感じています。こちらが情報発信をすればどんどん返ってくる、答えてくれる、そのことに喜びを見出しています。またそれは新しい動きではないかと思えます。

また交流会では、自分ひとりではなかなかできないが、友達を作ったりすることで国内外を問わず視野が広くなり、目標を持ち勉強することがますます楽しくなり、「これは辞められない」、ずっと続けよう」という人がたくさん出てきています。

また私共の団体は、シニアがシニアを教えるということに徹しています。パソコン教室には講師・サポーター・サブサポーターがおり、全てがシニア情報生活アドバイザー資格を取得しています。

会員がシニア情報生活アドバイザー資格に合格すると、まずサブサポーターとなります。更に現場を踏んでいただく事により、サポーターから講師へと変わっていきます。それぞれの能力に応じて、一人ひとりを大事にして育てています。教室は1クラス20名に対し、講師1人、サポーター5人、サブサポーターが5~7人付きますので、結局は受講者一人ひとりにサポートがつく形になります。

またお金の件に関しては、教室1回につき300円しか出ません。回数が多い為、交通費300円、講師やサポーターの方もそれぞれのレベルに応じて、最大3000円を払っていいです。

#### シニアネットひろしまの場合(パネリスト・塩見氏)

『シニアネットひろしま』では、3つのポイントがあります。

まず、一つ目はニューメディア開発協会に属していないシニアネットに協会に属してもらおうという動きです。それにより、4つの団体が登録されました。それらと相互交流をすることで、中国地方の5県ががっちりスクラムを組めたのは非常に良かったと思えます。

二つ目は、『親孝行物語』というもので、パソコンをやらない歳をとった両親のために、子供が血压や体重などをエクセルでグラフ化することにより、両親も医者も非常に喜んだということがあります。これが宝となり、医者にとっても自分の病院もITを取り入れるきっかけとなりました。

三つ目は、少し自己PRになりますが、私共の団体はアドバイザーが月に一度集まり、時事勉強会を行っています。今どういうものが我々シニアに対してニーズとしてあるのか、何を我々は学んでおかないといけないのか、という事を勉強しています。パソコン以外の社会事情も勉強して、シニアの常識をつけて行こう、世の中について行けるだけの常識を身につけようということを行っています。

### **おおさかシニアネットの場合（パネリスト・中川氏）**

『おおさかシニアネット』では、インターネットを活用して、生きがい情報を作っていきたいと考えています。我々の夢は、「シニアの情報は『おおさかシニアネット』を見れば全部ある」と言われるようになること、全ての情報を網羅したいということです。

私の団体では大阪厚生年金病院などから、病気に関する色々な情報を得ていますが、大阪厚生年金病院の問題があったとき、情報提供を止めるという話になりました。その際、それに反対の署名運動を行いました。私の団体では社会的な活動はあまり行っていませんが、パソコンを勉強しに来ている方々から声上がり、我々のシニアネットで出来ることは何かと考えて実現したのが署名運動でした。私の団体の会員は3000人近くしかいませんが、なんと10000名余りもの署名が集まりました。これもネットの力だと思います。

お金に代え難い非常に良い運動でしたが、この動きは他にも波及しています。生きがい情報ネットワークも、このような形で使っていければと思っています。また、コミュニティ作りのためにパソコン教室に来た人たちが、クラブ活動を行っています。私の団体では教室とクラブ活動をきっちり線引きをして分けております。パソコンで遊びをするのはあくまでもクラブ活動で行い、パソコンを学びたいという時は先生を呼んで勉強しています。編物や習字など、そういったものも全部含めてクラブ活動です。

またメーリングリストを利用して、月に一度クラブ活動などの予定を流しており、会員の方々はそれを喜んで利用しています。

次に、先ほどの話にありましたが、私の団体でもお年寄りがお年寄りをサポートしています。パソコン教室では、近頃は15人に2人程度ついていただくようにしています。講師は50歳くらいの女性の方ですが、85歳の方なら50歳くらいの先生でもお若い。それが楽しみで来られる方も多いようです。

また、ボランティアの方には、1回来て頂いたら1000円交通費代を渡しています。但し大阪市の場合は、70歳を越えると交通費が無料になるので、お弁当代くらいにはなっています。1000円もあれば豪華なお弁当が食べられると、ボランティアの方は大喜びです。これは主催者側からすると少し意外なことでした。

最後に、私の団体には脳障害をお持ちの方や身障者の方もいらっしゃいますが、そういう方が病院へ行くと、最近かなり機能回復していると言われるそうです。時々、会の運営を本当に投げ出したくなることもあります。こういう話を聞くとやはり続けて行かなくてはと思っています。

### **シニアSOHO普及サロンの場合（パネリスト・堀池氏）**

私の団体ではSOHOという名前が付いており、娯楽に関しては一切行わないと決めています。中には確信犯的にビジネスはやらないという人たちもいます。しかし、これもビジネスになり得ます。

例えばお墓とお寺の研究会というのがあり、江戸文化の研究をしていましたが、それが港区の観光協会のお仕事になって良いのではないかと思います。また、東京天文台のOBが中心となり、天文台の芝生でバーベキューをして桜を見る会、という遊びのグループを作っています。先般東京天文台が、独立法人へと変わった際、その遊びのグループに施設の運営管理の検討打診があったりします。遊びでもきっちりしたものをやっておけば、そ

れがビジネスにつながるという例だと思います。

様々な地域には様々な人、もしくはシニアがいますが、人の繋がりを作るということは、あらゆるビジネスのチャンスを作り出せる、これが面白いことだと思います。

#### 4. 情報収集の手法

(コーディネーター・吉田氏)

『沖縄ハイサイネット』は交流会事業に徹するというので、そこでのエピソードや物語を共有することにより、視野の転換や認識の変化、情緒の共有、共有体験での人間作りといった辺りがポイントです。

『シニアネットひろしま』は、堀池氏の話とリンクしますが、中国地域で登録されている団体が少ない状況の中で、呼びかけることによって手をつないだということでしょう。

『シニアSOHO普及サロン』はゾーンが大きく、会員の三鷹市の住人は40%、他は近隣地域の人で、そうした会員構成がさまざまなビジネスチャンスを構築する要因になったということです。また、絶対ビジネスをやらないグループがあるということ自体が傍目から見て非常に面白く、そういう多様性もきっちり確保しているのは興味深いと感じました。趣味とか遊びでやっていたことが色々な場を広げたことも、本気でやることと面白がってやることの両面がうまく相乗した結果だと思います。

『おおさかシニアネット』は情報発信に徹していくという所がポイントであり、それが面白さに繋がっていています。どのようにすれば情報を集めることができるのか、先ほどの病院関係との専門的な領域での連携なのか、もっと広範囲の手法をもっているのかということをお聞きしたいと思います。

#### 情報収集の手法(パネリスト・中川氏)

行政のお話がありましたが、大阪市の場合は市長が区長を任命し、東京の場合は区長は選挙で選ばれることが違います。大阪では1つのNPOが地域行政の中に入っていくことは、区長がOKを出さない限り非常に難しい事です。しかし東京で活動しているNPOは、その区と繋がりががあります。だから、『おおさかシニアネット』は行政は当てにできないがきっちりと活動していくことを心がけていっしやる。先ほどの病院の先生など、トップクラスの方をきっちりと捕まえてお話をし、了解していただいたらその人たちが情報を集めるために動いてくれることがわかりましたので、本当に理解者を求めたということでしょう。

(コーディネーター・吉田氏)

NPOコミュニケーションとして、独自の情報収集チャンネルを作ったということがわかりました。これはなかなか力のいることで、社会貢献をすれば社会的反応が良く、医療関係者や当事者からレスポンスがあったということでしょう。

色々すばらしいことが聞けて有意義でした。

## 5. 質疑応答と今後のシニアネットの課題・まとめ

質問事項（コーディネーター・吉田氏）

さまざまな立場の方がおられるが、シニアネットの活動をこれから起こすときにどのようにすれば良いか、もうすでに行動が始まっている場合の悩みや困っていることなど、フロアの方にお聞きした後で、今後の課題などを教えて頂けますか。

質問1（京都府の男性）

メーリングリストの話以外にホームページやブログの話が出ていないようですが、実際にその辺の活用があるのでしょうか。またそれについてお考えはあるのでしょうか。

質問に対する回答（パネリスト・堀池氏）

ホームページはあるがブログはありません。ホームページは、最初は専門的な人が管理していましたが、ホームページを勉強したばかりの主婦グループを専門的な会員が束ねて運営しています。ここではすばやい更新と豊富な情報量を目指しています。会員が読んで楽しく役立ち、会のお客さん作りの双方のために、ホームページは活用されなければならないと思います。ホームページは、会員向けとお客さん向けの部分を作って分けて運用しています。

質問に対する回答（パネリスト・中川氏）

ブログの方は会員向けでシステムを作ろうとしています。ブログはシニアにとってはハードルが高いと思うので、ワンクリックナビゲーションというスタイルで様々な設定を行い、ひとつのブログが出来上がるというシステム作りがほぼ完成しました。採用して下さるところがあれば、シニアネット限定で公開していてもいいと考えています。

質問2（熊本県の男性）

パソコンの講習会の方法に関して、レベルの違う複数の方に教えることは大変効率が悪く思っていますが、そのときにYahoo!メッセンジャーや、SKYPEとかMSNメッセンジャーなどの活用事例はあるのでしょうか。

質問に対する回答（パネリスト・砂川氏）

私共は受講される方を尊重しないといけないので、最初にレベルをお聞きします。でも少しついていけそうにない方もとりあえずそのままにしておきます。

また、講習のレベルを、基礎・応用・活用の3つに分けていきます。この手法だと手間はかかりますが、その方が喜ばれることが多いようです。これは、基礎から段階ステップアップするという方式です。

質問に対する回答（パネリスト・砂川氏）

ニューメディア開発協会の講習でも、メッセンジャーソフトの利用についての内容が含まれていますが、少々使い勝手が悪いので、SKYPEを利用しています。これは何時間話しても無料で、遠隔操作という面からもこれが非常に使いやすいと思っています。

回答に対するフォロー（コーディネーター・吉田氏）

リモートアクセスのソフトに関しては、アドバイザー講習の内容にも含まれていますが、その設定はなかなか難しいものです。技術的に指導員の方がついていけなかったり、パソコン環境がついていけなかったりすることが問題です。

質問3（山口県の男性）

我々の団体に山口県の方から県内で組織を立ち上げて欲しいという要請があり、1年ほどかけて立ち上げました。かなり広い範囲の中でグループとしての活動をしていますが、活性化が難しいというジレンマに陥っています。各地の団体をまとめた連合会は、どのように進めればよいか、アドバイスをお願いします。

質問に対する回答（パネリスト・堀池氏）

以前にシニアS O H Oに学びたいという方々を集めて協議会を作りましたが、挫折しました。こういうことをやるのは本当に難しいです。山口県の場合、キーになるのは行政と組むことではないかと思います。行政はなかなか相手にしてくれないかもしれませんが、信用できる行政の方と一緒に、行政もやっている、活動をしているという姿勢を1つの軸にして、人間関係をつなぐ会、という風にすれば良いのではないかと思います。

質問に対する回答（パネリスト・中川氏）

行政は嫌いですが、行政も堀池氏が言われたように「人」だと思います。その人によると思います。

質問4（埼玉県の男性）

シニアネット相互の情報交換を図ることで、シニアのパワーを行政とうまく連携させていけないかと思いますが、その辺りのコメントを頂けませんか。

質問に対するフォロー（コーディネーター・吉田氏）

埼玉県の方の意見は賛同できます。これは通信員制度の話とも関係することかもしれませんが、みんなのやっている活動をもっと連携させればよいのでは、ということです。

質問に対する回答（パネリスト・堀池氏）

関東地区の70行政が入っており、関東経済産業局のコミュニティビジネスの推進協議会の中に支援分科会を設置し、そのような動きを開始しています。情報を作るという提案を、そういうところにぶつけたら良いと思います。

質問5（香川県の男性）

N P O法人の方ばかりですので、話がN P O法人のモデルの話ばかりになっています。皆さんが思う『シニアネット』という言葉の意味・解釈は、シニア層の生き甲斐作りのための組織作りということでよいのではないのでしょうか。

質問6（愛媛県の女性）

私どもの団体では、目的がバラバラです。また技術もバラバラで、希望もいろいろあり、まとまりがつかない状況です。その状況の中での解決法をお聞きしたいと思います。

質問に対するフォロー（コーディネーター・吉田氏）

お二人の質問は、シニアネットの本質をどのように考えるかという話と、少し似た部分もあるかと思えます。シニアネットのあり方という点からお答えいただき、最後にまとめとして今後の課題や展望を教えてください。

質問に対する回答と今後の課題・展望（パネリスト・砂川氏）

運営面では、事務所の光熱費や事務員の給与など、若干のお金がかかります。しかし非営利団体（NPO）であるため、講習料というのはそんなにいただけませんが、初級クラスでは3ヶ月で4800円、中級が6800円、という風に講習料が少しずつ上がっていきます。それらさまざまなものを合わせると年間で、約600万円程度の収入となります。運営面では少し厳しい部分もあるが、それほど問題はありません。

現在私共では、主に沖縄市とうるま市の2つの都市で行っている講習会を、全県に広げたいという要望があります。一番問題なのはやはり講師陣の不足です。私の所で実働35、6名程度のアドバイザーを100名程度に増員する必要があります。そのために愛媛県のような予算は無いが、シニア情報生活アドバイザーをたくさん育成していきたいと考えています。

シニアネットというのはあくまで生き甲斐作りであり、自分自身を楽しく、その気持ちを周りにも発信する、「感動と発信」というのが私の言う楽しさの中身だと思います。これがない限り、生き甲斐作りにはならないと考えています。

質問に対する回答と今後の課題・展望（パネリスト・塩見氏）

今日も集まってさまざまな協議を行っていますが、この真摯な姿勢は凄いことだと感じています。シニアネットは誰が作れといったものではありません。それがニューメディア開発協会に加盟するか否かの違いだけです。それは各団体の自由です。ただし、どちらかという加盟した方が、全国的なリンクに近づきやすい仲間が出来やすい為、加盟されることを推奨しています。

次にその団体がNPOになるかどうかという問題に関しては、法制度をきっちり理解することが重要です。NPOになるとお金がもらえるのではないかというような誤解もありますが、自治体と共同で様々な事業をすることにより、初めて形のあるものが出来上がり、そして社会的な信用も出来上がっていくというNPOの本質をきっちり理解していただきたい。行政の方も、NPOを支援するという姿勢を明確に打ち出している場合が多いので、NPOになったほうが何かにつけて有利かと思われ、何らかの生き甲斐ができてくるであろうと思います。

質問に対する回答と今後の課題・展望（パネリスト・中川氏）

少し懐疑的な話になりますが、私は行政というものを信用していません。現在、NPOという定義が非常に曖昧で、大阪でも行政の天下りとしてNPOが出来つつあり、行政の仕事を優先的にもらおうとしている状況がありますそのため、既存のNPOと、これからNPOを立ち上げようとしている人は、コンセプトをしっかり持って活動しなければなり

ません。

実際に『おおさかシニアネット』では、新しい活動を始めています。今までの活動を発展させるだけでなく、新たにシニアに適したITソフトの開発を予定しています。本日のジャストシステムの方がお話されていた内容も非常に興味深かったのですが、ソフトなどを開発する際には、ぜひシニアにアンケートなどをとっていただき、その意見も参考にしたいと思っております。開発会社とも協力関係を結びたいと考えています。

現在は、音声ブログなどの技術を見据え、そのための音声ソフトに着目しています。頭の活性化にはそういった読み上げソフトが有効であり、またiPodやRSSなどさまざまな技術が連携して、自分が流したブログが音声としてラジオのようにiPodに入っていく、という時代も近づきつつあると思います。そのために新しいブログのシステムを開発し始めたところです。

次に関心を持っているのはIT機器全般です。IT機器は英語が中心で、日本語版という名前でも特にシニアには非常にわかりにくいものです。グローバルスタンダードとはいえ、IT機器を国外へ持ち出すことは稀なので、それならあいうえおが順番に並んでいるキーボードなどなど日本独自のものがあるのもいいのではないかと考えています。それをIT機器だけでなく、さまざまな分野に広げて行くことも今後の課題でしょう。

質問に対する回答と今後の課題・展望（パネリスト・堀池氏）

会がまとまらないという質問に関して、NPOは自由に入会退会をするような仕組みですからルールなしに運営すると、そのような事に陥りやすいようです。

私の団体でも、最初は楽しいというだけでたくさんの方が入ってきましたが、実際に活動をしようとするとい意見の食い違いが起こります。先ほどのNPOは一応法体系ができており、多数決などのルールを約束事として自分たちで決められます。法的なチェックが入り法人として登録されています。ルールは勝手に直すことはできません。私共の経験から、このNPO法というルールがなければここまでできなかったと思います。NPOは入退会が自由でないと人は集まりません。集まりやすい状態にして、なおかつ法的に決められた定款というルールの上で動くことは、市民的な活動を進めていく上で、最適だったのではないかと思います。バラバラでもどこかに決め手がなければ動けません。何でも形にして決めて行かなければならないということです。

事業が発展してお金が動くようになり、NPOでは処理しきれない問題が出てきていますので、今後はLLCかLLPになると思われます。現在、このLLCかLLPに対してNPOが出資、NPOの見解で動くような有限協同組合を作るということを議論しています。アメリカではこの協同組合の方式が非常に発達しているが、日本でもこの11月に施行されました。開発などを行う事業者は、この有限協同組合の方式を採用していくと思われます。私共の団体も第3セクターと共同でLLCを設立するようになるかも知れません。

まとめ（コーディネーター・吉田氏）

まずは各パネリストからのお話をまとめてみましょう。

砂川さんからは「シニアネットのあり方はひとつに限定されるものではない。いろいろな様相をもって、そしてリーダーを立て、自主運営していくのがよい。また、生き甲斐を追求することで、本来のシニアネットの面白さを保っていくことも大切」ということでした。

塩見さんからは「シニアネットは、誰が頼んだわけでもない、自分たちでやるのが原則。その運営面では、例えば協会に加盟してみんなが手をつないだ方が得な部分もあり、一方で、NPOというものもある。それぞれの本質や仕組みを十分に理解した上、利点を生かして活動していくのがよい」ということでした。

中川さんからは「シニアに適したITソフトの開発を行いたい。また日本人になじみやすいIT機器の開発を提言したい。コンセプトをしっかりと持ち、ビジョンを作っていくことが重要である」ということでした。

堀池さんからは「NPOというルールは本当に役立った。そのことで、入るも自由、出るも自由な状況が合理的にできた。市民活動には最適だったと思う。したがって、自分の団体で扱うルールをきっちり定めて、その軸の上で多様性をもった活動を展開する」ということでした。

これらの話を総合すると、要は、自身で自身のあり方を明確するということでしょうか。コンセプトやビジョン、目的などをきちんと示していく重要性が見えてきたように思います。こうした作業を行いながら、シニアネットの輪を広げることが今後の課題かと思いません。

本日はありがとうございました。

ワークショップ1 (要旨)

## コミュニティビジネスを創出する

堀池 喜一郎 氏

NPO法人SOHO普及サロン・三鷹 顧問



### コミュニティビジネスへの注目の高まり

シニアが「協働」に参加するプロセスにおいて、シニアSOHO普及サロン・三鷹（以下シニアSOHO三鷹）がこの5年間でどんな仕掛けをしてきて、どんなノウハウを身につけてきたのかを紹介します。

『シニアSOHO三鷹』は、NPOや地域のことについて知らない人たちの集まりから始まりましたが、活動を続けてきた結果、2003年には日経新聞社が創設した「地域情報化大賞」の第一回グランプリを頂いたり、東京新聞の「NPOという生き方をするシニア」という特集の中で、活動も取り上げられるなど会の存在は多くのマスコミに注目されるようになりました。

なぜマスコミが我々の活動に注目するのか、その背景について考えていきたいと思えます。まず一番大きな理由は、我々が行っている「コミュニティビジネス」への注目の高まりだと思えます。

各地域にある問題を、行政や企業だけが解決するのではなく、市民が主役になって解決しようという動きが盛んになっています。市民が力を持っているということですが、特にビジネスの手法をもつ市民が増えていることに注目し、市民が持つビジネスの手法を役立てて地域の課題を解決しようと考えました。

コミュニティビジネスとは、市民が主役となり、市民が持つビジネスのノウハウによってビジネス的に社会の課題を解決し、そのビジネスによって得た収益は会の活動や社会に還元するような仕掛けをもつビジネスのことです。

市民活動に役立つビジネス手法とは、例えば次の二つです。ひとつは、顧客満足方法、もうひとつは人件費・経費を算出して処理する原価計算の方法です。

### 協働のあり方

行政との協働には『アウトソース』と『パートナーシップ』の二つの形があるように思われます。アウトソースとは、従来行政がやっていた仕事をそのまま行うことです。このメリットは行政側のコスト削減くらいで、長続きは難しいと思います。一方、パートナーシップは行政が一度も行っていないことを、プランニングや位置づけは行政、実施は市民という形で行うことです。この方法だと、新しい仕事作り出され、雇用創出、産業振興に繋がります。『シニアSOHO三鷹』では三鷹市と後者の意味での協働を行っています。

### プラットフォームとしての役割

会社員OB型の人達は、退職後、地域で自分のノウハウを役立てる場がなく、力を持て余すことが多いようです。シニアSOHO三鷹は、そんな人たちが活躍できる『プラットフォーム』としての役割を担っています。このプラットフォームとは、うまくいかないことを

うまくいくようにするために、みんなで協力する場です。企業のOB、子育てを終えた主婦などがそれぞれの手法を生かして地域の経済活動に参加できるようにしています。

### **高齢者ではなく、シニアの欠点**

これまでは高齢者は弱者としてとらえられてきましたが、三鷹市は元気な高齢者が多いのです。東京都では介護や保護を重点に置く高齢者政策から、元気な人が元気でいさせることに重点をおいた高齢者政策に切り替える政策を99年～02年に行いました。そのときに使われ始めたのが「元気な高齢者＝シニア」という言葉です。最近では元気であるだけでなく、さらに何かしようという人を「アクティブシニア」と呼んでいます。

会社員OBの元気な高齢者、シニアはいくつかの欠点を持っています。

地域のことが分からない。

ビジネス手法を持ってはいるが、偏っている。

分業体制の中でずっと働いていたので自律ができない。決められた事はするが、自分で決められない。

### **ワーキング・グループ**

私たちは、いろんなシニアが参加しやすい形態をとることを心がけており、会としての活動内容は何も決めていません。

会員全員がメーリングリストに入っており、ワーキングという、ある会員がやりたいこととメーリングリストで発言し、賛同するひとが集まって仕事を進めていくという「この指とまれ！」の手法を取っています。

会員は、各活動の成果・収支議事録・企画内容などすべてをMLで公開しなければなりません。そして、活動を理事会が認めた場合、そのワーキング・グループはその後、『シニアSOHO』の名前で仕事ができることとなります。営業のときのアピールや、会議の場所を借りたりするのをすべて会の名前でできるようになり、活動もしやすくなります。

### **ITの活用 顔の見えるIT -**

シニアSOHO三鷹内の連絡は、主にメーリングリストを使います。

メールを持ってない人もいましたが、会員同士でメールを教えることで皆がメーリングリストに参加することができ、会員内での結束力ができました。メーリングリストの良いところは、連絡を取り合ううちに会いたくなるということです。そのためにシニアSOHO三鷹では、三鷹産業プラザという大変使い良い施設を活用しています。

数えてみると、月に200回は会員は会合をしています。

### **プロジェクト**

シニアSOHO三鷹では、ワーキング・グループという仕掛けと、もうひとつ政府行政からの委託事業を多数のメンバーで運営するプロジェクトという仕掛けを実践しています。

委託事業の中で大きなものはパソコン講習会の運営です。一年間で1200人対象にパソコン講習会を行ったこともあります。講習会を行うにはPCアドバイザー認定研修を設けました。認定は基準レベルを設けていません。研修では、アドバイザー希望の人には、自分自身のレベルを把握してもらいます。これは、受講者のレベルが様々なので、どんな技術だって役に立てる事ができます。持っている技術がどんなレベルでもアドバイザーに

なることができます。民間企業が行うパソコン講習会は教える量が多く、高齢の受講者などは難しいようです。必要なことを教えることが一番良いと思います。また、良いアドバイザーとは、受講者をやる気にさせることが出来る技術を持つ人だと考えています。

顔の見えるITとの関係でいうと、会員はメーリングリストで普段から自分のPCレベルなどを紹介したり直接会って交流したりしています。そこで「年間1200人規模のパソコン教室でアドバイザーやりたい人募集！」とメーリングリストで呼びかけた場合、集まった人たちが、お互いに性格やPCレベルを知っていますので、適切な役割分担などがとてもスムーズにできます。

報酬については、理事・役員は無償ボランティアです。それは、理事や役員をすることで学べる人が多いからです。行政などと交渉して仕事をとってくる営業役は、そのプロジェクトの人件費収入の10%分を成功報酬として決め、人件費収益の20%かはシニアSOHO三鷹に入るようにしています。この割合は、プロジェクトの運営メンバーで決め、プロジェクトの開始時にメーリングリストで報告しています。

### 行政関係でNPOと協働する側の人について

IT講習を行っても、受講者の多くは主婦と高齢者で、家にパソコンが無く、すぐ忘れるという問題が出てきました。そこで町の中に2ヶ所、無料常設相談室を設けて月水金にPC相談を企画しました。行政側は当然、成功するかどうか不安だったようですが、やる気ある職員がいてチャレンジしました。三鷹市は、地域間競争に負けるか負けないかのこの時代、地域をよくするためには市民の力を活用すべきだと考える人が多いようです。良い行政は市民には下請けという形で任せるのではなく、市民の専門家を活用するものだと思います。

また、行政と付き合う上で大切なのは、行政を組織としてとらえずにその中の人をしっかりと見て、部署など関係なくNPOと組もうとする人をまず探すことが大事だと思います。行政も今の制度が窮屈であるため、市民と活動しやすいように協働条例を盛んに各地で作っています。

### 質疑応答

Q. パソコン教室を長くすればするほど受講生数が減ると思うのですが三鷹ではその対策はしていらっしゃいますか。

A. 3500人の受講者対象のIT講習をやったとき、会員外から公募して200人の市民に教え方を教えました。

ITを教えることに面白みを見つけ、その人たちが公民館で、ボランティアでパソコンを教えるようになりました。すると、企業もそれに負けられないようにパソコン教室を工夫したり講習料を安くするようになったのです。このように三鷹では私たちのIT講座の教室は厳しい競争の環境にあります。

その中で、有償の教室で受講生を集めるために様々な努力をしています。その一つは学びやすい工夫をこらすことです。シニアSOHOの講習会場は、18科目を年間で600コマ開催していますが、何とか集客を実現しています。

## 自治体との協働で地域の情報化促進

塩見 信雄 氏

NPO法人シニアネットひろしま 理事長



### はじめに

本題に入る前に、四国のフォーラム一日目に参加して、松山市はIT推進事業がかなり進んでいることを知って非常に驚きました。私たちの県、広島はNPOとの協働事業について指針を決めようという段階です。広島市ではIT支援として、500万円の助成制度がありますが、年利2.2%とはいえ返済が必要です。また審査条件が非常に厳しく応募も非常に少ないようです。それに比べて愛媛県と松山市は立派だと思います。

### 行政との協働で心がけていること

行政との関わりは非常に重要視しており、活動をするなかで行政との意見交換では、社会問題等の常識や政治の動きの知識が必要であり、NIE活動に準じて学習を続けています。

### ビル人間ではだめ

まず、私自身がボランティアに関心を持ったきっかけを紹介します。

企業で働いていた時は、自分が企業を背負って立つんだと自信満々でした。ある日、家にいると回覧板を高齢のご婦人が持って来られました。「失礼ですが、どちら様ですか」と聞くと「隣の高橋ですけど」と答えたのです。その時、ビルの中でどんなに働けても近所の人の名前も顔を知らないようでは役に立たないと思い、地域に溶け込まねばならないと考えました。それが、ボランティアに関心を持ち始めたきっかけで、現役時代にSLAシニアライフアドバイザーという資格を取得しました。

### 広島的事件より

先週広島の安芸区というところで小学生の女の子が殺害される事件がありましたが、あのようなことを防ぐためにも地域の活動は必要だと思います。地域内での声かけなどが大切です。アメリカには犯罪被害者救済をかけたNPOが2000位あり、被害者宅に駆けつけて希望される支援を直ちにするとのことです。日本にはこの種の団体は20位しかありません。いろんな分野で活躍するNPOが増え明かるく豊かな社会となればよいと思っています。

### 協働ということ IT事業がどのように役たってきたか

我々の主な活動はパソコン教室です。他には、独自の特色ある活動として8月の原爆の日に原爆ドームの対岸にテントを張り、中にPCを12台設置し、全国・全世界から平和へのメッセージを送ってもらいます。そしてすぐにそのメッセージをプロジェクターで写し、プリントアウトしたものを灯籠に貼り付けて流したりする事業を行っています。これは、世の中から非常に注目していただき、今年は770通の平和のメッセージが寄せられました。これをスタッフ50人体制でやっています。

また中学校では、中学生でパソコン好きの子がたくさんいますので、そういう生徒さんに先生になってもらい、保護者対象のPC教室を企画しました。方法は、中学3年生の生徒3人に先生になってもらい、生徒自身は「先生」になって誇らしげです。家では親子間で教え合うのは難しいと云われていますが、教室という形だと保護者たちはすっかり「生徒」になってとても楽しい教室になりました。この企画をする上での教育委員会との厚い壁は、理解ある校長先生が真剣に取り組んでいただけなのです。

他には介護付有料老人ホームでの取り組みがあります。毎週火曜日に、広島市の入居者484人の介護付有料老人ホームに、スタッフが通い20人規模のパソコン教室を行っています。これは、受講者に来ていただく教室と違い、我々の方から出かけていくという新しいパターンです。

また、各地域には埋もれた歴史がたくさんありますが、我々の会では歴史に興味があるメンバーたちが地域の歴史を発掘し、画像を保存・整理し、情報として公開しています。地域の歴史を学ぼうというテーマで小学生と一緒に活動することなど非常に楽しいものになっています。

最後に活動をするなかで、民生委員同士の連絡を見て気がつきました。その方法は電話、FAXまたは徒歩による訪問が多く、情報伝達が遅く非常に時間を要していることでした。これをメールを活用してML化すればよいと考え、助成金をして幸い採択され150万円でパソコン5台等を購入して民生委員のMLを作りました。成果測定では、ほぼ一週間かかっていた情報伝達がわずか3時間で伝わるというIT効果を発揮できたのです。

このように、自分たちの身の回りにはITを活用できる場はたくさんあると思います。

### **パソコン講習会 主役は受講生**

いつもパソコン講習をするときに、受講者に感動と喜びを与えることができているかを考えています。我々は実施団体であり主役はあくまで受講生の皆様です。公民館から受託したとき、受講生を玄関までお迎えし、パソコン教室会場まで案内いたしました。きちんと主役扱いすることが大事なのです。これが評判となりマスコミにも取り上げられましたが、「当たり前のことを当たり前にする」このことが大切だと思っています。

### **課題**

パソコン講習会では、ある一定のスピードでカリキュラムを進めないといけないのですが、ついていけない人もいらっしゃいます。集団化にしないと効率は悪い、しかし受講生一人ひとりの満足感も大切です。そのため我々は予習ができるように教室を早めに開放したり、アドバイザーが家に訪問したりして問題をカバーしています。それぞれの受講生にあった方法を話し合い解決策を見つけてあげたらよいと思います。

今後の課題としては、アドバイザーのスキルアップと、講習会が終わったあとのアフターフォローへの取り組みがあります。アンケートの見直しを行い、「計画・実行・チェック・反省」と心がけて生きたいと思います。一つの課題として、メーリングリストの利用方法があります。個人問題をメーリングリストで回すことに抵抗がある人と、利便性を得る人がいますので、そこをどうクリアするかが今後の課題です。

### これから・・・

これまで受講者は圧倒的にシニアが多かったのですが2007年を過ぎると地域に退職された団塊世代の方が増えます。これらの方は今から退職後のことについて考えたり、非常に勉強されていますので新規の受講生を得るのも大変になると思います。パソコン教室の受講者層やカリキュラムに変化が予想され、それへの対応が必要です。

行政が行っている特定地域内における携帯電話での情報発信が注目を浴びています。シニアとかかわる道具としてパソコンと携帯電話、どちらをどう利用するようになるかは分かりませんが我々の活動に影響があることなので考えなければいけないと思っています。

シニアネットは連携してもっとがんばらないといけないでしょう。皆さんとしっかり連携し楽しくシニアライフを過ごせるようにしたいものです。共に頑張りましょう。

### 質問

Q．原爆の日の企画をするときの回線どのようなものですか。

A．FOMAというポケット通信(mopera)を利用しています。有線回線なしで、携帯電話を使かってのパソコン通信です。スピードはやや遅いのですが実行上支障はありません。

また、自前のサーバーは持っていません。今は、あるところから借りています。そういう面で、協力していただける所を持つことも大事な仕事だと思っています。

Q．来年山口県では国民文化祭が予算30億円規模で企画されています。

ボランティア募集ボランティアセンターの運営を2年間2000万円で委託しました。ボランティアを12000人集める必要はあります。アドバイスをお願いします。

A．それについては、私は的確にアドバイスをできませんが、国民文化祭については、シニアネットも何かできることがあれば協力を差し上げたいと思っています。



## 交流活動を通じて社会貢献

砂川 正男 氏

NPO法人沖縄ハイサイネット 会長



### はじめに

「ハイ」というのは、人が「はい」と言う、その「はい」です。サイというのは、沖縄の方言で、相手を尊敬しているという意味で、要するに敬語と理解してほしいということです。沖縄の人に会うときは「ハイサイ」と言えば、非常に親しみが感じられると思います。沖縄に来た事がある方は、首里城をご存じだと思いますが、沖縄県内には世界遺産が7つあります。人口は、135万人。私ども、『沖縄ハイサイネット』では、世界遺産巡りを1つの学習として行っています。『いっぺい祭り』や伝統的な芸能などは、交流を行う上で不可欠のもので、交流を行うにはこのような武器が必要だと思います。

私どもは、2000年7月に開設し、交流活動を開始しました。交流にはパソコンが不可欠であり、5年間で5000人の人がパソコンを学習しました。私どもの所には、シニアがシニアを教えるPC講座があり、1クラスに講師が1人、サポーターとサブサポーターがそれぞれ5人ずつ、たくさんの人達が、パソコン講習会で学んでいます。彼らは教えるのみならず、自分も学んでいます。それぞれの技術力が違いますので、一人ひとりに教えるようにと言う事でやっています。現在は、16クラスあり、初級・中級・上級・デジカメクラスが中心になっています。あと、シニア情報生活アドバイザーのクラスがあります。

### 理念と目的

『沖縄ハイサイネット』の理念と目的は、あくまでもパソコンというのは目的ではなく手段でありツールに過ぎない、ということです。まず絶えず自らスキルアップを図り、次に自らが人材になる。そして人に尽くすシニアであれと言う事で、地域に貢献せよとうことで行っています。さらに「身近な人を大切に」と言う事を、大切にしています。自分も勿論大切ですが、家族や友人、周辺の人達、そういう人達を大切にすれば、自ら地域や社会に貢献できると考えています。

また「常に楽しく」と言う事を活動の基本方針としています。自分が楽しくないと、相手も楽しくないでしょう。ご婦人方は化粧をされていると思いますが、笑顔に勝る化粧はありません。「笑顔こそ最高のお化粧だ」と言った方がいらっしゃいました。どんな方でも、笑顔があると受ける印象が全然違います。笑みがあると、思わずこちらも微笑む。まず自らが楽しくし、その楽しさを相手に伝えていく。感動と発信ということが大事で、自分が楽しい・嬉しい、そういう感動を相手に伝えていく、それが、感動と発信で、これを大事にしていきたいと思っています。

## 交流活動の下地

沖縄で IT ホームヘルパー講習の全国大会がありましたが、ハイサイネットでは、「ハイサイ音頭」を作りました・自分たちで、作曲、振り付けを行い、ハッピーも作り、どこでも披露しています。沖縄は、食べる事・飲む事・踊る事が大好きな人間が一杯います。私どもの中にも、踊りの師匠だとか、レクリエーションの役職を持っている人がいます。その中で、ハイサイネット音頭を踊っています。そして、そのような事で、こうしたシンポジウムなどに参加しています。

## 交流活動の手段

交流の手段というのは無数にあります。手紙を通して何度も話してきた、電話やメールと言う事もあると思います。お互いに使えるものは何でも使おうという事でやって来ました。

私どもの住んでいる沖縄市は、沖縄の中部、嘉手納基地の近くにあり、人口は13万人程度です。そこに商店街があり、27・28年の間、小さな七夕祭りをしています。昔栄えた市街の中心地は、郊外に量販店とか大きなお店があり、非常に廃れています。元気がありません。人ではなくて猫が通るくらい、がらんとしています。そういうところを何とか出来ないかと言う事で始めました。商店街活性化と言う事で、私どもが支援しようという事でやっています。

他に、国内・国外との交流を盛んにやっており、年に1回は自費で海外に行っています。ハイサイネットでは、自分の事は自分でやろうと、行政の補助は頂いていません。どうしても自分たちで出来ない場合は、行政にお願いします。現在、行政の支援というのは、会場の手配や電気通信機器の点検・修理といった人的な支援は受けていますが、金銭的な補助は受けていません。

## 交流活動と情報収集

私どもが交流を行う場合は、全て自費でまかなっており、台北、ソウルとの交流を行っています。国内の交流は日本語が通じるので良いのですが、国外との交流では言葉が壁になります。日本語が通じない、ではどうすればいいのか。

まず、私たちが交流をする際に非常に重要な点があります。お互いにシニアになると、一つか二つ必ず何か病気を持っています。緊急事態にどうするかを考えなくてはなりません。私どもは、幸いな事に看護師がおり、緊急処置はいつもするようになっていました。自分たちで出来る分野は、薬を始め緊急事態の発生の場合にどこに連絡をすればいいのか、どこに何があるのかを考えています。その時に、役立つのは公共の情報で、台北にもソウルにも沖縄の事務所があり、連携を事前からとって、通訳も出してもらっています。お互いの出先機関を利用する事が大切だと思います。

次に、相手と交流するので、メールなどで相手がどのような環境にあるのかを考える必要があります。交流前から、市とか大学などと連絡を取っていますが、私の情報では、向こうにシニア会はなく、そこで沖縄県人会の2世・3世と交流を持ちました。去年は長野県で交流会を持たせてもらい、この成果は非常に大きいものでした。

交流会は、お互いにパソコンを使っていると、相手の方が詳しい事もあるし、得意分野が出来てきて、もっと交流したいという事になってくると思います。ですから私は、是非、交流会を続けていこうと思い、来年は上海でやろうと思っています。

## 課 題

今後の課題は、組織運営です。NPO組織を立ち上げて運営するという事は、人材・人事が必要です。自由に動ける人があと3人欲しいと思っています。安定した財源を確保するためには、受託事業がどうしても必要だと考えているからです。他にシニアネットの支援組織のネットワークを作りたいと思っています。さらに、国や地方公共団体との連携も強化したいと考えています。

## 質疑応答

Q. パソコンなども含めて全ての調達を、自費で行っているという解釈でよろしいでしょうか？

A. 現在パソコンが10台、講師用・事務用で12台、プロジェクターなど、全て自費で揃えています。しかし通信のための基本的な設備整備は行政が行ってほしいと思います。NPOとして会場費を払いますし、通信機器なども自費で調達しています。

Q. 海外との交流では具体的に何をされていますか？

A. まずメールでやりとりして、その人に会っています。Face to face, heart to heart.、さらにそこに行ってパソコン講習室の様子を見学します。台北などでは公的な機関が全てを行い、ソウルの江南区では、世界一自治体の電子化が進んでおり、シニアに対してはパソコンとプリンターはもちろんインターネットも無料となっています。また、家から国などに申請したものを、家で受け取れるようにもなっています。それくらい、電子自治体として進んでいるのです。お互いに今後とも勉強しながら交流を続けていこうとしています。



## 企業との協働で社会参加

大谷 明弘 氏

いちえ会



### いちえ会の紹介

『いちえ会』はインターネットを核としたシニアコミュニティで、参加した個人個人が自分を高めていけるようなコミュニティを目指しています。そういうお手伝いをするために活動しています。団体のできた1994年の段階ではインターネットは普及しておらず、パソコン通信のセミナーをして、その中の生徒の集まりから始まりました。『いちえ会』の仕組みは少し変わっており、いわゆる会社のような上下関係のある組織にたくないという意向もあり、任意団体としてやっている非常にフラットなコミュニティです。会則もありませんが、12年続いてきました。2003年にはようやく常設サロンをつくり、そこに丸いテーブルを置き、ノートパソコンを使った通常のパソコン教室らしくないパソコンセミナーをやっています。

あえて組織を作らず、個々の自主性とシニアの知恵で会を運営しているのが『いちえ会』です。周囲から見ると不安定な組織のように思われるかもしれませんが、逆にユニークな運営をしてきたことで企業にも注目されました。その流れの中で企業との連携が生まれたといえます。

### 企業との連携のあり方

企業からの依頼には本業を進めたいケース、社会貢献を目指すケースがあります。事例をご紹介します。

#### ・本業

- ・ ジャストシステム  
シニア向けソフト『銘品工房』のテキスト監修を行いました。これは後に賞を獲得しています
- ・ インプレス  
『じっくり挑戦大人愉快団 ブログ入門』というムックに、『いちえ会』のブログテキストを参考にした小冊子を付け、監修しました。
- ・ n i f t y  
シニアの初心者向けインターネット講習会の開催。シニアの方がシニアを教える図式で行いました。非常に好評でいちえ会として受講生を対象にフォローの講座を継続して行なっています。
- ・ クラブツーリズム  
『いちえ会』のメンバーが、旅の文化カレッジというセミナーの講師を担当しています。

## ・社会貢献

- ・ 住友生命  
ケアハウス向けパソコンセミナーを実施するに当たり、『いちえ会』が業務を受託しました。
- ・ 日本IBM  
「Kid Smart」というパソコンを使った幼児教育のため、保育園の先生に講習をしました。
- ・ マイクロソフト  
社会貢献活動として、オートシェイプを子どもたちにマイクロソフトの社員が教えるため、社員へのボランティア研修を行いました。

## 企業との連携のポイント

### 自前の拠点を持つ

自治体の設備は、企業向けには貸し出してもらえないところが多いのです。

### 実力をつける

いざ依頼があったときにきちんとした仕事ができることがポイントになってきます。またアドバイザーの養成だけでは十分でないこともあります。企業にとってシニア団体と連携をするときに失敗は許されません。成果がなければ企業はその後の連携をしてくれなくなります。今後も付き合いを続けていくためには団体の実力をつける必要があります。

『いちえ会』の場合、アドバイザーは自主的に各自の自治体で講師などをしていますが、年に1回活動の報告会をしています。その中で意見を出し合い、新しい試みをどんどん展開しています。

### 文書を作成する

活動をアピールするには文書が必要です。これまでの実績や、どういうことができるのかをきちんと書いておく事が大切です。

### ホームページの充実

『いちえ会』の場合はホームページとブログを作っています。イベントに参加した場合などのレポートでもよいと考えております。更に更新もきちんとするように心がけております。企業とのファーストコンタクトがホームページになることもありますし、ホームページがきちんとしていれば声をかけてもらえることもあります。『いちえ会』の場合、NHKの番組『趣味悠々』に出演依頼があり、『中高年のためのパソコン出直し塾』に会員が出演しました。

### イベントに積極的に参加

レポートをつくとともに、イベントを通してネットワークをつくる必要があります。とと考えております。これからシニアネットをつくる場合には、先輩のシニアネットワークを参考にしていっていいのではないかと思います。

## まとめ

企業は取っつきにくいという部分があるかもしれませんが、今後積極的におつきあいをしていくと良いと思います。具体的な企業とシニアネットとの連携はまだまだ少ないようです。しかし、みなさんが働きかけることによって、成果が出てくるでしょう。その良い機会が2007年問題です。積極的に企業と付き合っていくことが重要であるし、企業が求めている部分もあるはずです。

企業は利益を考えるから、社会貢献という看板でもないとなかなか連携してくれません。お互いに相手のことがわかる人がパイプ役となるか、理解しながら会話をしていく必要があると思います。そこが企業との連携の難しいところでもあります。

『いちえ会』としての企業との連携の考え方は、あくまでも個人の方が自分を高めていける何かが出来ればいい、と考えています。『いちえ会』は企業との窓口であり、会員が豊かになれる活動をしていきたいと考え続けてきました。2007年問題を控え、これからも知恵を出し合ってがんばっていきたいと思っています。

今日の話が少しでも皆さんの役に立てればと思います。

## 質疑応答

Q．規則もない組織が長くつづいた理由はなんですか。

A．縛りがないということで、出て行きたい人は出ていけるし残りたい人は残る、戻りたくなったら戻ってこられる状況でした。縛りがない状況だったからこそ活動がつづいていったのではないかと思います。また、『いちえ会』だけでは満足できない人は自主的に活動を広げています。



## ワークショップ5 (要旨)

### 地域の魅力を高めて地域に貢献

野明 宏亘 氏

NPO法人知的協調参画型地域振興協会(ICP)  
専務理事



#### 知的協調参画型地域振興協会の紹介

知的協調参画型地域振興協会という難しい名前が付いていますが趣旨をご説明します。NPO法人として認証されたのは2001年です。最初は地域の企業のOBが中心となって設立し、その後鎌倉の地域のいろいろな方(文化人・大学人・主婦・商工業者・サラリーマン)が入りました。その方々が持っている経験やノウハウをグループとして、知的協調的に参画して個人では出来ないことに力を発揮しようということで、知的協調参画型と称しました。これをICP(Intelligent Cooperative Participation)といいます。鎌倉市民を中心とした地域を代表する「民」が「産官学」と知的協調してやっっていこうという試みの意味もあります。

#### 企業・行政・大学との協働

ICPの活動のひとつに「鎌倉観光散策ナビ」があります。これは企業・行政を含めたコラボレーションの事例です。最初のメンバーはIT技術に比較的強く、しかも文化歴史に興味がありITと歴史文化の融合をめざしました。鎌倉デジタルアーカイブを勉強し実現しようといろいろなところに提案していきました。この「鎌倉観光散策ナビ」は高精度即位端末による鎌倉観光情報資産の蓄積と活用です。高精度即位端末は携帯のGPSの端末です。そして、鎌倉観光情報資産の蓄積と活用というのは、鎌倉のいろいろな場所に情報が詰まっていて、それをハイテク技術によって、あぶり出していきます。つまり場所ごとの情報を我々がコンテンツに蓄積していき、携帯端末を通じて活用していくというものです。鎌倉デジタルアーカイブという活動を通じて、ベースがあったので三菱電機が開発した技術と合体することによって、鎌倉の魅力をもっと高めて地域の振興、経済の活性化をしていこうとしました。関係の人とコラボレートしつつ付加価値を増して新たな社会公益性を増したいいわゆるパブリックビジネスの一例です。ある意味で行政がやっても良い様な公共性を持ったパブリックビジネスを実現し、一つのモデルとして内外に発信しています。

ナビの仕様説明は機器・システムの開発者にやって貰います。

(鎌倉市観光協会ホームページ参照)

#### デジタルアーカイブとは

ところで、デジタルアーカイブを進めるメリットは何かというと、3つの概念があります。

鎌倉に行かなくてもインターネットで広く見られる。

高性能の大画面で詳しく見られる。

CD-ROM等に収録して見る。

ということです。そしてデジタル化すると大きな箱物はいらないので、デジタルミュージアム、電子博物館を実現することが出来るわけです。

それではデジタルアーカイブの一端をご紹介します。鎌倉という土地は山に囲まれ自然の城塞となっています。また武家政権が初めて発足した武家の古都でもあります。そこで、鎌倉のコンセプトは中世城塞都市と武家古都です。このコンセプトの代表的で特徴的なデジタルコンテンツをつくらうとしています。例えば、

- ・永福寺

現存していません。頼朝が奥州合戦の戦没者を弔うために建てた寺で、平泉中尊寺の二階堂大長寿院等を模しているとのこと。この30年に亘る発掘調査のデータをもとにデジタルで再現しようということです。

- ・鶴岡八幡宮

静御前が舞った大回廊がありました。今は失われたものをデジタルで再現しようという試みです。

- ・鎌倉幕府の跡地

- ・時代的変遷をジオラマで再現

日本は1000年単位の歴史的文化的文化資産があります。東大の月尾教授が言われるように、これは今や世界に向かって文化産業として世界に発信する付加価値のあるものです。デジタルアーカイブがやろうとしているのはこうした歴史的文化的文化資産を新しい日本の差別化として世界に発信することなのです。

## ICPの役割

我々は試行錯誤しながら地域の社会的・経済的・文化的問題を解決しようと挑戦しています。例えば、野村総合研究所の跡地が鎌倉市に寄付されましたが、使い方が難しくなっています。今までのように固定資産税などの税金も入らないため、有効に活用しようとデジタルアーカイブをベースとしてICPが提案をしています。

また、私たちのベースとなるのはITです。ICPのパソコン講座体系には、以下のようなものがあります。

- ・鎌倉市の市民講座で講師

- ・実務に役立つパソコン実践講座（鎌倉商工会議所との共催）

- ・シニア情報生活アドバイザー養成講座。

2005年から始め、現在70名を超えたアドバイザーの認定証をうけました。

- ・草の根コミュニティ教室。

- ・ITオープンサロン（大船田園）

事務所のある大船で、相談にのったり、議論している。そして社会活動にITの活用を広げていきたい。

さまざまな活動をするとき、利害関係者が多くいます。行政や企業、市民団体が絡む中でNPO法人は民の代表としてコーディネートをして相互調整し、イニシアティブをとっていければと考えております。また何とか税収に貢献できる集客効果のあるものも実現したい。それがNPO法人の役割だと考えているからです。そして、活動を通じ自分たちも楽しみ、蓄積・活用を通して次世代につなげていきたい。それが私どものNPO法人の役割と思っています。

ケーススタディ (要旨)

## シニアネットの活動に学ぶ

門田 喜作 氏  
シルバー高知 代表



### シルバー高知の紹介

『シルバー高知』は、シニアネットと言えるか分かりませんが、高齢者がパソコンを通じて関わる団体です。内容は、高齢者がいろいろな思いや考えをメーリングリストに書き、皆がそれに反応してコミュニケーションをとるというものです。

最初に、『シルバー高知』を立ち上げるにいたった経緯や私の思い、次に高齢者に教えるという学んでもらうときに気をつけなければならないことと勉強会、オフラインミーティングというネットを離れた会合について、最後に、これから『シルバー高知』はどうしていったらいいかをお話していきます。

### シルバー高知の経緯と発展状況

老いるということは辛いことが多いものです。病気をしたり、自分自身を醜く思ったり、老いるということはかなしいことでもあるし、そのままいると嫌な思い、負の考え方にとられてしまいます。けれど、私はなんとか年をとっても前向きに生きることはできないかと考えていました。そういう時、あるきっかけがありました。高知県の知事が、高知は中央から離れていて中央に伍していくにはITのテクノロジーが大事だと熱心に取り組んでおられ、1997年に『コンピュータおばあさん』という有名な方を招いて、講習会が開かれました。その中で私はシンポジウムのパネラーとして参加し、ひとつの提案をしました。男性は女性に比べ外に出たがらず、男性のサークルはほとんどありません。それを電子メールの輪の中に引き出せないか、高齢者のネットワークをメーリングリストというかたちでつくりたいという提案です。そして、1998年4月にメーリングリストを立ち上げ、今年で6年を経過しています。

最初は準備委員の10名から始まり、だんだん増えていき、一時多いときには300名ぐらいがいました。現在は240数名です。会員のほとんどは高知県内の方ですが、北は北海道・南は福岡まで、日本全国に広がっています。また、国外はカナダ・フランス・オーストラリアというように、海外の方も参加しています。

メーリングリストのコンセプトは、

高齢者を中心にしたネットで、高齢者としての悩み、思い、聞きたいこと、社会現象に対する考えなどを交流できるようなネットにする。

基本的に50歳以上で、高齢者と交流したいという若い方ははばまず、性別、国籍の制限はない

実際に顔を合わせる会合を持ち交流を深める。

発言の自由を保障する。

というようなことです。

メーリングリストで始まった『シルバー高知』ですが、初めは書き込みが少なく、これでいいのかと考え、メールの書き方を勉強するために勉強会を立ち上げました。会場は高

知県の外郭団体の部屋とパソコンを無料でお借りし、月2回の勉強会を組織しています。年間800名程度1回に30名～50名が参加しています。

### **勉強会の内容**

高齢者のITの能力が大切ということで始めた勉強会ですが、これは講習会ではありません。勉強会というのは、皆が集まってお互いに教えあうものだからです。

この勉強会のコンセプトは3つあります。

**無料**

たいていの方は年金生活者です。高い経費だと続かないので、無料の会場を探し、PCの修理代や資料費として200円程度の実費があるだけであとは無料としました。

**無理をしない**

高齢者になると病気をもたれている方が多く、無理がききません。ですから早退、遅刻、欠席はOKで、非常に自由度が高いのが特徴です。一年で分からなければ、何年通ってもいいということにしています。

**老いを楽しむことのできる勉強**

一緒にごはんを食べながら楽しんだり、オフラインミーティングで会員の方が作った歌を皆で歌ったりしています。さらに、春と秋には花見や紅葉狩りにいったり、県外の方との交流もあります。他に囲碁、ゴルフ、短歌、俳句などのサークルもでき、老いを楽しむ様々な活動をしています。

さらに、勉強会で気をつけなければならないことは、上の3つ以外に、オリジナルテキストの利用であると思います。勉強したことを忘れるのは高齢者の特権。市販のものは分かりにくいいため、できるだけPC用語は漢字で表したり、活字は14ポイント以上にし、メガネが無くても見えるようにしています。また図をたくさん入れ、その日習ったことをテキストのとおりにやったらできるというようなものにし、ダウンロードできるようにしたり、またそうすることで、前もって予習ができたり、高知以外の人でも勉強できるようにしました。

### **シルバー高知のこれから**

シルバー高知は、パソコンや、そこでの交流を通して、生活の広がりをもたらす場所になっています。しかし、メールがリストができない方も多く、今後、無料、無理をしない、老いを楽しむというコンセプトのもと、もっとメールができる方を増やしていかなければならないと、考えています。

ケーススタディ（要旨）

## シニアネットの活動に学ぶ

山本 侃男 氏

特定非営利活動法人 NPO パソコン活用支援びんぐ  
理 事



### びんぐとは

『びんぐ』とは、パソコンをキーワードに年齢性別に関係なく、趣味や生活にパソコンを活用していく方法を紹介していこうと4年前に発足した団体です。名前の由来は、コンピュータ用語で、コンピュータ同士がネットワークでつながれているかどうか確認するための「PINGコマンド」からきており、皆さんから、『びんぐさん』という愛称で親しまれています。

### びんぐの活動の経緯

ふとしたきっかけで、現在の代表から「パソコン支援の活動をしたいので、手伝ってこないか」という連絡があり、自分にできることならと始めました。

コムズでIT講習の講座をすることになった時、20名募集のところ、200名程度の募集があり、3回に分けて行うこととなりました。そのとき、無名というのもよくないので、法人化しようということになり、『びんぐ』を立ち上げました。まず、パソコン相談窓口と独自のパソコン教室を作ろうとおもい、市内のデイケアサービスをお借りし、毎月2回、ピング広場を始めました。初めの1、2回は5、6人でしたが、チラシ配りをしたりし、そのうち参加者も増えていきました。

また、女性のための再就職支援事業としての、子育てママのパソコン講座を3年続けて行い、今年も行いました。最初の一年は延べ27日で84時間講座をしましたので、就職しても十分通用するだけの能力が育っています。昨年から今年の一月にかけては、ワードとエクセルを応募者が多いという理由で別にし、マイクロソフトの試験に87～88%が合格しました。今年もそのようにする予定です。

そして、本題の愛媛県共同事業の提案として、愛媛ITリーダー養成事業ということで2004年からNPO法人6団体における養成事業が開始されました。このとき、自分の経験から、楽しみながらパソコンをできる講座を開設できないかと考えるようになりました。

モットーは、「顔に笑顔、心に微笑み」です。松山商工会議所、松山中央商店街振興組合からお声がかかり、『おいでんか講座』をするようになりましたが、楽しいパソコン講座を目指し、習うのはその後で、まず2～3時間楽しんで帰ってください、そのついでに習ってください、という感じで講座を進めています。

『おいでんかパソコン相談サロン』は、個別相談で何を聞かれるか分からないので難しいですが、とても勉強になります。また、一回もマウスを動かしたことの無い人に、楽しいパソコン講座といっても難しいので、初心者のための基礎講座ももうけています。

## 今後の課題

『おいでんか講座』にはこの一年で1000人ぐらいの人がきています。今後は新しい人に、いかに参加してもらうかが課題です。パソコンは世代を超えた仲間づきあいができ、人と人とのつながりで元気をもらうことができます。このようにパソコンを楽しんでもらうことが課題です。

また、先に述べた6団体（今年から8団体になったが）による、シニア情報生活アドバイザーの養成というのが課題です。現在136名の合格者がますが、県下で500～1000名の資格者が出ると、さらに浸透していくのではと考えています。



## シニアネット交流広場

12月1日(木) 12:00～17:45 / 2日(金) 9:30～17:00

全国各地で活発に活動しているシニアネットの様子を四国のシニアに紹介する、愛媛県の地域ITリーダー養成事業を担っているNPOの活動を紹介します。など展示を通じて情報を交換、相互に交流を図るために常設展示として交流広場を設けました。

両日とも、昼休みには展示場に入りきれないほど盛況でした。講演の合間にも多くの方々がこられました。各地のシニアネットの活動の様子や成果は、新鮮な感動を四国のシニアに残してくれたようです。



交流広場の様子です。

パネル・机上の展示に見入る人、交流を深める人など…



【出展団体】

NPO法人アクティブボランティア21	<a href="http://www.npo-activev21.or.jp/">http://www.npo-activev21.or.jp/</a>
いちえ会	<a href="http://www.ichiekai.net/">http://www.ichiekai.net/</a>
NPO法人NPO今治センター	<a href="http://www9.ocn.ne.jp/~npo/">http://www9.ocn.ne.jp/~npo/</a>
NPO法人e - えひめ	<a href="http://e-ehime.hearts.ne.jp/">http://e-ehime.hearts.ne.jp/</a>
NPO法人おおさかシニアネット	<a href="http://osaka-senior.net/">http://osaka-senior.net/</a>
NPO法人沖縄ハイサイネット	<a href="http://e-haisai.net/index.htm">http://e-haisai.net/index.htm</a>
NPO法人シニアネットひろしま	<a href="http://www.seniornet-hiroshima.gr.jp/">http://www.seniornet-hiroshima.gr.jp/</a>
NPO法人凧ネット	<a href="http://www.ikazaki.ne.jp/">http://www.ikazaki.ne.jp/</a>
NPO法人トータルサポート21	<a href="http://npots21.web.infoseek.co.jp/">http://npots21.web.infoseek.co.jp/</a>
NPO法人NPOパソコン活用支援びんぐ	<a href="http://www.npo-ping.org/">http://www.npo-ping.org/</a>
NPO法人ぶうしすてむ	<a href="http://www.busystem.jp/index.html">http://www.busystem.jp/index.html</a>
簡単！年賀状作成体験コーナー (協力：株式会社ジャストシステム)	<a href="http://www.justsystem.co.jp/">http://www.justsystem.co.jp/</a>
ウイルスセキュリティ相談コーナー (協力：トレンドマイクロ株式会社)	<a href="http://www.trendmicro.co.jp/">http://www.trendmicro.co.jp/</a>
シニア向け コミュニティブログ紹介コーナー (協力：ニフティ株式会社)	<a href="http://www.nifty.co.jp/">http://www.nifty.co.jp/</a>

企業様にも出展いただき、シニアの皆さんのご相談にのっていただきました。



クロージングセッション（要旨）

## 閉会あいさつ

楠野 義計 氏

特定非営利活動法人 アクティブボランティア21  
理事長



閉会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

年末のお忙しい折、2日間にかけて開催されました催しに、全国多方面から大勢の方のご参加を頂きまして誠に有難うございます。また順調にプログラムが進みましたこと、充実した時間を過ごして閉会を迎えられることを大変嬉しく思います。皆様方のご協力に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

初日、基調講演・特別講演により、シニア、シニアネットについての認識を新たにされた方も多いのではないのでしょうか。学界・産業界・愛媛県・松山市という立場の異なる皆様のお話は、誠に興味深いものでありました。その後のパネルディカッションでは、徳島大学 吉田先生のコーディネートの下、先進的なシニアネット代表の皆様のお話により、シニアネットの創出と活動について、その方向性を示していただきました。そして本日のワークショップでは、シニアネットの具体的な取り組みを聞かせていただき、なお一層シニアネット像が具体化されたのではないかと思います。

四国には馴染みのない「シニアネット」という言葉が、この2日間で当たり前の言葉として定着すれば、当フォーラムの開催意義を果たしたのではないかと思います。シニアへのIT普及は四国でも進んでおります。企業や行政との協働についても、今回のフォーラムで、その下地があることは確認できました。後は、「シニア」が集い「シニアネット」を生み出すことです。「シニアネット」は、「シニア」が培ってきた経験、知識、技術を社会に還元する仕組みにもなり得ます。近い将来、四国にシニアネットが数多く誕生し、様々な取り組みがみられるようになることを願っております。

それでは、皆様の御健康とご活躍を心からお祈り申し上げまして、簡単ではございますが私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

### (3) まとめ

- (1) 当初計画を上回る多くの参加者を得、大変盛況裡のうちに終わることが出来た。四国において、こうしたシニアネットのフォーラムが開かれたのは初めてとのことであったが、緊張した雰囲気の中、熱の籠もった議論や質疑応答が展開された。「シニアネットの重要性を認識できた」「今後、シニアとして行動して行く中で大いに参考になった」「シニアネットについて初めて知ったことも多く大いに理解が深まった」等々の意見を多く聞くことが出来、参加者にとって有意義なものとする事が出来た。
- (2) アンケート結果から見られるように、「シニアネットを設立してみたい」「シニアネットに参加してみたい」と答えられた方が41%いた。参加する動機として聞いたときは多くは「シニアネットに興味があり詳しく知りたい」という方が約40%、「シニアネットを設立したい」「シニアネットに参加したい」は10%であったことを考えると、このフォーラムで大きく意識が変わられたと見る事が出来る。大きな成果を得ることができ、所期の目標を達成することが出来たものと思う。こうした成果が今後活かされ、シニアネットの普及・拡大に必ずやつながるものと確信している。大いに楽しみである。
- (3) 特別講演において、愛媛県の「地域ITリーダー育成支援事業」など自治体の取り組み姿勢に他の先駆けになっていて大変素晴らしい等、賞賛の声が多々聞かれた。シニアネットと自治体との協働（コラボレーション）について、参加者の関心の高さが伺えた。今後の活動において、ますます大きなポイントになると思う。今回は、自治体関係者の参加が比較的少なかったのは残念であったが、今後、こうした声を自治体に届けていきたいと思う。



# シニアネットフォーラム 21 in 四国 付属資料

- 「シニアネットフォーラム21 in 四国」プログラム
- 「シニアネットフォーラム21 in 四国」来場者用アンケート票
- 「シニアネットフォーラム21 in 四国」来場者アンケート調査結果

# シニアネットフォーラム21 in 四国

◇広げよう！シニアに生きがい、社会に活力 シニアネット◇

平成17年12月1日(木)～2日(金)

松山市男女共同参画推進センター(COMS)

主催 財団法人ニューメディア開発協会

この9月、65歳以上の高齢者が2556万人、人口比率で20.0%と初めて20%の大台に乗りました。実に5人に1人が65歳以上ということになります。日本の総人口は既に減少に転じている中、近いうちに団塊の世代が高齢者の仲間入りすることとあいまって、ますます高齢化が進み、早晚3人に1人が65歳以上という時代がやってくると予測されております。

高齢者がメジャーとなる時代、まさに高齢者のパワーが社会を牽引し変えていく時代になる、と言っても過言ではありません。「活老なくして繁栄なし」と言われおります通り、今後は、高齢者の社会での活躍が益々求められることとなります。

そうした中、自己実現の場を求め得意のITを駆使して社会で活躍したいとする高齢者同士が集い、組織した「シニアネット」が全国にあって、高齢者へのIT講習はじめさまざまな社会参加活動を活発に展開しております。

シニアネットは、高齢者にとっては、これまで培ってきた知識・技術・経験等を活かして社会に再び参加出来る機会をもたらし、生きがい・仲間づくりにつながっています。シニアライフを豊かに、楽しく、生き生きとしたものにしております。

更に、自治体や企業にとっても、シニアネットは諸政策・諸施策や諸事業の展開する上で、強力なパートナーとなってきております。少子高齢社会であればこそ、高齢者の豊富な知見・ノウハウを地域の情報化促進や街づくり、地域振興諸施策や事業展開に活かすことが重要となります。両者の協働（コラボレーション）が肝要です。

このようにシニアネットは、高齢者にとって、極めて意義深い組織であると言えます。高齢者の仲間入りを控えた団塊の世代の方々をも巻き込み、かかるシニアネットが全国津々浦々にあって生き生きと活躍している姿を創出していくことが急務であります。

そこで、財団法人ニューメディア開発協会と致しまして、高齢社会を活力あるものとするべく、愛媛県と共同でここに「シニアネット・フォーラム21 in四国」を開催することに致しました。「広げよう！シニアに生きがい、社会に活力 シニアネット！」と題し、シニアネットのより一層の普及と活性化を、なかなづく四国地区での普及、拡大を図ることに致しました。シニアネットの方々は勿論、シニアネットや高齢者の市民活動等に興味をお持ちの方々、団塊の世代の方々、更にシニアネットとコラボレーションをお考えの自治体や企業の方々など、幅広い分野の方々に参加頂く中、熱い議論と深い交流を通して、皆様の今後の活動につなげて頂ければと思います。

このフォーラムがきっかけとなって、シニアネットが数多く誕生し、シニアネットのより一層の普及拡大が加速され、充実したシニアライフや豊かな高齢社会の構築に貢献できれば、これに勝る喜びはありません。

是非とも、全国各地の、特に四国各県の多くの方々の、そして団塊の世代の方々のご参加を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



この催しは、競輪の補助金を受けて開催いたします。

## 【開催概要】

日時	平成17年12月1日(木) 10:00~17:45 (懇親会 18:30~20:00) 12月2日(金) 9:30~17:00
会場	松山市男女共同参画推進センター (COMS) 〒790-0003 愛媛県松山市三番町 6-4-20 tel: 089-943-5776
主催	財団法人ニューメディア開発協会
共催	愛媛県(予定)
協賛	特定非営利活動法人アクティブボランティア21
後援	経済産業省(予定) 松山市(予定)
協力	NPO法人e-えひめ 特定非営利活動法人NPO 今治センター 特定非営利活動法人水煙ネット 特定非営利活動法人凧ネット 特定非営利活動法人トータルサポート21 特定非営利活動法人NPOパソコン活用支援びんぐ 特定非営利活動法人ふうしすてむ (五十音順)  株式会社 ジャストシステム トレンドマイクロ株式会社 (五十音順)
定員	約200名
参加費	無料
参加対象	・シニアネットメンバーの方 ・シニアネットワーカーの方 ・団塊の世代の方 ・シニア情報生活アドバイザーの方 ・企業で社会貢献、シニアマーケティング、 バリアフリーなどシニア向け商品・サービスの 企画開発や販売に携わっておられる方 ・自治体で高齢者問題やコミュニティビジネス・ NPO活動推進をご担当の方 ・コミュニティビジネスやNPO活動に取り組んで おられる方

**申込方法** 下記いずれかの方法でお申込み下さい。

- ①同封の参加申込み用紙に必要事項をご記入の上 FAXにてお送り下さい。(FAX: 03-3508-1302)
- ②ホームページへアクセスして頂き、お申し込み下さい。  
(URL: <http://www.npo-activev21.or.jp/snf2005/>)
- ③同封の参加申込み用紙に必要事項をご記入の上 下記の「お問合せ先」までご郵送下さい。

**申込締切** 平成17年11月7日(月) 必着  
申込締切後「参加証」をご参加いただく方にお送りいたします。なお定員に達した時点で締め切らせていただきますのでご了承下さい。

### 《懇親会参加・昼食ご希望の方》

懇親会費: 4500円/ご昼食(弁当)代: 500円/1日

《懇親会》懇親会に参加ご希望の方は、同封の郵便振替用紙にて事前に、最寄の郵便局にて参加費をお振込み下さい。振込手数料はご負担下さい。

《ご昼食》お昼の休憩時間に手間なくご昼食を召し上がり頂けますよう、お弁当をご用意致しました。1日(1食)500円、2日分で1000円となっております。ご希望の方は、同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。振込手数料はご負担下さい。

#### ①懇親会のみご希望の方

同封の郵便振替用紙にて「4500円」をお振込み下さい。

#### ②昼食(弁当)のみご希望の方

同封の郵便振替用紙にて、下記の金額をお振込み下さい。

1日分(1食)ご希望の方 「500円」

2日分(2食)ご希望の方 「1000円」

#### ③懇親会・昼食(弁当)共にご希望の方

同封の郵便振替用紙にて、下記の金額をお振込み下さい。

懇親会+昼食1日分ご希望の方 「5000円」

懇親会+昼食2日分ご希望の方 「5500円」

お振り込み期限: 平成17年11月10日(木)

お問合せ先	「シニアネットフォーラム21 事務局」 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 18階 日本コンベンションサービス株式会社内 (担当: 石井・武笠(ムカサ)) TEL 03-3508-1209 (受付時間 平日10:00~18:00) FAX 03-3508-1302 / Eメール snf21@convention.co.jp
-------	---

### 松山市男女共同参画推進センター (COMS) への交通のご案内

- JR松山駅から
  - ・路面電車「JR松山駅前」⇒「南堀端」下車、徒歩5分
  - ・徒歩20分
- 松山市駅から
  - ・徒歩10分
- 松山空港から
  - ・空港リムジンバスでJR松山駅まで約15分
- 松山観光港から
  - ・バスでJR松山駅まで約20分
  - ・バスで松山市駅まで約21分
  - ・バスで松山市駅まで約26分
  - ・バス「松山観光港」⇒高浜駅前(約2分)
  - ・電車「高浜駅」⇒「松山市駅」(約20分)



## 【プログラム】

### 1日目：12月1日（木）

9:30~10:00	受付	
10:00~10:30	オープニングセッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者挨拶 財団法人ニューメディア開発協会 理事長 岡部 武尚</li> <li>・来賓挨拶 四国経済産業局長 塚本 芳昭氏（予定） 愛媛県知事 加戸 守行氏（予定） 松山市長 中村 時広氏（予定）</li> </ul>
10:30~12:00	基調講演 1	「シニアネットの役割 ～シニアライフの楽しみと社会参加～」 徳島大学 大学開放実践センター 教授 NPO法人いきいきネットとくしま 理事長 吉田 敦也氏
12:00~13:00	休憩（昼食）	
13:00~14:00	基調講演 2	「ITの未来がシニアの未来を切り開く ～パソコンとはシニアのもの～」 株式会社ジャストシステム 松山研究所 所長 栗田 和夫氏
14:00~15:50	特別講演	「町づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」 講演 1 俊野 健治氏（予定） 愛媛県企画情報部管理局情報政策課 課長 講演 2 竹村 奉文氏 松山市産業経済部地域経済課 課長
15:50~17:45	パネルディスカッション	「充実したシニアライフと社会参加 ～シニアネットって何？～」
	自由時間	
18:30~20:00	懇親会	

### 2日目：12月2日（金）

9:30~12:00	ワークショップ 1-3	「コミュニティビジネスを創出する」 NPO法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 顧問 堀池 喜一郎氏 「自治体との協働で地域の情報化促進」 NPO法人シニアネットひろしま 理事長 塩見 信雄氏 「交流活動を通じて社会貢献」 NPO法人沖縄ハイサイネット 会長 砂川 正男氏
12:00~13:00	休憩（昼食）	
13:00~14:40	ワークショップ 4-5	「企業との協働で社会参加」 いちえ会 主宰 大林 依子氏 「地域の魅力を高めて地域に貢献」 NPO法人知的協調参画型地域振興協会(ICP) 専務理事 野明 宏亘氏
14:40~15:00	休憩	
15:00~16:30	ケーススタディ	「シニアネットの活動に学ぶ」 ケーススタディ 1 シルバー高知 代表 門田 喜作氏 ケーススタディ 2 特定非営利活動法人NPOパソコン活用支援ぴんぐ 理事 山本 侃男氏
16:30~17:00	クロージングセッション	特定非営利活動法人アクティブボランティア21 理事長 楠野 義計氏

### 1日目/2日目 共通

12月1日（木）	12:00~17:45（予定）	シニアネット交流広場	※全国のシニアネットの活動成果を展示し、参加者相互の交流を図ります。
12月2日（金）	9:30~17:00（予定）		

## 【実施予定プログラム】

【基調講演1】12月1日（木）10：30～12：00

「シニアネットの役割 ～シニアライフの楽しみと社会参加～」

吉田 敦也氏 （徳島大学 大学開放実践センター 教授／NPO法人いきいきネットとくしま 理事長）

少子高齢社会にあって、高齢者がメジャーとなる時代、まさに高齢者のパワーが社会を牽引し変えていく時代になる。「活老なくして繁栄なし」と言われている通り、高齢者の社会での活躍が益々重要となっていく。

そうした中、「シニアネット」は、高齢者のもつ豊富な知識・技術・経験等を社会に活かして、自らの生きがい・仲間づくりや街づくり等社会の振興に重要な役割を果たしてきている。かかるシニアネットこそ、少子高齢社会の牽引役を担うに相応しく、全国的な普及拡大が望まれる。

講師は、シニアネットやNPOといった市民活動に大変造詣が深く、自らもシニアネットの責任者としてその設立や運営に関わるなど実証的な研究活動も行ってきており、この分野の第一人者である。豊富な研究を通して、シニアネットやNPOの活動が少子高齢社会におけるシニアの生きがい創出や社会参加・社会貢献にいかに関わる重要な役割を果たしてきているかを提示し、多くのシニアに、団塊の世代に、そしてとりわけ四国のシニアにこうした活動に参加するよう呼びかける。

【基調講演2】12月1日（木）13：00～14：00

「ITの未来がシニアの未来を切り開く ～パソコンとはシニアのもの～」

栗田 和夫氏 （株式会社ジャストシステム 松山研究所 所長）

少子高齢社会と高度情報化社会が同時に進展している時代において、ITはシニアの生活に深く関わってきている。特に、シニアネットの方々にはITはまさに生活必需品と化してきた。

日進月歩の発展を続けるITが、今後のシニアの生活やシニアネットの活動等にいかなる影響を与えることになるのか、そしていかなる夢をもたらすことになるのか、は大きな関心事である。そこで、IT企業の研究所の責任者として、常に世の中の先を読んで研究開発を行っている講師をお招きして、ITがもたらす魅力ある近未来像について具体的な技術動向や事例を交えながら明快に語って頂く。

【特別講演】12月1日（木）14：00～15：50

「町づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」

講演1

俊野 健治氏（愛媛県企画情報部管理局 情報政策課 課長）

講演2

竹村 奉文氏（松山市産業経済部 地域経済課 課長）

全国各地の自治体では、シニアの持つ豊富な知識、経験等を活かそうと、街おこし、地域振興、産業創生などの諸施策にシニアの参画を促す形で取り組む動きが出てきている。シニアネットの活動は優れて社会的な活動であり、こうした自治体との協働（コラボレーション）は極めて重要である。そこで、今回は特別に愛媛県及び松山市からそれぞれ責任ある立場の方をお招きし、「自治体がいかにシニアネットやNPO等の市民団体に期待しているか」を語って頂く。多くの方に是非、お聴き頂きたい。

【パネルディスカッション】12月1日（木）15：50～17：45

「充実したシニアライフと社会参加 ～シニアネットって何？～」

コーディネーター 吉田 敦也氏（徳島大学 大学開放実践センター教授  
／NPO法人いきいきネットとくしま 理事長）

パネリスト 大林 依子氏（いちえ会 主宰）

塩見 信雄氏（NPO法人シニアネットひろしま 理事長）

砂川 正男氏（NPO法人沖縄ハイサイネット 会長）

中川 幹朗氏（NPO法人おおさかシニアネット チーフディレクター）

堀池 喜一郎氏（NPO法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 顧問）（五十音順）

少子高齢社会であるからこそ、シニアが主役となって社会を盛り立てて行くことが重要である。そして、多くのシニアが結集している「シニアネット」こそ、こうした社会の牽引力になることが期待されている。

シニア自らが自己実現を果たす中、シニアライフを楽しく豊かにするとともに社会に活力を与える存在として、多くのシニアがシニアネット活動に参加し、全国津々浦々至る所で活躍する姿を作り出していくことが急務である。

そこで、全国の著名なシニアネットの代表者等にお集まりいただき、シニアネットを立ち上げた動機・想い、設立に至る経緯等を熱く語っていただき、シニアにとって、社会にとってシニアネットがいかに有意義なものであるかを皆で議論し、確認して頂く。

シニアネットの活動に勤しんでいる方々、これから加わろうと高い関心を抱いている方々等へ今後の道標を提供したい。

【ワークショップ／ケーススタディ】 12月2日（金）9：30～16：30

【ワークショップ1】12月2日（金）9：30～10：20

「コミュニティ・ビジネスを創出する」

堀池 喜一郎氏（NPO法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 顧問）

コミュニティ・ビジネスは市民が主役となり、ビジネス的に社会の課題を解決し、その収益を社会に還元するものである。生涯現役でありたいとするシニアは多い中、シニアの自己実現の場となるとともに雇用創出、産業振興につながり、シニアネットの取り組む意義は大きい。シニアSOHO普及サロン・三鷹は事業型のシニアネットとしてつとに有名であるが、そうした実績を踏まえ、いかに取り組むべきか豊富な事例を通して、具体的な道筋を探っていく。

【ワークショップ2】12月2日（金）10：20～11：10

「自治体との協働で地域の情報化促進」

塩見 信雄氏（NPO法人シニアネットひろしま 理事長）

シニアネットは、その本業とも言える「IT講習」をベースに地域社会の情報化、とりわけシニアや小中学生等の情報化を促進し、社会に活力をもたらしている。自治体との協働も進み、社会での評価も高まってきている。

NPO法人シニアネットひろしまは、広島市と協働して市民向けのIT講習を行ってきているが、ここ2、3年で実に延べ1万5千人を超える市民（概ねシニア層）にITを教え、市民から好評を博している。こうした全国でも抜きん出た実績を背景に、自治体との協働のあり方、IT講習のあり方等について、具体的な活動事例をもとに議論を重ね、今後の活動の手引きとしたい。

【ワークショップ3】12月2日（金）11：10～12：00

「交流活動を通じて社会貢献」

砂川 正男氏（NPO法人沖縄ハイサイネット 会長）

社会との関係が希薄になりがちなシニアにとって、シニアネットは社会との交流の架け橋となっている。また、シニアネット同士の交流は、お互いの活動のレベルアップにつながるだけでなく、地域社会へ新しい刺激をもたらしている。シニアネットだから出来るコミュニティ活動は社会に活力をもたらす重要な活動になってきた。

シニアネット「NPO法人沖縄ハイサイネット」は地域との交流は勿論、シニアネット同士の国内外の交流を盛んに行っている。特に韓国や米国ハワイのシニアネットとの交流を行うなど国際親善にも寄与している。こうした活動事例を通じて、その重要性を皆で確認し、交流促進に向けた具体的な方策を議論する。

【ワークショップ4】12月2日（金）13：00～13：50

「企業との協働で社会参加」

大林 依子氏（いちえ会 主宰）

シニアネットの活動において、企業との協働も重要である。シニアネットはシニアとITを結びつける、このうえない導き手であり、シニアが豊かな「ITライフ」を送れるよう、日常生活の中にITをいかに役立てていくか、会員同士楽しみながら研鑽を積んでいる。企業も社会貢献活動等を展開している中、こうしたシニアネットをパートナーとして協働する動きが出てきている。

シニアネット「いちえ会」は、いくつかの企業と協働して老人ホーム等でのIT講習を行ったり、ソフトの分かり易いマニュアル作りを行ったり、成果を上げてきている。具体的な活動事例をもとに、企業との協働のあり方について議論を深めていく。

【ワークショップ5】12月2日（金）13：50～14：40

「地域の魅力を高めて地域に貢献」

野明 宏亘氏（NPO法人知的協調参画型地域振興協会（ICP）専務理事）

各地には、それぞれ特有の文化、歴史、自然があり。人々が長年に亘って育んできた。こうした地域の遺産をITを駆使して更に魅力あるものにし、これを国内外に発信、皆が享受するなか、次世代に伝えていくことは極めて重要なことである。歴史文化観光都市鎌倉に拠点を置くシニアネット「ICP」は自らの責務として、豊かな知見や得意のITを生かして、地域ならではの魅力を高め、地域振興に貢献している。シニアネットの主要な活動の一つとして、皆で議論を深め、今後の活動の糧としたい。

【ケーススタディ】12月2日（金）15：00～16：30

「シニアネットの活動に学ぶ」

ケーススタディ1 門田 喜作氏（シルバー高知 代表）

ケーススタディ2 山本 侃男氏（特定非営利活動法人NPOパソコン活用支援ぴんぐ 理事）

シニアネットの普及拡大とその活性化を図るため、四国内の2つのシニアネットより、設立の主旨や活動事例を通してその課題や成果等、活動状況をご紹介して頂く中で、シニアネットの設立やその活動を活性化させるために必要と思われる諸条件や取り組み方について提言をしていただき、シニアネットの普及を呼びかけて頂く。

【シニアネット交流広場】12月1日（木）12：00～17：45／12月2日（金）9：30～17：00（予定）

各地で活発に活動しているシニアネットの活動を展示する。展示を通じて情報を交換し、相互に交流を図ることで、今後のシニアネットの活動の糧として頂ければと思う。

# シニアネットフォーラム21 in 四国 アンケート

財団法人 ニューメディア開発協会

アンケートにご協力をお願い致します

1. あなたが参加されたプログラムは何ですか。参加されたものすべてに をつけてください。
  - イ. 基調講演 I 「シニアネットの役割 - シニアライフの楽しみと社会参加 - 」
  - ロ. 基調講演 「ITの未来がシニアの未来を切り開く - パソコンとはシニアのもの - 」
  - ハ. 特別講演「街づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」
  - ニ. パネルディスカッション「充実したシニアライフと社会参加」
  - ホ. ワークショップ1「コミュニティビジネスを創出する」
  - ヘ. ワークショップ2「自治体との協働で地域の情報化促進」
  - ト. ワークショップ3「交流活動を通じて社会参加」
  - チ. ワークショップ4「企業との協働で社会参加」
  - リ. ワークショップ5「地域の魅力を高めて地域に貢献」
  - ヌ. ケーススタディ「シニアネットに学ぶ」
  
2. あなたが「シニアネットフォーラム21 in 四国」に参加された動機についてお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ をつけてください。
  - イ. 自身のシニアネットでの活動に役立てるため
  - ロ. シニアネットを自分で設立する際に役立てるため
  - ハ. シニアネットに参加するにあたって役立てるため
  - ニ. シニアネットに興味・関心があり、詳しく知るため
  - ホ. その他（以下に具体的にお願いします）

.....

.....

.....
  
3. 今回「シニアネットフォーラム21 in 四国」に参加されて、ご自身シニアネットにどのように関わっていきたいと思われましたか。あてはまるものにひとつだけ をつけてください。
  - イ. 既にシニアネットで活動しているが、さらに活発に活動したい
  - ロ. シニアネットを自ら設立し、始めてみたい
  - ハ. 身近なシニアネットに参加してみたい
  - ハ. シニアネットについてさらに詳しく知り、勉強したい
  - ニ. 別段関わっていこうとは思わない。
  - ホ. よくわからない（よくわからなかった点があれば以下にお願いします）

.....

.....

.....

4. 「シニアネットフォーラム 21 in 四国」に参加されて、シニアネットという組織とその活動について、理解は深まりましたか。あてはまるものにひとつだけをつけてください。

イ. シニアネットについての理解が非常に深まった

ロ. シニアネットについての理解が深まった

ハ. あまり理解が深まらなかった

ホ. その他（以下に具体的にお願いします）

.....  
.....  
.....

5. 「シニアネットフォーラム 21 in 四国」の全体の感想についてお聞かせください。あてはまるものにひとつだけをつけてください。また、全体的なご意見等がありましたら、ご自由をお願いします。

イ. 今後の活動や設立・参加のために大変役に立った

ロ. 今後の活動や設立・参加のために役に立った

ハ. 期待したほど参考にならなかった

ご意見（全体的なご意見等ありましたらご自由をお願いします）

.....  
.....  
.....  
.....

6. 「シニアネット交流広場」(展示コーナー)はいかがでしたでしょうか。ご意見や感想など自由にお書き下さい。

.....  
.....  
.....  
.....

7. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るためには、どのようなことが必要であるとのお考えですか。ご意見をお聞かせください。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

8. 今後の「シニアネットフォーラム 21」で、取り上げるべきとお考えの講演、パネルディスカッション、ワークショップ等のテーマや、呼んでほしいとお考えの講師等があれば、ご自由にお書きください。(できればその理由もお願いします)

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

9. あなたご自身のことについてお聞きします。

性別： 男 女

年齢：

ご住所(市区町村まで)： 都・道・府・県 市・区・町・村

所属：

イ. シニアネット、NPO法人を含む各種団体、組合、グループ

(名称： )

ロ. 行政機関(名称： 部署： )

ハ. 民間企業(名称： 部署： )

ニ. その他 (名称： )

ホ. どこにも所属していない

パソコン経験年数：約 年

生活の中でパソコンをどのように活用していますか。また活用していきたいですか。

ご自由にお書き下さい。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

アンケートはこれでおしまいです。どうもご協力有難うございました。

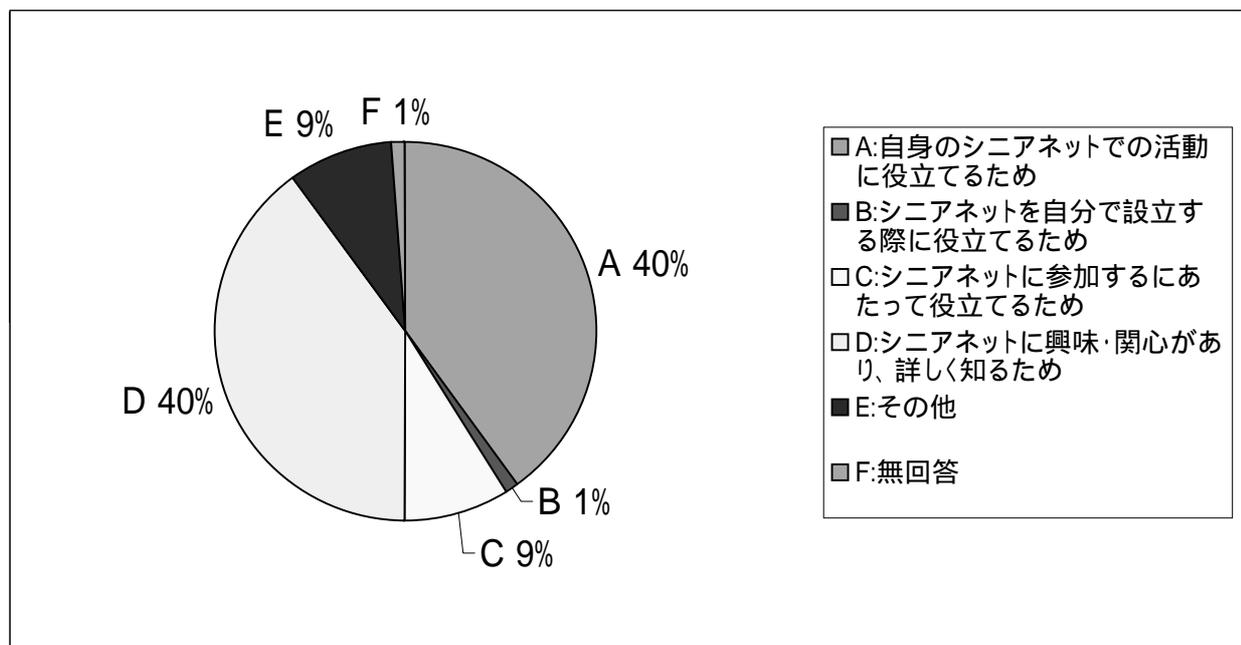
## アンケート調査結果

以下の各項目最初の項番は、アンケート票のものと共通

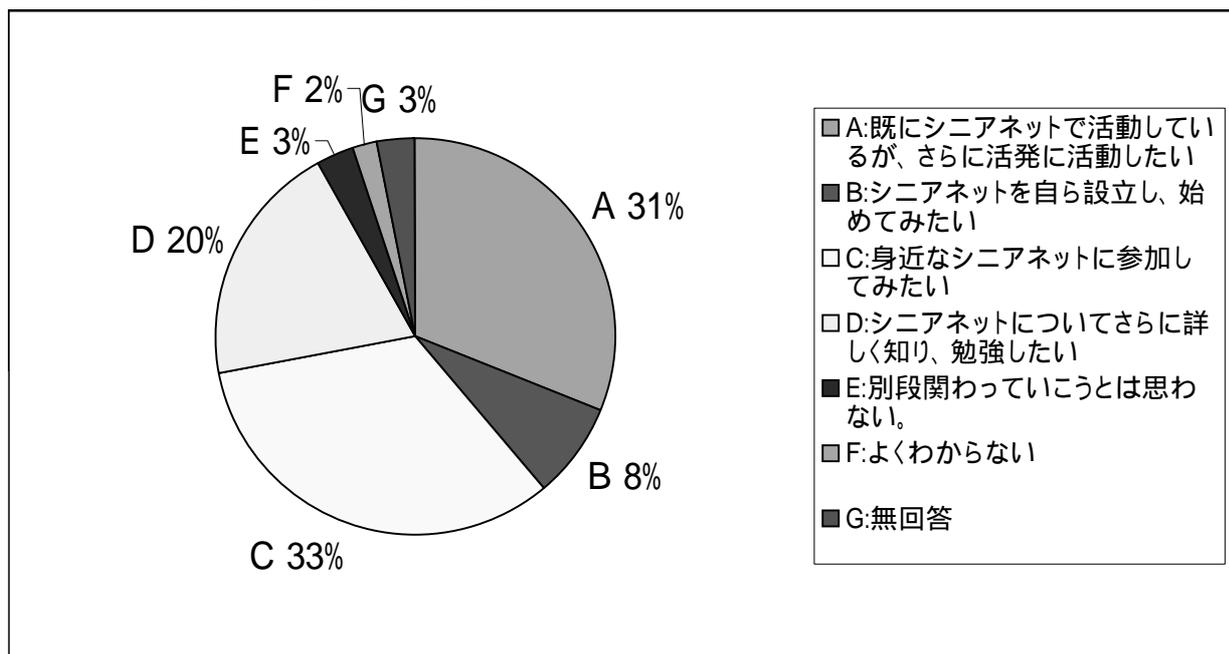
### 1. あなたが参加されたプログラムは何ですか

イ.	基調講演Ⅰ「シニアネットの役割 - シニアライフの楽しみと社会参加 - 」	76%
ロ.	基調講演 「ITの未来がシニアの未来を切り開く - パソコンとはシニアのもの - 」	74%
ハ.	特別講演「街づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」	63%
ニ.	パネルディスカッション「充実したシニアライフと社会参加」	54%
ホ.	ワークショップ1「コミュニティビジネスを創出する」	32%
ヘ.	ワークショップ2「自治体との協働で地域の情報化促進」	34%
ト.	ワークショップ3「交流活動を通じて社会参加」	29%
チ.	ワークショップ4「企業との協働で社会参加」	31%
リ.	ワークショップ5「地域の魅力を高めて地域に貢献」	34%
ヌ.	ケーススタディ「シニアネットに学ぶ」	32%
無回答		6%

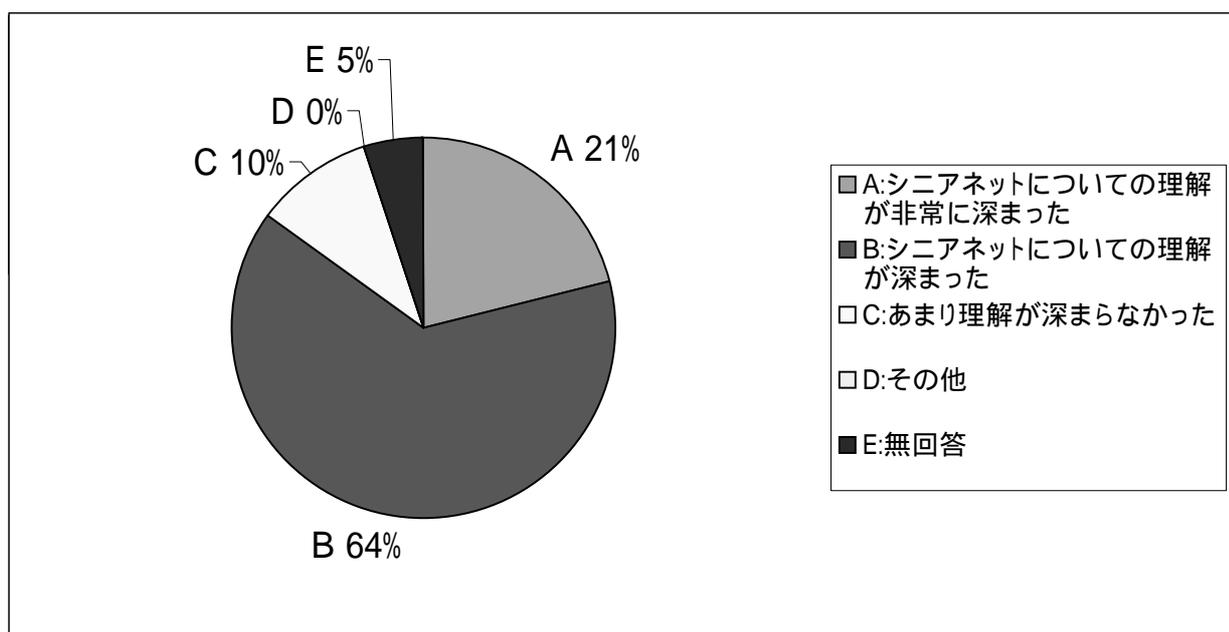
### 2. 「シニアネットフォーラム21 in 四国」に参加された動機



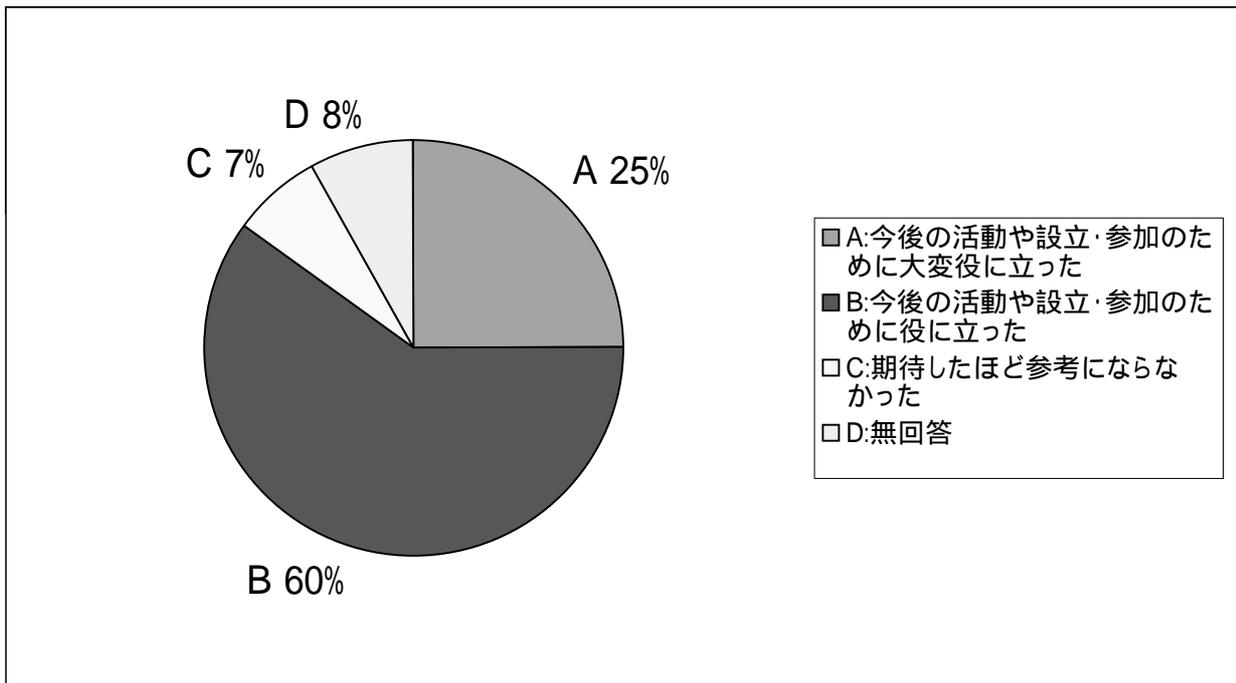
3. 「シニアネットフォーラム21 in 四国」に参加されて、ご自身シニアネットにどのような関わっていきたいと思われましたか。



4. 「シニアネットフォーラム21 in 四国」に参加されて、シニアネットという組織とその活動について、理解は深まりましたか。



5. 「シニアネットフォーラム21 in 四国」の全体の感想についてお聞かせください。



ご意見（全体的なご意見等ありましたらご自由をお願いします）

- ・ 情報通信企業の販売分野に携わっていたが、最近退職。自分自身がシニアの仲間入りをしたこともあり、大変刺激になった。何らかの形で活動に参加したい。
- ・ 行政のIT育成事業、特に地域ITリーダー養成事業は、画期的、全国的にみても素晴らしい政策であり、感銘を受けた。
- ・ NPO活動とビジネス活動との兼ね合いがおぼろげながら分かった様な気がする。
- ・ 有料・無料のソフトに関わらず、便利で楽しいソフトの説明は非常にわかりやすく、今後大いに利用しようと思います。
- ・ 参加して学べるところを探したい。
- ・ 初めて知ることが多かった。
- ・ 基調講演 が興味深く面白く聞くことができた。簡単に私も出来るという感じでわかりやすい講演でした。
- ・ シニア情報生活アドバイザー資格に挑戦したくなった。
- ・ パネルディスカッションの時間が短かった。

6. 「シニアネット交流広場」(展示コーナー)はいかがでしたでしょうか。ご意見や感想など自由にお書き下さい

- ・面白かった。刺激を受けた。
- ・各団体の情報発信にさまざまな工夫があり、今後の参考となった。
- ・各団体の活動内容、状況が良くわかり理解できた。
- ・もう少し展示物が多くても良かったのではないかと。多彩なものが欲しい。
- ・自団体でも社会にPRするための参考になった(特に「いちえ会」のサークル活動)。
- ・展示スペースが狭かった。
- ・担当者をおいて紹介するべきでは
- ・ソフトを十分に使いこなせるようスキルアップを図る必要性を感じた。

7. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るためには、どのようなことが必要であるとお考えですか。ご意見をお聞かせください。

- ・ 行政や企業との協働
- ・ シニアネットの事業紹介(情報発信)を常に実施していただきたい。
- ・ 組織運営のコンセプトを確立して独立的運営ができることが最重要事項。その上で関連組織と連携を図ること。
- ・ PCの普及。シニアは経済的に余裕があると言われているが、お金を使わせるだけの価値を付加する必要あり。
- ・ 現有シニアネットの地区小組織を育成済リーダーを核に拡げてゆく「あちこちシニアネット」が育つようなPRを是非実施願いたい。
- ・ ボランティアだけでは限られた活動になってしまう。使いやすいパソコン、高齢者にやさしいソフトウェア、対話(動画)できる程度の通信環境整備。
- ・ 福祉の予算を回すべき
- ・ シニアネットや情報生活アドバイザーの活動をPRすること。
- ・ 全国の公民館に眠っているパソコン(政策によってばらまかれたもの)とシニア情報生活アドバイザーを結びつけて有効に活動すること。協会の力で実現して欲しい。
- ・ 「シニア情報生活アドバイザー」資格を地方自治体職員(中高年)が取得する。
- ・ 会員拡大、シニアネット活動のノウハウ、ネット間の交流・組織化
- ・ 定期的なフォーラムの開催。松山だけではなく、地域に於いても講演会を開催、情報交換をして欲しい。
- ・ 活動する場が欲しい。特に行政にお願いしたい。
- ・ 国・県・市町・企業の一体化、全国民の活用が必要。

8．今後の「シニアネットフォーラム21」で、取り上げるべきとお考えの講演、パネルディスカッション、ワークショップ等のテーマや、呼んでほしいとお考えの講師等があれば、ご自由にお書きください。（できればその理由もお願いします）

- ・ 行政の人の具体的な協働事例発表
- ・ 楽天、ライブドアなどのIT企業とシニアネットがコラボできるのか、高齢社会をどのように捉えているのか聞いてみたい。
- ・ 泥臭い活動で、四苦八苦した内容がもっと分かる発表があると、発展途中のシニアネット関係者にとって参考になると思います。
- ・ 携帯電話の将来について
- ・ 海外事例
- ・ 情報セキュリティ
- ・ 団塊の世代の団体の講演を聞いてみたい。
- ・ NPOと行政の連携
- ・ PCを利用したネットワーク、シルバーに対する取組み
- ・ シニアネットの役割
- ・ 過疎高齢地域では情報交換が難しいので、個人でも情報提供してもらえたい。
- ・ ちょっとしたつまづきを解決してくれる人
- ・ プログラミング講座
- ・ IT業界の最新情報
- ・ 大川加世子さん。以前お話を聞いて興味深かったから。

**平成17年度 シニアネット構築研究会**

**シニアネットフォーラム 21 in 四国**

**広げよう！シニアに生きがい、社会に活力 シニアネット  
開催報告書**

**編集・発行**

**財団法人 ニューメディア開発協会**

**〒108-0073 東京都港区三田1 - 4 - 28 三田国際ビル23階**

**発行日 2006年1月**



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。

平成 17 年度

シニアネット構築研究会

# シニアネットフォーラム 21 in 東京

◇楽しむなかで社会の支えに～団塊の世代も～◇

【報 告 書】

## 目 次

1. 開催の主旨	2
2. 実施要項	3
3. プログラム構成のポイント	4
4. 実施状況	
(1) 参加状況	9
(2) 実施内容	
①主催者挨拶	10
②来賓挨拶	11
③基調講演	
「少子高齢社会こそシニアが主役」	12
④特別講演	
「シニアの発信こそ楽しさと豊かさ」	16
⑤パネルディスカッション	
「新時代に向けてシニアネットの役割とその方向性を探る」	23
⑥ワークショップ	
1. 地域住民への教育活動で社会参加	33
2. 交流活動でたのしく、そして地域に活力	37
3. 行政との協働で社会貢献	40
4. 資産の継承で地域振興	45
5. コミュニティビジネスで生涯現役	51
⑦特別セミナー	
「インターネットを安心して使うためのセキュリティ講座」	58
⑧シニアネット交流広場	62
～会場風景～	63
⑨閉会挨拶	64
(3) まとめ	65
資料	66

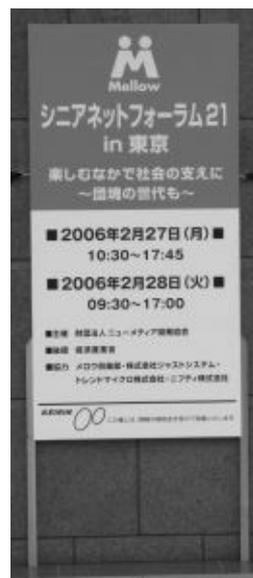
## 1. 開催の主旨

わが国は世界でも例を見ないほどの勢いで少子高齢化が進んでいる。「活老なくして繁栄なし」と言われている通り、今後、シニアの社会での活躍がより一層重要となる。シニアが人口の面でもメジャーとなる時代、社会はこれまでと大きく変わらざるを得ない。まさにシニアのパワーが社会を変える原動力となることが期待されている。

そうした中において、多くのシニアが全国諸地域で「シニアネット」を組織し、自らが持つ豊富な知識や経験、優れた技術・ノウハウを地域に還元し、社会にお役に立ちたいと様々な活動を展開している。かかる活動を通して「メロウ・ソサエティ構想」推進の中核となり、地域に活力を与える重要な役割を果たしている。こうしたシニアネットが全国津々浦々において活動を展開することが地域にとって極めて重要なことと考えている。

そこで、今年度の第2弾として「楽しむなかで社会の支えに～団塊の世代も～」と題し、「シニアネット・フォーラム21 in 東京」を開催し、シニアネットのより一層の普及と活性化を促すこととした。さらに近いうちに団塊の世代が定年を迎え、多くの団塊の世代が地域に戻ってくることになるが、それに先立ち、こうしたシニアネットへの参画を促すことも視野に入れて行うこととした。

また、シニアネットが全国各地で活動してきた成果を集大成し、それを基に深い議論を展開し、その経験、ノウハウや課題等を共有することで今後の発展につなげることとした。シニアネットの活動は、その設立の趣旨等により多岐にわたり、様々な成果を生み出してきている。中でもシニアネットの主な活動である「学び」「交流」「コミュニティビジネス」「地域文化資産の保存や継承」「自治体との協働による街おこし」等5つのテーマについて、シニアネットの具体的な活動事例を基に今後のあり方を徹底討論し、更なる向上を図った。



会場玄関前の看板



講演に聴き入る参加者

## 2. 実施要項

- (1) 日時
  - 第1日目 平成18年2月27日(月) 10:00~18:00
  - 第2日目 2月28日(火) 9:30~17:00
- (2) 会場  
全共連ビル(東京都千代田区平河町2-7-9)
- (3) 主催  
財団法人 ニューメディア開発協会
- (4) 後援  
経済産業省
- (5) 協力  
メロウ倶楽部  
株式会社ジャストシステム、トレンドマイクロ株式会社、ニフティ株式会社
- (6) 定員及び対象者  
約200名
  - ①シニアネットへの参加や新規設立等シニアネットに関心のある方
  - ②シニアネットのメンバーの方
  - ③団塊の世代の方
  - ④シニア情報生活アドバイザーの方
  - ⑤NPO活動に参加されている方
  - ⑥自治体で情報政策やNPO活動推進、高齢者問題等に関わっておられる方
  - ⑦企業で社会貢献、シニア向け商品・サービスの企画開発等の関係者
  - ⑧その他



ワークショップ風景

### 3. プログラム構成のポイント

開催の趣旨に即し「楽しむなかで社会の支えに～団塊の世代も～」というキャッチフレーズのもとに、シニアネットの新規設立を促しその普及・拡大を図るとともに、活動の更なる向上を図るものとした。

そのため、プログラムを「基調講演」「パネルディスカッション」「特別講演」「ワークショップ」「シニアネット交流広場」の五本柱で構成し、皆が議論や交流に直接加わることができる「参加型」を目指すこととした。

#### (1) 基調講演・特別講演

下記の通り、基調講演・特別講演として1件ずつ用意することとした。基調講演には、シニア及びシニアネットの活動が少子高齢社会においていかに重要であるかを説いて、その生き方を問うとともにシニアネットの普及を促すものとし、特別講演には、シニアネットにとって重要なITの進歩がシニア自らの生活や活動にどのような影響をもたらすことになるのか、今後を展望するものとした。

①基調講演では、「少子高齢社会こそシニアが主役」と題し、少子高齢社会にあって、シニアが数の上でもメジャーとなる時代、まさにシニアのパワーが社会を変えていくととっても過言ではない。団塊の世代が定年を間近に控え、より一層高齢化が進む中、シニアの社会での活躍がますます重要となってくる。また、人生80年、シニアにとって充実したシニアライフを送ることが極めて重要である。「シニアネット」はこうした両面を満たすものとして、シニアにとってそして社会にとって大変有意義な組織であり、その普及拡大が急務である。

2007年に新しい局面を迎えることを見越し、今後のシニアの生き様について、そしてシニアネットやNPO活動などシニアの社会参加の重要性について語っていただくこととした。

②特別講演では、「楽しもう！ デジタルシニアライフ」と題し、少子高齢社会と高度情報化社会が同時進行する時代において、ITはシニアの生活に深く関わっている中、ITの進歩がシニアの生活やシニアネットの活動にどのような影響を与え、いかなる夢をもたらすことになるのか、研究開発状況や技術動向をもとに具体的な事例を織り込みながら、今後の活動の参考となる近未来について語って頂くこととした。

未来のITはシニアに優しくなり、社会参加を支援するものになる。シニアこそデジタルライフを楽しむべきであるとの持論を有する情報工学の専門家をお招きし、ユビキタス時代を生きるシニアの新しい生き方、デジタルライフについて展望する。

#### (2) パネルディスカッション

「新時代に向けてシニアネットの役割とその方向性を探る～楽しむなかで社会の支えに～」と題し、近いうちに大量の団塊の世代が定年になるといった新しい局面を迎えるにあたり、大きな飛躍が期待されるなか、今後のシニアネットのあり方を探ることとした。大量に誕生する団塊世代のシニアをシニアネットの活動に巻き込むことでシニアネットの大きな拡大と飛躍が、そしてそれがもたらす地域振興が大きく期待される。また、人生80年、シニアライフを楽しく豊かに過ごすためにもシニアネットの存在意義は非常に高いものがある。一つの転機が訪れようとしているなか、今後のシニアネットのあり方、方向性を皆で議論し、共有することは極めて重要である。

そこで、各地で活躍されているシニアネットの代表者やシニアネット、NPO等と協働する自治体や企業の関係者を招き、そして団塊の世代の方々の参加も得て、今後のシニアネットのあり方を熱く語り合っていたいただくこととした。

#### (3) ワークショップ

シニアネットはその設立の理念や目的により、それぞれ創意工夫を凝らした特徴ある素晴らしい活動を展開し、地域の発展に寄与している。かかる背景にあって、シニアネットの活動の更なる向上を図ることは極めて重要なことである。その活動形態はいくつかのジャンルに分けることが出来るかと思うが、今回、5つのワークショップを設け、そうした活動形態を同じくする方々等その活動形態に関心ある方同士が集い、日ごろの問題意識や考えを持ち寄るなか、現状の課題や今後の展開について議論を深め、今後の活動のより一層の飛躍を図ることとした。

### ①ワークショップ1「地域住民への教育活動で社会参加」

多くのシニアネットは、地域住民、とりわけシニア向けのIT講習はじめ様々な教育活動を展開している。シニアの持つ豊富な知識、経験、ノウハウなどを地域に還元することは単に学び合うだけでなく、世代を超えた人たちとの交流の促進や地域コミュニティづくり強化など地域に元気をもたらしている。そこで、こうした「学びの場」を通して社会に参加することの重要さや「学び」等の活動のあり方等について議論を深め、今後の活動について具体的な方策を導き出すこととした。

### ②ワークショップ2「交流活動で楽しく、そして地域に活力」

社会との関わりがややもすれば疎遠になりがちなシニアにとって、シニアネットは地域との交流の機会をもたらし、シニアライフを充実したものにしている。また、シニアネット同士の交流は、お互いの活動に大きな励みとなるばかりでなく地域にも新しい刺激をもたらしている。地域に根差した活動を展開しているシニアネットだからこそ出来る地域コミュニティ活動は地域に活力をもたらすものとして重要なものとなっている。

そこで、その取り組み方や課題等について、ケーススタディを行う中で、今後の活動について具体的な方策を見いだすこととした。

### ③ワークショップ3「行政との協働で社会参加」

地域おこし、仕事おこしといった地域活性化の活動はシニアネットにとって極めて重要なものである。そのために自治体との協働（コラボレーション）は極めて重要である。自治体としても、高齢化の進む中、シニアの力に期待する動きが出てきている。

今後、両者の協働をいかに深め、広げ、相互信頼のもと共に手を携えて地域の振興に邁進していくべきか、その具体的な方策を探ることとした。

### ④ワークショップ4「資産の継承で地域振興（歴史・文化などの保全と伝承）」

今、昭和の時代が人気を呼び、地球規模では世界遺産の動きが注目を浴びている。様々な貴重な遺産を次代に残すことの重要さに皆が気がついた。シニアには郷土の歴史や文化、自然等に通じている人が多く、そうした財産を守り、次代に引き継ぎ地域の振興につなげることは明るい未来の礎をつくることはシニアの重要な役割でありシニアネットの大事な活動の一つである。

そこで先進団体の活動事例を通じて、皆でその意義について認識を深め、具体的な方策等について議論を展開し、今後の活動指針を探っていく。

### ⑤ワークショップ5「コミュニティビジネスで生涯現役」

生涯現役でいたいと願うシニアは多く、そうした中、コミュニティビジネスを主な活動とする「事業型」のシニアネットが増えつつある。人材の宝庫であるシニアネットならではの活動は、シニアの自己実現の場として、そして新たな雇用促進や地域起こしにつながるものとして極めて重要である。

そこで、コミュニティビジネスの新規設立や更なる活動の練り上げ等、具体的な事例研究を通して議論を深める中、今後の活動の方法論やあり方等を探る。新しく取り組もうとされる方々を含め多くの方へ今後の活動のガイドを提供したい。

### ⑥発表会

5つのワークショップの代表が議論の骨子を発表する場を設け、参加者全員が情報を共有できるようにし、今後の活動の参考に供することとした。

(5) シニアネット交流広場

多くの関係者が参加するこの場において、全国のシニアネットが日ごろの活動成果を展示・発表することで、自らの活動をPRするなか参加者との相互交流を深め、お互いの活動の向上に役立てて頂くこととした。更に、シニアネットは日ごろ、どのような活動をしているのか、シニアネットというものに関心を抱いている多くの参加者に今後の参考のために具体的事例を提供することとした。

(6) 特別セミナー「インターネットを安心して使うためのセキュリティ講座」

昨年度初めて実施し好評を博した講座の第2弾として、昨年度よりさらに深い内容をわかりやすく解説する講座を開催する。シニアのみならず多くの人がウイルスやインターネットでのトラブルに悩まされている現実を踏まえ、ウイルスばかりではなく、スパイウエア、ネット詐欺等様々な脅威から自ら身を守る方法について専門家に解説して頂くこととした。



基調講演の堀田力氏



特別講演の安田浩教授

# プログラム

1日目：2月27日（月）

10：00～10：30	受付	
10：30～10：45	オープニング セッション	<input type="checkbox"/> 主催者挨拶 財団法人ニューメディア開発協会 理事長 岡部 武尚 <input type="checkbox"/> 来賓挨拶 経済産業省商務情報政策局 情報プロジェクト室長 市原 健介氏
10：45～12：15	基調講演	<input type="checkbox"/> 「少子高齢社会こそシニアが主役」 財団法人 さわやか福祉財団 理事長 堀田 力氏
12：15～13：30	休憩(昼食)	
13：30～16：30	パネル ディスカッション	<input type="checkbox"/> 「新時代に向けてシニアネットの役割とその方向性を探る」 ～楽しむなかで社会の支えに～ コーディネーター 田中 尚輝氏(社団法人 長寿社会文化協会 常務理事) パネリスト 古賀 直樹氏(シニアネット ジャパン 代表) 奈良原 眞吉氏(NPO法人自立化支援ネットワーク 理事長) 栢山 日出男氏(東京都福祉保険局 高齢社会対策部 計画課長) 松宮 光予子氏(日本アイ・ビー・エム株式会社 社会貢献部長) 柳原 正年氏(富山社会人大楽塾 代表) (以上五十音順)
16：30～16：45	休憩	
16：45～17：45	特別セミナー	<input type="checkbox"/> 「インターネットを安心して使うためのセキュリティ講座」 (協力：トレンドマイクロ株式会社)
17：45～18：00		
18：00～19：30	懇親会	マツヤサロンにて

2日目：12月2日（金）

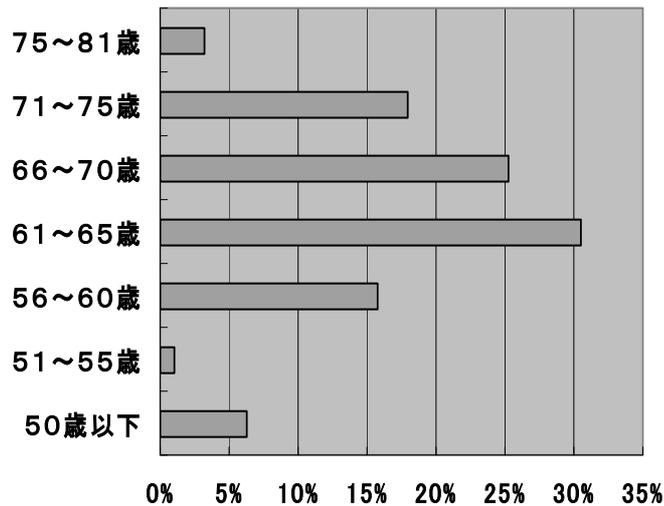
9:00~9:30	受付	
9:30~12:30	ワークショップ	<p>「更なる活動を目指して」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ワークショップ1「地域住民への教育活動で社会参加」 塩見 信雄氏(NPO法人シニアネットひろしま 理事長) 曾根 清次氏(NPO法人コムワーク 事業推進部長)</li> <li>2 ワークショップ2「交流活動で楽しく、そして地域に活力」 砂川 正男氏(NPO法人沖縄ハイサイネット 会長) 福岡 壽夫氏(熊本シニアネット 代表)</li> <li>3 ワークショップ3「行政との協働で社会参加」 井上 文雄氏(仙台シニアネットクラブ 代表) 高橋 克司氏(NPO法人とかちシニアネット 理事長)</li> <li>4 ワークショップ4「資産の継承で地域振興」 高木 正幹氏(NET・陽だまり 前会長) 若宮 正子氏(メロウ倶楽部 幹事)</li> <li>5 ワークショップ5「コミュニティビジネスで生涯現役」 久保 律子氏(NPO法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 代表理事) 能田 幸生氏(NPO 法人トータルサポート21 理事長)</li> </ol>
12:30~13:30	休憩（昼食）	
13:30~14:30	シニアネット 交流広場	<input type="checkbox"/> シニアネットの成果展示を核とした皆様の相互交流の場。
14:30~15:30	特別講演	<input type="checkbox"/> 「シニアの発信こそ楽しさと豊かさ」 安田 浩氏(東京大学 国際・産学共同研究センター 教授)
15:30~17:00	ワークショップ 発表 クロージング セッション	<input type="checkbox"/> 各ワークショップ代表者 「総括」 小澤 恭一氏(メロウ倶楽部 代表)

## 4. 実施状況

### (1) 参加状況

二日間で延べ420名を超す参加があり、定員を大きく上回る結果となり、大盛況の裡に終わることが出来た。特に一日目は用意した席が不足し、途中から椅子を追加するほどの盛況であった。参加者の熱心かつ活発な意見交換や質疑応答がなされるなど、大変有意義なものとする事ができた。

また、近いうちに団塊の世代が定年を迎え、大量のシニアが地域に戻ってくることから、団塊の世代にもこのシニアネットの活動を認識していただくべく、今回は特に本フォーラムへの参加を呼びかけたが、60歳以下の方が20%強を占めるなど、かなり興味を持っていただいたようである。



### (2) プログラムの実施概要

今回は、基調講演・特別講演、パネルディスカッション、ワークショップ、シニアネット交流広場、特別セミナーと、シニアネットの普及拡大を図るとともに活動のより一層の飛躍を図る内容とした。そのためいずれも参加者が積極的に議論に加われるよう「参加型」で実施した。

各プログラムの内容については、その骨子を以下に記すこととする。

## 主催者挨拶

岡部 武尚

財団法人ニューメディア開発協会 理事長



みなさま、おはようございます。本日は、第6回目のシニアネットフォーラムに、大変多くの方々がお忙しいなか、ご出席いただき、感激、感慨ひとしおでございます。

ご承知のとおり、いま、日本では、大変な高齢化社会を迎え、昨年の9月には、遂に65歳以上の高齢者の方々が5人に1人、20%を超えるという状況になったと聞いております。この状況は、これからもどんどん進み、おそらく、10年、20年先には、4人に1人、あるいは、3人に1人となります。日本は高度経済成長で豊かな国になってきましたが、これから、高齢化を迎えた段階で、どういう国になるか、どう生きていったらいいか心配です。そういうなかで、これから、より豊かで、安心、安全な社会を形成するために、従来にも増して、国民のみなさま一人一人が、元気で活躍いただく必要があります。若年労働者の減少とともに、シニアの活躍の機会が、どんどん増えてくると思っております。いままでシニアの方々が、ご活躍されていたなかで得られて経験や技術や知恵を活用されて、これからの社会を発展させるためにご活躍いただきたいと思っております。

ニューメディア開発協会は、そういう観点で、従来からシニアネットの普及に努めているわけですが、おかげさまで、現在、全国で、約100のシニアネットが立ち上がりました。それらのシニアネットが、シニア情報生活アドバイザーという専門家の方々を養成し、その数は、2200名に達しました。これらの方々が全国で、シニアの方々、地域のコミュニティの若い人、あるいは、女子、いろいろな方々の、ことITだけではなく、ITに関するいろいろな講習やセミナー活動、ITを活用した趣味の世界、あるいは、新しいビジネスを起こすためのお手伝いなどを行なっております。そのような活動を通じて、地域に根ざした新たな産業や生活の場を大いに醸成し、日本の経済や社会を活性化していただけると確信しております。

きょう、あす、2日にわたって、そういう成果について、全国、北海道、あるいは、沖縄から専門家の方々に来ていただいて、いろいろな意見を言っていただき、みなさまの参考にしていただきたいと思います。

本日の開催にあたりましては、経済産業省の御後援、あるいは、メロウ倶楽部を始め、多くの方々のご協力をいただきました。お礼を一言申し上げます。

本日は、たくさんの方々のご出席、誠にありがとうございました。

## 来賓挨拶

市原 健介氏  
経済産業省商務情報政策局  
情報プロジェクト室長



本日、お集まりのみなさまが、このすばらしい雰囲気の間を作っておられることを一緒に喜びたいと思います。

このシニアネットフォーラムは、10年以上前に、当時の通商産業省の施策として発足したメロウソサエティがきっかけでした。それが、このように大きな、地に足が着いた草根活動にまで発展したのは、みなさまと、シニア情報生活アドバイザーや、その裏で支援いただいているニューメディア開発協会の多大なる活躍の賜物と敬意を表する次第です。

21世紀直前に、当時の通商産業省で、2025年を展望して、21世紀の経済社会の展望しようという研究を2年間にわたって行いました。そのときに出てきたのは、世界的な市場の一元化、地球環境問題、エネルギーの制約、20世紀に投資した社会資本の維持、国や地方公共団体のたくさんの借金などの大きな課題で、その中でも重要なのが、少子高齢化でした。当時の人口推計を見ても、2025年には、65歳以上の高齢者が3割になることがわかりました。しかし、われわれは、あえて、心配する必要はない、個々人が希望と能力を活かすべく、みんな自分の思いを実現するように社会に参画すれば経済活動は活性化すると、「競争力ある多参画社会」という標語を掲げたビジョンを2000年3月に発表しました。その基本は、年齢にかかわらず、自分の好きなように社会と関わり、生涯にわたって自己実現を図りましょうということです。会社を外れても、NPOもあるし、やりたいことをどんどんやっていくチャンスはいくらでもあります。経済の活性化は、個人個人の自己実現のための活動の結果として現れます。きょう、この場で、この考えが間違っていなかったことを実感しております。

ここでたとえ話ですが、自動車売る人は、単に移動手段を売っているわけではなく、本当は安心、安全、地球環境への貢献、旅の思い出などを売っています。美容院は、髪を切るサービスだけを売っているわけではなく、美容師との会話などの付加価値で差別化をしています。では、シニアネットが提供する価値とは何でしょうか。シニアネットは、ITを教えるだけでなく、ITという道具を使って、世の中みんなの活躍の可能性を広げ、知的な喜びを伝え、生活を豊かにしています。これを一言であらわせば、みんなに「夢」を与えることが、みなさんの使命ではないかと思えます。

このような活動がますます盛り上がっていくことを祈念申し上げて挨拶といたします。

## 基調講演

### 『少子高齢社会こそシニアが主役

～ シニアが主役の社会とはどうあるべきか ～』

堀田 力 氏

財団法人 さわやか福祉財団 理事長



今日は普段の私の講演の様子とは大分違いまして、いつもはヘルパーさんやボランティアの方が多いのです。そこではいつも私は大企業の出身者や官庁のOBは地域社会の持て余しものであると申しておりますが、本日はそういった方々がずらりとお揃いでどう申していいか。少子高齢社会こそシニアが主役という演題を頂戴しましたが。確かに高齢者も結構がんばっているのだけれども、地域の活動や福祉、教育、子育てなどの分野では、大企業や官庁OBの方々の姿が見受けられない。彼らは仕事人間で地域や家の中に居場所がないので、濡れ落ち葉とも粗大ごみなどとも言われている。また産業廃棄物とか最近では核燃料廃棄物とまで言われている。これはどこにも引き受け手がないという意味で、こうなっては寂しい限りです。

でも、ここには自分の特技を生かして人の役に立っていくという企業や官庁のOBがこのように大勢おられて非常に好ましいことで、この活動を続けておられるみなさんに心から敬意を表するとともに、もっともっと仲間を引っ張り込んで元気にしてほしいと思います。会場へ来てみてビックリしたのは女性の方が多くて大変お元気で結構なことで、男性方は大分健康年齢が下がっているのではないのでしょうか。これからのつかの間の10年ほどを、お互い支えあってやっていただきたいと願っております。

私は女性が多いボランティアの世界で活動していますが、まだまだやらなければいけないことが山ほどあります。小泉総理の構造改革はやらなければいけないが、改革後の着地点がよく見えない。企業がまずやっていることはリストラで、リストラして経済は活性化しても、その結果人が吸収されない。経済発展と人の活性化が一致しておらず高齢者や子育て中の女性が入っていけないから、この人たちをどうするかが問題です。そういう目で社会を見ると、経済の中へ入れない、働けない多くのエネルギーと、一方で大きな市場やニーズがあります。

それは人相手の仕事でありサービスです。たとえば学校が荒れている。子どもの人間関係が出来ていないし冷たくなっている。そしていじめがあり、やがてニートになっていく。そういう子どもを抱えて困っている親がたくさんいる。そういう人は大抵立派な親御さんです。そういう親御さんにはこちらからその家に入るのではなくて、お父さんやお母さんに外へ出てもらってボランティアなどをしてもらおう。そしてそういう話を二階の子どもに聞こえるように話してもらおうほうが、効果があるようです。実際にそういう子どもやその予備軍たちの面倒を見ている高齢者がたくさんいる。それで結構立ち直りが出来る。

介護の現場でも 高齢者が頑張っているがまだまだ人手が足りない。寂しい人たちを元気にするにはすごく時間がかかる。掃除や食事よりも自分の話を聞いて欲しいと思っているおばあちゃんがいる。寂しい時は自分が輝いていた若い時の話をします。すると顔も輝き元気になる。何回でも同じ話をするが、これを聞いてあげ、たまに相槌をうったりする。あるいは成年後見人の仕事もある。ただ、これがはたして商売としてなりたつかは難しい。

市場にはなかなか乗りにくいニーズだが教育の分野、子育ての分野、高齢者福祉の分野など個々の人を相手にするニーズはいっぱいある。中高年者でも相談に乗って欲しいというニーズはいっぱいあるが、弁護士もまだまだ足りないし、個々の人たちが気楽に相談に乗ってもらえるようにはなっていない。そして個々人からはあまりお金を取れないですね。

私が関わってきた人たちはみんなお金持ちばかりです。東京と大阪の特捜部にいましたからね。贈収賄や脱税などをやる人はみな金持ちですが、みなさん捕まる前から幸せではなかったですね。相手が喜んでくれることをして金を儲けるならばその人も幸せになるのですがね。

私の友人で検察のトップをやめてから過疎地へ行って弁護士をしている人がいますが、とても幸せだと言っています。お金はないけどみんなから取れたての食べ物をいっぱいもらってとても幸せだ。町の法律はすべて一人でしきっている。

個々の人相手の場合、あまり高い能力はいらないですよ。皆さんのところへパソコンを習いにくるのは、きっとみなさんが能力も高いでしょうが、それよりも優しいからだと思います。企業のパソコン教室なんかだと、若い社員からバカにされてプライドを傷つけられるから行くのはいや、ということになる。

介護の場合でも、認知症の人たちをお世話するグループホームなどに、大きな施設で仕切っていた主任さんなんか来ると、効率一辺倒だから、認知症の人にはとても合わない。ヘルパーさんも、のんびりゆっくりした方でないと合わないですね。そういう人は認知症の人たちをうまく使って、それぞれの状況にあった役割を与えている。

うちのさわやか福祉財団も、どちらかというと、のんびり屋のほうがうまくいく。あまりテキパキやらず、みんなが参加して、みんながやる気になるまで待ってあげないといけない。色々な役所から出向で研修に来ますが、みんなやり手で効率的だから、うちではなかなか大変だ。研修計画も評価も全部自分でやらせるようにしています。

最初はじっと座っている。何故動かないのだという。「指示がないですから」という。自分で考えてやれと叱るのだが、秋くらいになるとバリバリと自分のペースで働くようになり、1年で帰るころになると、もう1年働かせてくれという人が出てきます。

もう少ししたら団塊の世代が定年になってきます。この人たちはパソコンが出来ますね。みなさんはパソコンを教えることは大事だが、それを教えながら高齢者のために、他のことで役に立つことをやってあげるようにしてほしいですね。

また自分で食事くらい作れるようにならないといけませんね。私も検事をやめてボランティアをするようになったら、最初の講演で「あなたは食事を作ることができますか？」と、ズバツと女性から言われた。それから私も食事の後片付けをするようになりました。

奥さんは旦那に食事を作るように躡けること。奥さんが家を空ける口実を作って出かけること。そしてやったら、まず褒めること。

プライドを傷つけないよう、肩書を上手にはずすようにしてあげてください。外へ出かけると話題がいろいろと出来る。そしてご主人とよく似た境遇の人の話題を持ち出して、「自分は幸せだなー」と思わせる。人間は自分のことは自分でやるべきですね。動物は、介護をしません。しかし、人間のすばらしいところは、自分で出来ないところはお互い助けあってやっていくというところ。助けると、助けられた人はうれしいが、助けたほうもうれしいものです。

うちの財団には知的障害者や身体障害者の方が研修に来られます。先週はまったく目が見えない大学4年生の女性が来ましたが、フォーラムのテープ起しをパソコンでしてくれました。彼女は「私たち目が見えない人にも、早めにこうして教えていただければ、多少でも人のお役にたつことが出来ます」と言いました。

地域通貨の標語で「世のなかに役に立たない人はいない」というのがありますが、彼女はこの言葉を自分の座右の銘にと言いました。この言葉を聞いて私は自分の夢が決まりました。「アメリカへ行って、さわやか福祉財団のような団体を作ります」と言いました。1週間で、ここまで人に役立つことを話してくれるものかと感動しました。

もうひとつは、92歳で亡くなられた名古屋のおばあちゃんの話を見せてもらいます。彼女は手も足も動かないのですが、パソコンのマウスを口で動かせるように施設長さんがしてあげたのです。彼女は短歌を作るのが好きで、パソコンで作った短歌をネットで全国に発表した。そうしたら全国から反響が返ってきた。それが彼女の喜びになった。そのうちにお弟子さんができて短歌を送ってくる、それを添削してあげる。私も直接お会いしましたが、肌がツヤツヤして目が輝いていましたね。短歌を認められることで、大きな生き甲斐になりました。

うちの財団へはよくボランティアをしたいという人が訪ねてきます。最初は肌に艶がなく目はうつろで、ボランティアをするのではなく、されるほうではと思うような人でも、しばらくすると見違えるように若返りますね。半年で5歳は若返ってきますよ。1年たったら10歳は若返ってきます。

自分のやりたいことが人を喜ばせることにつながり、人のために何かができる自分を見つけた時、本当の意味で「自分をいかす」ことができると思います。

## 【質疑応答】

●女の立場からお聞きします。旦那に対して、偉い人から普通のおじさんに、プライドを傷つけないように変わってもらうには、どのようにしたらいいでしょうか。

○堀田氏

まず肩書のない世界に入らせる。はじめはちょっと教えるとか、相談にのってもらおうとかいうような、本人のプライドをあまり傷つけないような仕事から入らせるとよい。

仲間に入ってきたら、女性陣が親切にやさしく受け入れてあげる。なんでしたらさわやか福祉財団へ送り込んでもらってもいいですよ。ただしうちはちょっと厳しいですよ。うちでは肩書で呼んだら罰金 100 円です。また自分の肩書は自分で勝手につけるようになっています。



## 特別講演

### 『シニアの発信こそ楽しさと豊かさ』

安田 浩氏

東京大学 国際・産学共同研究センター教授



#### 【講演概要】

はじめに

シニアネットクラブのこんな素晴らしい大会にお招きを戴きまして大変有難うございます。私ももうシニアに入っていますので、そういう意味では、皆さんと一緒に大いに活躍したいな、と思っております。今日は「シニアの発信こそ楽しさと豊かさ」という大変嬉しいタイトルですので、大いに張り切って喋らせて頂こうと思っております。

今、政府の第三次科学技術基本計画の一部にかかっておりますが、ここでもやはり「如何に発信するか」ということを全面に捕らえようということになっておりますので、これからは、誰が、いつ、どういう形で発信をするか、何を発信するか、それが日本を支えるということになるかと思っておりますので、是非とも皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

私は何者かということをお話申し上げますと、私はたまたまですが、mpg、jpgなどの画像の圧縮の国際標準化ということをして20年来やっております、大変ラッキーなことに、我々のグループが標準化に大変貢献したということで、アメリカのテレビジョンアカデミーからエミー賞を戴きました。みんなで一緒にやってきたこのアルゴリズムが、今、世界中で使われていることを幸いなことに思います。

ずっとやってきました画像関係の話から波及して、コンテンツ作りをどうするか、あるいはコンテンツをどう守っていくかということを考えるようになったということです。現在、東京大学の先端科学技術研究所ならびに国際産学共同研究所センターというところでの研究の中でコンテンツとセキュリティを選んでいきます。

さて、今日の課題ですが、いま、シニアの方々にアンケートをお願いしています。60才を超えた方々がインターネットをどのようにお使いになっているのかは大変興味があります。週に50人位ずつ統計が入って来ており、いま400人位の統計になっていると聞いていますが、そこから読み取れる大変顕著な指標がでておりましたので、今日はまずそれを最初に持ってきて後ろの台に使います。そして全体としては、ユビキタスということとコンテンツはどう結びつくか、そこで何が変わってきたかということ、実はみんなが発信することが一番大きな課題なんだということで、どうやってうまく発信するかということの技術課題をなんとか解きたい、みんながクリエイターになれるようにしよう、ということを考えています。同時に皆様がお作りになったものを守って貰えなければいけない、どうやって守るか、なぜ安心安全でないかということも少し検討して、このあたりの議論がこれからどれだけいくか、ということをやりたいと思っております。

## (1) シニアネット度合い

I C S 研究会がインターネットサービスに関するアンケート調査を実施している。調査内容は多岐にわたっているが、その中から、非常に興味深い、示唆的なことが読み取れる。統計数は現在 416 件、年齢層は 60～70 才が一番多く、65 才以上が半数を占めている。性別は男性 68%、女性 32%、インターネット経験はかなりのベテラン揃いと思われる。

### ● どういうやりかたをしているか

ホームページを持っているのは 52% と約半分位あり、ブログと両方持っている人も結構いて関心度は高いことがわかる。ところが、ホームページをみるか、ということになると数字が急激に下がってくる。さらに市長・村長のホームページを見るという人はあんまりいない。週 1 回市長のホームページをみるという人は 10% くらいしかいない。

### ● インターネットショッピングは

73% とよく利用されている。買物は本が一番多くつぎに旅行、家電製品で、インテリアや衣料品は少ない。贈答品でみると、242 人とそれなりに使われている。但し、使わない人のデータをみると、安心できない、これで贈っては失礼ではないかというイメージで、まだまだインターネットは普段着で、いろいろ問題があるという感じがある。

### ● どうやったらみんながネットをやるようになるか

「パソコンを使い易くする」とか「パソコン教室で教える」という回答が多いが、意外に低いのが「サービスが増える」「コミュニケーション相手がふえる」などの数字である。これは、インターネット商売をするものには思惑違いのことであった。

### アンケート結果が示唆するもの

商品があってもだめ、相手があってもだめ、多いのは、教えてくれて自分が発信できればよいということである。結論として言えることは、要はみなさん、他人のをみたくわけではなく自分が発信したいのである。我々は如何に発信を支援するかを考えなくてはいけないということである。

## (2) ユビキタス時代とは

平成 13 年に森首相が IT と言い出してから「e-Japan 戦略」は急速に進み、平成 16 年には「u-Japan 戦略」となった。

・ i モード 1999 年に登場、1 年目に 400 万、3 年後に 3000 万

・ 写メール 2000 年に登場、概ね現在までで、ほぼ携帯の半分にカメラがついた

ちょうど 20 世紀から 21 世紀の変わり目に、音声映像とデータに付け加わった。カーナビで地図が送れる時代から、財布—定期—チケット—鍵と、今や携帯 1 コで万能の状況になりつつある。

ブロードバンドとユビキタスのネットワークインフラの出現が、情報、つまり数字というものを、常時・速く・広く・正確に、そして安全に伝えることができるようになった。その瞬間から、ビジネスと文化は、今までのフェイス・ツー・フェイス以上に、情報をさらに身近に引き寄せてビジネスと文化を築いていくというカルチャーになった。

これがもたらすものは何か。今までは物を豊かにすることが人間の幸せであったが、特にユビキタス環境で携帯電話の環境が整備されたことにより、精神的な豊かさ、いろいろな情報がたくさんあって繋がっていられることが、豊かさ・幸せの根源になってきたという風に思っていると思う。従って大量に何かを作ることからはもうさよならの時代になった。問題は如何に個性化したものを貰ってくるかということであり、同時に自分に合ったもの、あるいはいつでも自由に変わりうる環境、最適化できる環境ということが必要で、それが20世紀から21世紀への大きな変革であるといえる。

### (3) コンテンツ創成・流通の変化と特徴

#### メタデータのコンテンツ化

- 情報検索ツールとしてのメタデータ
- コンテンツ合成記録のためのメタデータ（音のキー、映像の種類などの記録）
- 権利関係記述ツールとしてのメタデータ（著作権）

これらのメタデータがどんどん増えてきて、それらをきちんと処理しないとなかなかうまく行かない。と同時に、実はもう本体よりはアイキャッチャーとしてのメタデータが先に見えるという状況になっている。メタデータアーカイブを用意して、その中に全部のメタデータを収容しておいて、自分に合った形にあわせるという付加価値を作って、われわれはまずそれを見るという時代に入っている。

なぜそうなったか。いままではカタログとして、あるいは取扱説明書としてくっついてくる代物であったものが、ネットワークの発達で、こういうメタデータを常時みることができるといいう仕組みが出来上がった。いまやこちらが重要になり、まず、そこから情報を得る、つまり、そこにでてくるものしか存在しないという時代になったということである。

#### 誰でも放送局

今までの通信、マスコミュニケーションでいうと、新聞・テレビ・ラジオなどは、発信する人は限りなく少数で、従ってその人たちが選んだ、プロフェッショナルな内容だけであった。もっと簡単な通信に電話や手紙があるが、これは全員使えるが相手は一人である。相手が一人の場合は、その場に合わせて臨機応変に対応すればよいので、コンテンツの心配はない。20世紀まではマスコミとそれしかなかったので、素人がコンテンツを考える必要はなかった。

ところが、ブロードバンド、ユビキタス、インターネットの時代になると、ひとりひとりが放送局になるので、十人十色のコミュニティを考えて、発信人はみんなが受け取りやすい、親しみやすい、見てくれそうだという形に加工して送らなければいけない。ここで素人がコンテンツを考える仕組みが出来上がった。

まずメタデータというコンテンツがある。誰もが送るといことで、みんなが送れるような仕組みが必要になる。いろんなことが出来る、いろんな知識がある、なんとかそれを自

分から発信したい、向こうからくるものを受け取ろうという意欲もあるかもしれないが、基本的にはまず発信である。それをどうやって支えるか、ということは何とかなしたい。もうひとつは、シニアになるとあんまり面倒なことはしたくない。あるものを組み合わせれば済むという形での方法を考えなければいけない。

もうひとつ大事な話は、コンテンツを国の産業にしないといけないということである。物流では海という障害があるが、インターネットでは海は障害にはならない。値段は世界中どこで作ろうと同じで、みんなその中から一番よいものを手に入れる。日本国内でコンテンツ力をもたなければ、外国から買わざるを得ない。インターネットの収入の1/4は、ネットワーク（サービスプロバイダ）に入るので1/4は間違いなく日本に入ってくる。しかし3/4は作った国へいく。つまり国内でコンテンツを作らなければ確実に負ける。持っていれば確実によその分まで取れる。産業立国として、これからコンテンツはかなり大きなウエイトを占める。ということで、それをちゃんとビジネスしないといけないだろうということになる。

#### **（４）特徴を考慮した新しいビジネスモデル**

##### **従来型モデルは行き詰まった**

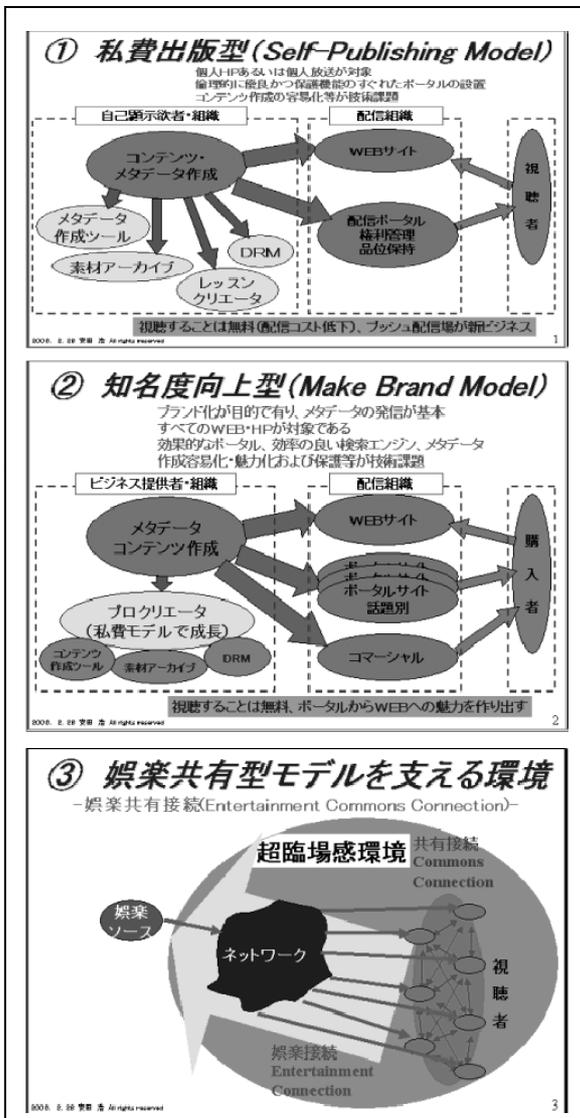
例えば、映画というコンテンツを考えてみると、すぐに違法コピーが出回って収益が半減している。運ぶという段階での問題は新しい手段で解決できたが、高性能のカメラやマイクの出現で、映画館で撮影したり音楽会で録音してそのまま持ち出してしまうということがどうにも防げない。そこに大きな問題が発生している。

テレビの番組寄生型モデルでいえば、こちらは今、危機に瀕している。日本の場合人口が増えない。また、携帯電話や別の娯楽の発達により、トータルは減る方向にある。従ってこれらはジリ貧状態なので、新しいモデルを考えなければならない。

##### **コンテンツ創成・流通モデルの条件**

どんなビジネスにするか。まず違法コピーがあっても大丈夫、ということは只で配るということしかない。どうせ見る時間がないとなると、ながら族になれるようなビジネスを作る。みんなが作りたがっているということをうまく使わなければいけない。

メタデータをどんどんアイキャッチにしてメタデータそのものを売り込む。全部自分で作るとは限らないので、素材の変形や組み合わせを活用できる仕組みを作らないといけない。



### 3種のコンテンツ ビジネスモデル

#### ① 私費出版型

個人HPあるいは個人放送が対象  
論理的に優良かつ保護機能のすぐれたポータルの設置  
コンテンツ作成の容易化が技術課題

#### ② 知名度向上型

ブランド化が目的であり、メタデータの発信が基本である。  
全てのWEB・HPが対象である。  
効果的なポータル、効率のよい検索エンジン、メタデータ作成容易化・魅力化および保護等が技術課題

\*一度開いたら、常に作り続けないと役に立たない。見やすさもポイント。

#### ③ 娯楽共有型 (お金のとれるサービス)

娯楽系が中心  
代行徴収・マクロペイメント・違法防止等が技術課題

\*タイムシフトをすれば面白くないというコンテンツを作ればよい。一緒になってやる会議型の接続など、繋がり感を満たすもの。

#### (5) 一億層クリエイターのために

コンテンツを作ろうという時の一番のネックは、みんなが簡単に作れないということある。誰もがコンテンツを簡単にできるように、ストーリーは個人、素材もプロの知恵も貸すから、簡単に映画ができますよ、ということをや、今試みている。

～ DMD : Digital Movie Director ～  
CG映像 (日記、旅行記、企業プレゼン、コマーシャル原案等) を誰でも簡単に作成できる『シナリオ映像変換技術』を開発し、機能検証システムを構築する

\* 動画製作の作業時間は、上演時間の10倍以下。

#### DMDのデモ

## (6) 安心・安全の課題

もうひとつの問題に、作ったコンテンツは安全かどうかということがある。データを盗まれる、フィッシングがどんどんやられているという現実がある。

また、ある意味で、ちょっと訓練を受けた人にはすぐパスワードを盗むことが可能になった。システムが簡単にそれを許すことは問題であるが、非常に簡単にできる可能性が出てきている。

## (7) 何故安心・安全でないのか

IDはもともと、きちんとしたものではなく、誰でも簡単に取得できる種類のものである。電話網との対比でみると

- ・ 端末を ID が認証されていない
- ・ 端末を使う個人が特定されていない → 個人認証を完備し、なりすましをさせない
- ・ 制御信号の管理者が不在 → コンピュータおよびネット管理者の個人認証は完全化
- ・ 情報を与えなければサービスが受けられない  
→ 情報保護の徹底、扱い者の個人認証完全化

ネットワークセキュリティに関わる特徴をしっかり意識して、徹底されていることが重要。インターネットにおける危険の特徴は繋がっていること。繋がっていると波及が止められない、繋がっているだけで害になることがある。管理の中枢がないのでモグラたたきでつぶすしかない。セキュリティレベルの低いところが一番問題である。

### ●危険なものはつなぐな（村八分にしろ）IT 封鎖

クレジット番号や生年月日など与えないとサービスを受けられない状況で、ネットワークにはどんどん個人情報溜まっている。ではそれをどうすればいいかという問題で、個人情報保護法ができたが、貰った情報をどうやって統制していくか、特に個人情報で統制していくかということは大変な問題であるということ、みんなが意識しないといけない。今まではファイアウォールやなにかで防げると思っていたが、しかし、もうどうにもならない、ほんとに全部管理しないとうまくないということが始まってきた。来年4月からは、日本版 SOX 法施行でガチガチの管理になる。それに備えてどうすればいいのかが、目下の大きな課題なのかも知れない。

## (8) 個人情報保護対策

個人情報保護法の完全実施は、今までの保護法に罰則がついてきたということがポイント。持っている情報は個人情報かどうか、持ったが最後、どこまで、誰が、どのように管理するかがついて回るということを知っていないといけない。

### 情報の守秘感度とセキュリティレベル

情報には次の2種類があり、情報の機密度に違いがある。変えられるものと変えられないものがある。異なるセキュリティ対応が必要である。

情報 1) 変更可で、漏洩しても変更すれば危険解消できるもの

パスワード、クレジットカード番号、電話番号、住基番号など

漏洩発生が的確に捕捉されれば危険を極小化にすることが可能

情報2) 変更不可で漏洩すると永久に危険であるもの

医療情報、バイオ情報、財産情報、家系情報など

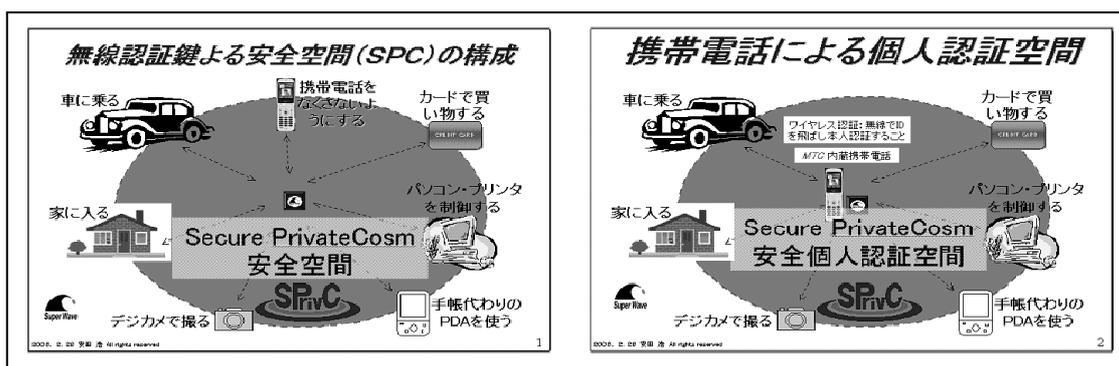
原理的な漏洩発生（他人にデータを渡すこと）を禁止する。

コンピュータには全部ログがある。ログの中には情報が残っている。すぐに消してくれない。なおかつ、パソコンは動きだしたらずっと動いている。ネットワークで覗き見されないように、盗まれないようにしなければいけない。個人認証を完璧にしておく、データを一箇所におく、なおかつテレビでしか見られない、とそこまで持っていけば、基本的に一挙に大量のデータが盗まれることはない。

### (9) 個人認証と追跡性の確保

もうひとつの大きな問題で今までなかったのは、いつも認証しているかどうかという問題、離れたら消え、近づいたら戻るといえることができる。しかし、カードを差したり入れたりには面倒である。そこで、操作性の簡単なシステム、離れたら通知してくれるシステムを作った。それが Secure Private Cosm(安全空間)。自分がすぐそばにいかなければ何も作動しないということで安心・安全になる。しかも無線なので自分で操作する必要はない。

#### SPCの操作実演



### (10) まとめ

#### 電子自治体の役割

みなさんも住んでおられる電子自治体での「全員が発信」ということを是非サポートして戴きたい。今は、国を含む情報をわかるようにして、自分が領有するというのが一番大きなポイントになる。それをすれば、実は日本の文化というものを世界に発信することになる。1億人が発信すれば1億個のデータになり、それは真に大きな力になる。ほんの小さな、地域のこのお祭りは・・・というようなことを出すだけでも充分、日本語の翻訳という作業だけは誰かにやって貰うことにして、是非みんなが発信しよう。世界は発信を求めている。それが力になる。それができるネットワークがある。それを使って情報を知識化すること、その為にはみんなで一所懸命やらなくてははいけないよ、やればそれが元になって、すべての活動がうまくいく。それをやるためには、実はうんと発信しよう、うんと発信する為にはネットワークが要るよ・・・ということでスパイラルが太くなり、レベルがあがって大きな話になる。

## パネルディスカッション

『新時代に向けてシニアネットの  
役割とその方向性を探る』  
～楽しむなかで社会の支えに～

### ◆ コーディネーター

田中 尚樹氏

### ◆ パネリスト

古賀 直樹氏

(シニアネットジャパン 代表)

奈良原眞吉氏

(NPO 法人自立化支援ネットワーク 理事長)

栢山 日出男氏

(東京都福祉保健局 高齢社会対策部 計画課長)

松宮 光予子氏

(日本アイ・ビー・エム株式会社 社会貢献部長)

柳原 正年氏

(富山社会人大楽塾 代表)



### 【討議内容】

少子高齢社会だからこそ、シニアが主役となって地域を盛り立てて行くことが求められている。そうした中、多くのシニアが集う「シニアネット」に、その牽引役が期待されている。近いうちに団塊の世代が定年を迎え、大量のシニアが地域に戻ってくる。こうした団塊の世代をシニアネットの活動に巻き込むことで、シニアネットが一層大きく羽ばたくことになり、地域の活性化も加速されると思われる。また、人生80年、シニアライフを楽しく有意義に過ごすためにもシニアネットの存在意義は高いものがある。一つの転機が訪れようとしているなか、今後のシニアネットのあり方について議論することは極めて大事なことである。

そこで、各地で活躍中のシニアネットの代表やシニアネットやNPO等と協働する自治体や企業の関係部門の方を招き、シニアネットの今後のあり方等について展望して頂く。

#### ■ 田中尚樹氏(コーディネーター)

シニアは日本における最大の社会的資産であり、このシニア層が団塊の世代の加入により膨大なものになります。これは日本の社会活動の前進のためには絶好のチャンスで、当然のこととしてITを活用する非営利団体もこのチャンスを利用しなければなりません。新シニアはすでにパソコンの技術の習得をしている人たちが多く、旧シニアのようにパソコン研修が主軸になるのではないから、シニアネットもメニューを開発しなければならない。

その上に新シニアは社会を良い方向に変えていく主体としても存在します。この課題についての提言・実践、そしてネットワーク化も課題になる。この際に、IT利用型のシニア団体が何をすべきかが問われています。

そこで、2部に分け、前段で現状分析をし、後段で課題解決法を話し合いたいと思います。先ず最初に、柳原さんからお話しいただきます。

■ 柳原正年氏

豪雪の富山から参りました。「富山社会人大楽塾」を作り、そのなかに「シニアネット富山」という組織を作っています。高齢社会を楽しみながら、ちょっとだけ社会に良いことをしようという活動です。最初から「社会のために」と構えず、ちょっとだけ、というわけです。

45歳くらいから東京で、「ホワイトカラー再開発フォーラム」を作って活動しました。そこでは、仕事人間が、どうやって地域社会に下りていくかということが、テーマでした。2000年に、親の介護のために富山に戻って、「富山社会人大楽塾」を立ち上げました。最初のうちは、ITリテラシーを付ける活動でしたが、単にITを道具として使うだけの「蛸壺」形の活動では面白くないので、次の段階として、通信や仲間作りを始め、今年になって、第3段階の、ちょっと社会に還元する活動をやり始めています。

■ 田中尚輝氏：では次に、奈良原さん、どうぞ。

■ 奈良原眞吉氏

1945年、15歳のときに日本が戦争に負け、国家目標を喪失し、価値観を根底から変えられました。また、そのとき、病気になって、見返りを求めない愛というものがあることを知りました。スペインのオルテガは、人生は、その人の15歳で決まると言っています。

会社というのは、組織のしがりみがありますが、社会人にはそれがありません。多くの方は会社の中で、退職後の生活をどうするかという教育を受けておられますが、自分の足が会社にある間に、いくら教育を受けても、会社に勤めている範囲の発想しか出てこないのではないかと思います。

ある仲間は、麻雀とゴルフと海外旅行だといって何年も過ごしている間に、本当にこれでいいのだろうか、内心から出てくる寂しさから、NPO活動に参加しました。

そのようなことを考えると、年金がない数年間が、重要な時期ではないかと思えます。

■ 田中尚輝氏：それでは、福岡から古賀さん、どうぞ。

■ 古賀直樹氏

97年にシニアネット久留米を立ち上げました。2000年から2004年までアメリカのシニアネットの理事もさせていただきました。そのとき、アメリカでもベビーブーマーを取り込むかどうか問題になっていることを知りました。次の世代に向けてシニアネットがサービスを提供したほうがいいのか、あるいは、これから高齢者がますます孤立化するから、現在の高齢者に向けたサービスを提供したほうがいいのか、ということです。今後のシニアネットのありようは、どこでも困っておられることであろうと思います。アメリカは290の地域のラーニングセンターの上に、全体をコーディネートする本部があるという、企業や財団からお金を集めやすい組織を作っています。日本でも、そのような組織があれば、もっと活動がしやすくなるのではないかと考えます。私自身は、シニアネットの青年部を作ろうとしています。

■ 田中尚輝氏：以上3人の方々は、グループを立ち上げて活動されている方々ですが、ここからは、企業、行政の側からのご発言をいただきたいと思います。最初に、IBMの松宮さんから。

■ 松宮光予子氏

IBMは、創業当初から社会への貢献を理念にかかげて活動に取り組み、日本でも1974年には専任部門を作り活動を展開しています。しかし、1990年代初めにIBMも一時赤字に転落しガースナー会長のもとで再建を果たす中で、社会貢献の内容も変革しました。それまでの単に現金や製品を寄付する方法をやめ、持てる技術やサービスにスキルやノウハウをあわせ解決策をご提供します。また、全世界共通のプログラムを各国の事情にあわせて展開し貢献しています。ここ10年、一番力を入れてきたのは、教育分野への貢献です。もうひとつは、社員や定年退職者のボランティア活動支援です。2003年発表したオンデマンド・コミュニティでは、教育分野などへの貢献活動で蓄積した企業ノウハウを、社内イントラから社員や定年退職者も有効活用できる体制を整えました。また今の教育界では、IT活用だけでなく、子供たちが生きる力をつけるための支援が求められており、これはIBMだけでなく、みなさまと一緒にお手伝いしたいと思っています。ただ、長期的にノウハウを共有し提供するためには、経営自体が持続的であることが必要ですので、事業型NPOとの連携が望ましいと思います。このようなNPOはまだ少なく、ここに団塊の世代が入ってくることを期待しています。

■ 田中尚輝氏：続いて東京都から来ていただきました栞山さん、お願いします。

■ 栞山日出男氏

いま、全国の都道府県、市区町村では、今後3年間の高齢者福祉をどうするかを計画しています。東京都では要介護の方が16%、元気な方が80%、その隙間の4~5%が、放っておくと要介護に落ちてしまいます。そこで、ここに介護予防の資源を集中的に投入する計画です。その一部に、認知症予防のためのIT利用があります。団塊の世代が皆さん65歳になる2015年には4人に1人が高齢者となります。東京都で、昭和19年から28年生れの方々に、ボランティア参加の意向を聞きました。約4割

の方が、参加したいとの意向でしたが、逆に言うと、6割の方々は、関心がないということでした。

今後は、元気な高齢者の方々に、いかに地域に出てきていただくかが大事なのですが、行政は、とりあえず困っているところにお金を廻さなければなりません。市区町村レベルでは、行政がNPO設立やボランティア活動参加をサポートするところが、若干ではありますが、出てきています。

■ 田中尚輝氏：ここで、会場からの質問や意見を伺いますが、その前に、柳原さん、ここ10年、シニアネットは、全国的に、発展しているのでしょうか？

■ 柳原正年氏

ウェブ上ではそんなに増えてはいないのですが、ネットに乗っていない勉強会は増えています。これからネットを使うこと推奨しながら仲間を増やせば、もっと増えると思います。

■ 田中尚輝氏：では、会場からお願いします。

○ 会場より：

全国老人クラブ連合会の会員数は800万人だそうです。世田谷区で、パソコンを勉強しているクラブがないかと聞いたら、一つだけあって、エクセルを勉強していました。老人クラブには行政から補助が出ているそうです。このクラブとの連携が、会員を増やすチャンスにもなるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

■ 古賀直樹氏

シルバー人材センターから呼ばれて講演したことがあります。老人クラブ同様、シルバー人材センターの中にもパソコン教室があって、昔、シニアネットは商売敵だと言われました。同じことをやっているところは、たくさんあり、なぜシニアネットに委託してくれないのかと言いましたが、日本の場合は、そうすると、担当者の仕事がなくなるのです。みんなが結束して、そういう仕事を持ってくることを考えてはどうかと思います。

■ 田中尚輝氏：老人クラブには補助金が出ているとのことですが、1回お茶を飲んだら終わりだそうです。

○ 会場より：

老人クラブは組織率が落ちてきていて、会員を募集しても集まらないのが現状です。行政が作り上げた老人クラブは、もはや機能しなくなってきたということです。60歳代が入ってこなくなりました。

■ 奈良原真吉氏

養成したアドバイザー約170名のうち、ネット以外で知り合った方は3人だけです。そ

の意味でネットを、手段としていかに活用して目的を達成するかが課題ではなかろうかと思えます。

○ 会場より：

柳原さんに伺います。シニアネットは伸び悩んでいると認識していますが、これは社会貢献活動が地域活動に留まっているからではないかと思えます。本当に社会貢献活動をしようと思えば、ネット上で貢献する必要があるのではないのでしょうか。

○ 会場より：

ITは手段だとすると、では目的は何かです。退職された方はプライドが高く、成功体験が邪魔になります。シニア1年生という考え方が必要だと思えます。

■ 柳原正年氏

ITは、単なる情報検索や通信の手段だと考えます。5年たってみると、ITしかないという方々が出てきてしまいました。外へ出て貢献することには関心がないのです。第1の波は、ITを使うこと、第2の波は、ITを使って自分が豊かになること、これからの第3の波は社会に参加して、シニアの知恵を少しでも社会に還元するということです。

■ 田中尚輝氏：松宮さん、シニアネットのやっていることは、企業から見て、社会の役に立っていますか？

■ 松宮光予子氏

企業ではできないものを持っておられると思いますが、運営方法を企業から教えてもらえないかという話があったりして、難しさをお持ちのようです。ITもネットワークも、ツールでしかなく、最終的には、それで何ができるかの知恵を出し合うことが必要になってくると思います。

■ 田中尚輝氏：古賀さんは、停滞しているのではないかという現状の問題点を、どのように見ておられますか？

■ 古賀直樹氏

シニアネットに入ってこられたルートは、パソコン通信からと、IT講習からの2通りがあります。アメリカで、日本が570億のお金をかけて、550万人にITを無料で教えた話をしたら、なぜ教える人間を強力に教育しなかったのか、なぜNPOに投資しなかったのか、と言われました。当時の、パソコンを教えることだけを目的に作られたシニアネットが、裾野を広げはしましたが、本当に力を付け、支持されているシニアネットは、地域の中で何をするか、誰を支えていくかを、はっきりさせているところだろうと思います。

■ 田中尚輝氏：奈良原さん、「自立化支援ネットワーク」は、ITやネットワークを手段として、どういう役割を果たそうとしておられるのでしょうか？

■ 奈良原眞吉氏

ひとつは、人の出会いの場を提供すること、もうひとつは、その場に参集することによって、機会を提供することです。活用は本人の志次第です。

■ 古賀直樹氏

4人の元気な人が1人の要介護の人を支えることが必要だとのことですが、行政では、どのように考えておられるのでしょうか？

■ 栢山日出男氏

高齢者が高齢者を支えるシステムを作らないと、介護システムだけでは、今後立ち行かなくなります。従来の老人クラブのメンバーの意識と、これからその年代に達する層の意識とは、全然違っていています。今後は、民間の力と地域の力と行政の力とをうまく混合して、大きな力を出そうとしています。

■ 古賀直樹氏

福祉分野で、ITが、こんな役割を果たせないか、ということはないですか？

■ 栢山日出男氏

これからのシニアは、ITを利用した活動ができると思います。ITを使うけれども、閉じこもることはなく、行動もするということが必要だと思います。

■ 古賀直樹氏

それぞれのグループが、それぞれの単位で頑張っておられるのですが、2極化が進んでいるようです。ITで楽しむだけの「蛸壺」形グループと、ITを使って社会的に活動しようというグループへの2極化です。

■ 田中尚輝氏：ここからは、明日に向かって、どういう風にして行くのか、と言う議論に入りたいと思います。

個々の団体をどうやって発展させるかということと、社会的課題に取り組む場合に、ネットワークをどのように活用するか、二つの観点から見ていただきたいと思いません。博報堂の調査によると、団塊の世代は、リタイア以降、楽しんで、ちょっと働いて、収入があって、世のためにもなりたい、と考えているとのこと。

新しい人が入って来ないという問題を解決するツールに、八王子市や武蔵野市が行なっている「おとぼ = お父さん帰ってらっしゃいパーティー」があります。リタイアした人をNPOなどと集団見合いさせるもので、4割が地元のNPOなどに定着するそうです。これもネットワークの面白さで、1団体ずつではできないことが、ネットワークを組めば、人材掘り起こしもできるということです。

では、最初に古賀さんからお願いします。

■ 古賀直樹氏

まず楕円を書いて、2割、6割、2割に分割し、左側の2割に横棒を入れてください。これがシニアの分布です。右側の2割が介護シニア、真中がお茶の間シニア、左

側がアクティブ・シニアで、上がアナログ・シニア、下がデジタル・シニアです。このデジタル・シニアが、お茶の間シニアをどんどん引っ張っていく地域のリーダーになるべきだと思います。

■ 奈良原眞吉氏

ネットを活用してはいますが、各地域に20くらいの活動があります。そうすると、その活動に参加したいと申し込みがあります。みんなでやるという発想を活動の根底に置けば、そんなに意識しなくても、いろんな活動が芽を開くと思います。

■ 柳原正年氏

ウインドウズ95発売から11年。ドッグイヤーでは半世紀です。もっと大きな目で地域に下りて、そこで地域住民と一緒に楽しんだり、社会のインフラを整備したりする、社会性のある活動が必要だと思います。

活動拠点として、喫茶店の利用を考えました。第2、第4木曜日、朝7時から、20名ほどで、勉強会をやっています。

■ 松宮光予子氏

企業としては、シニアの経験とスキルで、事業を展開して、パートナーになってほしいと思います。海外にも目を向けてほしいと思います。大胆な革新を期待します。

■ 栢山日出男氏

これからのシニアは、自分で、自分の価値観に基づいて行動するのに、ほとんど制約のない方が多くなると思います。そういうなかでNPOを発展させるためには、4つのポイントがあると思います。1点目は、お客様の満足、2点目は、組織の構成員の満足、3点目は、適切な利潤、4点目は、改善ができる仕組み、です。どうしても高齢者の世界では、たとえば年配者の支配で、自由に意見が言えない、ということになりがちだからです。

■ 田中尚輝氏：では、会場のほうから、どうぞ。

○ 会場より：

三鷹では、小学校の支援をやっています。この4月1日から、市立小学校が、教育委員会から離れて、地域立小学校になります。指定管理者制度のもとで、教員の人事権まで持って、学校を運営するのです。

ITを使いながら、アナログ生活体験の良さを伝えていくことと、専門性を持つことが大事だと思います。学校に進出、という報告と、提案です。

○ 会場より：

メロウ倶楽部は、全国的な活動をし、事務局もネット上にあるというシニアネットです。ITというと、パソコンを指す場合と、インターネットを指す場合とがありますが、空間をジャンプするインターネットが重要だと思います。地域に拘るな、フェース・トゥ・フェースに拘るな、ということです。インターネットで空間を越えれば、身体障害者でも参加できます。

○ 会場より：

ITネットのインフラで考えると、2002年から2005年は、携帯電話の勝ちです。5年先には、テレビを使ってインターネットを利用することになると思います。そういう、インフラが急速に変わる時代のネットビジネスを、どのように考えればいいのでしょうか？

○ 会場より：

年代の輪切りに拘るなと言いたいです。いまの日本の社会は特殊で、現役世代は、過労死寸前で、社会からも家庭からも孤立し、企業という「蛸壺」のなかに入って暮らしています。そして、ある日、そこから放り出されます。若い世代とシニア世代がネットを通じて交流し、一緒に世の中を良くしていくべきだと思います。経済産業省も、その辺の若い世代の働き方を見直していただきたいと思います。

■ 田中尚輝氏： 田中尚輝氏全国的に、この種の集まりは、ここだけですが、これだけの意欲とエネルギーをお持ちの方々が、自分たちの力で全国的な集まりを持っても良いのではないかと考えながら、お話しを聞いていました。

いままでの議論を振り返りながら、パネラーの方々に、1点に絞った今後の課題をお聞きします。

■ 古賀直樹氏

面白い話が二つ、私のところに来ています。ひとつは、日本子守唄協会から、シニアネットで地域の子守唄の収集とデジタル化と発信をしてもらえないか、という話です。もう、ひとつは、都立高専の校長から、いま、ニート、フリーターに、高専を活用して物づくり体験をさせる計画があり、そこでシニアが教えてくれないか、という話です。全国に63の高専がありますから、どこでも同じ話があると思います。そのとき、デジタル思考のある人となない人とは、若者との接点が違ってきます。このような、自分たちが手伝える分野で仕事をすれば、地域社会で評価され、ネットの発展が期待できると思います。

■ 田中尚輝氏： アメリカにはチャーター・スクールというものがあり、NPOが学校を作れます。日本でも、行政の仕事を、民間と行政が競い合いながらできるようになり、シニアの方々の技能が生かせるようになってきています。

■ 奈良原真吉氏

すべて人次第です。個人がどういう志を立てるかが重要だと思います。

■ 柳原正年氏

「シニアの大志」というキーワードでまとめたいと思います。これだけ成熟してきたときには、多様化が大事で、官製のものではダメです。市民活動としてネットワークを作る必要があると思います。

■ 栞山日出男氏

柔らかい発想で、前提を壊すことを、いつもお願いしています。

■ 松宮光予子氏

技術革新で、インフラの使い勝手はどんどん良くなると思います。いかにうまく使うかが大切で、使い方には、いろんな形があってよいのではないかと思います。子育てや教育の場に、シニアの経験を活かしていただきたいものです。

■ 田中尚輝氏：会場から、2名までお願いします。

○ 会場より：

アメリカはNPOよりもベンチャーのほうが多いようです。私は迷いましたが、ベンチャーにしました。おそらく古賀さんも悩まれたと思いますが、その点について古賀さんにお訊ねします。

○ 会場より：

アメリカのシニアネットは組織化されて、政治的にも経済的にも力を持っていると聞いていますが、日本のネットは、数では匹敵するものの、まだバラバラだと思います。もっと力を持つようになれないものかと思いますが、この点についてのお考えを伺います。

■ 田中尚輝氏：ここにおられる方々は、大きな社会的資源だと思います。ところが、外側から見ると、その存在を、うまく活用されていないのではないかと感じています。組織をどう発展させるかという観点から、それぞれにお伺いします。

■ 古賀直樹氏

アメリカのシニアネットは、タイミングよく恵まれたときに発足したということです。ITバブルが崩壊して、いまは苦戦しています。日本でも、こういう議論は、あと5年で、できなくなると思います。地域で必要とされるネットにならないと、生き残れないでしょう。

日本では、NPOは難しいと思います。NPOに拘るよりは、何をやるかが大切だと思います。

■ 奈良原眞吉氏

NPOを作って6年、シニア情報生活アドバイザー養成を始めて5年が経過しましたが、だんだん地域が広域化しています。この状況から、シニアネットは人材の供給基地になれるのではないかと考えています。

■ 松宮光予子氏

社会貢献担当としては、NPOがなくなっては困ります。対価を求めることは問題なく、利潤を分配せずに、次の投資に回せば良いのではないかと思います。有償で継続的な事業

ができるパートナーとなっていたきたいものです。

■ 栢山日出男氏

今まで通りの生活が継続できるかどうかは疑問です。自分の生活は自分で守るとい  
う新たな発想が必要です。

■ 柳原正年氏

シニアネットは、草の根の市民活動であるべきです。行政と企業とのパートナーシップを  
再構築する必要があると思います。環境問題にシニアを巻き込むことを考えています。

終りに

■ 田中尚輝氏：みなさんの資産を、良いことをやる団体に出していただきたいと思いま  
す。良いことをすれば、その団体が発展し、出した資産は回収できます。良い国にな  
るまで生き延びて、頑張っていたきたいと思います。



## ワークショップ1 地域住民への教育活動で社会参加

### 課題提供者

- ・塩見 信雄氏：NPO法人シニアネットひろしま 理事長
- ・曾根 清次氏：NPO法人Com-Work 事業推進部長

### 【実施概要】

#### 1. 趣旨説明

現在、IT講習は、シニアネットの最も共通、普遍的な活動となっている  
その背景は

1. インターネットが普及してこれを使いこなせないと社会活動が出来ない。  
インターネットが水道、電気、電話のようにユニバーサルサービス化している。
2. シニア層のIT講習は、シニアネットが担うのが最適であることが挙げられる。

インターネット普及率：利用人口7,948万人、62.3%人口利用率  
所帯普及率82.8%

年齢別では20代：90%以上、30代：90%以上、40代：80%以上  
に対して60代：25%である、他の年代に比べて急激に利用が進んでいる。

IT教育の必要性がある。

事例発表を聞いて現状と今後の方向について議論を深め今後の活躍の糧とする。

#### 2. 課題提供

##### ①塩見 信雄氏 (NPO 法人シニアネットひろしま 理事長)

シニアネット広島を立ち上げた。

パソコン教室もこれから来る人は団塊の世代でパソコンを使いこなしている人達で今後どうあるべきか考える必要がある。

シニアネットが行う教育活動には狭義と広義のものがある。

狭義では：シニアパソコン教室、セミナー、サークル活動。

パソコン教室の実績（受講者4年半で約14,000人、参加アドバイザーは約6,500人）・・・うち50%は女性、男女共同参画社会実践の場である。

◆この活動は自分たちだけでなんとかできる。

広義では：シニアの生活全般に関する情報の収集と周知、

シニアの三大不安（健康・生活・生きがい）の解消に役立つ活動、子どもたちへ愛の活動、障害者支援など。

◆この活動は行政や諸団体との協働・連携をしないと難しい。

◆協働をスムーズに行うため、まず自分たちから《学ぶ》ことの実践・・・毎月「社会の動き」を学ぶ、行政等の組織や人を知る努力をする・・・

◆シニアネットの人たちはパソコンも社会問題にも詳しいと、

社会から評価してもらうこと。そして、人間的にもいい評価をいただけるよう努める。

- ◆私たちは、シニアネットの存在価値から広義の教育活動を進めている。
- ◆情報のパイオニア的存在である「シニア情報生活アドバイザー」を地域のオピニオン・リーダーへ。なって欲しい。
- ◆シニア情報生活アドバイザー資格を準国家資格へと願う。

活動としてインターネット灯籠流しで世界各国から平和のメッセージを貰って灯籠にはり付けて原爆記念日に流す、5年目になった。

子どもを大事にする、子どもと一緒にパソコン勉強会をしている。

介護付き老人ホームにパソコン講座を実施している、出張教室である。

中国では老眼を花眼と書く、老いてホンノリ美しく見える様、良い言葉、シニアが明るく暮らせるようにしたい。

高齢者の交通事故が多い運転免許の無い人が多く、教育を受けたことがない、情報提供して教育する。

認知症に対しても正しい理解して、対応をする。

転倒防止、食べ物の情報を提供する：孫達はやさしい。ま（まめ）ご（ごま）た（たまご）ち（乳）わ（わかめ）や（やさい）さ（魚）し（しいたけ）い（いも）

現在シニア情報アドバイザーは117人4月に+13人予定している、130人になる。

## ②曾根 清次氏（NPO法人 Com-Work 事業推進部長）

会社生活を52才で止めて自立型の人間、自分の為の仕事始めた

ワープロ教育をする人を教える会社を作った。

名刺をパソコンで作るビジネスをコムワークでスタートした。

パソコンを教えてという人が増えて「教えてカード」を作った。

始めは無償で教えたが有償にした。

Com-Work、コンピュータからコミュニティーへ。

老後の使命感、「叡智伝承＝教育活動」

人生半ば（52歳）から、夫婦でOA型に変身。

いっしょに、つながり、うごきだす（ココモ運動）

Cooperation Community Motivation

協働「シニアネット+行政+企業」×人が動く

COCOMOサロンのネットワークづくり

力が3個で協が出来る。シニアネット、行政、企業之力集まれば動く、協働が出来る

2001年WAC長寿社会文化協会を設立、自立を目指す高齢者、女性を対象

デジタルカフェ、シニアサロンを始めた

人間の寿命は80年になった、動物は子育てが終わると死ぬ、人間は30で死ぬのが本来である、それ以上は後の人に伝えるのが使命である、その為の余生と考える。

### 3. 討論

#### ○質問、1

A氏：500人、5年やっている、仲良しクラブで運営している。グループが10ある。組織、機能、は怎么样了いるか？

#### ●回答

塩見氏

事業部制を取っている、パソコン事業部、研修広報部、文化企画部、総務部各事業部が担当する。

主要な事は事業部長と理事長、副理事長、6人で主な事を決定して進める。

曾根氏

ふれあいネットを年4回発行して、情報誌を出して情報の共有を計っている。

#### ○質問、2

B氏：拠点はありますか、どうして確保するか？

#### ●回答

塩見氏

部屋探しは、ジプシーで苦労した、学校の空き教室を借りた。

小浅邦子：コムワーク会長

男性は会社で苦労してきた、ネットワークの仕事は女性がやった方が良い事もある。

事務所はメンバーのプライベートオフィスを借りたり、小学校の教室を借りたりしている。

曾根氏

相手が困っているところを利用する。

パソコン教室の定休日、お寺の利用、店舗の軒先など

コーディネーター

メロウ倶楽部は拠点が無くネットが拠点である。

地方では拠点がある、大阪では科学健康センターのパソコン教室を借りて市民のパソコン教室を実施している。

#### ○質問、3

C氏：団塊の世代がシニア入りする、これからのカリキュラムをどうするか？

#### ●回答

塩見氏

パソコンで趣味を伸ばす、デグラデーションを使って素晴らしい墨絵が書ける。

シニアネットお絵描きコンクールの全国大会を上野美術館でするようなイベントも出来る。

曾根氏

工房的なサロン、物を作る、作品を残す、インターネット博覧会のシニア版があったらよい。

小浅氏

パソコン教室でその日の成果を持って帰れるようにしている。自分で進歩が判るので、シニアに生活に張り合いが出来たと言われた。

D氏（いちえ会）：

WORDで絵を描く講習で講師を派遣している、こういう使い方もあるという講師の派遣も出来る

E氏（東葛インターネット）

フオトクラブを作って、ホームページ上に展覧会をしている。

F氏（メロウ倶楽部）

マンションで自宅サーバーを置いて、勉強会をしている。掲示板を作っている。

#### ●質問、4

G氏：シニアのパソコン利用の推進策は？

○回答

シニアに対してプロバイダー料金を無料にすれば良い。

アカデミアパックは資格が文部省の認定が必要である、シニア情報アドバイザーも認めるようにすべきである。

#### 4. まとめ

1. シニアのデジタルデバインド解消を目的とする

IT基礎講座はシニアネット共通のミッションである。

2. 各シニアネット共、講座開講の拠点確保で苦勞している。

これに付いて共通の解はない、各自工夫が必要である。

3. 一方、団塊の世代のシニア入りを契機に、社会の要請は変化して来ると予想される。

基礎カリキュラムから専門、高度なカリキュラムへ移行して行く必要がある。

例としてお絵かきソフトで素晴らしい絵画を描く、ソフトを使って作品を仕上げる等

#### 5. ニューメディア開発協会への期待

(1) シニア情報生活アドバイザーのステータス向上

例：準国家資格化、アカデミーパック入手資格など

(2) シニア作品のイベント開催（インパク、上野美術館）

(3) プロバイダー料の優遇化など

## ワークショップ2 交流活動でたのしく、そして地域に活力

### 課題提供者

- ・ 砂川 正男氏（NPO法人沖縄ハイサイネット 会長）
- ・ 福岡 壽夫氏（熊本シニアネット 代表）

### 「実施概要」

#### 1. 趣旨説明

社会との関わりがややもすれば疎遠になりがちなシニアにとって、シニアネットは地域との交流の機会をもたらし、シニアライフを充実したものにする重要な存在である。又、シニアネット同士の交流は、お互いの勉強になるばかりでなく地域社会への新しい刺激をもたらしている。シニアネットのコミュニティづくりは地域を活性化する重要な活動になってきている。現在、コミュニティ活動を展開している「NPO法人沖縄ハイサイネット」と「熊本シニアネット」の活動状況から、その意義や活動のあり方等について議論を深め、今後の活動の具体的な方策を考える。

#### 2. 課題提供

##### ①砂川正男氏（NPO法人沖縄ハイサイネット会長）

沖縄ハイサイネットの事例

##### 1) 設立の経緯

平成12年7月 沖縄テレワークセンター開設を期に当ネットを結成（22名）

平成14年10月 NPO法人の認証を受けた。

パソコン学習 はがき作成 インターネット・Eメールの活用 etc. に取組

現在、17クラスを開設、約1000名が終了

##### 2) 沖縄ハイサイネットの理念と目的

PCは目的ではなく手段である。

たえずスキルアップを図り、人のため世のためにつくすシニアたれ。

身近な人を大切に、地域や社会に貢献

「常に楽しく」が活動の基本

### 3) 主な支援及び協力事業

沖縄市一番街商店振興組合支援イベント  
第 50 回沖縄全島エイサーまつりへの協力  
沖縄平和祈念献茶式への協力  
交流事業

平成 13 年 09 月 仙台シニアネットクラブ訪問  
平成 14 年 10 月 台湾タイペイ・シニアネットとの初の海外交流  
平成 15 年 10 月 韓国ソウル江南シニアネットとの友好交流会  
平成 16 年 04 月 ハワイシニアネット沖縄県人連合会と親善交流  
平成 16 年 10 月 松本シニアネットクラブと友好交流

### 4) テレビ映像交流

仙台電脳七夕まつり中継・IT 映像交流会  
徳島いきいきネットテレビ会議交流

### 5) 課題

NPO 法人として組織運営のための陣容確立  
安定的な財源確保のための受託事業の開拓  
シニアネット支援組織のネットワークの構築  
国や地方公共団体、関係団体との連携強化  
シニアネットの海外交流センター窓口の開設

## ②福岡 壽夫氏（熊本シニアネット代表）

熊本シニアネットの事例

### 1) 熊本シニアネットの概要

高齢者の孤立をなくそう、という目標を第一に掲げて 1999 年に 21 人で発足し、現在入会者は 1000 人を超えた。入会の動機は、楽しい集まりに参加したい、もっと勉強したい、社会的活動に関わりたい、など様々である。

パソコンやインターネットを使って、楽しく学び、遊び、社会活動に参加しようという方針で活動している。組織として教育普及部、交流企画部、広報部、保険福祉医療部、機器およびサーバー管理部などを設けている。

### 2) サロンの目的と活動

歩いて行ける場所に溜まり場をという視点から、県下に 14 カ所のサロンを開設した。みんなが先生みんなが生徒で、パソコンお助け塾としての役割の他、地域の人たちとの交流や各サロンで独自の活動を行っている。

### 3) サークル活動

同じ趣味を持つ人たちが集まってサークル活動を行っている。現在デジカメクラブやハイキングクラブなど 8 つの登録サークルと、10 数個の未登録サークルがある。福祉活動をしているサークルもある。

#### 4) ITによるシニアのネット作り

シニアのネット作りの要点として、興味をもって楽しみながらやる、会員の多様性を前提としてそれを生かす、顔を合わせる交流活動を盛んにする、自分の出来ることを積極的にやる、輪に入るきっかけを作る、地域との絆を大切に作る、サイレントマジョリティへの配慮などがあげられる。

#### 5) 他のシニアネットとの交流

日米井戸端会議学習交流会

シニア交流祭 in 門司

シニアネットフォーラム21 in ひろしま

長崎県高度情報化推進協議会

シニアネット・フォーラム21 in 四国

宮崎 IT ボランティアの会 など

### 3. 意見等

#### ・ A 氏

町田で 10 年前にケア施設を立ち上げた。NPO 法人としてやっている。PC クラブ 100 人ほどの指導もやっているが、今後これを発展させるについて、課題提供者のケースを参考にしたい。

#### ・ 福岡氏

出席者のニーズにあった運営が必要。会のホームページを有効に活用している。種々の制約がわずらわしいので NPO 法人にはしていない。出来る範囲のところからやってゆくという方針でやっている。

#### ・ B 氏

NPO 法人として国立で PC 教室等の運営をやっている。シニア指導は難しい面もある。ある人は挫折し、ある人は漫然と居続けたりする。

#### ・ 砂川氏

NPO 法人として社会的責任を持ちたいと思っている。講習会は収益事業とはならない。2000 円の年会費が資金の基礎となっている。PC は進化してゆくので、マシンの買い替えを先日やった。

### 4. まとめ

- ・ NPO 法人化については、絶対必要条件ではないとおもわれる。
- ・ 沖縄の場合、商店街、市、県レベルでの行事に積極的に関わって社会的に認められてきている。
- ・ 熊本の場合、カフェ方式で地域に密着して広がりを作ってきている。各種施設や団体等からの理解と支援を得てきている。
- ・ 沖縄の国際交流は、参加者は勉強になり大変喜んでいる。個人の毎月の積立金が基礎になっている。ただ、沖縄の場合海外の沖縄県事務所が役立っているが、実はセキュリティの問題があり、これはこれからの課題である。
- ・ 課題発表者の「楽しく」という姿勢は大切である。沖縄は歌の作詞作曲に加え、踊りの振り付けまでやって、集まりを盛り上げている。熊本の福岡氏が「シニアこそ IT を」といっておられたのが象徴的であった。

## ワークショップ3 行政との協働で社会貢献

### 課題提供者

- ・井上 文雄（仙台シニアネット 代表）
- ・高橋 克司（とちちシニアネット 理事長）

### 【実施概要】

#### 1. 主旨説明

シニアネットが活動を通して社会貢献して行くには、地域の自治体との協働が重要である。また、高齢化社会を向かえ、自治体もシニアの力に大いに期待している。本日は実際に自治体との連携を進めている団体の方を招き、実施例を紹介いただくと共に、自治体と協働するためにどのような取り組みが必要か、具体的な方策を考えていきたい。

#### 2. 課題提供

##### ■ 井上 文雄 氏（仙台シニアネット 代表）

- 協働の内容：仙台市のITアクションプランの一環としてのパソコン講習
- 当クラブの来歴：1998年発足で、仙台市教育委員会生涯学習課との協力でシニア市民を対象にパソコン講習を行ったのが始まり。
- 協働のきっかけ：仙台市がIT自治体を目指してITアクションプランを掲げた機会をとらえ、情報弱者といわれる高齢者へのIT普及と生きがい作り・市政参加を促すという観点からシニアへのパソコン講習を提案し、協働が実現した。  
これにともない協働の相手は教育委員会から市の保険高齢部（高齢企画課）に変わった。
- 指導の特徴：教える側も元受講生だったシニアならではのやさしくきめ細かい指導。（受講者に好評、内閣官房長官賞、仙台市教育長賞を受賞）
- 配慮事項：個人情報の保護に厳重な配慮。（仙台市と綿密に打合せ）
- 行政との協働を実現するには：自治体の動向（ニーズ）を早期に捉えて的確な提案を行うこと。そのためには、平素から自治体の施策に関心を持ち、ホームページの検索や健康福祉、生涯学習、情報政策等に関する部署と意見交換を行うなど、コミュニケーションを良くしておくこと。

##### ■ 高橋 克司 氏（とちちシニアネット 理事長）

- 協働の内容：帯広市のTMO事業（中心市街地活性化事業）の1つであるDi:Caffe（市民向けIT交流スペース）を運営管理すると共に、IT講習を実施
- TMO事業とは：街の中心部に賑わいを取り戻すため、帯広市が商工会議所に委託して実施している活性化事業で、この中の1つである「北の屋台」は全国的にも注目されている。

- 協働事業になった要因：街中活性化の観点から、中心部を市民学習の場として機能させたいという行政側のニーズに対して、とちぎシニアネットの活発な活動実績がアピールした。また、地元紙がシニアのIT活用に関心を持ち、支援してくれたことも大きい。
- H17年講習実績：220講座、受講者数延べ3600人余
- 協働の評価：Di:Caffeのビルに1日平均40人の人の出入りがあり、街中活性化の一翼を担っている。また、同Caffeの管理を通じて市民・青少年との異世代交流が生まれた。会員数も今や200名余に増大し、元気な一大シニア集団が形成された。ここにいう会員は名目的な登録会員ではなく年会費12,000円を納める真に活動的な会員であり、帯広市の人口に照らしてみると0.1%超の比率になる。この比率は全国的に見てもトップクラスの高い比率ではないかと自負している。
- その他の活動
  - 市及び商工会議所主催イベントへの参加：駅前広場花壇のメンテや帯広の森植樹祭への参加の他、地元で毎年開催されるジャパンラリー関係者へのインターネットサービスを実施。
  - 身体障害者協会との協働：障害者へのインターネット教室を実施。
  - 札幌医大との協働：歩数計による歩行データと効果の関係を分析する試みに参画中。
- 今後の取り組み：団塊の世代へのIT講習、農村地帯へのIT普及（出前講座）を検討中。

### 3. 事例に関する質疑応答

【質問】高橋氏へ

今後の新しい活動として「団塊の世代へのIT講習」を検討中とのことだが、もう少し詳しいことを説明願いたい。

【回答】

団塊の世代と表現したが、正確には企業の定年に近い年代の管理職の人を対象としたIT講習といった方が適切かもしれない。これらの人はITに接する環境にはあるが、実務は部下にやらせているため、自分ではITを効果的に活用する知識も技能も欠けている人が多い。こうした人を対象に講習して欲しいというニーズがいくつかの企業から出ているため、事業化の可能性を検討している。

【質問】高橋氏へ

TMO事業にとちぎシニアネットとして年間80万円負担し、Di:Caffeの管理費として60万円を受領とあるが、差し引き20万円の持ち出しと考えて良いのか？

【回答】

受領した60万円は管理当番会員への当番代として支払ってしまうので残らない。したがって、持出しは年間80万円となる。これはDi:Caffe(85坪)賃貸料の一部負担に相当する。

#### 4・討議

##### 論点1 協働の意義について

【質問】シニアネットとの協働で行政が期待するもの、言い換えれば、自治体がIT講習をシニアネットに依頼する意味はどこにあるか？

【回答】高橋氏

企業に請負で発注した場合には、手際は良いかもしれないが、講習が終われば後に何も残らない。シニアネットに委託すれば、シニア同士の交流が生まれ、地域の活力になる上、講習後のサポートの面でもより親切なサービスが期待できる。

【回答】井上氏

シニアのIT講習はケースバイケースのきめ細かなサービスが求められる。平等・公平な（悪くいえば画一的）サービスを旨とする行政にはこのような仕事は不向きであり、シニアネットに依頼するのだと考える。

【会場からの意見】

我々の側から見た場合、行政との協働によるバックアップは大きな魅力であり、意義のあることだが、行政はその原則である公平性・透明性の観点から、容易には協働事業化を受入れてくれない。この両事例においてはシニアネットと行政の関係が大変うまく行っており、羨ましく思う。

私の地元の自治体でも最近は少し風向きが変わり、NPOとの協働に積極的になり、提案を募集する動きが出てきているので、これに対応して行きたい。

##### 論点2 協働のあり方（問題点・配慮すべき事項等）

【質問】アンケートによると、実際に協働事業を経験した行政側と市民団体側の双方から、色々の問題提起がなされている。

協働を成功させるためにはどんなことを心がけるべきか？

【回答】高橋氏

行政から信頼されるためには、会の体力を充実させることが重要。具体的には、会としての理念をしっかりと持つこと、それに沿って会員のベクトルを集約して行くリーダーシップ、業務を推進していく組織・体制の確立、人材の育成等である。

【回答】井上氏

高橋氏の意見に同感。NPOは往々にして1人のカリスマ的指導者に引張られていることが多いが、協働を成功させるには、組織をきちんと整え、組織で対応することが重要。

【会場からの意見】

某自治体OB：行政の担当者がNPOに仕事を委託するときの最大の不安事項は、NPOの業務遂行能力である。（期限、アウトプットの品質等）

これを解消するには、小さな仕事から始めて実績を積み重ねるしかないのでは。

また、役所は事業を企画・実施する部署と契約を司る部署が異なり、事業部署の意向だけでは協働は実現しない。また、議会の承認も必要となるので、契約は公平・公正・透明性の点で誰にも説得力のあるものにしなければならない。

**【会場からの意見】**

某自治体職員：わが市でも市が側面援助して立ち上げたNPOとの協働事業をしてきたが、契約担当部署からの指摘により随意契約はできなくなっている。今後の対策として、提案募集型事業で協働を進めたい。

**論点3 今後の展望**

**【質問】** 協働の分野はIT講習に力点が置かれてきたが、これから先の展望は？

協働の裾野はどう広がって行くのか？

**【回答】** 高橋氏

まだまだデジタルデバイドは解消されておらず、今しばらくはIT講習のニーズは続く。ただし、これだけでは先細りとなるので、会としての事業展開が不可欠。具体的には、自治体HPのうちのシニア向け情報に係わる部分のコンテンツ作成・メンテのお手伝い、町内会の会計処理や広報等を支援するアプリケーションの開発・運営・管理などの事業を考えている。また、学校の余裕教室の運営を通じて地域における世代間交流を図る事業も構想として持っている。

**【回答】** 井上氏

今後の広げて行こうと考えている分野は、とかちシニアネットとほぼ同じ。(地域ポータルサイトやHPの作成業務、町内会・老人会の会計・会報作成業務、不登校児対策の一環としてのPC教育補助業務、自治体への諸届け・申請の電子化にともなう周辺業務等)

**【コーディネーター】**

昨日のパネルディスカッションでも出ていたが、シニアネットの社会貢献の裾野を広げる試みが各地でなされている。

例) 伝統文化・体験の継承：メロウ倶楽部・伝承館、NPO 陽だまり・ふるさと情報等、出来ること／したいことのマッチング事業(プラットフォーム)：世田谷eコミュニティ、三鷹いきいきプラス事業等

**【会場からの意見】**

我々のところでは産業センターや商店会連合との協働(HP作成等)を行っている。また、大学と協働して介護予防のアンケートや実証実験のお手伝いをしている。さらに、健康コミュニティ(会員がインターネットを使って万歩計や栄養摂取等のデータを送り大学が健康状態のチェック、習慣病予防指導を行うコミュニティ)の活動も試みている。

**5. まとめ**

- 協働の意義：シニアネットにとって行政との協働は魅力的で意義深いものであるが、行政から見た場合、協働の相手はシニアネットに限らず色々な市民団体や企業がある。協働にあたっては、行政がシニアネットに業務を依頼する意味合いを明確に認識し、その期待に答えなければならない。

- 協働のあり方：協働に際しては、目的目標の共有、役割分担・責任の明確化、相互理解、自主性、透明性の確保が特に重要。シニアネットとしては会の理念をしっかりと持ち、行政から信頼される組織体制を整えると共に、契約の透明性が確保できるような提案を行っていく必要がある。
- 今後の展望：ITは手段であって目的ではない。ITを使って何をすることが問題であるが、既に各地で色々の試みが展開されており、今後も裾野を広げていく必要がある。一方、デジタルでバイトの問題はまだ解消されておらず、そのための活動とフォローアップも当面続けていく必要がある。



熱心に討議する  
各ワークショップの  
参加者たち



## ワークショップ4 資産の継承で地域振興

(歴史・文化などの保全と伝承)

課題提供者

- ・ 高木 正幹氏 (NET・陽だまり 前会長)
- ・ 若宮 正子氏 (メロウ倶楽部 幹事)

### 「実施概要」

#### 1. 趣旨説明

つい先ごろ、関東大震災直後の1924年に建設された表参道の同潤会青山アパートが、再開発事業でもそのままの形で保存されたというニュースがあった。このことから分かるように、過去の貴重な歴史・文化資産を次代に残すことの重要さが、昨今、見直されている。

一方、シニアの知見や経験は、郷土の、また日本の歴史・文化や記録を守り、次世代に引き継ぐ活動に大いに役立つもので、また、これらの活動を地域の振興に繋げ、明るい未来の礎をつくることはシニアの重要な役割になると思われる。

そこで、実際にこれらの活動を展開している「NET・陽だまり」と「メロウ倶楽部」の事例を伺い、活動の具体的な方策について議論を深め、今後のシニアネットの活動の指針にしたい。

#### 2. 課題提供

##### ①高木 正幹氏 (NET・陽だまり 前会長)

##### 1) NET・陽だまり、設立の経緯

1993年から3年間、通商産業省と柏崎氏役所で予算化して「高齢者支援型総合情報システム実験事業」が作られた。その事業は「ふるさと情報システム」として柏崎市の「デジタル風土記」をコンピューターで編纂し、ふるさとの皆さんに後世まで伝えて行こうというもので、この委員会の名前が「陽だまり」であった。このような経緯から、「NET・陽だまり」は自然な形で「ふるさと情報誌」のデジタル風土記を継承し、今日に至っている。

「風土記」とは風土、産物、文化、その他の情勢を記したもので、最古の風土記に、8世紀和銅6年に元明天皇が諸国に命じて、地名の由来、地形、産物、伝説などを記した「地誌」がある。

NET・陽だまりは、柏崎の「風土記」をデジタル・アーカイブで残す活動をしている。

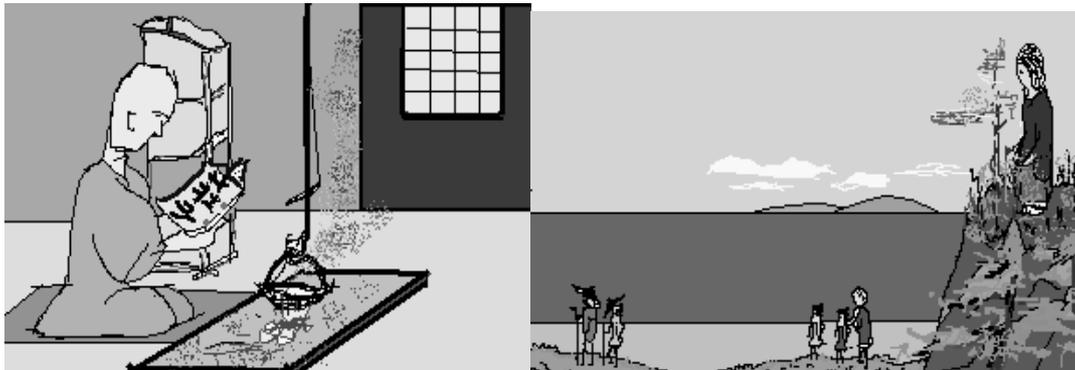
##### 2) 伝承活動の内容

##### a. 「良寛ファンタジー」

「良寛」の生涯を小中学生向けの紙芝居風にまとめたもので、ペイントで100枚の絵を書くと孫と約束をした、陽だまりの元福会長・本山富尚氏が、柏崎市図書館の良寛に関する膨大な資料を研究し、これに物語をつけた。

小竹幹事長の協力もあって、これを柏崎市のホームページに掲載している。

この活動は「デジタル風土記」として郷土史の伝承に大いに役立っている。



「莊子」を読む若き良寛

両親に別れをつけて他国に旅立つ良寛

b. 「私の8月15日」

「パソコンおばあちゃんの会」を主催する世田谷の大川さんが、戦争体験の投稿を募って全国的な反響を読んだ企画の、柏崎版である。

20名近い会員の投稿の中に、学徒動員の体験を記した私の投稿もある。

学徒は兵隊と同じカーキ色の征服に戦闘帽を被っていたので、玉川」堤を自転車で走っていた時、グラマンの機銃掃射に遭い九死に一生を得た。一人でも犠牲者があれば、米軍機の目標になった私の自転車の責任は免れず、悔恨の人生を歩まなければならなかった。

3) その他の活動

- ・各種（エクセル・フラッシュ・ホームページビルダーなど）の勉強会
- ・「中高年向きパソコン教室」主催
- ・「シルバーじまん展」「しおかぜ荘秋まつり」など、地域のイベントへの参加

4) 「江戸時代の『連』」について

NET・陽だまりの運営について悩んでいたころ、江戸研究家の法政大学教授・田中優子さんの講演を聞く機会があり、「江戸時代の『連』」を知って新鮮な驚きと共感を覚えた。長い間かかってできた「連」や「社中」などの組織が、江戸時代の文化を支えていたが、この「連」の考え方がNET・陽だまりの運営理念に酷似していたので、この考えを運営理念に取り入れた。

- (1) 巨大化を避け適正規模を保っている。
- (2) 世話役はあっても、強力なリーダーはいない。
- (3) 常に全員が何かを創造しており、創る人、享受する者が一体。
- (4) 金銭に関わらない。
- (5) 他の人や他のグループに開かれている。
- (6) 様々な年齢、性、階層、職業が入り混じっている。
- (7) ひとりずつが無名である。
- (8) 外の情報を把握する努力をしている。

- (9) 「連」を構成する目的はとりあえず具体的ではっきりしているが、それをはみ出す場合もある。

会員はほとんどが官庁・企業・学校・病院などを定年退職した男女で、日本の縦社会からの解放感を求めて来られる人も多く、上記の「連」の目指す各項目が、喜んで迎えられるのだと思う。

NET・陽だまりの合言葉は「あせらず、あわてず、あきらめず」であり、幹事長の e-mail の末尾には、「陽だまりへ すてきな笑顔に あいたくて」と記されている。

## ②若宮正子氏（メロウ倶楽部 幹事）

### 1) 「伝承館」の概要

メロウ倶楽部が、前の世代より引き継いだ大切なものを、後世に伝承する作業を日本中のシニアの手でやっていくプロジェクトで、ITを使った社会貢献活動の一環である。投稿者の実体験に基づいたありのままの記録であり、歴史の襞に埋もれてしまいがちな普通の暮らしの様子やホンネなど、特定の史観・思想に基づかないもので、大正から昭和・終戦を経る激動の時代の世相が窺える資料として残すことを心がけている。しかし、シニアに残された時間は長くないので、一日も早く記録を残す必要がある。

### 2) 掲載された記録の一部を紹介

#### ・「レンバン島捕虜収容所」（メロウ会員の体験談）

先の大戦で捕虜になった日本兵たちが、小隊長に俳句をイロハから教えられ、俳句に取り組むことで過酷な捕虜収容所にあっても規律を守って過せたとする記録。

最近、この投稿に、お祖父さんの事を調べていて検索でヒットした若者から、お祖父さんの消息を知りたいと連絡があり、投稿者と直接メール交換をしたという事があり、後世に残す作業に、既に過去と現在の繋がりができている。

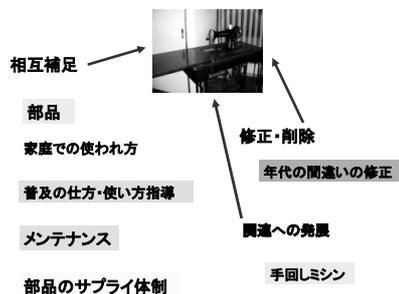
#### ・「疎開の記録」（疎開児童の日記）

会員の紹介で知人のホームページにあった疎開児童の記録を掲載した。当時の子供の日記なので、率直で、大人になってから記憶で書いたものとは別の貴重さがある。

#### ・「義父の遺稿」（終戦当時、鞍山の鉄工所の技術者だった義父が残した記録）

終戦当時の満州の様子や、捕虜ながら溶鉱炉の建設に腐心した記録。

その溶鉱炉が製品を輸出するなど現在も立派に稼働しており、当時の日本の技術が現在の中国に生きているという、閲覧者からの反響があった。



### メロウ伝承館の特徴

XOOPSというシステムを採用しているので

- ・サイトがデータベース機能を持つ  
(テキスト・画像とも)
- ・いわゆる「サイト荒らし」などに対して強い
- ・記録の修正・補足がリアルタイムで行える
- ・多くの人による共同作業に適するシステム

### 3) 「伝承館」の特徴

- ・会員にはハイシニアも多く、大正時代の記録も投稿されている。
- ・事物の中には「八つ割れ草履」のように地域によって様々な用途で使われたことなど、全国ネットならではの情報が集まる。
- ・客観的な百科事典とは違って、自分の目で見、触った体験記録になる。
- ・検索が容易で、掲載内容の全てに検索がかかるデータベース機能を持ったソフトを使っている。
- ・コメントツリー形式で、一つの事象・事物にも多くの情報が集まり、個人の記憶でありながら、情報の正確さが期せる。
- ・年代などの間違いは何時でも修正できる造りになっている。
- ・「誰にも分かる」ように、投稿記事に振り仮名や注釈をつけている。

### 4) 今後の課題

海外の植民地で育ったシニアにとって、その記憶を残すことは喫緊の課題。  
 広島・沖縄などの記録は、後世に伝えるべき記録として欠かせないものである。  
 東京オリンピック、高度成長期、オイルショックの記録など、団塊の世代の方々に期待したい。

## 3. 参加目的

課題提供に先立ち参加目的などを伺った(参加者の自己紹介から抜粋)

- ・ A氏・・・元気なシニアはどんな活動をしているのか、団塊の世代として興味がある
- ・ B氏・・・最近首都の郊外に転居した、伝承が地元に取り組むきっかけになればと思う
- ・ C氏・・・「歴史・文化の保全と伝承」のタイトルに惹かれた
- ・ D氏・・・地域の文化にどのように取り組んでいるか知りたい
- ・ E氏・・・柏埼が故郷で、民俗芸能「あやこ舞」のホームページを立ち上げたので、伝承活動に興味がある
- ・ F氏・・・行政として、団塊世代の地域参加をどう図ればよいか勉強したい
- ・ G氏・・・多摩市に残る雑木林の保存活動を、ネットを通してPRしたい
- ・ H氏・・・けんちゅう技術の伝承をするNPOに居て、伝承活動に興味を持った

- ・ I 氏・・・事例発表者のホームページを見て、活動に共感を覚えた
- ・ J 氏・・・収入を求める目的の他のワークショップには馴染めない
- ・ K 氏・・・自治会に地域住民を参加させる手立ての一つに伝承活動もあるかと思った

#### 4. 討議

事例を元に、シニアネットがその知見経験を活かして、地域の、また日本の文化・歴史を、デジタル・アーカイブで残す活動を社会貢献や地域振興につなげるための指針を討議した。

○コーディネーター：文化の伝承・保全是将来の文化の発展につながり、IT技術を持つシニアネットがこれに取り組むことは地域の活性化にも貢献できると思われるが、事例に見られるような活動の意義についてどう思うか？

- F 氏：神社の注連縄、門松づくりなどのできる人は少なくなっている。これをデジタル化して残し、若者に伝承してゆきたい。この作業にシニアが取り組む事は素晴らしい。
- G 氏：民間で取り組むのは難しいのではないかと、行政とのタイアップは考えなかったか？
- メロウ倶楽部：メロウ倶楽部では、現在残されている歴史とは違う形で、行政の色に染まれない、庶民の歴史を残したかった。今後、継続発展させるためには行政の力も借りなければならぬのかも知れない。
- I 氏：行政の仕事では偏る虞がある、民間団体の活動を国に認めさせることが大事。
- D 氏：自分の思いを大切に記録するので、無機質な行政に委ねるのは、根本的な考え方に違いがある。「伝承館」のいき方を評価する。
- G 氏：活動は理解できても、資料集めが大変。これを行政にバックアップして貰ったらどうかと思う。実際の資料集めはどうされたか？
- 若宮氏：会員数が多く(450名余)、目下は会員のツテで資料を集めている。今後は外部にも資料収集を求めてゆきたい。

○コーディネーター：このような活動に行政の支援を得るのと、シニアネットが協力して取り組む事についてはどう考えるか。

- G 氏：今回のようなPR活動を全国展開する、行政やシニアネットに協力してもらう。
- C 氏：個々人の伝承に対する思いを発信すれば、行政が集めるのとは違った形で、資料は必然的に集まると思う。既にある「伝承館」で体系的にそれらを集めたら、立派な民間活動になる。
- 高木氏：市役所が歴史・文化の保全の重要性を理解して支援してくれたが、「お金は出すが口は出さない」を徹底して支援してくれるのでなければ、伝承活動の健全な発展はできない。
- 若宮氏：ネット上の活動にはお金は殆どかからない。

○コーディネーター：残したい資料をどのように集め、伝承するか？

- H 氏：資料を集める方法を考えるのではなく、価値観を認識して貰い、良さを分かって貰えば、必然的に参加者は集まる。参加する満足感を知ってもらう努力が必要だと思う。

- G氏：地域のシニアネットを通じて、地域に密着している人に、公民館などで雑談しながら取材するなどして手伝ってもらったらどうか。
- L氏：地域のシニアネットなど、既にある組織を使って各地の史料を吸い上げることができると思う。シニアネットの力を合わせて取り組むことが近道だと思う。
- C氏：手許にある史料も個人が病気にでもなれば紛失の可能性もある、メロウ倶楽部やNET・陽だまりの活動の存在意義を広めることが大事だと思う。
- 若宮氏：仕事人間だった人も聞き書きなどで地域や家族との繋がりができ、奉仕は人のためでなく本人の定年後の新しい人生を生きる時にプラスになる。
- 高木氏：多様化する価値観に対応できるような捉え方で伝承していったら良い。
- コーディネーター：最後に、課題から少し逸れるが、シニアネットの適正規模についてのご意見は？
- M氏：対面で行う活動は自ずと規模が小さくなる。ネットを使えば、気に入った「連」（活動）に、何時でも直ぐに参加できる。多くのシニアネットが連携すれば、30の「連」が45になってゆき、好きな「連」に参加できるのではないか。  
形にはならないが「しつけ・道徳」なども伝承してゆくべき大切なものではないか。

## 5. まとめ

- ・文化は伝え広めることに意義があり、デジタル・アーカイブで残す活動は大いに評価できる
- ・文化的資産の継承は、知っている人のためでなく、知らない人が理解できるように伝えなければならない
- ・長い歴史の中で祖先が守り育ててきた文化財は日本の歴史、伝統、文化などの理解に欠くことができない、同時に将来の文化の向上、発展の基礎になるもの
- ・地域に伝わる伝統文化などの継承は、地域に誇りと愛着をもたらす、地域共同体に果たす役割は大きい
- ・最先端技術を駆使すれば、資料を極めて高い精度で記録できる
- ・ネットを利用することで、より多くの資料が集まり、より多くの人に継承できる

以上の「まとめ」から、シニアネットが連携して、引き続きこの課題に取り組むために、参加者同士で検討を続ける場を作ることに満場一致の賛同を得た。

尚、その場は、経験とインフラのあるメロウ倶楽部が提供することで同意が得られた。SNFの課題が一時的なものとならず、継続されることになったのは、大きな成果であった。

## ワークショップ5 『コミュニティビジネスで生涯現役』

### 課題提供者

- ・ 久保 律子氏（NPO法人シニア SOHO 普及サロン三鷹 代表理事）
- ・ 能田 幸生氏（NPO法人トータルサポート21 理事長）

### 【実施概要】

#### 1、趣旨説明

団塊の世代が定年を迎え、少子高齢化時代の中で、構造的な労働力不足が危惧されている。一方リタイアしたシニアは、まだ働く体力・気力・能力を十分に持ち、その長年に亘って培ってきたノウハウを活用して、可能な限り生涯現役で居たいという気持ちを持ち続けている。

しかし、それぞれの地域に戻ってきた企業戦士を、その能力と意欲に見合う受け入れ体制が、地域に根付いているとはとても言えない。

この役割をただ行政に求めても限界があるが、各地域に根ざしたシニアネットが、自分たちで作上げたシステムの中で、これを受け入れていく仕組みを構築すれば、そこに新しい形のコミュニティビジネスが創造され、地域の活性化と交流に大きな役割を担っていく事ができるのではないか。

それにはどのような視点で取り組むべきか、また何を求め、何を排除し、何に留意していかなければならないか・・・という問題点を、現実にコミュニティビジネスとして定着させ推進している、実績ある2つの団体「NPO法人シニア SOHO 普及サロン三鷹」と「NPO法人トータルサポート21」の事例提供を通じて、シニアのパワーを地域の大きな広がりにする基盤に活用する糧とするために、このワークショップで議論を深め、今後の指針となる討議を実施する。

#### 2. 課題提供

- ①久保 律子氏（NPO法人シニア SOHO 普及サロン三鷹 代表理事）  
シニア SOHO 普及サロン三鷹の事例

#### 4) 設立の経緯と内容

1999年設立 12名で発足し、現在の会員数 250名

（創立以来登録した事のある全会員数は約500名）

平均年齢 59歳 男女の割合 72対28

会員の地域分布 三鷹39% 多摩地区24% 都内在住者80%

業務の多様化と共に北海道まで地域が広がってきている。

## 2) コミュニティビジネスとは

地域の持つ様々な課題を市民が主役となり、ビジネスの手法を用いて解決を図り、その収益を市民の活動と地域の活性化に還元する社会指向型の企業活動と位置づけている。

## 3) 行政との関わり

「困っている」「こんな事があつたら良い」というニーズを行政に受身の形で要請したり、一方的に与えられたりするのではなく、具体的な形で持ち込み、それをボランティアではなく、報酬を得るビジネスとして提案型で関わっていく事が重要である。

行政には独特の様式と慣習があり、ただ関わりを求めていくだけでは成就しない。提案の内容は決して一方的ではなく、相互に補完しあい、決して一人勝ちにならない進め方が重要で、その点で市民は賢くならなければならない。

## 4) 組織運営の基本理念

企業での仕事一筋であったリタイアシニアは、地域の事は何も判らないまま戻った地域でデビューする事になるが、彼らは退職金を投入して、自分で起業する意思は無いし、リスクを負う意識もない場合が多い。

十分な自由な時間を謳歌したいと言う願望は強いが、しかし強い願望と同時に僅かでも収入も得たいと言う人たちに、そのニーズにあった舞台〔プラットフォーム〕を提供する。

## 5) 組織の形態

過去の経験を生かせば、それぞれがその道のプロであるメンバーに対してやりたいと言う思いを共有できる仲間同士が、お互いに手を上げてチームを作り、ワーキング方式とプロジェクト方式の2通りで推進している。この意識と思いを共有できる仲間と縛りの少ない形態の中で、オープンに進める事に意味がある。すなわち「公開と共有」というテーマで、何よりも「継続して行く事」とそのためには仕事の品質維持管理意識を定着させる必要がある。

## 6) 推進中の事例と実態

### a IT講習

一般市民向けから始まり、レベルに応じて資格を取得できる講座まで広範囲にわたる。

### b 三鷹いきいきマッチング

仕事をしたい人と、してもらいたい人とのマッチングサイト。

シルバー人材センターなどと完全にバッティングするが、協力体制を保ちながら、進めている。

### c 耐震診断報告書作成サポート

地域のお年寄りや子供を守る防災の研究をしている時に、建築士を含む12人の仲間が、発想を広げて取り組んだものであるが、自分の住まいに対する不安がクローズアップされている今の時代のニーズにマッチした事業となっている。

### d 特定地域〔商店街等〕の総合的活性化支援

10軒ほどの小さな商店街の生き残りを賭けた活動に、メンバーの様々な知恵と行動力を生かして活性化させるプロジェクトである。

このように常時10個程度のプロジェクトを平行して進めて居る。  
業績は必ずしも右肩上がりであり伸びてきた訳ではなく、赤字も経験しているが、年間約5～6,000万円の売り上げがあり、社会的認知度の高まりと共に、安定した受注と裾野の広がりが出来て、確立した体制が構築されつつある。

会員250名の構成は、数名の仕事を生み出すリーダー的人材の下で、プロジェクトに参加し、一定の収入を得ている多様で元気なシニア100名余りのグループと、低頻度の参加者130名余りで構成されている。

プロジェクトに参加して事業を推進しているスタッフは、予想以上に忙しい仕事に「現役の時よりずっと忙しい」と愚痴をこぼしつつ、しかし喜んでやってくれている。とにかく元気である。

## 7) 問題点

- a 仕事はするが、指示待ち〔受身〕の人間が多い
- b 一度持った仕事は放さない人 → 次への展開が無い。
- c 議論はするが、動かない。
- d PC以外の持っているスキルを教える技術がシステムチックになっていない
- e 次への展開に持ち込むためには、人材の育成が必要であるが、リタイアシニアの沢山の知識と経験が邪魔し、育成する気もされる気もない。

## 8) 質疑応答

- Q IT講座講師などの仕事をやりたい人、やる気のある人はどんな形で見つけるのか。
- A 積極的な勧誘はしていない。 入会希望者に対し、最初は講習を受けてもらい資格を取る為の指導をする。 次にその人に無料で指導の勉強を手伝いをさせ、体験をさせる。その過程の中で適正を確認し、実務への配置を考えるが、原則的には個人の意欲である。
- Q 行政の補助や寄付を受けたいが、どのようなものがあり、その受給には何かノウハウがあるか。
- A まずネットを徹底的に使い、国からの助成金を調べる事である。  
調べれば実に驚くほど沢山の助成金がある。 これらを一つつつ当たり、取れるものは何でも頂く・・・と言う姿勢で当たれば必ずある。  
取る手法に特別なノウハウはないが、確かに面倒な手続きはあるから、ただ貰うのではなく、行政の求めるものとジョイントする形で、相互にメリットのある提案と自分の体制を示しながら、書き方などは教えてもらおうと良い。
- Q 三鷹が他の地区を押さえて、此処まで成功した秘訣があるか。
- A 市長の考え方、すなわち行政サイドに市民の声を聞く耳があり、失敗を恐れない協働の意識があった。  
また 自分達も決して一人勝ちはしない・・・と言う前提で、行政から提案してもらい、それを受ける・・・と言う形を取って行く事が望ましい。

要はネット側、すなわち市民の賢さが、行政との良質な関係を構築する事になる。その為には質の高い仕事をして継続に結びつける必要がある。

Q 竹とんぼ、水鉄砲、わらじ作り、などアナログ的なものを地域で開催すると確かに人気がある。 学校経営の場での三鷹の関わり方を教えて欲しい。

A 学校のサポートで、相互学習をどう取り組むかと言うテーマがあり、先生は時間が来れば居なくなっても地域は残る・・・と言う発想から、地域で子供を守る為にどう関わるべきかを考え、子供がシニアにパソコンを教える。

碁を教えて、チェスを教えてもらってくる・・・などの実績を積み重ねながら、

一緒にピーナッツの栽培をし〔相互学習〕、これをビデオに撮ってネットで配信する。〔父兄への浸透〕、この収穫物を料理する〔参加層の広がり〕

そして、そのピーナッツのカラをどう活用できるかのアイデアを募る、

など、1つのイベントの裾野を広げながら多くの層に共感してもらう。

こんな仕組みの構築と実践が、シニアの得意分野ではないか。

Q 起業、行政との関わりの中で、リスクはないか。 あるとすればどんな事か、またどう対応しているのか

A リスクは少なからずある。 作業はマネージャーが進めるが、契約は代表が責任を負う。 点から線、面と進むにつれて、組織にそれを俯瞰して、全体を見る者の不足感がある事は否めないが、内容に応じて下にも相応なリスクを負ってもらっている。ただ年金依存の安定型グループと、起業を志向する積極派グループとの二極化は避けられない所であり、質の高い仕事を続けるには、後者中心のグループで運営して行くしかない。

この点では、まったく会社組織と一緒にあり、趣味の会ではありえない。

## ② 能田 幸生氏（NPO法人トータルサポート21 理事長）

トータルサポートの事例

### 1) 設立の経緯

2002年定年退職、一年間を大いにエンジョイした後、経済産業省が展開していた中小企業経営サポート活動に参加し、その時の仲間18人を母体として「NPO法人トータルサポート21」を立ち上げた。

松山市 道後のNPO支援センターに事務所を持ち、理事7名を含み、正会員31名、賛助会員37名、年間売上500万ほどの規模で推進している。

### 2) リタイアシニアの特性と会員の構成

企業OBの意識や行動パターンを様々な角度から分析したデータは沢山あるが、興味ある集計結果を1つ紹介する。

A	職欲旺盛アクティブ派、	やる気旺盛、収入欲もある。	7.8%
B	趣味一筋派、	好きなことのみをやる都市型高齢者	10.0%
C	日常世話役派、	自立心の強い人生達観派	21.6%
D	日々若々しく派、	心豊かな人生達人派	10.4%
E	無事は好日派、	積極的名意欲のない自然体	46.4%

トータルサポート21は、この中の2割を占めるA、Dを中心に構成されている。企業で活躍したOBは、様々な経験を持っているが、あくまでも企業組織の駒としての活動であり、一人一人の力は知れている。また長い会社生活と転勤などで地域との密着度はきわめて薄い。この個々の力を結集して地域のニーズに答える形で小さなサポート集団を推進している。

### 3) 基本理念と運営方法

豊富な経験と能力を有する者同士が、地域の住民に対し 街づくり、経済活動、雇用機会の拡充、など行政、企業などでは埋めきれないサービスを独自の形で提供し、地域、経済、公益に寄与する・・・としている。

運営は、事業提案者が予算を伴った計画書を提出し、理事会の承認を経て活動に必要な仲間を「この指とまれ」と言う形で集めて推進している。

### 4) 推進中の事例と実態

#### A ホームページ作成支援

HPが無ければ、市の支援が受けられない為、数十件の作成と更新の需要があり、更に本来の目的である販売促進としての要望は増えている。

#### B 介護施設の運営支援

施設の効率的利用方法や、その他全般的なコンサルティング。

#### C 経営革新計画申請の支援

中小企業の経営者は孤独であり、助成金などの申請も行政の独特な形式の壁に阻まれているケースも多く、これらの申請支援を通じて経営手法についてもサポートする。

#### D 廃業にかかる申請手続き支援

起業には様々なサポート体制があるが、廃業には資金的限界もあって、支援体制が無いので、この隙間を埋める支援をする。

### 5) コミュニティビジネスの考え方

- 地域社会にはビジネスの芽は沢山ある。
- サービスの対象は誰であるかを考えて、一般市民に共感され、支持される顧客の思考に合わせた支援をする事。
- 仲間相互で達成可能な目標値を設定し、それを共有した実感が得られる事が信頼関係を構築、維持するために必要である。
- サクセスストーリー〔心の満足〕を実感できることと、最低限の報酬が得られる事。

## 6) 起業時の留意点

コミュニティビジネスに於いて必要不可欠のことは、先を見た全体構想と現実を直視した具体性のある事業計画を持つ事である。更に行政からの支援制度を活用し、補助金、融資なども視野に入れた資金計画と損益計算が最低限確認しておくべき事である。それが起業にまで繋がる継続性のある仕事の創造であり、有効な人的活用体制が堅実な組織化の原点である。

## 7) まとめ

コミュニティビジネスで生涯現役を貫くには、感性を高め、切り口を変えて身の回りの地域社会に沢山ある芽を見つけ出す事である。

それには 個人の生活意識を積極派に変え、自分にあったプラットフォームを探し出し、まず参加する事と、小さな仕事の達成感(心の満足)と、活動を維持する最低の報酬が得られる事である。

## 8) 質疑応答 (能田氏への質問)

Q 企業OBを結集する際の悩みは何か。

A 2年間の経営サポートを通じて知った延べ80人の仲間がベースに居た事もあるが、基本的に人材は沢山存在する。要は本当に仕事をしている姿があれば、人は付いてくる・・・と考えている。

Q NPOで進めている仕事が、営利企業と競合する場合があると思うが、どの様に対処しているか

A 現実の競合はあるが、まず相手先に賛助会員になってもらう事で処理している。その時点で競合関係がなくなる。

Q リタイアシニアの多くが日々是好日派であるが、この層の人がメンバーに入る希望があった時にはどうするか。

A 活動目的が違う人は、基本的には入ってこないが、入ってきても自分自身を活動派に変える努力をしない場合はこぼれていく。またこの様な人間を抱えていては組織が崩壊するから割り切りが必要である。

## 3. コーディネーターから参加者への質問

Q 企業の側から見たシニアに求めるものは何か。(企業参加者への質問)

A ここに参加した高齢者を対象としたビジネスを展開しているので、シニアに対する要望と言うより、どんな目的で何を志向しているかをキャッチし、それを役立てたいという思いで参加している。

Q コミュニティビジネスと言うテーマからは外れるが、特定の地域に密着していない広範囲の組織の場合、創り得るビジネスはあるか、また何がネックとなるか

A 対象を全国規模に広げ、ネット活動を主体に進める場合、地域行政のサポートが全く受けられない為、資金的な問題解決で苦慮しているが、顔の見えない世界でビジネスを構築する事は容易ではない。

#### 4. 課題提供者への全般的な質問

##### Q NPO組織のリスクマネジメントについて

(久保) 契約は代表が行うから確かにリスクはある。ただ契約された納期は絶対に守らせている。それでも問題が起きた時は、その筋の専門家に頼むか、代表がきちんと頭を下げる。ただ行政などの場合謝罪する事が必ずしも良い解決ではない場合もあり、個々の事例で対処している。

(能田) ビジネスである以上契約を守る事が重要であるが、行政の担当者によっては、NPOをコスト低減対策と考えている者も、いまだにいる。このような場合は、一旦打ち切ってサービスを別の形で提供するなどの措置を取るが、悪質なものは毅然として断る必要もある。

##### Q 既に懇親を主たる目的で結成されているネットで、ビジネスに挑戦したい場合、どのようなことが可能か

(久保) 三鷹にも日々是好日派のメンバーは居る。それらの人の趣味に合った沢山のサークルを作り、自由に楽しんでもらう場を作っておく。

ビジネスは飛び込んでから6ヶ月もの時間は待ってくれないが、実際の立ち上げ準備には結構時間がかかる。こんな時にサークル的趣味の集まりの中にビジネスとマッチングする種が内在している事がある。従ってこのようなサークル的形態の集まりでも十分に活用し、展開できる場はある。

(能田) 年を取って急にアクティブになれと言っても無理がある。設立目的が異なる場合は、やはり10%の意識集団のリードで進めるしかない。

#### 5. 全体のまとめ

コミュニティビジネスは一人では解決できない事を「賢い市民」が行政・企業のカや広報活動などを利用して、沢山の意欲あるリタイアシニアを結集してもらい、これを継承して「継続できる」組織を市民が作り上げていく事である。

まず動く事から始まる。行政への関わりは、上手にアプローチし、行政側の提案と言う形で進められる様な仕組みにする知恵も必要である。

個々の事業推進では、目的意識を持ち、達成感を共有できる仕組みを構築する事と、質的に良好な仕事をする事で、継続した事業に発展させる体制を作り上げる。

地域特性と、活動母体の体質を良く理解し、その地区にあった独特のビジネスを展開させて欲しい。

## 特別セミナー

### 『インターネットを安心して使うための セキュリティ講座』

瀬川 正博氏

トレンドマイクロ株式会社

情報セキュリティマーケティング課

シニアマーケティングスペシャリスト

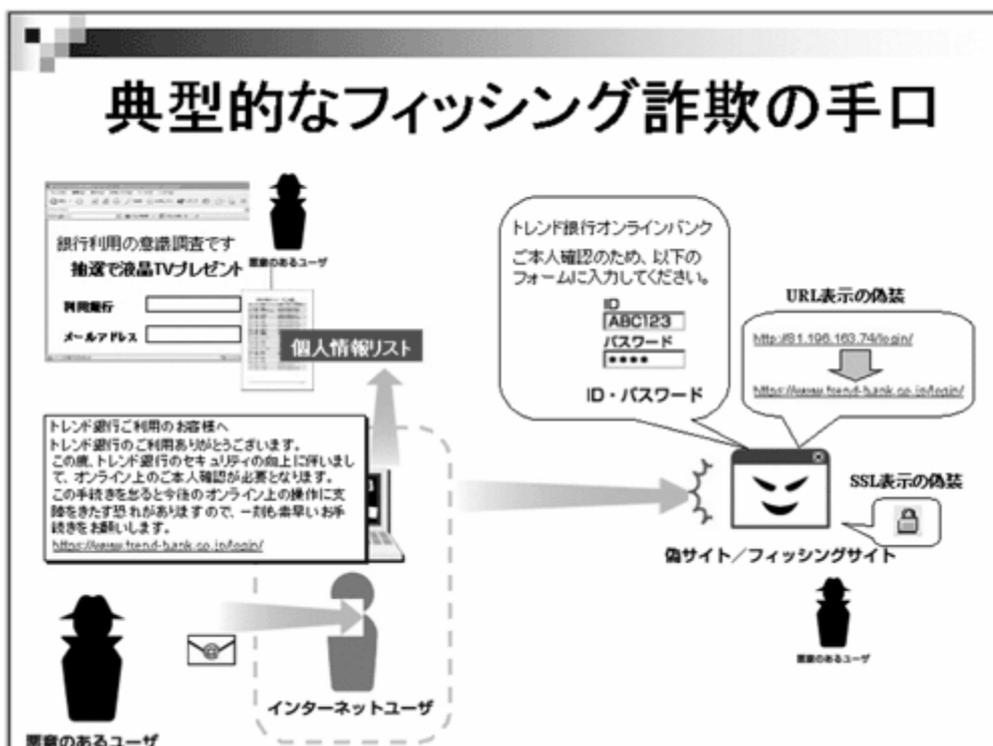


## 講演目次

- フィッシング詐欺
- ワンクリック詐欺
- 最新のウイルスとスパイウェアの現状
- 弊社の提供物のご紹介

### ■ フィッシング詐欺

見た目上そっくりで、全く同じようなホームページを作った「フィッシングサイト」を用意しておいて、IDとパスワードを入れさせ、犯人はそのID、パスワードを使って、その人に成りすまして買い物をしたりするものです。





### 1) なぜだまされるのか

- ◇メールのタイトルや内容だけでは判断できない
  - ◇後ろめたさ
  - ◇法律的な知識がない
  - ◇脅迫的な内容
  - ◇表示情報により相手に個人情報が伝わっているとの思い込み
- 新しい手口として
- (1) 情報収集しているように、不安をかきたてる
  - (2) スパイウェアやトロイの木馬を仕込む

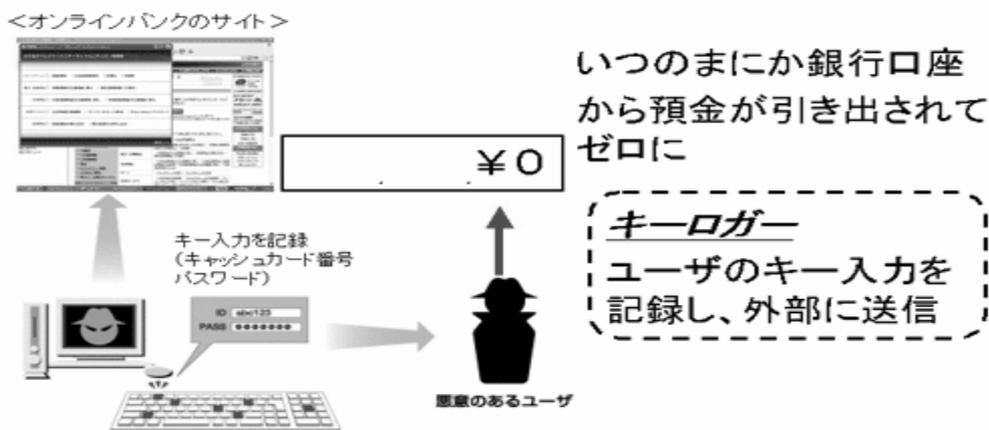
### 2) 対策するには

予防として) 差出人が不明なメールはリンクをクリックしない。掲示板のリンクをむやみにクリックしない。  
アクセスした場合は) お金を払わない。「規約に同意してクリック」したとしてもワンクリック詐欺自体が違法ですので何の効力もありません。「電子消費者保護法」: 申し込み前に料金について明示する必要があります。決してメールや電話で連絡をとらない  
“カモリスト“に追加され多量のメールが来る => メールアドレスを変更  
電話番号が記録されて、請求連絡がくる。=> 着信拒否する。即座に削除する。  
セキュリティソフトの迷惑メール対策機能を利用する。プロバイダーの迷惑メール防止サービスを利用する。  
インストール画面やダウンロード画面などが出てきた場合は) ウイルスとスパイウェア検索を行う。

### ■ 最新のウイルスとスパイウェア

スパイウェアやトロイの木馬と呼ばれるものもあります。架空請求のページをみるとトロイの木馬がコンピュータに送り込まれることがあります。コンピュータの中へ入ると、メールアドレスなどをごっそり持っていったりします。

## 症例①



**対策するには、**

差出人が不明なメールはリンクをクリックしない、掲示板のリンクをむやみにクリックしないこと。アクセスした場合でも、お金を払わないこと。規約に同意してクリックしたとしてもワンクリック詐欺自体が違法なので〔電子消費者契約法〕、何の効力もない、万が一契約してもクーリングオフがある。そして、決してメールや電話で連絡を取らない、即座に削除することです。

スパイウェアは、フリーウェアやシェアウェアと一緒に無意識にインストールしたり、Web サイトにアクセスした際にプログラムが実行されインストールされるケースもあります。ユーザーの情報、カード番号などをユーザーに許可なしに送信したり、フィッシング詐欺にスパイウェアが利用されるケースが増加しています。

いま“BOTウイルス”という、きわめて悪質なウイルスがひろがっています。ロボットの略です。ロボットのように犯人が第三者のコンピュータをコントロールできます。目に見える感染活動を行わないのでウイルス感染をしても気がつかない場合が多いです。感染経路は、コンピュータのセキュリティホールを悪用しワーム感染、辞書攻撃による侵入感染、メール添付による感染。感染すると、ネットワークの中でどんどん広がってしまい、BOTウイルスはインターネットで自分自身をアップデートして違う形に変わっていきます。また、セキュリティ対策ソフトを停止するので、きわめて対策が困難です。

まず、毎日必ずアップデートして、できるだけ最新の状態にセキュリティを保っておく、1日に1回、ウイルス検索をしてください。

#### ◇全体に共通して安全に使うためのノウハウ

- ・ ネットの危険について知る
- ・ 出所の確かなソフトウェアを使う
- ・ セキュリティ対策ソフトを正しく使う
- ・ セキュリティホールをなくす ・ Windows のアップデートは必ずおこなう
- ・ 自分の情報を守る対策 ・ アンケートには答えないなど
- ・ (かかってからでいいなどと) 対策を後手にしない
- ・ 万が一に備え、必要な手順 ・ 連絡先をメモしておく

#### ■ 弊社の提供物のご紹介

当社では、人に伝えるためのツールとして、セキュリティについての学習キットのCDとか冊子を用意しています。明日のふれあい広場でお渡ししますのでご利用ください。また、フィッシング詐欺などは実際にはなかなか体験できませんが、ホームページ上でシミュレーションして実際に体験できる「インターネットセキュリティナレッジ」というサイトがありますので、ぜひ体験してみてください。

きょうは、インターネットの暗い部分を話しましたが、ネットはとても便利な物ですから、きちんと備えをすれば安全です。“備えあれば憂いなし” ということで、インターネットの罨も、正しく理解をして対策をおこなえば、恐れることはない、ということ最後に私の話を終ります。ご清聴ありがとうございました。

## シニアネット交流広場

今回で3回目となるシニアネット交流広場には、シニアネット10団体による「展示コーナー」と、協賛企業3社の協力による「お役立ちコーナー」を設置した。

各地で活動しているシニアネットの活動を展示し、それを通じて情報を交換し、相互交流を深めるため、また、今後のシニアネットの活動の糧とするために、設けた「展示コーナー」には、多くの方が立ち寄り、説明者との間に活発な意見交換や、質疑応答をする姿が見られた。参加者からは「他の団体の活動発表が非常に参考になった」「具体的な活動を教えてもらえ、質問にも丁寧に答えてくれて嬉しかった」などの声が多く聞かれた。「お役立ちコーナー」でも多くの質問が飛び出し、担当者の説明に熱心に耳を傾ける姿がたくさん見られた。

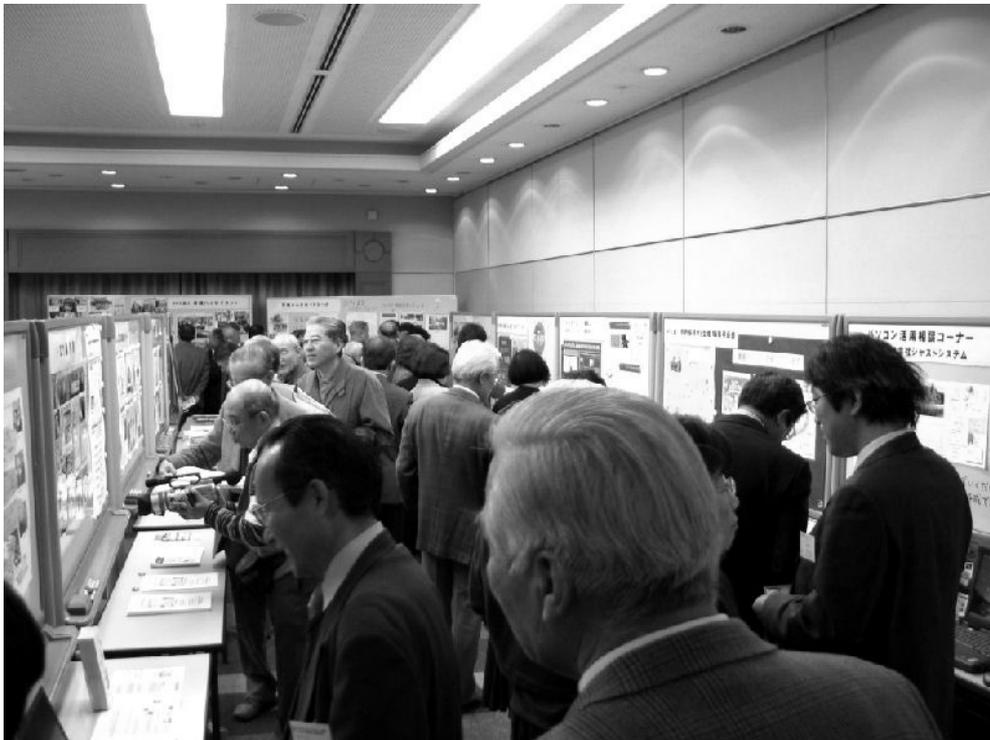
アンケートによれば「多様な活動の状況が短時間で分かり、たいへん参考になった」「もっと多くの団体が出展すると良かった」「2日間開催して欲しい」など、今後も交流広場への取り組みを期待する声が多かった。

会場が狭かったという声も多かったが、「場所は狭かったが、関心を持った人たちで地下鉄並みの混雑だった」という声上がるなど、大変な盛況であった。



## 出展団体・企業一覧

【出展シニアネット】（50音順）	
NPO 法人あびこ・シニア・ライフ・ネット	<a href="http://www.abikosln.org/NPO/">http://www.abikosln.org/NPO/</a>
いちえ会	<a href="http://www.ichiekai.net/">http://www.ichiekai.net/</a>
NPO 法人沖縄ハイサイネット	<a href="http://www.e-haisai.net/">http://www.e-haisai.net/</a>
熊本シニアネット	<a href="http://ksn-net.cool.ne.jp/">http://ksn-net.cool.ne.jp/</a>
NPO 法人自立化支援ネットワーク	<a href="http://www.npo-idn.com/">http://www.npo-idn.com/</a>
NPO 法人知的協調参画型地域振興協会	<a href="http://www.geocities.jp/icp2001mt/">http://www.geocities.jp/icp2001mt/</a>
社団法人 長寿社会文化協会	<a href="http://www.wac.or.jp/">http://www.wac.or.jp/</a>
天地シニアネットワーク	<a href="http://www5a.biglobe.ne.jp/~tenti/">http://www5a.biglobe.ne.jp/~tenti/</a>
NPO とかちシニアネット	<a href="http://www.t-base.ne.jp/~tokachisenior/">http://www.t-base.ne.jp/~tokachisenior/</a>
メロウ倶楽部	<a href="http://www.mellow-club.org/">http://www.mellow-club.org/</a>
【お役立ちコーナー】（50音順）	
パソコン活用相談コーナー (協力：株式会社ジャストシステム)	<a href="http://www.justsystem.co.jp/">http://www.justsystem.co.jp/</a>
ウイルスセキュリティ相談コーナー (協力：トレンドマイクロ株式会社)	<a href="http://www.trendmicro.co.jp/">http://www.trendmicro.co.jp/</a>
ブロードバンド相談コーナー (協力：ニフティ株式会社)	<a href="http://www.nifty.com/">http://www.nifty.com/</a>



## 閉会挨拶

小澤 恭一 氏  
メロウ倶楽部 会長



皆様 二日間のシニアネットフォーラム21 お疲れ様でした。

昨日は、オープニングセッションのご挨拶に始まり、まず、さわやか福祉財団の堀田先生の「少子高齢化こそシニアが主役と」題する基調講演がありました。先生は、軽妙な、笑いを誘うようなお話をちりばめながら、高齢者の取り組む方向をお示しく下さいました。

午後のパネルディスカッションでは、コーディネータ、パネリストの皆さんのお話しに加え、フロアのみなさんから、それぞれのお立場、ご経験などから、活発なご発言があり、団塊の世代が加わることにより、大変大きな力となるとされるシニアの層が、この資料に書かれているように「日本の社会活動の前進のために絶好のチャンス」となるのかどうか、それにはどうするかなどが討議されたように思います。

今日のワークショップでは、すでにまとめが発表されたばかりでありますので、細かくは申し上げませんが、それぞれの観点からの話題提供、討議から多くのことをうる事が出来たと存じます。

また、先ほどの特別講演では、東京大学国際・産学協同研究センターの安田先生から「シニアからの発信が要望されること、そして、その環境作り、発信支援手段の構築、だんだんと難しくなる安心、安全対策などについて詳しくお話いただきました。

以上、二日間にわたるSNF21、皆様、それぞれに得られたところが多かったのではないかと存じますし、また、大変実りの大きい集まりであったと存じます。

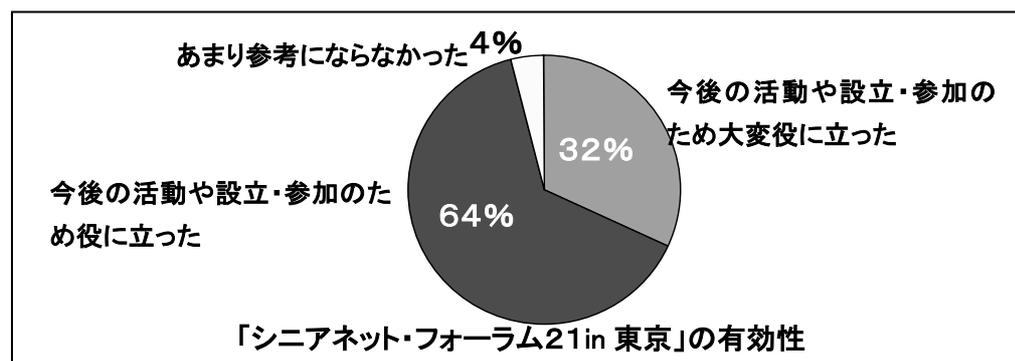
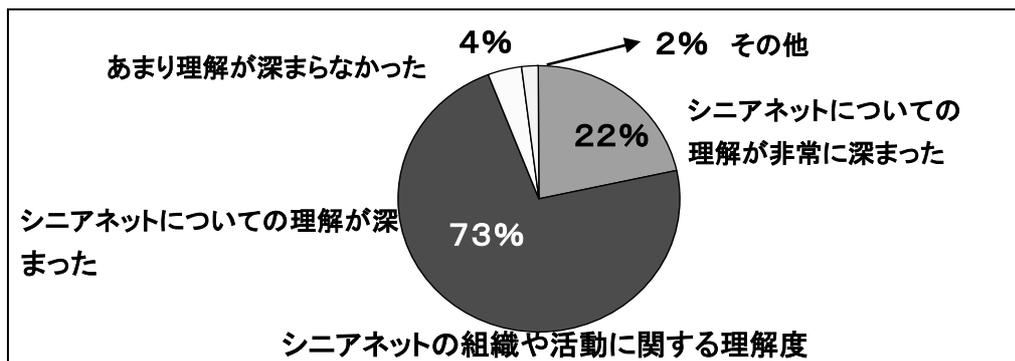
みなさま、ご参加、ご協力有難うございました。

## 5. まとめ

- (1) 当初計画を上回る多くの参加者を得、大変盛況裡のうちに終えることが出来た。特に60歳以下の現役世代が20%強参加され、そのうち団塊の世代を含む年齢層が約16%であったことは、当初から団塊の世代に参加を呼びかけてきたことに対しその目的を達成できたのではないかと思っている。今後の展開に大いに期待が持てるものと思う。
- (2) アンケート結果から見られるように、参加された動機として「シニアネットを設立してみたい」「シニアネットに参加してみたい」と答えられた方が6%であったが、参加後はこれが15%に上昇した。「シニアネットに関心があり勉強するため」に参加された方が自らシニアネットの活動に参画しようとアクティブに転じたことが主因である。このフォーラムで大きく意識が変わられた方が増えたもので、大きな成果を得ることができ、所期の目標を達成することが出来たものと思う。こうした成果が今後活かされ、シニアネットの普及・拡大に必ずやつながるものと確信している。

	参加前	参加後
(イ) 自身のシニアネットでの活躍に役立てたい	52%	51%
(ロ) シニアネットを自ら設立したい	4%	6%
(ハ) シニアネットに参加したい	2%	9%
(ニ) シニアネットに興味・関心があり、詳しく知りたい	36%	29%
(ホ) その他	6%	5%

- (3) この「シニアネット・フォーラム21」について、「シニアネットの重要性が認識できた」とか「今後の活動に大いに役に立った」「シニアネットの活動の理解が深まった」という意見を多く頂き、更に「今後とも継続して欲しい」とのご希望も多々頂いた。参加者にとって有意義なものであったとの評価を頂いたと思うが、この成果が今後の活動に活かされ、シニアネットの活動の更なる飛躍や普及・拡大につながるものと確信している。また、多くの貴重なご意見を頂いたが、是非今後の企画・運営に生かしていきたい。



以上

# シニアネットフォーラム 21 in 東京 付属資料

- 「シニアネットフォーラム21 in 東京」開催案内
- 「シニアネットフォーラム21 in 東京」来場者用アンケート票
- 「シニアネットフォーラム21 in 東京」来場者アンケート調査結果

# シニアネットフォーラム21 in 東京

## ◇楽しむなかで社会の支えに～団塊の世代も～◇

平成18年2月27日(月)～28日(火)  
全共連ビル(東京都千代田区)

主催:財団法人ニューメディア開発協会  
(<http://www.nmda.or.jp>)

昨年9月、65歳以上の高齢者が2556万人、人口比率で20.0%と初めて20%の大台に乗りました。実に5人に1人が65歳以上と言うこととなります。日本の総人口は既に減少に転じている中、近いうちに団塊の世代が高齢者の仲間入りすることとあいまって、ますます高齢化が進み、早晚3人に1人が65歳以上という時代がやってくると予測されております。

高齢者がメジャーとなる時代、まさに高齢者のパワーが社会を変えていく時代になる、と言っても過言ではありません。今後、高齢者の社会での活躍が益々重要となって参ります。そうした中、自己実現の場を求め得意のITを駆使してシニアライフを楽しみたいものにして、社会のために何かお役に立ちたいとする高齢者同士が集う「シニアネット」が全国にあって、高齢者へのIT講習はじめさまざまな社会参加活動を活発に展開しております。

シニアネットは、高齢者にとって、これまで培ってきた知識・技術・経験等を活かして社会に再び参加出来る機会をもたらす、シニアライフを豊かに、楽しく、生き活きとしたものにしております。また、一方で、自治体等との協働(コラボレーション)が積極的に展開され、高齢者の豊富な知見・ノウハウが地域の情報化促進や街づくり等に活かされてきております。その活動も、ITを手段として、シニアネットのそれぞれの設立の思い等を具現化しているという点で、多方面にわたり、いろいろな可能性を有しております。

このようにシニアネットは、高齢者にとって、社会にとって極めて意義深い組織であると言えます。近いうちに団塊の世代の方々が定年を迎え、そうした方々がこの活動に加わることで、一段と弾みがつくことを期待しておりますが、全国津々浦々でシニアネットが生き活きと活躍している姿を創出していくことが急務と考えております。

そこで、財団法人ニューメディア開発協会と致しまして、シニアネットが高齢社会を活力あるものにするとして、今年度も引き続き「シニアネット・フォーラム21 in 東京」を開催することに致しました。「楽しむなかで社会の支えに～団塊の世代も～」と題し、シニアネットのより一層の普及と活性化を図ることに致しました。

シニアネットの方々は勿論、新たにシニアネットの設立や参加を考えておられる方々、定年後の活動の場を考えておられる団塊の世代の方々、高齢者の市民活動等に興味をお持ちの方々、更にシニアネットとコラボレーションをお考えの自治体や企業の方々など、幅広い分野の方々に参加頂く中、熱い議論と深い交流を通して、シニアネットのあり様を考え、活力ある高齢社会の創出につながる有意義なものにしていきたいと切望しております。

このフォーラムがきっかけとなって、シニアネットが数多く誕生するとともにその活動が一層拡充され、豊かなシニアライフや高齢社会の構築に貢献できれば、これに勝る喜びはありません。

是非とも、多くの皆様のご参加を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



この催しは、競輪の補助金を  
受けて開催いたします。

## 開催概要

日時	平成18年2月27日(月)10:30~17:45 (懇親会 18:00~19:30) 2月28日(火) 9:30~17:00
会場	全共連ビル 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9 Tel 03-5215-9501
主催	財団法人ニューメディア開発協会
後援	経済産業省(予定)
協力	メロウ倶楽部 株式会社ジャストシステム トレンドマイクロ株式会社 ニフティ株式会社
定員	200名
参加費	無料
参加対象	・シニアネットへの参加や新規設立等シニアネットに関心のある方 ・シニアネットのメンバーの方 ・団塊の世代の方 ・シニア情報生活アドバイザーの方 ・企業で社会貢献、シニアマーケティング、バリアフリーなどシニア向け商品・サービスの企画開発等に携わっておられる方 ・自治体で高齢者問題やコミュニティビジネス、NPO活動推進をご担当の方 ・コミュニティビジネスやNPO活動に取り組んでおられる方

お問い合わせ先	
	「シニアネットフォーラム21 事務局」 〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18階 日本コンベンションサービス株式会社内(石井・武笠) TEL 03-3508-1209 FAX 03-3508-1302 e-mail snf21@convention.co.jp

**申込方法** 下記いずれかの方法でお申し込み下さい。

**①FAXまたは郵送でのお申し込みの場合**

同封の参加申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にて下記「お問い合わせ先」までお送り下さい。

**②ウェブサイトよりお申し込みの場合**

下記ウェブサイトへアクセスして頂き、専用フォームよりお申し込み下さい。

- ・主催者 URL : <http://www.nmda.or.jp/mellow/>
- ・フォーラム事務局 URL : <http://www.mellow-club.org/snc2006/>

**申込締切** 平成18年2月3日(金) (必着)

申込締切後「参加証」をお送り致します。なお定員に達した時点で締め切らせていただきますのでご了承下さい。

**懇親会**

参加者の交流の場として、懇親会を開催致します。会場はマツヤサロン(全共連ビル内)で、会費は4800円となっております。

〔マツヤサロン URL  
<http://www.matsuya-salon.com/salon/matsuya/index.html>〕

**ご昼食**

お昼の休憩時間に、お弁当を準備致しました。1日(1食)1000円、2日分で2000円となります。会場周辺は、お食事をとる場所が少なくなっております。どうぞご利用下さい。

懇親会・ご昼食をご希望の方は、郵便局にて、同封の郵便振替用紙に合計金額をご記入の上お振込み下さい。振込手数料はご負担下さいますようお願い申し上げます。

お振込み先 郵便振替口座番号:0150-4-614619  
「シニアネットフォーラム21 事務局」

お振込み期限:平成18年2月6日(月)

**全共連ビルへのご案内**

●地下鉄

有楽町線・半蔵門線・南北線

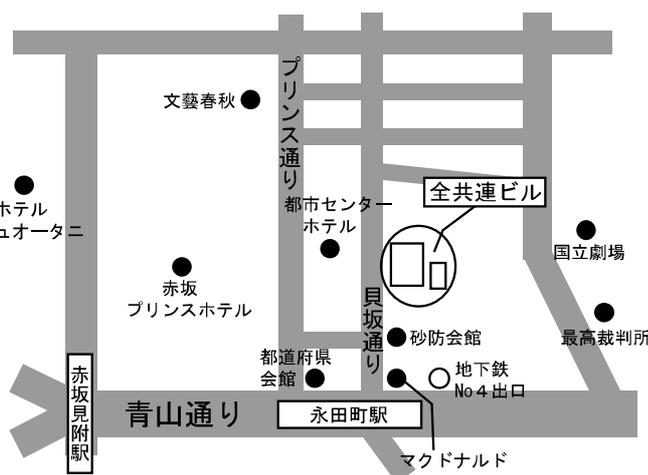
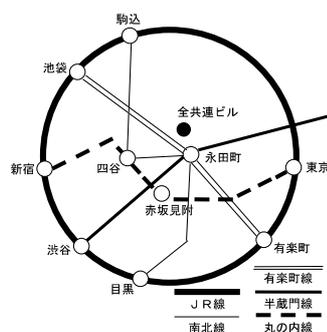
永田町駅下車 No4出口 徒歩2分

銀座線・丸の内線

赤坂見附下車 D出口 徒歩7分

●タクシー

四谷駅より5分・東京駅より10分



※会場及びその周辺は駐車場が少ないため、当日は公共の交通機関をご利用下さい。車でのご来場はご遠慮下さいますようお願い致します。

# プログラム

## 1日目:2月27日(月)

10:00~10:30	受付	
10:30~10:45	オープニングセッション	・主催者挨拶 岡部 武尚(財団法人ニューメディア開発協会 理事長) ・来賓挨拶 経済産業省商務情報政策局 情報政策課(予定)
10:45~12:15	基調講演	「少子高齢社会こそシニアが主役」 堀田 力氏 (財団法人 さわやか福祉財団 理事長)
12:15~13:30	休憩(昼食)	
13:30~16:30	パネルディスカッション	「新時代に向けてシニアネットの役割とその方向性を探る」 ～楽しむなかで社会の支えに～ コーディネーター 田中 尚輝氏(社団法人 長寿社会文化協会 常務理事) パネリスト 古賀 直樹氏(シニアネット ジャパン 代表) 奈良原 眞吉氏(NPO法人自立化支援ネットワーク 理事長) 栞山 日出男氏(東京都福祉保険局 高齢社会対策部 計画課長) 松宮 光予子氏(日本アイ・ビー・エム株式会社 社会貢献部長) 柳原 正年氏(富山社会人大楽塾 代表) (五十音順)
16:30~16:45	休憩	
16:45~17:45	特別セミナー	「インターネットを安心して使うためのセキュリティ講座」 (協力:トレンドマイクロ株式会社)
17:45~18:00	移動	
18:00~19:30	懇親会	マツヤサロンにて開催

## 2日目:2月28日(火)

9:00~9:30	受付	
9:30~12:30	ワークショップ	「更なる活動を目指して」 ワークショップ1.「地域住民への教育活動で社会参加」 塩見 信雄氏(NPO法人シニアネットひろしま 理事長) 曾根 清次氏(NPO法人コムワーク 事業推進部長) ワークショップ2.「交流活動で楽しく、そして地域に活力」 砂川 正男氏(NPO法人沖縄ハイサイネット 会長) 福岡 寿夫氏(熊本シニアネット 代表) ワークショップ3.「行政との協働で社会参加」 井上 文雄氏(仙台シニアネットクラブ 代表) 高橋 克司氏(NPO法人とかちシニアネット 理事長) ワークショップ4.「資産の継承で地域振興」(歴史・文化などの保全と伝承) 高木 正幹氏(NET・陽だまり 前会長) 若宮 正子氏(メロウ倶楽部 幹事) ワークショップ5.「コミュニティビジネスで生涯現役」 久保 律子氏(NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 代表理事) 能田 幸生氏(NPO法人トータルサポート21 理事長) (五十音順)
12:30~13:30	休憩(昼食)	
13:30~14:30	シニアネット交流広場	シニアネットの成果展示を核にした皆様の相互交流の場。
14:30~15:30	特別講演	「楽しもう！デジタルシニアライフ」 安田 浩氏(東京大学国際・産学共同研究センター教授)
15:30~17:00	ワークショップ発表 クロージングセッション	各ワークショップ代表者 メロウ倶楽部 代表 小澤 恭一氏

# 実施予定プログラム

## 基調講演／特別講演

【基調講演】2月27日(月) 10:45～12:15

### 「少子高齢社会こそシニアが主役」

堀田 力氏 (財団法人 さわやか福祉財団 理事長)

2007年には団塊の世代が定年を迎えるなど、高齢化は急速に進み早晩3人に1人は65歳以上という時代がやってくる。少子高齢社会にあつて、高齢者(シニア)が数の上でもメジャーとなる時代、まさにシニアのパワーが社会を変えていくと言っても過言ではない。シニアの社会での活躍がますます重要となってくる。一方で、豊かで充実したシニアライフを送ることが極めて重要である。「シニアネット」はこうした両面を満たすものとして、シニアにとって、社会にとって大変有意義な組織であり、その普及拡大が急務である。

2007年に新しい局面を迎えることを見越し、今後のシニアの生き様について語って頂く。中でも特にシニアの社会参加の必要性及びシニアネットやNPO活動等シニアの市民活動の重要性について語って頂く。

【特別講演】2月28日(火) 14:30～15:30

### 「楽しもう！ デジタルシニアライフ」

安田 浩氏 (東京大学国際・産学共同研究センター教授)

少子高齢社会と高度情報化社会が同時進行する時代にあつて、ITはシニアの生活に深く関わってきている。日進月歩を続けるITが、今後シニアの生活やシニアネットの活動にいかなる影響を与えるのか、そしていかなる夢をもたらすことになるのか、は得意のITを駆使して日々活躍しているシニアネットの方々には大きな関心事である。未来のITはシニアに優しくなり、社会参加を支援するという。

そこで、シニアこそデジタルライフを楽しむべきとの持論を有する情報工学の専門家の立場から、ユビキタス時代を生きるシニアの新しい生き方、デジタルライフについて展望する。

## パネルディスカッション(2月27日(月) 13:30～16:30)

### 「新時代に向けてシニアネットの役割とその方向性を探る」～楽しむなかで社会の支えに～ (コーディネーター)

田中 尚輝氏 (社団法人 長寿社会文化協会 常務理事)

(パネリスト)

古賀 直樹氏 (シニアネットジャパン 代表)

奈良原 眞吉氏 (自立化支援ネットワーク 理事長)

栞山 日出男氏 (東京都福祉保険局 高齢社会対策部計画課長)

松宮 光予子氏 (日本アイ・ビー・エム株式会社 社会貢献部長)

柳原 正年氏 (富山社会人大楽塾 代表)

(五十音順)

少子高齢社会だからこそ、シニアが主役となって地域を盛り立てて行くことが求められている。そうした中、多くのシニアが集う「シニアネット」に、その牽引役が期待されている。近いうちに団塊の世代が定年を迎え、大量のシニアが地域に戻ってくる。こうした段階の世代をシニアネットの活動に巻き込むことで、シニアネットが一層大きく羽ばたくことになり、地域の活性化も加速されると思われる。また、人生80年、シニアライフを楽しく有意義に過ごすためにもシニアネットの存在意義は高いものがある。一つの転機が訪れようとしているなか、今後のシニアネットのあり方について議論することは極めて大事なことである。

そこで、各地で活躍中のシニアネットの代表者やシニアネットやNPO等と協働する自治体や企業の関係部門の方を招き、シニアネットの今後のあり方等について展望して頂く。是非、団塊の世代の方々も多数参加され、自らのシニアライフを豊かなものとするためシニアネットについて理解を深めて頂ければと思っている。

## ワークショップ「更なる活動に向けて」(2月28日(火)9:30~12:30)

### 【ワークショップ1】

#### 「地域住民への教育活動で社会参加」

課題提供者 塩見 信雄氏 (NPO法人シニアネットひろしま 理事長)

曾根 清次氏 (NPO法人コムワーク 事業推進部長)

シニアネットの共通的な活動として、地域住民、とりわけシニア層へのIT講習をはじめとして各種セミナーを行うなど、様々な教育活動を展開している。シニアの持つ豊富な知識やノウハウ等を様々な形で地域に還元することは、単に学び合うだけでなく、シニア層のみならず世代を超えた人たちとの交流の促進や地域コミュニティづくりの強化など地域に元気をもたらしている。地域にあって住民へのIT講習等に注力している「NPO法人シニアネットひろしま」と「NPO法人Com-Work」の実例をもとに、自らの培ってきたノウハウを地域に還元する「学びの場」を通して社会に参加することの重要さや「学び」等活動のあり方、その課題等について議論を深め、今後の具体的な方策を導き出す。

### 【ワークショップ2】

#### 「交流活動で楽しく、そして地域に活力」

課題提供者 砂川 正男氏 (NPO法人沖縄ハイサイネット 会長)

福岡 壽夫氏 (熊本シニアネット 代表)

社会との関わりがややもすれば疎遠になりがちなシニアにとって、シニアネットは地域との交流の機会をもたらし、シニアライフを充実したものにする重要な存在である。また、シニアネット同士の交流は、お互いの勉強になるばかりでなく地域社会へ新しい刺激をもたらしている。シニアネットのコミュニティづくりは地域を活性化する重要な活動になってきている。現在、コミュニティ活動を展開している「NPO法人沖縄ハイサイネット」と「熊本シニアネット」の活動状況から、その意義や活動のあり方等について議論を深め、今後の活動の具体的な方策を考える。

### 【ワークショップ3】

#### 「行政との協働で社会参加」

課題提供者 井上 文雄氏 (仙台シニアネットクラブ 代表)

高橋 克司氏 (NPO法人とがちシニアネット 理事長)

シニアネットがその活動を通して社会に貢献しようとするとき、地域の自治体との協働(コラボレーション)は極めて重要である。自治体としても、高齢化の進む中、シニアの力に期待する動きが出てきている。現在、帯広市や仙台市といった自治体との連携を強力に進めている「NPO法人とがちシニアネット」「仙台シニアネットクラブ」からその活動状況をお話いただき、これから自治体との協働をおこなうに、どのような取り組みが必要か、また今の活動をさらにより良いものにするにはどうしたらいいか、皆で議論し、具体的な方策を考えていく。

【ワークショップ4】

「資産の継承で地域振興」(歴史・文化などの保全と伝承)

課題提供者 高木 正幹氏 (NET・陽だまり 前会長)

若宮 正子氏 (メロウ倶楽部 幹事)

今、昭和の時代が人気を呼び、地球規模では世界遺産の動きが注目を浴びている。様々な貴重な遺産を次代に残すことの重要性に皆が気がついた。シニアには郷土の歴史や文化、自然等に通じている人が多く、そうした財産を守り、次代に引き継ぎ、地域の振興につなげることは明るい未来の礎をつくるシニアの重要な役割であり、シニアネットの大事な活動の一つになってきている。こうした活動を展開している「NET陽だまり」と「メロウ倶楽部」の実例を通じて、具体的な方策について議論を深め、今後の活動の指針を提供したい。

注)「NET・陽だまり」は日本海岸の新潟県柏崎市で1997年から活動しているローカル・ネット。「メロウ倶楽部」の『メロウ伝承館』は、後世への歴史・文化の伝承を目的としたコミュニティサイトであり、インターネットを活用した独創性あるコンテンツとして高く評価され、「WSA-JAPAN2005」における『e-Culture』部門で最優秀賞を受賞。「WSA-JAPAN」は、デジタル格差の是正に取り組む国際連合の組織「国際連合情報社会世界サミット(W SIS)」の関連プロジェクトとして位置づけられている、世界規模のインターネットサイト・コンテスト、「国際連合情報社会世界サミット大賞(W SA)」の日本代表選考会。

【ワークショップ5】

「コミュニティビジネスで生涯現役」

課題提供者 久保 律子氏 (NPO法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 代表理事)

能田 幸生氏 (NPO法人トータルサポート21 理事長)

長年に亘って培って来た知識、経験、ノウハウそして智恵を生かして社会に還元したい、そして自分自身の為にも、できるならば生涯現役でいたいと願うシニアは多い。そうした中、コミュニティビジネスを主な活動とする「事業型」のシニアネットが増えつつある。人材の宝庫であるシニアネットならではの活動は、まさにシニアの自己実現の場であり、一方で新たな雇用促進や地域起こしにつながる極めて重要なものである。

現在、「事業型」シニアネットとして活動している「NPO法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹」と「NPO法人トータルサポート21」の事例を通して、今後、コミュニティビジネスを新たに起こすにはどうしたらいいか、また今の活動をさらにより良いものにするにはどうしたらいいか、具体的な取り組み等についてその問題点と課題、その方向性を探る。

特別セミナー／シニアネット交流広場

【特別セミナー】2月27日(月) 16:45～17:45

「インターネットを安心して使うためのセキュリティ講座」

(協力:トレンドマイクロ株式会社)

自ら身を守り、楽しくインターネットを使うため、避けて通れないセキュリティ対策について、そのポイントを学ぶ。脅威となっているのはウィルスだけではなく、スパイウェア・ネット詐欺等々様々なものがある。そうした脅威から身を守る方法について、わかりやすく解説する。

【シニアネット交流広場】2月28日(火) 13:30～14:30

各地で活発に活動しているシニアネットの活動成果を展示し、相互交流の場とする。参加者と出展者との間での情報交換を密にし、問題解決に当てるなど今後の活動の発展やシニアネットの普及につなげる。

# シニアネット・フォーラム21 in 東京 アンケート

財団法人 ニューメディア開発協会

アンケートにご協力をお願い致します

1. あなたが参加されたプログラムは何ですか。参加されたものすべてに○をつけてください。

- イ. 基調講演「少子高齢社会こそシニアが主役」
- ロ. 特別講演「楽しもう！デジタルシニアライフ」
- ハ. パネルディスカッション「新時代に向けてシニアネットの役割とその方向性を探るー楽しむなかで社会の支えにー」
- ニ. ワークショップ1「地域住民への教育活動で社会貢献」
- ホ. ワークショップ2「交流活動で楽しく、そして地域に活力を」
- ヘ. ワークショップ3「行政との協働で社会参加」
- ト. ワークショップ4「資産の継承で地域振興」
- チ. ワークショップ5「コミュニティビジネスで生涯現役」
- リ. シニアネット交流広場
- ヌ. 特別セミナー「インターネットを安心して使うためのセキュリティ講座」

2. あなたが「シニアネットフォーラム21 in 東京」に参加された動機についてお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

- イ. 自身のシニアネットでの活動に役立てるため
- ロ. シニアネットを自分で設立する際に役立てるため
- ハ. シニアネットに参加するにあたって役立てるため
- ニ. シニアネットに興味・関心があり、詳しく知るため
- ホ. その他（以下に具体的にお願いします）

-----  
-----  
-----

3. 「シニアネットフォーラム21 in 東京」に参加されて、ご自身シニアネットにどのように関わっていきたいと思われましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

- イ. 既にシニアネットで活動しているが、さらに活発に活動したい
- ロ. シニアネットを自ら設立し、始めてみたい
- ハ. 身近なシニアネットに参加してみたい
- ハ. シニアネットについてさらに詳しく知り、勉強したい
- ニ. 別段関わっていこうとは思わない。

ホ. その他 (以下に具体的にお願いします)

.....  
.....  
.....

4. 「シニアネットフォーラム21 in 東京」に参加されて、シニアネットという組織とその活動について、理解は深まりましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

イ. シニアネットについての理解が非常に深まった

ロ. シニアネットについての理解が深まった

ハ. あまり理解が深まらなかった

ホ. その他 (以下に具体的にお願いします)

.....  
.....  
.....

5. 行政や企業関係者の方をお願いします。

今後、諸施策、諸事業を展開するに当たり、シニアネットとの協働についてどのようなお考えをお持ちでしょうか。具体的にお聞かせ下さい。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

6. 「シニアネットフォーラム21 in 東京」の全体の感想についてお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。また、全体的なご意見ご要望等がありましたら、是非お願いします。

イ. 今後の活動や設立・参加のために大変役に立った

ロ. 今後の活動や設立・参加のために役に立った

ハ. あまり参考にならなかった

■ ご意見ご要望 (全体的なご意見等ありましたらご自由をお願いします)

.....  
.....  
.....  
.....

7. 「シニアネット交流広場」(展示コーナー)はいかがでしたでしょうか。ご意見や感想などお聞かせ下さい。

.....  
.....  
.....

8. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るためには、どのようなことが必要であるとご考えですか。ご意見をお聞かせください。

.....  
.....  
.....

9. 今後の「シニアネットフォーラム21」で、取り上げるべきとお考えの講演、パネルディスカッション、ワークショップ等のテーマやお話を聞きたい講師とその内容等について、ご自由にお書きください。(できればその理由もお願いします)

.....  
.....  
.....

10. あなたご自身のことについてお聞かせ下さい。

①性別： 男 女      ②年齢： \_\_\_\_\_

③ご住所(市区町村まで)： \_\_\_\_\_ 都・道・府・県      \_\_\_\_\_ 市・区・町・村

④所属(該当するところを○で囲んでください。また職種は差し支えなければお聞かせ下さい)

イ. シニアネット    ロ. NPO法人(シニアネット以外)等各種団体・グループ

ハ. 行政機関    ニ. 企業(職種 \_\_\_\_\_)    ホ. 自営(職種 \_\_\_\_\_)

ヘ. 特になし    チ. その他

⑤パソコン経験年数：約 \_\_\_\_\_ 年

⑥生活の中でパソコンをどのように活用していますか。また活用していきたいですか。ご自由にお書き下さい。

.....  
.....  
.....

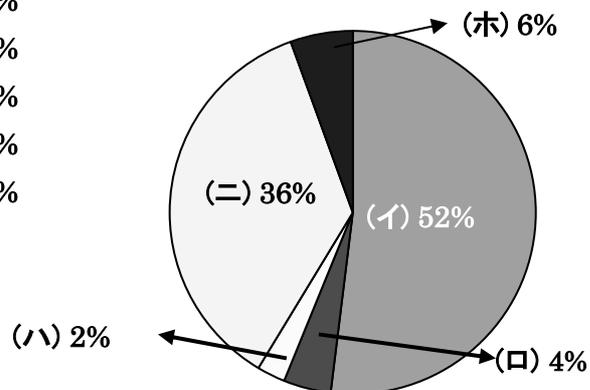
アンケートはここでおしまいです。どうもご協力有難うございました。

## アンケート

回収率 64%

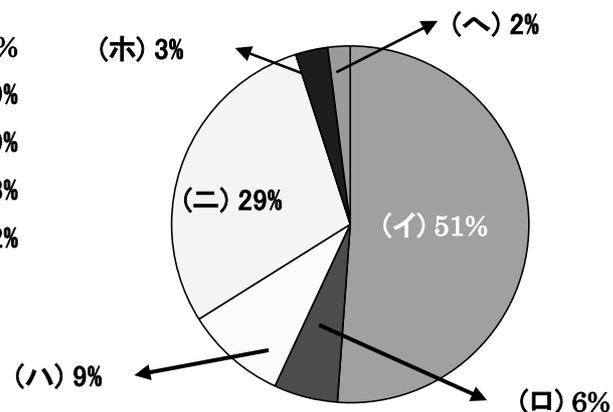
### 2. SNF21に参加された動機についてお聞かせください

(イ) 自身のシニアネットでの活躍に役立てるため	52%
(ロ) シニアネットを自分で設立する際に役立てるため	4%
(ハ) シニアネットに参加するにあたって役立てるため	2%
(ニ) シニアネットに興味・関心があり、詳しく知るため	36%
(ホ) その他	6%



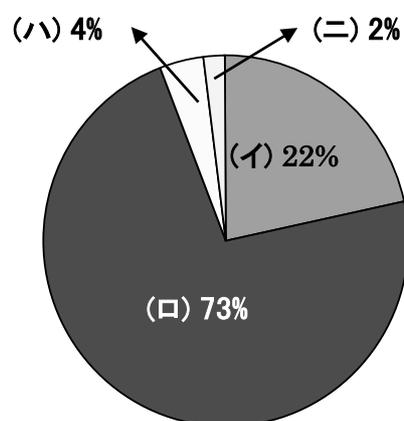
### 3. SNF21に参加されて、ご自身シニアネットにどのように関わって行きたいと思われましたか。

(イ) すでにシニアネットで活躍しているが、さらに活発に活動したい	51%
(ロ) シニアネットを自ら設立し、始めてみたい	6%
(ハ) 身近なシニアネットに参加してみたい	9%
(ニ) シニアネットについてさらに詳しく知り、勉強したい	29%
(ホ) 別段関わって行こうとは思わない	3%
(へ) その他	2%



### 4. SNF21に参加されて、シニアネットという組織とその活動について、理解は深まりましたか。

(イ) シニアネットについての理解が非常に深まった	22%
(ロ) シニアネットについての理解が深まった	73%
(ハ) あまり理解が非常に深まらなかった	4%
(ニ) その他	2%



5. 行政・企業関係者へ 今後、諸施策、諸事業を展開するに当たり、  
シニアネットとの協働についてどのようなお考えをお持ちですか。

(企業から)

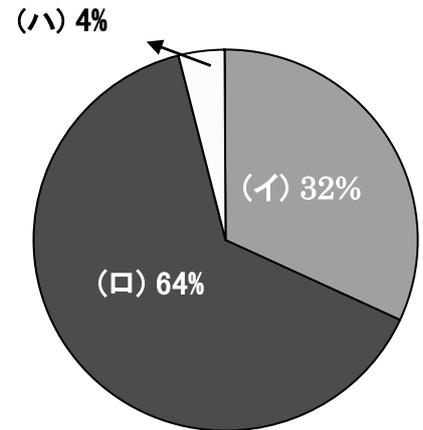
- ・ 旅行会社ではないのですが、エリアを越えた相互の交流のバックアップができればいいと思っています。
- ・ 介護予防や健康増進の為にサービス情報発信としてシニアネットのネットワークを活用、協働して行きたいと思えます。
- ・ シニアネット側からのIT関係についての要望や考え方を知りたい。
- ・ シニア層の需要のアンケート調査で協働できそう
- ・ 専門性、伝承、社会マーケティングのソースとしての接点をつくれればと思います。
- ・ シニアエージ(アクティブシニア)とのビジネスシーンを見つけたい。
- ・ 企業も雇用延長、定年延長の動きがある中で今までの企業の組織のワクにしばられない新しい自由なワークスタイルで社会との接点を持ち続けたいと考える。シニアエンジニアをかかえている会社として、地域に密着したシニアITエンジニアの受け皿として各地方のNPOと協働できる可能性があるのではないかと考えている。
- ・ 皆様が活動、交流できる場所(居場所)を提供できればと思います。

(行政から)

- ・ 主体はあくまでも住民。十人十色なので、信頼・理解のもと連携していきたい。

6. SNF21の全体の感想についてお聞かせください。また、全体的なご意見やご要望等がありましたら、ぜひお願いします。

(イ) 今後の活動や設立・参加のため大変役に立った	32%
(ロ) 今後の活動や設立・参加のため役に立った	64%
(ハ) あまり参考にならなかった	4%



6-1. 全体的な意見・要望 ——自由記述欄——

(全般に関して)

- ・ 各講演者の方や発表者の方のお話の内容がそれぞれに感銘を受けた。大変レベルの高いフォーラムであったと思います此のような行事を企画された協会の皆様にいつもの事ながら感謝しております
- ・ 先達の経験を学ばせていただき、大変有意義でした。
- ・ いろんなパターンあり非常に参考になった！！
- ・ 今後の活動の方向付けに参考になった
- ・ 地域でのコミュニティーが弱体化する傾向の中でシニアネットはコミュニティーを活性化させる有効な1つの方法という感想をもった。
- ・ こうしたシニアネットの全国フォーラムは貴協会の貴重なイベントで横つなぎとアイデアの交換の場として大変有効です。こんごともぜひ継続開催をぜひともお願いいたしたく。
- ・ シニアネットの現状や、活動の実例やアイデアなど多くのヒントをいただきました。
- ・ もう少し幅広く展開できる内容が欲しい。
- ・ 全体的には良くまとめているが各セッションでの質疑応答時間をもう少しとってほしい。

- ・ 講演等の充実した内容もさることながら、脇役として運営を支えておられるスタッフの方々のやさしい、あたたかな笑顔が印象的で、みな様の献身的なご奉仕に経緯を表し、心から感謝申し上げます。
- ・ 最後に「スローガン 次へつながるものも含めて」採択という儀式も入れたシメをまとめられたい。
- ・ 老人クラブなどとの連携・協力への方向もとってよいのでは。
- ・ ワークショップの時間をもっと多くとって、参加者の方々の多数が発言したり、所属のグループ紹介の時間をもっと多くとった方がよい。
- ・ WSも活動報告会ではないのだから各講師の発表は、30分程度にしてほしい。

**(基調講演に関して)**

- ・ 堀田 力氏の講演した内容は非常に参考となり自分なりに活用もしていく様感じた。
- ・ 堀田先生の講演のお話が今後大変役立つと感謝します。特に認知の方の対応は参考になりました。

**(パネルディスカッション・ワークショップについて)**

- ・ パネルディスカッションの後半で各パネラーの実例紹介は大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 2日目の第5分科会のケースは大変ユニークで参考になりました。参加した甲斐がありました。
- ・ コーディネーターの上手な進行振りが印象的であった。
- ・ ワークショップは 9:30～12:30 で一斉に行われるため、複数の興味あるショップに参加できなかった。  
ワークショップは 9:30～14:30 までの間に順次行い、交流広場は、9:30～14:30 までの間、ずっと開催し、自由に見るようにしたらもっと良かったと感じた。
- ・ パネルディスカッションへ都レベルの福祉局高齢社会対策部の計画課長だけでなく後援者の経済産業省に対応できる厚生労働省レベルの方も参加させてほしいです。

**7. 「シニアネット交流広場」(展示コーナー)はいかがでしたでしょうか。**

**ご意見や感想などをお聞かせください。**

- ・ 各グループの資料をいただいて、今後の活動の参考にさせていただきます。非常に参考になります。
- ・ 各シニアネットの活動発表が解りやすく、またとても参考になった。(編集注:同意見多数)
- ・ 地域で生き生きと生活の中にとり入れられ、エネルギーがあふれているなど思った。
- ・ 熱心なシニアネットがあって参考になった。
- ・ 各ネットの特徴が出ていて分かりやすかった
- ・ シニアネットの活動の場が分かりよかった。
- ・ 多様な活動の状況が短時間でわかり参考になった
- ・ 場所は広くないが関心を持つ人たちで地下鉄並の混雑。人気がありました。
- ・ 各ワークショップへ参加できない場所を含めて大変参考になりました。
- ・ 交流のきっかけとして有意義と思います。
- ・ 小部屋を設けたのは良い。
- ・ 具体的な活動内容を教えてもらうことができる。質問にも詳細に説明していただいた。
- ・ セキュリティー関係のコーナー等、人気のあるコーナーに多くの人達が集まっていました。少し場所が狭かったようです。
- ・ 狭いけど、賑わいが感じられ、よかったです。もう少しお祭りの雰囲気をつくって、ワクワク感が高められると、出展した方がうれしかったかも。
- ・ もう少し広いところに、多方面のデモがあればなお可・手軽に展示できたのがよい。
- ・ もっと展示参加の数を増やしていただきたい。
- ・ 今後は何かひとつ共通テーマをあげて展示されたいかがですか。2-3の展示コーナーでPCを使ったデモがあったが、もう少し多くのコーナーでPC使用、ビデオのデモがあったらよかった。

- ・ 単なるPRコーナーでなく、もう一寸スペースを取り、各ネットの日頃の活動内容・状況等を紹介しても良かったのでは？

**8. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るためには、どのようなことが必要であるとお考えですか。**

**ご意見をお聞かせください。**

- ・ やはり、生き生きしているシニアネットの事例の情報収集と紹介をお願いいたしたく。シニアネットとは何か、シニアマーケットの紹介もお願いしたい。(編集注:同意見多数)
  - ・ 一般のシニアの方々にシニアネットの存在を広く知っていただく方法、手段がもっとあってもいいのでは。ニューメディア開発協会が強力にPR活動を促進してはいかがでしょうか。あらゆるメディアの活用を期待する。(編集注:同意見多数)
  - ・ なるべく多くの参加者を募り、今回のような内容で動機付けをはかる事も必要かと思えます。(無関心派がどの程度転向してくれるかは未知ですが)
  - ・ 後継者の育成(年齢を不問) 地域での定着
  - ・ 今回の堀田講師のお話のような シニアネットの活性化に必要と思われるノウハウ、技術的な面と同時に、それに携わる者たちの人間生活全体を視野に入れたトータルな問題として捉えることが必要と考えます。パソコンの講師をしている人が奥さんとろくに口もきかないで生活していたり、家族との和を保てないようであってはいけないと思うのです。こういったシニアの生活全体をとらえた活動を目指すことが望ましいと思います共通してとり組めるテーマを持つことではないでしょうか。地域活動は活発です。
  - ・ PR活動。シニアの持てる力を発揮する場を情報として知りたい。
  - ・ 身内だけでなく、外からの新たなメンバーの加入・促進
  - ・ シニアネットの連携を強化していく
  - ・ 2/27のパネルディスカッションに出た内容の実現をはかれば良いと思う。皆それぞれいろいろなことで苦勞してきたのだから貴重である。
  - ・ コミュニティービジネスをITのスキル学習からネットワークビジネス、デジタルビジネスまで引き上げるべき。
  - ・ 他に、Third Age Forum、新現役の会、セカンドライフの会のようなシニア団体の活動がありそれらを大同団結させる企画を推進して貰いたい。
  - ・ 各地域における活動をリードする人(リーダー)の数をもっとふやす。(編集注:同意見多数)
  - ・ 各地域毎による定期的な教育活動としてのシニアネットフォーラムの開催を要する。
  - ・ 類似した団体がたくさんあるので、まず全体像が必要ではないか。
  - ・ 「シニアネット」は、僅か200足らずの組織団体の枠に拘り過ぎる。今回でフォーラム3回目の参加であるが、今回は若干NPO色から離れた。広義の「シニア」の在り方について議論が行われ、前2回に比して評価できる。(第1日目だけの感想)
  - ・ 「シニアネット」というコトバの定義をはっきりさせてほしい。一般のコトバとして話されている場合もあるし。みんな同じことを考えているのか疑問。
  - ・ 老人クラブのシニアネット化
  - ・ 社会貢献性に加え、事業性追求をいかに行うかがこれからのアクティブシニアにとってやる気を起こさせるキーになっていくと思われるので テーマとしてとり上げて幅広く知恵や事例をあつめていただきたい。
  - ・ ① 横の連携をいかに上手にはかるか
  - ・ ② 能力の棚卸 プラス 活用スキル向上の機会と場づくり。
  - ・ ③ ネットワーク(IT技術というより人と組織の)マネジメントできる人の育成。
- この3つがポイントのように感じました。
- ・ ニューメディア開発協会のホームページを作り変えて、各シニアネットの活動状況や掲示板等、ネットでの交流の場を作ってほしい。
  - ・ ハード、ソフト、インターネットの技術的意見交換もあって良い。

グループの楽しみ方的な話が多かった。

- ・ シニアネット外との交流 ・他のシニア団体との交流。特にコンテンツを有している団体 or 個人と。
- ・ 行政との協働とシニアネットの社会的(国家的)資格としての認知を図る事。
- ・ シニアの個々はそれぞれ活躍しているが、他の動きがよく判らない。このようなネットワーク的な機会が大いに必要。シニアネットの活動できる場面を知る上でも。
- ・ ゆるやかな結びつきの連合化の仕組みが必要。シニアネット間の交流や協働の強化。交流できる場が欲しい。シニアネット連合会 ソシャルネットワーキングなど。(編集注:同意見多数)
- ・ 更なる情報交換が必要。その上で何か一つの事に取り組む。
- ・ シニアネットガイドを作成し、シニアネットの協働内容によるタイプごとの特徴、運営のポイント、事例の紹介をのせてインターネットで参照できるようにしたらよいと思う。
- ・ 昭和24年から活動している「全国老人クラブ」とのパソコン勉強会を通じた相互乗り入れ交流へ ゆくゆくは一体化へ推進すべきである

## 9. 今後のSNF21で、とり上げるべきお考えの講演・パネルディスカッション・ワークショップ等のテーマやお話を聞きたい講師とその内容等について。(できればその理由も)

### (講演)

- ・ 孫 正義
- ・ 桜美林大学、瀬沼 克彰先生の講演を希望。
- ・ 今回の堀田先生の人選は上に述べたような理由でヒットでした。このような内容をいつも内容の一部に組み入れて欲しい。特に今 思い当たる人はありません。
- ・ この団体は皆がレベルが高く講演の内容も高いと思います。一般的なシニアの状態を考えるともう少し具体的にお願したい。
- ・ 現状認識できるものに
- ・ シニアの方のニーズを正確に理解している方のお話をお聞きしたい。
- ・ 文化的な関心が高いと思うので、音楽・美術、等について知識のある人の話を聞きたい。
- ・ やはりITを駆使してのシニアの楽しみ方でしょう。パソコンがあればこんなに楽しい！ なんて！
- ・ 思い当たるのは、日野原重明氏か。
- ・ 新しいテクノロジーの話は良い。今回の安田先生の話は良かった
- ・ 営利企業、行政(法規制・税制など)からの講師・講演

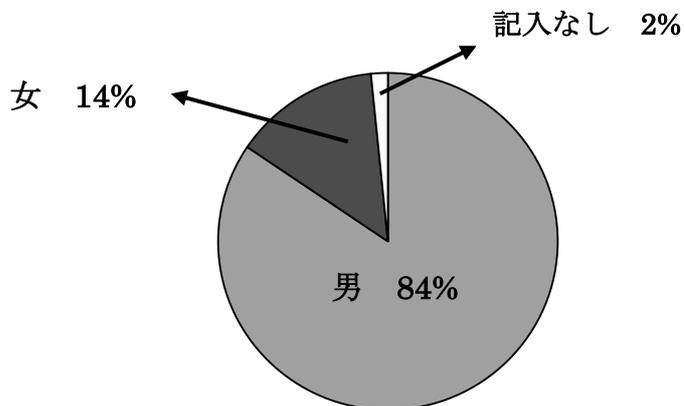
### (パネルディスカッション・ワークショップ)

- ・ 海外の生き生きしているケースの紹介をお願いしたく。
- ・ 地域で生き生きしているNPOのケースを今後とも紹介していただきたい。
- ・ ビジネス化の可能性 WS5 の内容に共鳴するところ大でした。
- ・ メンバーには出来る限り新規団体を希望する。
- ・ シニアネット関連NPO法人活動の紹介と運営管理方法 etc。
- ・ 従来からあった老人クラブがアクティブ化した事例の発掘

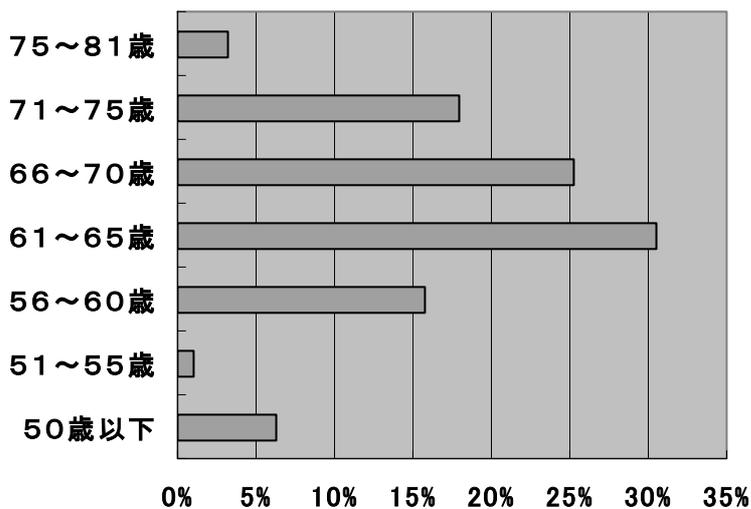
## ■アンケート回答者の属性

### ① 性別

男	84%
女	14%
記入なし	2%



### ② 年齢別構成



### ③ 所属

イ. シニアネット	35%
ロ. NPO法人等各種団体・グループ	38%
ハ. 行政機関	1%
ニ. 企業	8%
ホ. 自営	4%
ヘ. 特になし	8%
ト. その他	6%

### ④ パソコン経験年数

なし	1%
1~5年	21%
6~10年	40%
11~15年	13%
16~20年	19%
21年以上	6%

平成17年度 シニアネット構築研究会  
『シニアネット・フォーラム21』

報告書

編集・発行

財団法人 ニューメディア開発協会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル23階

発行日 2006年3月



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。